總裁ニ依リ任命セラル監事會ノ決定ハ此ノ場合ニ於テハ九票ヨリ成ル多數決ニ依リテ之ヲ爲スヘク且其ノ中少クトモ六票ハ獨逸人タル監事ノ投票タルコトヲ要ス右任命ハ獨逸國大統領ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

ハ　理事ハ他ニ報償ノ受ケル職務ニ從事スルコトヲ得ス又監事會ノ事前ノ同意ヲ得ルニ非サレハ何等名譽的地位ヲ引受クルコトヲ得ス

ニ　理事及總裁ノ俸給及退職年金ハ監事會之ヲ定ム上級銀行員ノ俸給及退職年金ハ總裁ノ承認ヲ以テ理事會之ヲ定ム又下級銀行員ノ場合ニハ理事會單獨ニ之ヲ定ム

ホ　理事會ハ其ノ適當ト認ムル場合ニ於テハ農業、商業及工業ヨリ選定シタル獨逸人タル委員ヨリ成ル諮詢機關ノ補佐ヲ受クルコトヲ得

第七　監事會

イ　以下「監事」ト稱スル十四名ノ會員ヨリ成ル監事會ヲ設クヘシ右監事ノ二分ノ一ハ外國人ニシテ他ノ二分ノ一ハ獨逸人トス

ロ　各監事ハ第一次ノ選擧又ハ任命ノ場合ヲ除キ其ノ任期ヲ三年トス第一期ニ限リ獨逸人監事三名及外國人監事三名ハ一年間、獨逸人監事二名及外國人監事二名ハ二年間竝獨逸人監事二名及外國人監事二名ハ三年間職務ヲ行フ監事會ノ第一回會合ニ於テ監事ハ其ノ任期即チ一年、二年又ハ三年ヲ抽籤ニ依リ決定スヘシ

ハ　本節ロノ規定及監事全部ニ適用セラルル本計畫ノ規定ニ從ヒ獨逸人タル監事ハ獨逸人タル株主カ獨逸國法令ニ從ヒ決定スヘキ方法及條件ニ於テ選定セラルヘシ右ノ如ク決定セラレタル方法及條件ハ定款中ニ挿入セラルヘシ第一次ノ獨逸人タル監事ノ選定ノ方法ハ本計畫第三ニ規定スル設立委員會ニ依リ決定セラルヘシ獨逸人監事ノ第一次ノ選定ニ付テハ「ライヒスバンク」總裁ノ承認ヲ得サル何等ノ方法ヲモ採用スヘカラス

ニ　第一次監事會ノ外國人タル監事ハ設立委員會ニ依リ任命セラルヘシ其ノ選任ニ當リテハ職業的資格及財政的經驗ノ充分考量ヲ爲スヘシ任命ヲ爲スニ際シ設立委員會ハ主タル外國發行銀行及(又ハ)其ノ他財政事項ニ通曉スル者ニシテ設立委員會カ其ノ意見ヲ求メムト欲スルモノニ諮問スルコトヲ得

ホ　死亡、辭任又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ外國人タル監事ニ缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補充スル爲同一ノ國籍ヲ有スル者ヲ新ニ選任ス右選任ハ選任當時現職ニ在ル外國人タル監事之ヲ行フ選任ニハ一票ヲ除ク全會一致ヲ必要トス新監事ハ常ニ其ノ補充スヘキ前監事ト同一國人中ヨリ選任セラルヘシ外國人タル監事ヲ選任スルニ先立チ監事會ハ右選任ニ關シ右監事ヲ出スヘキ國ノ中央發行銀行及(又ハ)右國ノ財政上ノ權威者ニシテ監事會カ諮ラムト欲スルモノニ諮ルヘシ

ヘ　外國人タル監事ハ不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、白耳義國、亞米利加合衆國、和蘭國及瑞西國ノ國籍ヲ有スル者ヨリ一名ツツ選任セラルヘシ

ト　監事會ノ全會一致ノ決議アルトキハ獨逸人タル監事ノ數ヲ增加スルコトヲ得

チ　政府ノ官吏又ハ獨逸國政府若ハ何レカノ外國政府ヨリ報償ヲ受クル者ハ監事タルコトヲ得ス

リ　銀行定款ニ反對ノ規定アルニ非サレハ監事會ノ決議ハ十票ヨリ成ル多數ニ依リ又ハ總裁及監理人カ多數側ニ在ル場合ニハ單純過半數ニ依リテ決スル監事ニシテ監事會ニ出席スルコト能ハサルトキハ書留郵便又ハ電報ヲ以テ他ノ監事ニ代理投票ヲ委任スルコトヲ得

ヌ　會合ノ都度及小クトモ毎月一回監事會ハ總裁及監理人ノ提出シタル報告書ヲ檢閱スヘシ監事會ハ總裁及監理人ノ爲シタル一切ノ提案ニ付決定シ爲スヘシ但右決定ハ前記第五及第六ニ特記シタル所ニ依リ總裁及理事會ニ保留セラレタル權利ヲ侵犯スルコトヲ得ス

ル　銀行ノ金準備及銀行券印刷所ハ之ヲ獨逸國內ニ置ク但シ監事會ハ四分ノ三ノ多數ニ依リ右ノ何レカ一又ハ雙方ヲ第三國ニ移スヘキコトヲ決定スルヲ得

第八　監理人

イ　監理人ハ外國人タルヘク監事會ノ九票以上ヨリ成ル多數決ニ依リ選任セラル右多數中少クトモ六票ハ外國人タル監事ノ投票タルコトヲ要ス監理人ノ任期ハ設立委員會之ヲ定ム

ロ　監理人ハ外國人タル監事中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得ヘク又監事會ニ代表セラルル外國ノ市民ニシテ監事タラサルモノヨリ之ヲ選任スルコトヲ得監事會カ監事ニ非ラサル者ヲ監理人ニ選任シタルトキハ監理人ノ屬スル國ノ國籍ノ有スル監事ノ地位ハ自動的ニ缺員ト爲ルヘシ監事會外ヨリ選任セラレタル監理人ハ選任ノ事實ニ依リ監事會ノ一員ト爲ルヘシ

ハ　第一次ノ選擧ニ於テ監理人ニ選任セラレタル者カ本計畫書第七ロニ從ヒ抽籤ニ依リ任期一年ノ監事タル場合ニハ其ノ任期ハ自動的ニ二年ニ延長セラルヘシ此ノ場合二年ノ任期ヲ有スル外國人タル監事二名中ノ一名ハ其ノ任期ヲ一年ニ短縮セラルヘシ右二名ノ外國人タル監事ノ何レカ其ノ任期ヲ二年ヨリ一年ニ短縮セラルヘキカハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

ニ　監理人ノ主タル職責ハ銀行券發行及右發行ノ保證タル銀行準備金ノ維持ニ關スル法令及定款ノ規定ノ施行ヲ確保スルニ在リ之カ爲監理人ハ其ノ任務遂行上有用ナリト認ムル一切ノ統計及文書ノ供給ヲ求ムルノ權利ヲ有ス又必要ト認ムルトキハ何時ニテモ監理人自ラ又ハ其ノ輔佐者ニ依リ一切ノ調査ヲ爲スコトヲ得監理人ハ伯林ニ於ケル理事會ノ會合ニ出席スルノ權利ヲ有ス

ホ　豫備銀行券ノ保管ヲ委任セラレタル機關ハ監理人ノ許可アリタル場合ニ限リ銀行券ノ引渡ヲ爲スコトヲ得

ヘ　監理人ハ銀行ノ商業取引ニ付得ルコトアルヘキ一切ノ報道ニ關シ最嚴ニ祕密ヲ守ルノ義務ヲ有ス

第九　貸出、割引及投資

イ　銀行ハ貸付ノ日ヨリ起算シ三月ヲ超ユル支拂期限ヲ有スル貸出又ハ割引ヲ爲スコトヲ得ス

ロ　銀行ハ支拂能力アルコト明白ナル者三名以上ノ署名ナキ手形ノ割引ヲ爲スヲ得ス但シ善意ノ商取引又ハ物品ニ關スル證書ノ形式ニ依ル附隨保證ヲ以テ署名者一名ニ代フルコトヲ得右ノ定義ハ發行紙幣、金錢上ノ取引ニ於テ振出サレタル手形又ハ株券、債券其ノ他ノ證券ニ依リ保證セラルル手形ヲ包含スルモノト解スヘカラス但シ獨逸國政府ノ大藏省證券ハ之ヲ包含スル條件ニ從ヒ表決セル監事會ノ特別ノ許可ア

ハ　銀行ハ第七リニ規定

ルトキハ支拂期限三月以內ノ貸出ニ對シ附隨保證トシテ獨逸國ノ長期公債ヲ受領スルコトヲ得但シ右貸出ハ右附隨保證ノ外二名ノ責任アル者ノ保證ヲ有シ且其ノ一名カ獨逸國內ニ於テ業務ヲ營ム商業銀行ナル場合ニ限ル獨逸國ノ長期公債ヲ以テ附隨的ニ保證セラルル貸出ハ監事會ノ一名ヲ除ク全會一致ノ投票アル場合ノ外銀行ノ純拂込資本及積立金ノ額ヲ超過スルヲ得ス

ニ　銀行ハ下動產、鑛山、油田又ハ株券ヲ擔保トシテ貸出又ハ前貸ヲ爲スコトヲ得ス又本計畫書ニ反對ノ規定アルニ非サレハ政府ノ債券ヲ擔保トシテ貸出又ハ前貸ヲ爲スコトヲ得ス但シ銀行ハ玆ニ規定スル所ニ從ヒ既ニ善意ニ爲サレタル貸出ニ對スル追加的擔保トシテ上記ノ財產、株券及政府ノ公債ニ對シ抵當權又ハ權利ヲ取得スルヲ妨ケス

ホ　第十イノ規定ノ場合ノ外銀行ハ獨逸國、獨逸各邦、地方團體若ハ其ノ他ノ獨逸國行政單位又ハ外國政府若ハ外國ノ行政單位ニ對シ直接又ハ間接ニ貸出、割引又ハ其ノ他ノ前貸ヲ爲スコトヲ得ス又銀行ハ其ノ設立法ニ依リ特ニ認許セラルル場合ヲ除キ前記行政單位ノ公債、債券又ハ其ノ他ノ債務ニ其ノ資金ヲ投スルコトヲ得ス銀行ニ於ケル獨逸國、獨逸各邦、獨逸國地方團體又ハ其ノ他ノ獨逸國行政單位ノ預金勘定及當座勘定ハ借越ト爲ルヲ許サス

ヘ　銀行ハ同銀行ヲ支拂人トシテ振出サレタル定期拂爲替手形ヲ引取ルコトヲ得ス

ト　銀行ハ其ノ計算ニ於テ商品、生產品、不動產又ハ他ノ會社ノ株券ヲ賣買スルコトヲ得ス

チ　前項ニ包含セラルル制限ハ銀行カ其ノ銀行業務ノ爲必要トスル不動產、設備品及消耗品ノ購入ヲ妨ケス又定款ニ依ル貸出ノ保證ニ關シ取得シタル財產ノ賣却ヲ妨ケス且上記ノ制限ハ義ニ善意ニテ爲サレタルモ滿期日ニ支拂ハレサル定款ニ依ル貸出ノ取立ニ付自己ヲ防衞スル爲必要ナル場合銀行カ財產ヲ買入ルルコトヲ妨クルモノニ非ス

第十　獨逸國ノ會計事務

イ　理事會ハ隨時獨逸國ニ貸付ヲ爲ヘコトヲ得但シ其ノ債權額ハ常ニ一億「マルク」ヲ超過スルヲ得ス右貸付ハ如何ナル場合ト雖三月ヨリ長期ニ亙ルヲ得ス又如何ナル場合ト雖銀行ノ營業年度ノ終ニ於テ獨逸國ハ同銀行ニ對シ債務ヲ有スルコトヲ得ス銀行ノ營業年度ハ獨逸國ノ會計年度ト一致スヘキモノトス右ノ便宜供給ノ代償トシテ獨逸國及其ノ大藏省ハ其ノ一切ノ國內的及涉外的銀行事務ヲ新銀行ヲ介シテ行フヘシ

ロ　理事會ハ郵便局及鐵道カ其ノ出納事務ノ全部ヲ銀行ニ委託スヘキコトヲ條件トシ之ニ相當金額ノ貸付ヲ爲スノ權能ヲ賦與セラル但シ銀行ハ右條件ヲ變更スルコトヲ得郵便局及鐵道ニ對スル未決濟ノ貸出總額ハ二億金貨「マルク」ヲ超過スルヲ得ス

第十一　賠償ニ關スル會計事務

銀行ハ賠償ノ爲支拂ハレタル金額ヲ預金トシテ受入ルヘシ銀行ト暗償金受領ヲ委託セラレタル委員會トノ關係ハ單ニ銀行ト其ノ取引者トノ關係ニ止マルモノトス

右會計事務ハ一般報告書第六附屬書ノ條項ニ遵由シテ行ハルヘシ賠償勘定ノ爲預金トシテ保管シ得ヘキ最高金額ハ同附屬書第十イニ從ヒ常ニ二十億「マルク」ヲ超過ルコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在

ラス

第十二　銀行券

イ　銀行ハ其ノ特許期間中獨逸國ニ於テ銀行券ヲ發行シ且流通セシムル獨占的權利ヲ有ス

ロ　獨逸國政府ハ銀行ノ特許期間中獨逸國內ニ於テ流通セシムル爲如何ナル種類ノ紙幣ヲモ自ラ發行セサルヘク又銀行ノ特許期間中獨逸各邦、地方團體、市、其ノ他ノ行政單位、會社又ハ私人ニ獨逸國內ニ於テ紙幣ヲ發行シ又ハ流通セシムルコトヲ許可セサルヘシ但シ「バーデン」、「バヴァリア」、「サクセン」及「ウルテンベルグ」ノ諸銀行ハ現在法律ニ依リ許可セラルル限度ヲ超エサル金額ニ付銀行券發行權ヲ保持スヘシ「レンテンバンク」ノ銀行券ハ第十五及本書附錄ニ規定スル條件ノ下ニ漸次之ヲ市場ヨリ回收スヘキモノトス

ハ　銀行ノ特許期間中獨逸國ハ獨逸國內ニ於テ流通セシムル爲五「マルク」ヲ超ユル額ノ貨幣ヲ發行セサルヘク（地金ノ價值ト略同值ナル金貨ヲ除ク）又五「マルク」又ハ五「マルク」ニ達セサル貨幣ヲ人口一人當二十「マルク」ヲ超エテ發行セサルヘシ政府ノ發行スル金貨以外ノ貨幣ハ總テ新銀行ヲ經テ發行セラルヘシ右貨幣ハ一切ノ租稅及其ノ他ノ政府ノ課金ノ支拂ニ付其ノ額面價格ニ於テ無制限ニ政府ニ依リ收受セラルヘシ

ニ　銀行ハ金貨又ハ金地金、第九ニ規定セル定款ニ依ル割引、外國銀行ニ於ケル要求拂債權及當時ノ爲替相場ニ依ル金貨價值ニ於テ計算セラレタル三月又ハ三月ニ達セサル支拂期限ヲ有スル外國商業手形ヲ基礎トシテ銀行券ヲ發行シ之ヲ流通セシムルコトヲ得

ホ　銀行券ハ硬貨ト同樣獨逸國ニ於ケル一切ノ租稅及其ノ他ノ政府ノ課金ニ付無制限ニ收受セラルヘシ銀行券ハ契約ニ特ニ反對ノ規定アルニ非サレハ公私一切ノ債務ニ付無制限ノ法貨タルヘシ

ヘ　銀行券ハ伯林ニ於ケル銀行ノ本店タルト又獨逸國內ニ於ケル其ノ一切ノ支店タルトヲ問ハス銀行ニ對スル一切ノ支拂ニ付額面價格ニ於テ受領セラルヘシ

ト　銀行券ハ伯林ニ於ケル銀行ノ本店ニ於テ提示セラルルトキハ持參人ニ對シ兌換セラルヘキモノトス銀行券ハ又發行ノ他ノ營業所及支店ニ於テ其ノ現金準備及金讓上ノ必要ノ許ス限度ニ於テ提示ニ依リ兌換セラルヘシ兌換ハ銀行ノ選擇ニ依リ左記何レカノ形式ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

一　現行法定標準ノ重量ト純分トヲ有スル獨逸國金貨ヲ以テ其ノ平價ニ於テ

二　一箇千金貨「マルク」以上三萬五千金貨「マルク」以下ノ金塊ヲ以テ現行法定標準ノ重量ト純分トヲ有スル獨逸國金貨ニ相當スル其ノ純金ノ價格ニ於テ

三　金ニ依リ又ハ時價金相場ニテ外國通貨ニ依リ支拂ハルヘク且銀行ノ定款ニ特記セラルル支拂能力アル銀行ニ於ケル在外資金ニ對シ振出サレタル要求拂ノ爲替手形ヲ以テ、但シ銀行カ右爲替手形ノ支拂地タル外國ノ金融中心地ニ多量ニ輸送セラルル金塊ノ輸送費用ニ輸送期間中ノ利子ヲ加ヘタルモノヲ償フニ必要ナル額ヲ超ユルコトヲ得ス

然レトモ專門委員會ハ銀行創立ノ當初ニ於テハ事態カ上記兌換ノ適用

ニ對シ有利ナラサルヘシトノ意見ヲ有ス有場合ニハ前掲ノ規則ハ左記各機關ノ構成者ヨリ一人ヲ除ク全部カ賛成投票ヲ爲スコトニ依リ一時的ノ修正ヲ加ヘラルルコトヲ得

一　設立委員會
二　理事會
三　監事會

斯ル修正ヲ爲シタル場合ニハ銀行ハ「マルク」ノ爲替相場ヲ能フ限リ金貨相場ニ近接セシムカ爲有ラユル努力ト有ラユル手段トヲ講スヘキモノトス更ニ銀行券兌換ニ關スル前掲規則ヲ修正シタル場合ニハ能フ限リ速ニ監事會及理事會ノ單純多數決ニ依リ兌換制度ヘノ復歸ヲ永久ニ確立スヘシ

チ　銀行ハ紛失又ハ全然滅ベセラレタル銀行券ニ對シ償還ヲ爲サスト雖摩損又ハ毀損セル銀行券ハ請求ニ依リ其ノ額面價格ヲ以テ之ヲ完全ナル銀行券ト引換フヘシ但シ提示セラルル銀行券ノ部分カ右銀行券ノ半ヨリ大ナルニ非サレハ引換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

銀行券ハ總裁ノ復寫署名及監理人ノ印章アルヲ要ス

第十三　準備金

イ　新銀行ハ左ノ條件ノ下ニ少クトモ其ノ發行銀行券總額ノ三割三分三分ノ一ノ常時準備金ヲ有スルコトヲ要ス

例外的ノ事態ニ於テハ銀行券ニ對スル準備金ハ理事會ノ提議ニ基キ監事會ノ決定ニ依リ三割三分三分ノ一未滿ニ減スルコトヲ得但シ監事會ノ右決定ニハ一名ヲ除ク監事全部ノ賛成投票アルコトヲ要ス右準備金減少ノ場合ニ於テハ銀行ハ左記ノ科料ヲ負擔シ之ヲ獨逸國ニ支拂フヘキモノトス卽チ銀行券ニ對スル準備金カ流通銀行券ノ三割三分三分ノ一未滿ト爲リ且一週間ヲ超エ其ノ狀態ノ繼續スルトキハ銀行ハ其ノ都度流通銀行券ノ三割三分三分ノ一ニ不足スル準備金額ニ對シ左ノ不足稅ヲ支拂フヘキモノトス

準備金カ三割三分三分ノ一未滿三割以上ナルトキハ年三分ノ稅
準備金カ三割未滿二割七分以上ナルトキハ年五分ノ稅
準備金カ二割七分未滿二割五分以上ナルトキハ年八分ノ稅
準備金カ二割五分未滿ナルトキハ年八分ニ二割五分ヲ下ルコト一分毎ニ年一分ノ加ヘタル稅

ロ　イ所載ノ準備金カ繼續シテ一週間以上イ所定ノ銀行券債務ノ三割三分三分ノ一未滿ナルトキハ割引率又ハ再割引率ハ年五分ヲ下ルコトヲ得ス

ハ　不足稅ヲ支拂フヘキトキハロノ規定ニ基キ爲サルヘキ割引率及再割引率ノ增加ノ外ニ支拂フヘキ稅ノ歩合ノ少クトモ三分ノ一ニ相當スル歩合ヲ銀行ノ割引率及再割引率ニ附加スヘシ

ニ　上記ノ法定準備金ハ銀行ノ營業所ニ於テ金塊又ハ金貨ニテ保存セラルルコトヲ得ヘク及(又ハ)外國金融中心地ニ在ル一流ノ銀行ニ於ケル要求拂預金タルコトヲ得右ノ預金ハ預託當時ノ率ニ於テ金又ハ之ニ相當スルモノヲ以テ支拂ハルヘキモノタルコトヲ要ス

ホ　銀行ハ其ノ流通銀行券ニ對シ保有スルコトヲ要スル準備金ト同性質ノ金及金預金ノ特別準備金ヲ其ノ預金債務ノ一割二分ノ額迄保有スルコトヲ要ス右特別準備金カ一週間以上繼續シテ一割二分ヲ下ルトキハ新銀行ハ左ノ不足稅ヲ支拂フコトヲ要ス

準備金カ一割二分未滿一割以上ナルトキハ不足額ニ對シ年四分ノ稅、準備金カ一割未滿八分以上ナルトキハ不足額ニ對シ年八分ノ稅、準備金カ八分未滿ナルトキハ不足額ニ對シ前記ノ八分ニ加フルニ準備金カ八分ヲ下ルコト一分毎ニ年一割ヲ以テシタル稅

ヘ　銀行ノ預金債務ヲ保障スル資產ニ對シ適當ナル流動性ヲ確保スルカ爲銀行ハ常ニ上記一割二分ノ金準備ノ外ニ銀行ノ總預金債務ノ三割以上ノ額迄獨逸國及外國ニ於ケル要求拂預金、他銀行ヲ支拂人トスル小切手竝定款ニ定ムル要求拂又ハ三十日以內ノ定期拂商業手形ヲ保有スルコトヲ要ス

ト　上記ノ準備金及流動資產ハ銀行ノ預金事務ノ爲分離シ置クコトヲ要ス

第十四　利益

各營業年度末ニ於ケル銀行ノ純益ハ左ノ如ク之ヲ使用スヘシ

イ　銀行ノ實際上ノ純拂込資本及積立金カ直前六月ノ各月十五日ニ於ケル流通銀行券ニ對スル平均債務額ノ一割二分ニ達スル時迄純益ノ二割ハ之ヲ積立金ニ繰入ルヘシ右比率ニシテ再ヒ一割二分ヲ下ルトキハ純益ノ二割ヲ上記ノ如ク積立金ニ繰入ルルコトハ繼續セラルヘシ銀行ノ純資本及積立金ト上記ノ如ク計算セラレタル流通銀行券ノ平均債務額トノ比率カ一割二分ヲ超ユルトキ及超ユル間ハ銀行ハ積立金ニ繰入ルヘキ純益ノ歩合ニ關シ裁量ヲ用フルコトヲ得但シ斯ク繰入レラルル純益ノ歩合ハ二割ヲ超ユルコトヲ得ス

ロ　銀行ノ株式ニ對シ年八分ノ配當金ヲ支拂フニ充分ナル金額ヲ右支拂ニ振當ツヘシ

ハ　純益ノ殘額ハ左ノ如ク之ヲ分配ス

一　二分ノ一ハ配當金トシテ株主ニ分配セラレ又ハ劃一ナル配當ヲ爲スノ方針ヲ維持スル爲ニ使用セラルヘキ特別基金中ニ繰入レラルヘシ

二　二分ノ一ハ流通銀行券發行ノ獨占權ニ對スル賦課金トシテ政府ニ支拂ハルヘシ

ニ　外國ニ居住スル外國人ノ所有スル資本株式ヨリ生スル銀行ノ配當金及其ノ他ノ收入ハ現在及將來ニ於テ一切ノ獨逸國所得稅ヲ免除セラルヘシ但シ右免除ハ一般ノ銀行ノ不動產ニ對シ獨逸國ニ於テ課セラルル一般的租稅ニハ適用ナシ然レトモ本項二ノ下ニ政府カ利益ノ歩合ヲ受クルニ鑑ミ銀行ハ獨逸國、獨逸各邦又ハ其ノ他ノ行政單位ニ依リ獨逸國ニ於テ課セラルル會社稅又ハ營業稅ヲ免除セラルヘキモノトス之ヲ新銀行ニ付與スヘシ

ホ　現ニ「ライヒスバンク」ニ依リ享有セラレ本計畫ト矛盾セサル特權ニシテ設立委員會カ新銀行ノ爲利益ナリトシテ特ニ指定スルコトアルヘシ

第十五　「レンテンバンク」ノ清算

「レンテンバンク」ハ附錄ノ條項ニ從ヒ銀行ニ依リ漸次市場ヨリ回收セラルヘシ

第十六　「弗」國庫債券

獨逸國政府ハ「ライヒスバンク」ノ清算ヨリ生スル收得金ニ對シ一切ノ權利ヲ拋棄ス(但シ「ライヒスバンク」改造ノ方法ニ依リ本計畫カ實施セラルルトキハ此ノ限ニ在ラス)之カ代償トシテ「ライヒスバンク」ハ同銀行ト國庫債券所有者トノ間ニ協定セラルル條件ニ從ヒ二億一千

萬金貨「マルク」ヲ超過セサル範圍ニ於テ國庫債券ノ償還ヲ爲スノ義務ヲ負擔スルコトヲ政府ニ約スヘシ

ロ　同時ニ誠意ヲ以テ右ヲ實行スルコトヲ保障スル爲即チ右ノ實行ヨリ生スルコトアルヘキ損失ニ對シ「ライヒスバンク」ヲ保障スルカ爲獨逸國政府ハ流通スル「弗」國庫債券ト同額ニシテ且償還期限ヲ同シクスル金貨債券ヲ「ライヒスバンク」ニ引渡スヘシ「弗」國庫債券ノ清算完了ト同時ニ「ライヒスバンク」ハ其ノ獨逸國政府ヨリ受領シタルモ清算ヲ確保スル爲使用セラレサリシ一部ノ債券（之アルトキハ）ヲ同政府ニ返還スヘシ

第十七　「ライヒスバンク」

イ　「ライヒスバンク」改造ノ方法ニ依リ本計畫カ實行セラルル場合ニハ「ライヒスバンク」ハ一金貨「マルク」ニ對シ一兆「マルク」ノ相場ニテ新銀行券ヲ以テ現ニ流通セル銀行券ヲ引換フヘシ舊銀行券ハ直ニ市場ヨリ回收セラレ且廢棄セラルヘシ

ロ　「ライヒスバンク」カ存續スル場合ニハ同銀行ハイ項ノ規定ニ從ヒ引換フルコトヲ約スル流通銀行券ニ對シ本計畫第十三ニ依リ流通銀行券ニ對シ保有スルコトヲ必要トスルト同一ノ準備金ヲ有スルヲ要ス

ハ　「ライヒスバンク」清算セラルル場合ニハ上記ノ事務ハ其ノ際設立セラルヘキ銀行ニ依リ實行セラルヘシ而シテ新銀行ハ前記イ項及ロ項ニ規定スル引換ニ付責任ヲ負ヒ又ハ自ラ之ヲ實行スルモノトス

第十八　罰則

總裁、監事會、監理人及其ノ輔佐者ニ對シ故意ニ直接又ハ間接ニ不正確ナル報道ヲ供給スル者ノ處罰ニ對シテハ罰金、禁錮又ハ其ノ併科ヲ規定スヘシ

第十九　本計畫實行ノ爲銀行ニ對シ獨逸國政府ノ執ルヘキ措置

本計畫實行ノ爲銀行ニ對シ獨逸國政府カ爲スコトヲ要スヘキ一切ノ約定（「レンテンバンク」ノ抵當ヨリ受領セラルル資金ヲ「レンテンマルク」ノ回收ニ振當ツルコトヲモ包含ス）ハ銀行及獨逸國政府間ノ特別契約ヲ以テ規定セラルヘシ該契約及銀行ノ定款ハ獨逸國議會ノ適法ナル同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一附屬書附錄

「レンテンバンク」ノ清算

（銀行計畫第十五ニ規定セラルル附錄）

獨逸國「レンテンバンク」ハ千九百二十三年十月十五日ノ命令ニ依リ設立セラレ且其ノ業務ヲ規律セラル

資本及最初ノ準備金ハ右命令ニ依リ三十二億「レンテンマルク」ト定メラレ其ノ一半ハ農業ヨリ他ノ一半ハ銀行ヲ包含スル商工業ヨリ之ヲ供給スルモノトス

「レンテンバンク」ハ工業上、農業上及商業上ノ財産ノ上ニ金貨「マルク」ニテ表示セラレタル一般的抵當權ヲ有ス右抵當權ハ國防出捐法中ニ算定セラレタル右財産ノ價格ノ四分ニ相當ス

（註）　右抵當ノ額ハ既ニ三十七億金貨「マルク」ニ達ス

該抵當ハ「レンテンバンク」ノ利益ノ爲ニ六分ノ利子ヲ負擔ス

「レンテンバンク」ハ資本及最初ノ準備金ノ（三十二億金貨「マルク」ニ迄「レンテンマルク」ニテ表示セラレタル銀行券ヲ發行スルノ權限ヲ有ス「レンテンバンク」ハ十二億「レンテンマルク」迄其ノ九億「マルク」ハ六分ノ利子ヲ以テ三億「マルク」ハ無利子ニテ創立後二年間獨逸國ニ對シ信用ヲ開クコトヲ要ス「レンテンバンク」ハ尙私的經濟ニ資金ヲ供給スル爲「ライヒスバンク」及私立銀行ニ對シ十二億「レンテンマルク」ノ限度迄信用ヲ開クコトヲ得

現在迄「レンテンバンク」カ流通セシメタル金額左ノ如シ

一　「ライヒスバンク」カ獨逸國製造業者及商人ニ許與スヘキ信用ニ備ヘムカ爲「ライヒスバンク」ニ引渡サレタル七億「マルク」從テ右金額ハ「レンテンマルク」ニテ償還セラルヘキ爲替手形又ハ債權ニテ擔保セラル「レンテンバンク」清算ノ場合ニハ之ヲ問題トスルニ及ハス

二　獨逸國ノ署名ノミニテ無擔保ニテ獨逸國ニ貸付ケラレタル十一億「レンテンマルク」（中九億「マルク」ハ年利六分二億「マルク」ハ無利子）

右十一億「マルク」ノ關スル限リ新銀行（又ハ「ライヒスバンク」存續セハ「ライヒスバンク」）ハ該銀行券ノ所有者ニ對シ十年間ニ漸次之ヲ償還スルノ義務ヲ負擔ス之カ爲「レンテンバンク」ハ「レンテンバンク」ノ抵當權附財產ノ所有者ヨリスルト又國家ヨリスルトヲ問ハス其ノ債務者ヨリ受領スル一切ノ金額ヲ十一億「マルク」ノ限度ニ於テ受領次第直ニ新銀行ニ引渡スルコトヲ約ス

新銀行ニ對スル「レンテンバンク」ノ右約束ハ「レンテンバンク」ノ有スル一切ノ抵當權及擔保竝獨逸國政府自身ノ保證ニ依リ保障セラルルモノトス

獨逸國カ其ノ新銀行ニ關係スルコトニ依リ取得スル一切ノ利益ハ獨逸國ノ負債タル十一億「マルク」ノ割賦償還ニ優先的ニ充當セラルヘキモノトス

ノ利子ヲ以テ三億「マルク」ハ無利子ニテ創立後二年間獨逸國ニ對シ信用ヲ開クコトヲ要ス「レンテンバンク」ハ尙私的經濟ニ資金ヲ供給スル爲「ライヒスバンク」及私立銀行ニ對シ十二億「レンテンマルク」ノ限度迄信用ヲ開クコトヲ得

現在迄「レンテンバンク」カ流通セシメタル金額左ノ如シ

一　「ライヒスバンク」カ獨逸國製造業者及商人ニ許與スヘキ信用ニ備ヘムカ爲「ライヒスバンク」ニ引渡サレタル七億「マルク」從テ右金額ハ「レンテンマルク」ニテ償還セラルヘキ爲替手形又ハ債權ニテ擔保セラル「レンテンバンク」清算ノ場合ニハ之ヲ問題トスルニ及ハス

二　獨逸國ノ署名ノミニテ無擔保ニテ獨逸國ニ貸付ケラレタル十一億「レンテンマルク」（中九億「マルク」ハ年利六分二億「マルク」ハ無利子）

右十一億「マルク」ノ關スル限リ新銀行（又ハ「ライヒスバンク」存續セハ「ライヒスバンク」）ハ該銀行券ノ所有者ニ對シ十年間ニ漸次之ヲ償還スルノ義務ヲ負擔ス之カ爲「レンテンバンク」ハ「レンテンバンク」ノ抵當權附財產ノ所有者ヨリスルト又國家ヨリスルトヲ問ハス其ノ債務者ヨリ受領スル一切ノ金額ヲ十一億「マルク」ノ限度ニ於テ受領次第直ニ新銀行ニ引渡スルコトヲ約ス

新銀行ニ對スル「レンテンバンク」ノ右約束ハ「レンテンバンク」ノ有スル一切ノ抵當權及擔保竝獨逸國政府自身ノ保證ニ依リ保障セラルルモノトス

獨逸國カ其ノ新銀行ニ關係スルコトニ依リ取得スル一切ノ利益ハ獨逸國ノ負債タル十一億「マルク」ノ割賦償還ニ優先的ニ充當セラルヘキモノト

二　指數算出ノ爲左記ノ統計ヲ使用スヘシ

イ　獨逸國輸出及輸入ヲ合シタル總額

ロ　「プロシヤ」「サクセン」及「バヴアリア」ノ各邦ノ豫算ヲ包含スル豫算上ノ收入及支出ノ合計（但シ該年度ニ於ケル平和條約上ノ支拂額ハ之ヲ收入及支出ヨリ控除ス）

ハ　輸送セラレタル重量ノ統計ニ依リ測定セラルル鐵道運輸額

ニ　獨逸國內ニテ消費スル砂糖、煙草、麥酒及酒精ノ總金錢價格（消費者カ現實ニ支拂フ價格ニ依リ測定ス）

ホ　獨逸國總人口（最近ノ國勢調查、動態統計及移民統計ヨリ計算ス）

ヘ　一人當石炭及褐炭（之ニ相當スル石炭ニ換算シタル）ノ消費量

指數ノ基礎

三　基礎數ノ計算ニ當リ千九百二十七年、千九百二十八年及千九百二十

九年ノ三年ノ平均統計ハロ項豫算上ノ收入及支出、ホ項人口及ヘ項一人當石炭消費量ノ基礎タルヘク其ノ他ノ項目ニ對シテハ千九百十二年、千九百十三年、千九百二十六年、千九百二十七年、千九百二十八年、千九百二十九年ノ六年ノ平均統計ヲ基礎トス（最初ノ二年ト最後ノ四年トヲ比較シ得ヘキモノタラシムル爲人口數ノ差異及金價値ノ變動ヲ適當ニ斟酌スヘシ）基礎數ト比較セラレタル右六組ノ各ノ百分率ノ變動ハ之ヲ各別ニ計算シ之ニ依テ得タル六箇ノ百分率ノ算術的平均ヲ指數トシテ採用スヘシ

指數ノ適用セラルル支拂

四　各年度ノ追加支拂額ヲ算出スルカ爲指數百分率ハ之ヲ標準支拂額即二十五億ニ適用スヘシ但シ千九百二十九ー千九百三十年乃至千九百三十三ー千九百三十四年ノ五年間ハ十二億五千萬即チ標準支拂額ノ半額ニノミ之ヲ適用ス

端數切捨

五　追加支拂額ノ計算ハ二分ノ一「パーセント」以上ノ指數ニ付テノミ之ヲ行フヘシ即チ平均指數十二「パーセント」三五ハ十一「パーセント」トシテ計算セラルヘシ

追加額ノ算出法

六　千九百二十九ー千九百三十年ニ對スル追加額ハ該年度終了後千九百二十九年自體ノ統計ヲ基礎數ト比較シテ算出セラルヘシ

不足

七　或年度ノ指數カ追加額トシテ負數額ヲ表示シタル場合ニハ標準支拂ハ引續キ支拂ハルヘシ但シ爾後ノ追加支拂ハ之ヨリ前諸年度ノ右不足額即チ負數額ヲ控除シタル後ニ非レハ之ヲ支拂フヲ要セス

適用ニ關スル紛議

八　本指數ノ統計ノ適用ニ關スル紛爭ハ國際聯盟ノ財政部ノ仲裁裁判ニ付セラルヘシ

金ノ價値ノ變化

九　千九百二十八年ニ比較シ金ノ一般購買力カ一割以上變化シタリトノ主張アル場合ニハ獨逸國政府及賠償委員會ノ各ハ將來何レノ年ニ於テモ金ノ價値ノ右變動ヲ唯一ノ理由トシテ改訂ヲ求ムルノ權利ヲ有ス改訂ニ標準支拂及追加支拂ノ兩者ニ適用セラル意見ノ一致ヲ見サル場合ニハ國際聯盟ノ任命スル仲裁委員會ニ依リ決定セラルヘシ右決定後ハ變更セラレタル基礎ハ當事者ノ一方カ變更ノ適用アリタル年以來更ニ一割以上ノ變化アリタルコトヲ主張スル迄各年ニ付引續キ維持セラルヘシ

本項ニ基ク變更ハ一般ニ承認セラルル物價指數（獨逸國ノ物價又ハ其ノ他ノ物價ニ付）ニシテ仲裁裁判ニ依リ決定セラルヘキモノノ箇々又ハ組合セニ基キ行ハルヘシ

第一專門委員會報告書第三附屬書

第一專門委員會ニ依ル序文

平和條約第二百四十八條ノ適用ヲ受クヘキ獨逸國及其ノ各邦ノ資產及收入中獨逸國鐵道系統カ最重要ニシテ且賠償ノ目的ニ最容易ニ利用セラレ得ヘキモノナルコトハ之ヲ否定スヘカラス

獨逸國鐵道系統ハ約五萬三千吉米ノ線路ヲ有スル而シテ其ノ車輛ハ極メテ近キ將來ニ於テ左ノ數ニ達スヘシ

機關車（電氣機關車及「モーター」機關車ヲ除ク）	三〇、八五〇
客車	六九、二五三
貨車	七四八、七五三

右車輛ノ大部分ハ最近ニ建造セラレタルモノナリ全體ノ三分ノ二（機關車一八、〇〇〇客車及貨車五〇〇、〇〇〇）ハ最近ノ十年間ニ於テ運輸ニ供セラレタルモノナリ現在獨逸國鐵道系統ノ有スル車輛ハ其ノ質ニ於テモ其ノ量ニ於テモ戰爭前ニ使用セラレタルモノニ比較シテ遙ニ優レリ之ヲ概言スレハ獨逸國鐵道ノ設備ハ新式ニシテ鐵道技術ニ於ケル最新ノ改良ヲ完全ニ具備スト云フコトヲ得ヘシ

右系統ノ資本價格ハ二百六十億金貨「マルク」ヲ下ラス

專門委員ハ著名ナル鐵道專門家ノ協力ヲ求メ右專門家ニ獨逸國鐵道ノ研究ヲ委囑セリ其ノ報告書ヲ玆ニ添付ス

「サー、ウィリアム、アクワース」及「ルヴェルヴ」ヨリ第一專門委員會ニ提出セラレタル獨逸國鐵道ニ關スル一般公告書

千九百二十四年三月二十六日

吾人ノ前報告書ニ於テ吾人ハ獨逸國鐵道ノ狀態ヲ記述シ特ニ賠償ノ目的ニ對シ鐵道ヨリ生シ得ヘシト思考スル純收入額ニ關シ委員會ノ諸種ノ質疑ニ對シ回答セリ吾人ハ今委員會ノ要求ニ應シ此等ノ報告書ノ主要部分ヲ吾人ノ結論ト共ニ單一ノ文書ニ認メタリ獨逸國鐵道大臣及其ノ職員カ伯林ニ於テ口頭又ハ文書ニ依リ報道ヲ供給シ以テ吾人ノ調査ヲ援助セラレタルニ對シ吾人ハ感謝セムト欲ス吾人ハ其ノ有シタル短時間內ニ深ク調査ヲ進ムルコト能ハサリシモ吾人カ玆ニ提出スル報告書ハ委員會ノ目的ニ對シ充分ナルヲ信ス又其ノ大體ニ於テ正確ナルコトモ信頼シ得ヘシト思考ス

獨逸國鐵道ニ投資セラレタル資本

前報告書ニ於テ吾人ハ獨逸國鐵道ノ資本價格ヲ二百億金貨「マルク」以上ト評價シ誤ナカルヘシト云ヘリ政府ノ發表セル所ニ依レハ鐵道負債トシテ計上セラレタル各邦ノ負債ヨリ割讓地域ニ關スル部分ヲ除キタルモノハ千九百十四年ニ於テ百七十九億三千萬金貨「マルク」ナリ千九百二十年三月各邦所有ノ鐵道ハ獨逸國ノ所有ニ移サレタルカ其ノ際投資資本ハ二百五十億乃至二百八十億金貨「マルク」ト計上セラレタリ此ノ大增加ハ右移轉ノ際ニ於ケル左ノ事實ニ依リ說明セラル

イ　各邦ノ鐵道價格ハ實際ノ鐵道投資額ニ符合スル樣計算セラレタルモ該投資額中多クノ部分ハ鐵道負債トシテ曾テ計上セラレタルコトナキカ又ハ最早計上セラレ居ラサリシコト

ロ　舊資本ニ戰時中爲シタル增加ノ價格ヲ加ヘタルコト千九百二十年三月乃至千九百二十三年三月ニ於テ投資額ハ更ニ二百五十八億六千萬金貨「マルク」ニ增加セリ本年度ノ支出額及既ニ締結セラレタル契約ノ爲支拂ヲ必要トスル額ヲ加フルトキ其ノ總額ハ二百六十億以上ニ上ルヘシ

上記ノ數字ハ投資資本ヲ表ハスモノナルカ投資資本ハ時ニ資本價格ト甚大ノ相違アルモノトス然レトモ此ノ場合ニ於テハ一吉米五十萬金貨「マルク」ト見積ラルル五萬三千吉米ヲ有スル獨逸國鐵道系統ノ資本價格ハ投資資本ニ充分匹敵スルモノト看做スヲ得ヘシ鐵道系統ノ大部分ハ複線ナリ線路、驛、操車場及建物ノ築造ハ優秀ニシテ且鐵道ハ最新式車輛ヲ充

分ニ有ス獨逸國及他ノ主要國ノ兩者ニ於ケル一切ノ要素ヲ考量シテ右主要國ノ鐵道一吉米當資本價格ト比較スルトキハ獨逸國鐵道ノ投資額ハ毫モ實際ノ價格ヲ過大ニ表示スルモノニ非サルヲ信スルニ足ル

收得シ得ヘキ純收入

吾人ハ獨逸國鐵道ヨリ年十億金貨「マルク」ノ純收益ヲ期待スルモ不合理ニ非スト思考ス右ハ戰爭前ノ純收入ヲ僅ニ超ユルニ過キス而シテ戰前ノ純收入ハ極メテ容易ニ之ヲ擧ケ得タルモノナリ純收入ハ鐵道債務ニ對スル利子ヲ支拂ヒテ餘アリシヲ以テ之ヲ極度迄增加セムト試ミタルコトナシ

一方ニ於テ運賃ハ低廉ニシテ殊ニ旅客ニ對シ然リトス「ドクトル、ザルテル」カ最近發表シタル小冊子ニ云ヘルカ如ク鐵道ノ主要ナル原則ハ「國有鐵道ハ第一ニ國ノ經濟生活ノ進步的開發ニ留意スヘキモノニシテ純收入獲得ヲ單ニ二次的意義ノモノタラシムルヲ要ス」ト云フニ在リキ同博士ノ言說ハ同博士カ運輸省ノ高級官吏ナルヲ以テ權威アルモノト考ヘ得ヘキナリ

他方ニ於テ經營費ハ不當ニ高ク職員ハ不必要ニ多數ニシテ宏壯ナル驛及巨大ナル操車場ハ巨額ノ費用ニテ維持セラレタリ加之上記數字ノ示スカ如ク每年經營費中ニハ資本ノ負擔ト爲スヲ適當トスヘカリシ多額ノ改良費及擴張費ヲ包含セリ

過去數年間獨逸國鐵道ノ總收入ハ經費ノ償フニ足ラサリシコト及最近ニ於テ經費ハ收入ニ數倍シ且現在ニ於テサヘ收入ハ經費ニ均シキニ過キサルニ顧ミ吾人ノ計算ハ不當ニ樂觀的ナルヤノ觀アルヘシ

然レトモ戰爭以來殆ト總テノ國ハ同樣ノ經驗ヲ嘗メタルコトヲ記憶セサルヘカラス通貨ノ低落ナカリシ亞米利加合衆國ニ於テスラ千九百二十年ノ鐵道純收入ハ殆ト皆無ニ近ク通貨ノ低落僅少ナリシ英國ニ於テハ千九百二十一年ノ收入額ハ支出額ニ滿タサリシナリ然レトモ右兩國ノ狀態ハ今ヤ全ク一變セリ而シテ他ノ諸國ニ於テ鐵道カ未タ財政的均衡ヲ恢復セストスルモ其ノ一時的ノ事相ニ過キサルコトハ經驗ノ充分示ス所ナリ而シテ獨逸國ハ同國ニ取リ有利ナル極メテ重要ナル特別事情ヲ有ス英國及米國ノ鐵道ニ於テハ鐵道職員ノ給與ハ戰前ニ比シ略倍加セリ獨逸國ニ於テハ此ノ種ノ增額ナシ却テ吾人ノ聞ク所ニ依レハ現在ノ平均給與額ハ戰前給與額ノ七割五分ニ過キス本年度ニ於テハ此ノ率ヲ戰前平均給與額ノ九割三分ニ增加セムトスル議アリ然レトモ上記二國ニ於ケル如ク戰前ノ標準以上ニ增加スルノ形勢ナシ其ノ理由二アリ獨逸國ニ於テハ右二國ニ於ケルカ如ク生活費ノ增加セサリシコト及獨逸國ニ於テハ他ノ職業ニ於ケル給與增加セサリシ爲鐵道ノ給與ハ之ニ比シ低シト云フヲ得サルコト之ナリ

吾人ハ固ヨリ當初ヨリ十億「マルク」ノ純收入アリト云フニ非ス然レトモ吾人ハ間モ無ク多額ノ純收入ヲ得ヘク且三年以內ニハ右金額ニ達スヘシト思考ス其ハ左ノ方法ニ依リ達成セラルヘシ

戰爭中獨逸國ニ於テハ他國ニ於ケルカ如ク運送稅賦課セラレタリ本稅ハ倘繼續セラル本稅ハ公衆ニ課セラルル運賃中ニ包含セラルルモ鐵道ヨリ直接大藏省ニ支拂ハレ從テ鐵道收入ノ一部ヲ構成セス本稅ハ總收入ニ對スル課稅ニシテ石炭以外ノ貨物ノ運輸ヨリノ一切ノ收入ニ對シテハ七分旅客運輸ニ對シテハ等級ニヨリ一割乃至一割六分ノ率ニ定メラル平均スレハ總收入ノ六分ニ相當ス千九百二十四年ニ於テニ億二千七百萬金貨

「マルク」ヲ生スヘキ見込ナリ將來ニ於テ運輸カ增加スルカ又ハ運輸カ同一數量ナルモ其ノ運賃率增加セハ本稅ノ收入ハ當然之ニ比例シテ增大スヘシ本稅收入ハ現在ノ數字以下ニ下ラサルモノト推定シ得ルカ如シ且本稅ハ總收入ニ課シ純收入ニ課スルモノニ非サルカ故ニ經營費ノ變動トハ全ク關係ナシ吾人ノ勘告スル如ク獨逸國ノ鐵道カ將來本稅ニ基ク收入ヲ賠償委員會ニ引渡スコトトナラハ同委員會ハ當初ヨリ安全ニシテ重要ナル財源ヲ其ノ手中ニ收ムルコトト爲ルヘシ

以上ノ外尙約八億金貨「マルク」ノ額ヲ取得スルコトヲ要ス而シテ吾人ノ判斷ニ依レハ右金額ハ鐵道ノ純益トシテ之ヲ取得スルヲ得ヘシ但シ右ハ運賃率ヲ相當ノ標準ニ定メ使用人ノ數ヲ相當ノ數ニ縮少シ且總テノ他ノ事項ニ關シテモ營業トシテ爲サルル經濟的經營ニ依リ經費節減ヲ確保スルコトヲ條件トス

戰前ニ在リテハ獨逸國鐵道ハ收入百「マルク」ニ對シ七十「マルク」ヲ支出セリ鐵道專門語ニテ云ヘハ「經營率」ハ七割ナリシナリ右ハ不當ナル高率ニシテ殊ニ鐵道カ何等ノ稅ヲ支拂ハサリシ事實ニ鑑ミルトキハ然リトス右ハ英國ノ率ヨリ相當高ク佛蘭西國ノ率ニ比シ遙ニ高シ然レトモ吾人ハ戰爭以來各國ニ於ケル經營率ハ著シク增加セルニ依リ戰後ノ狀態ノ下ニテハ獨逸國鐵道ハ七割ト言フカ如キ低率ニテ經營シ得ヘシト豫期セス獨逸國鐵道ハ運送稅ヲ負擔スルコトト爲リシノミナラス他ノ諸國ニ於ケル經營率增加ノ主因タル賃銀ノ暴騰ハ獨逸國ニ於テハ豫期セラレスト雖モ原料品殊ニ石炭及鋼ノ價格騰貴ハ永續スルモノノ如シ

然レトモ吾人ハ將來八割ノ經營率ニハ達シ得ヘシト思考ス吾人カ此ノ意見ヲ有スルハ第一ニ獨逸國ノ狀無殊ニ左ノ二箇ノ事實ニ基クモノナリ

(一)　最近數年間新ナル車輛ヲ多數買入レタルヲ以テ將來數年間之カ修理及更新ノ必要ハ極メテ尠少ナルヘキコト

(二)　最近莫大ノ費用ヲ投シ貨車ニ貫通制動機ヲ備付ケタルハ重要ナル經費節約ヲ齎ラスコト

第二ニ他ノ比較シ得ル國ニ既ニ起リ且現ニ起リツツアル事實ヨリ判斷スルニ效率大ニシテ經濟的ナル經營ヲ爲サハ經營率ハ獨逸國ニ於テモ他國ニ於テ既ニ引戻サレタルカ如ク獨逸國ニ於テモ近ク八割ニ引戻サレサルノ理由ナシト概言スルモ不可ナカルヘシ

英國及米國ニ於テハ既ニ言ヘル如ク職員ノ給與ハ二倍ト爲レルモ運賃ハ戰前運賃ニ比シ大約五割增加セルノミ其ノ結果經營率ハ以前ヨリハ遙カニ增大シ現在八割ヲ示ス然レトモ激增セル總收入ヲ基礎トシテ計算セラレタル殘餘ノ二割ハ鐵道資本ニ對シ四分以上ノ利益ヲ齎スニ充分ナリ

今ヤ獨逸國ニ於テハ年四十億金貨「マルク」ノ總收入ヲ得ムトシツツアリ總收入四十億金貨「マルク」ニシテ經營率八割ナリトセハ純收入ハ八億金貨「マルク」ト爲ルヘシ此ノ金額ニ運送稅二億二千八百萬金貨「マルク」ヲ加フレハ十億金貨「マルク」ヲ超過スルノ總額ヲ生ス

而シテ此ノ金額ハ全部之ヲ賠償ニ充當スルヲ得ヘシ「マルク」ノ低落ハ戰前ノ鐵道債務ヲ一掃セリ委員會ノ計畫ハ新ナル經營ノ下ニ於ケル鐵道ヲシテ最近ノ負債ニ對スル責任ヲ免レシムルナラム而シテ資本ハ過去數年間甚シク濫費セラレタルヲ以テ今後數年間此以上ノ支出ヲ爲スヘキ理由ナシ將來商業的經營ノ下ニ於テハ新資本ノ支出ハ之ヨリ生スヘキ利益又ハ節約カ少クトモ利子ノ支辨スルニ足ルノ保障アルニ非サレハ之ヲ爲ササルヘシト思考ス

千九百二十四年四月ヨリ始ル年度ノ豫算ヲ論スル場合更ニ收入及支出ニ付論スヘシ

暫ク他ノ見地ヨリ本問題ヲ考察スルコト有用ナルヘシ

十億ハ鐵道資本二百六十億ノ四分ヨリ少シ他ノ諸國ニ於ケル鐵道ニ課セラルル租稅ヨリ多額ナラサル運送稅ヲ差引クトキハ獨逸國鐵道ハ其ノ資本ノ三分ヨリ稍多キ收益ヲ擧クルコトヲ要求セラルルニ過キス既ニ述ヘタル如ク獨逸國鐵道ヲ以テ資本過多ナリト爲スハ何等ノ理由ナシ三分ハ之ヲ過當ナル利子ナリト爲スヲ得ス

英國ニ於テハ法律ニ依リ運賃審査會ハ獨逸國鐵道ノ資本ヨリ稍少キ資本ニ對シ經營カ效率大ニシテ經濟的ナル場合ニ限リ約十億金貨「マルク」ノ純收入ヲ生スルニ適當ナル運賃率ヲ定ムルコトヲ鐵道ニ許スモノトス米國ニ於テハ州際商業委員會ハ同シク法律ノ下ニ行動シテ五分七厘五毛ハ鐵道資本ニ對スル相當ナル利益ナルコトヲ定メ且此ノ利益ヲ生スルニ充分ナリト認メラルル運賃率ヲ課スルコトヲ許シタリ

獨逸國鐵道ニシテ賠償ノ爲三分强ノ支拂ヲ要求セラルルトセハ獨逸國鐵道ハ效率大ニシテ經濟的ナル商業的經營ノ下ニ於テ相當額ノ剩餘金ヲ得サルヘカラサルナリ而シテ右剩餘金ハ之ヲ獨逸國ノ一般租稅ノ輕減ニ充當シ得ルナリ尤モ鐵道利益ハ他ノ商業的企業ノ利益ト同シク年々其ノ額ヲ異ニスルコトヲ了解セサルヘカラス好況ノ時アリ不況ノ時アリ吾人カ以テ相當ノ收益ナリト爲セル十億ハ每年ノ平均額トシテ見ルヲ要ス

既ニ一言セル如ク所期ノ純收入全額ヲ當初ヨリ擧クルコト能ハサルヘシ恐ラクハ數年ノ期間ノ經過ヲ要スヘシ蓋シ獨逸國ノ運輸ハ萊因地方及「ルール」ノ鐵道ノ占領ニ依リ甚大ナル影響ヲ被リタレハナリ鐵道カ統一組織トシテ改造セラレタル後此ノ新組織ヲ運用シ完全ニ從前ノ運輸ヲ回得スルニハ時日ヲ要スヘシ而シテ右改造ハ支出ノ意味スヘシ尙經營ノ必要ナル改革ハ之ヲ實行スルニ時日ヲ要シ且直ニ充分ナル效果ヲ生スルモノニ非ス

如上ノ理由ニ基キ且數學的正確ニ付テハ吾人ハ固ヨリ之ヲ云爲セサルモ運送稅ヲ除キ且充分ナル積立金ヲ作ル爲ノ控除ヲ爲シタル後ニ於ケル純收入ハ左ノ如ク增加スヘシト豫測シテ誤ナシト思考ス

第一年　四億金貨「マルク」
第二年　五億五千萬金貨「マルク」
第三年及第四年　七億乃至七億五千萬金貨「マルク」
第五年以後　八億金貨「マルク」

右ノ結果ヲ得ル爲ノ措置

第一ニ鐵道ハ他ノ獨逸國ニ於ケル企業ト同シク通貨安定シ政治的及社會的平靜カ回復セラレタルトキニ於テノミ滿足ナル結果ヲ生スヘキコト明白ナリ

前揭ノ結果ヲ得ムカ爲ニハ如何ニスヘキカニ付更ニ吾人ハ言ハム鐵道ハ之ヲ商業的企業トシテ經營セサルヘカラス換言セハ一方ニ於テ收得シ得ヘキ一切ノ收入ヲ得ル樣運賃率ヲ定メ他方ニ於テ支出ヲ最小限度ニ縮少スルノ決意ヲ以テ之ヲ經營セサルヘカラス然ルニ獨逸國鐵道ノ從來ノ經營法ハ此ノ標準ヲ距ルコト遠キモノアリ戰爭以來獨逸國ニ於テハ工業及商業ヲ奬勵シ殊ニ輸出ヲ助長スルノ目的ヲ以テ旅客及貨物ノ運賃ヲ不當ニ低廉ナラシメ來リシコトハ之ヲ後ニ示スヘシ運賃ハ今モ尙戰前ト同シク獨逸國貿易ノ把持スル武器トシテ第一義ヲ有シ鐵道收入ノ源泉トシテハ第二義ヲ有スルニ過キサルモノト認メラレ居レリ

他方戰後ニ於ケル車輛及各種工事ニ對スル支出ハ莫大ニシテ從業員ハ多キニ失シ而シテ給與ハ貧弱ナリ

故ニ從來ノ鐵道政策ニ根本的ノ改革ヲ施スコトハ缺クヘカラス然レトモ如何ナル獨逸國ノ經營者モ其ノ背後ニ同盟國ノ利益ノ爲ニ設置セラレ且維持セラルル專門家アリテ不斷ニ之ヲ監理シ且運賃及支出ニ關スル事項ノ經營ヲ監視スルニ非サレハ傳統的心理傾向ト戰ヒテ之ニ打克ツニ必要ナル力ヲ有スヘシトハ信スルコト能ハス

吾人ハ監理問題ハ後ニ之ヲ詳述スヘシ

尙吾人ハ組織ヲ全然改變スルコト須要ナリト思惟ス最近鐵道ヲ特別ノ企業ト爲シ之ニ付與スルニ特別豫算ト或程度ノ獨立トヲ以テシタルハ正シキ方向ニ一步ヲ進メタルモノナリト雖モ未タ充分ナリト爲スヲ得ス鐵道企業ハ他ヨリ切離サレタルモ尙政府企業タルヲ失ハス吾人ハ更ニ一步ヲ進メ鐵道所有權ハ之ヲ政府ニ留保スルモ其ノ經營ハ或年數間ハ株主及債權者タル同盟國ノ代表者ヲ理事會中ニ包含スル獨逸國ノ一商事會社ニ委託スルコト必要ナリト思考ス

右委託期間ヲ如何ニ定ムヘキカ會社ノ設立ハ如何ニスヘキカ其ノ權限如何其ノ制限如何ノ問題ハ專門委員會自身決スヘキ事項ナリト思考ス吾人ハ唯會社及其ノ幹部ハ運賃率及經營ノ事項ニ關シ充分ナル自由ヲ有セサルヘカラサルコトヲ强調セムトス「ドクトル、ザルテル」博士ノ言ヲ修飾シテ言ハハ商業的ニ經營セラルル鐵道會社ハ第一ニ充分ナル純收入ノ獲得ニ重キヲ置クヘク且同時ニ國家經濟生活ノ進步的開發ニ留意シ及黃金ノ卵ヲ產ム鷲鳥ヲ殺シ又ハ其ノ生產能力ヲ減殺スルコトナキ樣注意スヘキモノトス

尙既ニ一言セルカ如ク吾人ノ云ヘル財政的結果ハ全獨逸國鐵道カ單一經營ノ下ニ單一系統ニ統一セラルルカ又ハ同一ノ運賃率及同一ノ一般法規ノ下ニ協調的ニ經營セラルル數系統ニ相當ナル方法ニテ區分セラルルコトヲ條件トシテ始メテ達成セラレ得ヘシ全然相協調セサル別個ノ系統ニ區分セラレムカ獲得セラルル結果ハ吾人ノ見積リタル純收入ニ滿タサルコト確實ナリ

右ノ見積ハ統一セル獨逸國鐵道系統ノ存在ヲ假定スト雖モ此ノ假定ヲ爲スニ方リ吾人ハ同盟國政府カ採用セムト欲スル行動ニ關シ又ハ賠償及保障ニ對スル軍事的又ハ經濟的保障ノ一般的問題ニ關シ何等意見ヲ發表スルモノニ非サルコトハ勿論ナリトス

最後ニ吾人ノ見積ハ鐵道カ商業的運賃ヲ支拂ハルルニ非サレハ政府又ハ地方團體ノ爲運輸ヲ爲スコトヲ要求セラルルコトナキヲ前提トス從來獨逸國鐵道ハ郵便局ノ爲通常郵便物ノミナラス小包郵便物ノ遞送ヲモ無料ニテ取扱ヘリ現時大不列顚國ノ鐵道ハ右ノ取扱ニ對シ其ノ役務ハ獨逸國ヨリ小ナルニ拘ハラス郵便局ヨリ年額四百萬「磅」以上ノ支拂ヲ受ケツツアリ其ノ他同樣ノ事例アルモ重要ナラサルヲ以テ玆ニ之ヲ論述スルノ要ナカルヘシ

將來ノ資本支出

吾人ハ新ナル施設殊ニ車輛ノ爲戰爭以來爲サレタル支出ノ甚大ナリシコトヲ後述スヘシ吾人ノ判斷ニ依レハ右ハ鐵道ノ實際的必要ヲ遙ニ超過セルモノナリ

車輛ノミニ對シ各種豫算ニ於テ三十億金貨「マルク」以上ノ支出ノ計上ヲ見タリ而シテ此ノ金額ハ鐵道ヲシテ一萬八千以上ノ新機關車及四十萬以上ノ新ナル客車及貨車ヲ獲得セシメタリ

故ニ概言スレハ資本ノ新支出ハ將來數年間全然之ヲ停止スルモ鐵道ニ何等ノ障碍ヲ及ホササルヘシト思考ス然レトモ之ト同時ニ千九百二十四年ニ於テ爲スヘシ資本支出ハ五億金貨「マルク」以上ニ上ルヘク更ニ豫定計

畫ヲ完成スルニハ千九百二十五年ニ於テ二億三千六百萬金貨「マルク」ノ支出ヲ要ストノ獨逸國政府ノ陳述ニ注意スルヲ要ス吾人ハ此ノ豫定計畫ヲ詳細ニ檢査シ大ニ之ヲ削減セサルヘカラスト思考ス然レトモ或時期ヲ經過セハ停車場ヲ擴張シ又ハ新線ヲ建設スル爲新支出ヲ爲スヲ要スルハ疑フノ餘地ナシ然レトモ既ニ述ヘタル如ク商業的經營ニ於テハ新ナル資本支出ハ直接ニ生產的ナル場合ニ非サレハ爲サレサルヘシ故ニ支出ハ增加スル純收入ヨリ直接之ヲ支拂フカ又ハ該支出カ重要ニシテ借入ヲ正當トスル場合ニ於テハ增加收入ヨリ償還セラルヘキ（賠償ノ擔保タル收入ヲ害スルコトナシニ）借入ニ依リ之ヲ支拂フコトヲ得

鐵道豫算—通常豫算

千九百二十四年四月一日ヨリ千九百二十五年三月三十一日ニ至ル會計年度（獨逸國會計ニ所謂千九百二十四年度）ニ付獨逸國當局ノ編成シタル通常豫算ノ見積ヲ檢査スルハ徒爾ナラサルカ如シ

右豫算ハ「ライン・ウエストファリア」鐵道カ獨逸國ノ經營ニ復歸シタリトノ假定ノ下ニ編成セラレタリ然レトモ此ノ復歸ニシテ實現ストスルモ當初ニ於テ混亂アルヘキコト略確實ニシテ正常ナル經營カ再開セラレ通常ノ運輸狀況カ回復セラルル迄ニハ或期間ノ經過ヲ要スヘシ且正確ニ見積ルコト不可能ナル或例外的支出ヲ爲ササルヘカラサルヘシ

故ニ此ノ豫算ハ多少純理的ノモノニシテ千九百二十四年ニ於ケルヨリハ寧ロ千九百二十五年ニ於テ得ラルヘキ結果ヲ表示スルモノト思考シ得ヘシ右留保ノ下ニ吾人ハ玆ニ豫算ヲ概說シ之ヲ檢査セムトス

「ライン・ウエストファリア」鐵道ヲ包含スル

通常豫算

一　支出

	金貨「マルク」
イ　俸給及賃銀	一、六三一、〇〇七、〇〇〇
ロ　材料費	
供給品及消費物	五四五、〇〇〇、〇〇〇
軌道及工作物ノ保全費	二九四、四八〇、〇〇〇
車輛及機械裝置ノ保全及更新費	二九四、〇〇〇、〇〇〇
他ノ材料費	一四〇、五一三、〇〇〇
積立金	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
利子及債務償却	三二五、〇〇〇、〇〇〇
	一、八九八、九九三、〇〇〇
計	三、五三〇、〇〇〇、〇〇〇
二　收入	
	金貨「マルク」
旅客運輸	八五〇、〇〇〇、〇〇〇
貨物運輸	二、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇
雜收入	一三〇、〇〇〇、〇〇〇
計	三、六八〇、〇〇〇、〇〇〇
剩餘收入	一五〇、〇〇〇、〇〇〇

千九百二十四年度ノ豫算ニ於ケル收入ノ算出ニ付テハ千九百十三年度ニ於ケル運輸ヨリ稍大ナルモ「マルク」ノ低落ニ基因スル取引ノ發展ニ依リ膨脹シタル千九百二十一年度及千九百二十二年度ノ運輸ヨリ少ナキ運輸ヲ假定セリ

計數左ノ如シ

	千九百二十三年度ノ實數	千九百二十四年度ノ見積
	三五、一二二（單位百萬）	四〇、〇〇〇（單位百萬）
旅客吉米	五七、二五一	六〇、〇〇〇
噸吉米		

旅客收入ハ豫算編成當時實施中ノ運賃率ヲ基礎トシテ計算セラレタリ後ニ運賃率ニ付論述スル際ニ三等及四等貨金ハ低キニ過キ極少數ノ旅客ニノミ影響スル一等貨金ハ高キニ過クルコトヲ指摘スヘシ三月一日以後三等及四等貨金ハ三割六分値上セラレ一等貨金ハ少シク値下セラレタリ其ノ結果旅客收入ハ三割增加シ八億五千萬「マルク」ノ豫算ハ約十一億「マルク」ニ增加スルモノト推定スルコトヲ得ヘシ

貨物收入ハ一噸吉米ニ付平均四金貨「プェニッヒ」一半ノ運賃ヲ基礎トシテ計算セラレタリ去ル二月吾人ノ伯林往訪ノ時實施中ナリシ運賃率ハ之ヨリ大ニシテ一噸吉米ニ付平均五金貨「プェニッヒ」一半ニ當リタリ然レトモ三月一日一割ノ一般的値下ヲ爲シタルカ尙他ニ國ノ商工業ヲ奬勵スル特別ノ目的ヲ以テ値下ヲ考慮中ナリ後ニ說明スル如ク右値下ハ現狀ニ於テハ之ヲ正當ナリト思考スルヲ得ス運賃率カ相當ノ標準ニ於テ維持セラルルナラハ貨物收入ハ二十七億「マルク」ノ豫算見積ヲ超ユルコト約一割即チ二十九億七千「マルク」ニ達スヘシ

豫算ノ收入ノ方面ハ即チ左ノ如クナルヘシ

	單位百萬金貨「マルク」
旅客運輸	一、一〇〇
貨物運輸	二、九七〇
雜	一三〇
計	四、二〇〇

支出

千九百二十四年度支出豫算ニ關シテハ從業員ニ對スル支出十六億三千百萬七千金貨「マルク」ハ實際上ノ經營費三十億五百萬金貨「マルク」ノ約五割四分ニ當ルコトニ注意スヘシ經營費中ニ算入スルコトノ不當ナル利子、債務ノ償却及積立金ヲ除外スレハ此ノ割合ハ隣接諸國ノ鐵道ト殆ト同一ナリ吾人ハ前報告書ニ於テ從業員ノ不當ニ多數ナルコトヲ指摘セリ千九百十九年ニ於テ百十二萬千百十一人ノ從業員及勞働者ヲ雇傭セリ千九百二十三年ノ終ニ於テ尙其ノ數ハ百萬人ニ近カリキ其ノ給與ハ甚シク膨脹シタル千九百二十一年度及千九百二十二年度ノ運輸ヨリ少ナキ運輸ヲ假定セリ

計數左ノ如シ

	千九百二十三年度ノ實數	千九百二十四年度ノ見積
	三五、一二二（單位百萬）	四〇、〇〇〇（單位百萬）
旅客吉米	五七、二五一	六〇、〇〇〇
噸吉米		

	千九百二十三年	千九百二十四年二月	千九百二十四年豫算
從業員	二、三五二	一、六三四	一、九七二
勞働者	一、三三一	一、〇六〇	一、三三八
平均	一、七一八	一、二九三	一、五九五
戰前平均ト	七五「パーセント」	九三「パーセント」	
ノ百分率	一〇〇		

吾人ハ指案セラレタル增額カ全然合理的ノモノナリト云ハサルヘカラスト思考ス從業員殊ニ上級及中級ノ從業員ノ給與ハ全ク不充分ナリ良好ナル經營ヲ期待セムトセハ通常相場ノ給與ヲ爲スヲ要ス

二億「マルク」ノ積立金ハ不時ニ備フル爲ニシテ之ヲ是認セサルヲ得ス

右積立金竝後述ノ債務ノ利子及償却金ヲ包含スル千九百二十四年度ノ支出全額ハ豫算ニ於テ三十五億三千萬金貨「マルク」ト計上セラル

前述ノ基礎ニ於ケル運賃率ヲ採用セハ

收入ハ……四十二億金貨「マルク」ト爲リ

右ノ結果剩除金ハ……六億七千萬金貨「マルク」ト爲ル

右剩餘金ハ純益ヲ構成ス蓋シ積立金二億金貨「マルク」竝新債務ノ利子及償却ニ用フル三億二千五百萬金貨「マルク」ハ支出中ニ加算セラレタレハナリ

尙運送稅ハ實際上鐵道純益ノ一部タルコトヲ記憶スルヲ要ス本稅ヲ旅客收入ニ付テハ一割石炭以外ノ貨物收入ニ付テハ七分ト計上セハ千九百二十四年ニ對シ二億七千六百萬金貨「マルク」ノ數字ヲ得ヘシ

故ニ鐵道ノ全純收入ハ六億七千萬「マルク」ニ二億七千六百萬「マルク」ヲ加ヘ合計九億四千六百萬「マルク」ニ達ス是實ニ吾人カ數年以內ニ擧ケラレ得ヘシト爲セル十億「マルク」ニ極メテ近キ數ナリ

然レトモ既ニ述ヘタルカ如ク此ノ結果ハ「ライン、ウエストファリア」鐵道ヲ包含スル全獨逸國鐵道カ單一系統トシテ常態ノ下ニ經營セラルル場合ニ適用セラルヘキモノナリ此ノ結果ハ千九百二十四年後遠カラスシテ達スヘシト雖モ千九百二十四年ニハ達シ得サルヘシ

債務ノ利子及償却

千九百二十四年ニ於テ債務ノ利子及償却ノ爲豫算ニ計上セラレタル三億二千五百萬ハ左ノ如ク分タル

	單位百萬金貨「マルク」
利子	九九
償却金	二二五

事務費　一　三二五

計

右債務ハ最近負擔シタル債務ナリ蓋シ戰債務ハ實際上消滅シタレハナリ

現債務總額ハ三億千二百萬「マルク」ニシテ其ノ詳細ハ委員會ノ質問ニ對スル政府ノ回答書中ニ存ス該債務中ニハ短期債務、未拂勘定、滯期爲替手形、大藏省又ハ「ライン、スバンク」ノ貸付金及鐵道ノ發行セル償還セラルヘキ非常通貨ヲ含ム右債務ニ對スル利子ハ多額ナリ中ニハ利率一日一厘ノ率即チ一年ニ付三割六分ナルモノアリ此ノ種ノ債務ハ成ルヘク速ニ償却スヘキモノナルコト明ナリ

現在ノ債務總額三億千二百萬「マルク」ニ加フルニ將來負擔スルヲ要スト認メラルル債務左ノ如シ

	單位百萬金貨「マルク」
千九百二十四年三月三十一日迄ノ特別支出ノ爲	一一〇
千九百二十四年會計年度中ノ特別豫算ノ支出ノ爲	三八七
「ライン、ウエストファリヤ」鐵道ノ返還セラレタル時必要ナルヘキ支出ノ爲	二〇〇
計	六九七
既ニ負擔セル債務	三一二
現實及豫定ノ債務ノ總額	一、〇〇九

既述ノ如ク千九百二十四年度通常豫算ハ債務償却ノ爲二億二千五百萬「マルク」ヲ計上ス然レトモ特別豫算ニ計上セラルル右支出ハ急激ニ增加スル傾向アルカ故ニ右特別豫算ヲ削減スルコト必要ナリ今此ノ問題ニ付論スヘシ

特別豫算

特別支出豫算ハ千九百二十三年十一月十五日乃至千九百二十四年三月三十一日ノ中間期間ニ對シ編成セラル原案ニテハ二億二千萬ノ支出ヲ計上セシカ後ニ一億七千萬ニ減少セラレタリ內譯左ノ如シ

第一章　單位百萬金貨「マルク」

家屋	八
增加車輛	七七
「クンツェ、クノール」式制動機	三
雜	一五
第二章	
軌道ノ復線工事	六
電化工事	三二
停車場	六
修理工事	一三
雜	一〇
計	一七〇

右支出ノ一部ハ既ニ使用シ得ヘキ狀態ニ在ル借入ニ依リ他ノ一部ハ一億一千萬ノ新ナル借入ニ依リ之ヲ支辨スヘキモノトス

獨逸國當該省ハ亦別ニ千九百二十四年度ニ於テ必要トスル他ノ特別支出ニ關シ陳述書ヲ吾人ハ交付セリ其ノ要領左ノ如シ

第一章　單位百萬金貨「マルク」

家屋	一五
增加車輛	一〇〇
電氣車輛	二〇〇
「クンツェ、クノール」式制動機	二八
雜	四〇
第二章	
新軌道	一〇
軌道復線工事	一三
電化工事	一〇
停車場	九四
修理工場	三六
雜	一一
計	三八七

尙右千九百二十四年ノ支出三億八千七百萬「マルク」ニ加ヘ既ニ起工セル工事ヲ完成スル爲ノミニ爾今二億三千六百萬「マルク」ヲ要スト推算セラルルモ全額十六億一千萬「マルク」ニ上ル既定計畫ノ最後ノ支出ナリ

右見積支出ハ借入金ニ依リ支辨スルヲ要スルモノナルカ既ニ絕對最小限度ニ縮少セラレタリトノコトナリ然レトモ尙完成スルヲ可トスル程度ニ工事進行セル場合ヲ除キ絕對ニ必要ナラサル工事ハ之ヲ停止又ハ少クトモ延期スル爲更ニ各項目ニ亙リ審査スルヲ要スト思考ス

獨逸國鐵道ノ工作物及車輛ハ戰爭前ニ在リテモ殆ト完備ニ近カリキ戰爭以來工作物及建物ノ擴張竝車輛ノ更新及增加ニ對シ支出ヲ吝マサリシヲ以テ將來數年間ハ新ニ此ノ種ノ支出ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得ス左ニ車輛ニ關スル詳細ノ數字ヲ揭ケテ右ノ所言ヲ確證セムトス

車輛

左記ハ伯林ニ於テ吾人ニ揭示セラレタル計數ニ基キテ爲シタル戰前及千九百二十四年ニ於ケル獨逸國鐵道車輛ノ比較ナリ但シ吾人ハ電氣機關車及「モーター」機關車ヲ除ケリ

	蒸氣機關車	客車	貨車
千九百十三年末	二七、九四〇	六二、〇五〇	六五七、一五〇
千九百二十四年一月	二九、九六六	六七、八〇〇	七二三、一〇〇

右ノ外昨年私立商會ニ註文セラレ未タ引渡サレサル車輛ハ左ノ如シ

	機關車	客車	貨車
	八八四	一、四五三	二五、六五三

右車輛ハ五月一日迄ニ引渡サルヘキモノナリシカ「ルール」占領ノ爲遲延シ本年内ニ引渡完了ノ見込ナシ

上記ノ計數ハ休戰ノ際ニ引渡サレタル車輛又ハ平和條約ニ基キ割讓セラレタル領土ト共ニ引渡サレタル車輛ハ總テ新車輛ヲ以テ補充セラレタルコト、戰爭中極メテ小部分補充セラレタルニ過キサル古キ舊式車輛ハ千九百二十年以來廢棄セラレ其ノ補充アリタルコト及車輛ノ追加建造セラレタル數莫大ナルコトヲ示セリ

茲ニ過去十一年間毎年廢棄補充セラレタル機關車ノ數ヲ表示スルハ徒爾ナラサル可シ

	輛
千九百十三年ニ廢棄セラレタル機關車	六〇〇
千九百十四年ニ廢棄セラレタル機關車	三七九
千九百十五年ニ廢棄セラレタル機關車	二五三
千九百十六年ニ廢棄セラレタル機關車	二三七
千九百十七年ニ廢棄セラレタル機關車	二二〇
千九百十八年ニ廢棄セラレタル機關車	一六七
千九百十九年ニ廢棄セラレタル機關車	一九一
千九百二十年ニ廢棄セラレタル機關車	六九〇
千九百二十一年ニ廢棄セラレタル機關車	一、八四九
千九百二十二年ニ廢棄セラレタル機關車	一、五八五

千九百二十三年ニ廢棄セラレタル機關車

	客車	貨車
計	七、六七一	一、五〇〇

客車及貨車ニ付テモ同樣ナリ左ニ千九百十四年以來取得シタル新車輛ヲ表示ス

	蒸氣機關車	客車	貨車
千九百十四年乃至千九百十八年ニ引渡サレタルモノ	八、八五九	一一、八三二	一八一、一九六
千九百十九年乃至千九百二十三年ニ引渡サレタルモノ	八、五〇六	一二、三一三	二四六、三八八
注文セラレタルモ未タ引渡サレサルモノ	八八四	一、四五三	二五、六五三
計	一八、二四九	二五、五九八	四五三、二三七

要スルニ機關車一萬八千二百四十九輛、客車及貨車十七萬八千八百三十五輛即チ全車輛ノ三分ノ二ハ過去十年間ニ建造セラレタルモノニシテ從テ獨逸國鐵道ノ車輛ハ千九百十四年ニ於ケルヨリモ遙ニ優秀ナリ斯ノ如ク車輛ノ大規模ノ補充ハ巨額ノ支出ヲ必要トシタルコト必然ナリ實際幾何ノ費用ヲ要シタルカハ右費用カ各種豫算ニ誇ルカ爲之ヲ揭クルコト能ハス

吾人ニ與ヘラレタル計數ニ依レハ千九百二十二年ノ終迄ノミニテ二十二億六千七百七十七萬四千四百八十八「マルク」ノ支出アリシナリ

右計數ハ千九百十九年、千九百二十年及千九百二十一年ニ於テ同盟國ニ引渡サレタル車輛ノ補充費ヲ包含セス該費用ハ大藏省ノ許與シタル特別貸付金ニ依リ之ヲ支辨シタルカ之ヲ金貨「マルク」ニ換算スレハ七億三千九百三十四萬七千六金貨「マルク」ニ達ス

廢棄セラレタル車輛ノ補充ハ通常鐵道豫算中ニ計上セラル車輛ノ增加ハ

特別鐵道豫算中ニ計上セラル一億五千萬金貨「マルク」ニ上ル車輛ハ千九百二十三年十一月十五日ヨリ千九百二十四年四月一日ニ至ル迄ノ間右ノ如ク計上セラルヘシ

尙千九百二十四年度ニ付通常豫算ニ於テ五千萬「マルク」特別豫算ニ於テ一億一千萬「マルク」ノ支出提案セラレタリ

「クンツエ、クノール」式貫通制動機

貨物列車ニ「クンツエ、クノール」式貫通制動機ヲ取付クルニモ亦巨額ノ費用ヲ要シタリ多數ノ制動手ヲ解雇セムカ爲又貨物列車殊ニ軍用列車ノ速力增大ヲ可能ナラシメムカ爲此ノ方針ヲ採用スルニ決シタルハ千九百十八年大戰尙進行中ノコトナリキ此ノ方針ハ戰爭以來非常ノ勢ヲ以テ遂行セラレタリ即チ一方ニ於テ新ニ註文セラレタル一切ノ貨車ニ貫通制動機ヲ取付クルト共ニ他方ニ於テ舊貨車ニ對スル取付モ進行シツツアリ

全計畫ハ千九百二十五年四月一日迄ニ完成ノ豫定ナリ費用總額ニ四億「マルク」ニ達シ內一億一千七百萬「マルク」ハ尙今後支拂ハルヘキモノナリ然レトモ「クンツエ、クノール」會社カ千九百二十六年十月一日迄ニ分割シテ支拂ヲ受クヘキコトヲ承諾セルコトハ之ヲ一言セサルヘカラス

運賃

貨物運賃

或時期ニ於ケル或國ノ貨物運賃ノ研究ニハ紛糾錯綜セル細目ヲ長期ニ亙リ審査スルヲ要ス簡潔ニ其ノ大體ヲ敍述スルハ殆ト不可能ニ近シ殊ニ吾人ノ有シタル短期日內ニ之ヲ爲スハ不可能ナリキ獨逸國ニ於テハ右ノ困難ハ種種特別ナル事情ニ依リ增加セラル

千九百二十二年ニ於テ貨物運賃ノ基礎ハ全ク之ヲ變更シテ哩數ニ比例スルト均一運賃ヲ大部分ノ貨物ニ付廢止シ其ノ代リ「梯形運賃」即チ哩數ノ增加ト共ニ一哩當ノ運賃ヲ遞減スルノ方法ヲ採用シタリ之ト同時ニ大部分ノ運輸力從來受ケタル特別運賃ノ大部分ハ廢止セラレタリ然ルニ其ノ後ニ至リ右特別運賃ノ多クハ形式ヲ改メ復活スルニ至レリ而シテ右ハ鐵道側ニ於ケル難問ヲ擧ケタルノミナリ

通貨問題ハ全局面ヲ紛糾セシム運賃値上ハ最初ハ現行率ヲ一率ニ增加スルノ形ニ於テ爲サレタリ其ノ後種種ノ乘數ト共ニ指數ヲ採用シタル時期アリ最後ニ千九百二十三年十一月運賃ハ金貨「マルク」ヲ以テ計算スルコトト爲レリ其ノ結果貨物運賃ノ標準ハ運賃負擔能力ニ比較シ高キニ失シ之カ爲大低減ヲ爲スコト絕對ニ必要ナルニ至レリト云フ

吾人ハ此ノ低減カ過去又ハ現在ニ於テ必要ナリトハ斷シテ思考セス却テ吾人ハ更ニ精細ナル研究ヲ爲サハ貨物運賃カ鐵道ノ見地ヨリ是認シ難キ方法及範圍ニ於テ低減セラレ居リ且低減ヲ提議セラレ居ルコト竝有ハ屢ニ引用シタル「ドクトル、ザルテル」ノ見解ニ共鳴スル樣裁成セラレタル官吏ノ訓育及心理的傾向ニ胚胎スト ノ吾人ノ一般的結論ハ支持セラルヘシト確信ス

同時ニ吾人ハ一ノ警告ヲ發スルノ必要ナルヲ感ス貨物運賃ハ獨逸國官吏カ有利ト認ムルモノヨリモ遙ニ高キコトヲ得ヘシトノ吾人ノ結論ハ戰前ノ數字ニ比較シタル現在ノ噸吉米當平均收入ヲ主タル基礎トス或ハ言フ右數字ハ現在ノ事實ニ付誤レリ印象ヲ與フルモノナリト雖シテ戰前及戰後ニ於ケル重要ナル運賃及運賃ノ種類ノ比較カ吾人ニ多數提示セラレタルカ右ニシテ代表的ノモノナリトセハ事態ハ別異ノ觀ヲ呈スルニ至ルヘシ右比較表ニ拘ラス吾人ハ吾人ノ述ヘタル見解ヲ固持セムトス然ルトモ委員會ハ吾人ノ言ヘル所カ意見ノ發表ニ過キサルコト及充分確メラレタル統計的事實ニ基キ熟慮ノ結果下シタル判斷ナリト主張スルヲ得サルモノナルコトヲ諒セラルヘシ

吾人ハ又現在獨逸國ノ貨物運賃カ實際如何ニ高キカヲ確ムルコト能ハサルヲ發見セリ

吾人ニ提示セラレタル最初ノ文書ニ於テハ貨物運賃ハ戰前運賃ノ二倍ト推斷シ得ト爲セルモ事實ハ此ノ陳述ヲ證明セサルニ似タリ戰前ニ在リテハ噸吉米貨物運賃ハ平均三・三六金貨「プェニッヒ」ナリ千九百二十三年十一月鐵道運賃支拂ニ對シ價値ノ不定ナル紙幣「マルク」ヲ使用スルヲ止メ金貨「マルク」ニ改メタル時平均運賃ハ戰前ニ二倍セルコトハ官憲ノ算出セル所ナリ換言スレハ官憲ノ算定ニ依レハ千九百二十三年十一月ニ於ケル平均率ハ噸吉米六・七二「プェニッヒ」ナルヘキナリ然ントモ是一ノ算定ニ過キスシテ吾人ハ其ノ正確ヲ疑フモノナリ

高キニ過クト認メラレタル運賃ヲ右時日以來累次大ニ低減スルコト始マリ今尙繼續中ナリ千九百二十四年一月ノ上旬ニ於テ平均運賃率ハ五・八九「プェニッヒ」ナリシコト即チ戰前運賃ノ十割ノ增加ニ非スシテ七割五分ノ增加ナリシコトヲ信スヘキ統計上ノ根據アリ一月二十日多數ノ重要ナル値下實施セラレタリ手許ニ在ル統計ニ依レハ二月中旬ニ於テ平均運賃ハ五・五五「プェニッヒ」ニシテ即チ戰前率ノ六割五分ノ增加ナリ然レトモ値下ハ更ニ繼續シテ行ハレツツアリテ中ニハ極メテ重要ナルモノアリ三月一日ニ於テ運輸ノ大部分ニ對シ一割ノ一般的値下アリタリ

貨物運賃收入ノ豫算ハ本年度中ノ平均貨物運賃カ戰前運賃ノ僅ニ三割三分高キ四・五〇金貨「プェニッヒ」ヨリ多カラサルヘシトノ推定ニ基ケリ此ノ計算ハ故ラ內輪ニ見積ラレタルコト疑ノ餘地ナシ

此ノ方策ニ關シ吾人ハ二箇ノ考察ヲ下サントス全體トシテ見ルニ既ニ爲サレタル及爲サレムトシツツアル一切ノ値下ヲ正當ナリト信スルコト困難ナリ或場合ニハ鐵道ノ利益ノ爲値下カ希望スヘキモノナリシコト及希望スヘキモノナルコトヲ認ムト雖モ不必要ノ値下カ行ハレ又少クトモ或場合ニハ値下率カ不必要ニ大ナリシコトヲ信ス吾人ノ知ル所ニ依レハ原料ノ輸入及獨逸國生產品ノ輸出ノ爲大低減ヲ爲ス例外的運賃ハ甚タ自由ニ設ケラレツツアル黃麻ノ輸入ニ對シテハ二割五分ノ値下アリ棉花及羊毛ニ對シテハ五割ノ値下アリ海上輸出ノ各種貨物ニ對シ三割ノ値下將ニ實施セラレムトス而シテ海上輸出ノ鋼及鐵ニ對スル三割乃至四割ノ値下考量中ナリ

正確ナル事實ハ不明ナルモ貨物運賃率及貨物運賃收入ニ關スル問題ニシテ極メテ重要ナルモノアリ千九百二十四年ノ豫算ハ同年中ニ運送セラルヘキ噸吉米ハ千九百十三年ト略均シカルヘシト推定シタルカ右ハ明ニ正當ナル理由アリ然レトモ諸種ノ條件ハ此ノ間ニ於テ甚タシク變化セリ運送噸數ハ約二割減少セルモ一噸平均ノ運送哩數ノ增加ニ比例シテ增加セリ獨逸國官憲ハ此ノ平均運送哩數ノ增加ニ對シ三個ノ主ナル原因ヲ揭ク

(一) 千九百二十一年ニ於テ「梯形運賃」ヲ採用セルコト

(二) 戰爭ノ結果從來ノ運輸狀況ニ變化ヲ生シタルコト及新政治的國境ノ設定アリタルコト

(三) 萊困地方及「ルール」地方占領ノ結果運輸ノ轉向アリタルコト

(一)ノ影響ハ永續性ノモノナリ(二)ノ影響ハ時日ノ經過ト共ニ減少スヘシ(三)ノ影響ハ恐ラクハ一時的ノモノナルヘシ吾人ハ此ノ三原因カ如何ナル割合ニ於テ前述ノ結果ヲ齎ラシタルカヲ確ムルコト能ハス然レトモ將來噸數カ增加セス平均運送哩數カ戰前ノ數ニ近接スルコトアラハ鐵道收入ニ對スル影響ハ極メテ重大ナルコト明白ナリ

貨物運賃ノ問題ニ付關筆スルニ先チ更ニ一言ヲ費サムトス吾人ハ事實カ不明瞭ナルコト及吾人ノ審査ハ徹底的ナラサリシコト又徹底的ナルヲ得サリシコトヲ認ム吾人ハ或結論ニ關シ躊躇セルコトモ認ム人カ一定ノ意見ヲ發表シタル場合ニモ時日ノ經過ハ其ノ誤レルコトヲ明ニスルコトア

ラム

吾人ハ右一切ノ事實ヲ念頭ニ置ケリ而モ右ハ委員會ノ見地ヨリシテ最モ重要ナル事實即チ鐵道ハ賠償ノ爲ニ利用シ得ル年額十億金貨「マルク」ノ純收入ヲ擧ケ得ヘク又之ヲ擧ケサルヘカラサルモノナリトノ確信ヲ吾人カ保有スルコトニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ吾人ノ豫想ハ或點ニ關シ誤謬ナキコトヲ保セス即チ或點ニ付テハ樂觀ニ過キ他ノ點ニ付テハ悲觀ニ過クルモノアルヘシ然レトモ吾人ノ見積ハ運賃ノ細目ヨリハ一層廣キ根據ニ立脚スルモノニシテ吾人ハ此ノ點ヲ固持スルモノナリ

旅客運賃

獨逸國鐵道ハ名義上旅客ヲ四等級ニ分ツ然レトモ一等車ハ地方列車ニハ之ヲ用キス又四等車ハ急行列車ニ之ヲ用キス戰前ノ運賃ハ等級ニ從ヒ一吉米ニ付夫々七「プェニッヒ」、四・五「プェニッヒ」、三「プェニッヒ」及二「プェニッヒ」ナリキ千九百十七年四月四等級ヨリノ全收入ニ對シ各々一割六分、一割四分、一割二分及一割ノ運送稅ヲ課スルノ制度創始セラレタリ本稅ハ千九百二十四年ニハ八千五百萬金貨「マルク」ニ上ルヘシト計上セラレタルニ拘ラス鐵道當局者ハ千九百二十三年九月迄運賃ノ值上ヲ爲ササリキ右ノ時ニ至リ運賃ハ稅ヲ併セテ四ノ等級ニ對シ夫々一吉米十九・六「プェニッヒ」、九・九「プェニッヒ」、三・三「プェニッヒ」及二・二「プェニッヒ」ニ增率セラレタリ即チ三等及四等ノ運賃ハ稅額ニ相當スル值上アリシニ止リ一等及二等ノ運賃ハ二倍以上ト爲レリ斯ノ如ク比例ヲ失スルコト明ナル運賃改正ノ結果ハ上級乘客ヲ皆無ニ近カラシメタリ仍テ去ル十二月一等及二等ノ運賃ハ三分ノ一ノ值下ヲナセリ然レトモ尙一等賃金ハ三等ニ四倍シ四等ニ六倍ス自然一等乘客ハ皆無ニ近カリキ即チ一萬人中僅カ

ニ七人カ一等ノ乘客ナリシカ之ニ對シ百人中七人ハ二等ノ乘客ナリキ四等乘客ハ乘客ノ半數以上ヲ遙ニ超エ三等乘客ハ乘客ノ三分ノ一ヲ遙ニ超ユ數週間以前迄ハ一金貨「マルク」ノ普通切符ニテ三等旅客ハ三十吉米四等旅客ハ四十五吉米ヲ旅行シ得タルコト及旅客ノ過半數ハ實際ハ普通切符ノ約半額ニテ發行セラレタル定期券ニテ旅行シタルコト即チ「マルク」ニテ六十吉米及九十吉米ヲ旅行シ得タルコトニ鑑ミルトキハ旅客運賃カ經營費ヲ償フニ足ラサリシトスルモ驚クニ値セス遂ニ五月一日ヨリ一等運賃ハ一等旅客ヲ少シク增加スヘキ程度ニ更ニ值下セラレ三等及四等運賃ハ三割六分值上セラレタリ現在各等ノ運賃ハ一吉米ニ付九「プェニッヒ」、六「プェニッヒ」、四・五「プェニッヒ」及三「プェニッヒ」ニシテ各等金ノ比例ハ從前ヨリ不合理ノ度ヲ減セリ

獨逸國ニ於ケル一吉米當三等運賃ハ尙英國又ハ亞米利加合衆國ニ於ケル之ニ該當スル賃金ノ僅ニ半額ニ過キサルニ鑑ミ吾人ハ新運賃ハ獨逸國公衆ニ不當ノ負擔ヲ與フルモノニ非スト思考ス然レトモ獨逸國公衆ハ久シキ間非營利的運賃ニ慣レ居ルヲ以テ少クトモ當初ニ於テハ多少乘客ノ減少ヲ免レサルヘシト思考ス仍テ吾人ハ三割六分ノ運賃值上ハ收入ニ於テ三割ヲ增加スルニ過キサルモノトシテ計算シタリ

將來ノ監督　鐵道監理人

上述ノ事實及數字ニ照シ獨逸國政府ハ戰爭以來辯護ノ餘地ナキ方法ニテ鐵道經營ヲ爲シ來レルコト明カナリ收入ノ方面ヨリ言ヘハ收メ得ヘク又收メサルヘカラサル收入ヲ收ムルコトヲ怠リタリ支出ノ方面ヨリ言ヘハ戰前ノ狀態ヲ回復スル爲ニミナラス現在ノ狀況ノ下ニテハ正當ト爲シ得サル一切ノ改良ノ爲資本ヲ費セリ鐵道ハ戰前ノ能力ヲ回復セルノミナラ

ス更ニ遙ニ高クシテ吾人ノ知レル限リノ他ノ何國ヨリモ優リタル標準迄向上セシメラレタリ獨逸國ノ當該省内部ニ於テスラモ該政策ハ甚シク非難セラレタリトノコトナリ之カ辯解ハ一方ニ於テハ大製造業者ヨリ其ノ業務ヲ繼續センカ爲及使用人ノ全般的解傭ニ因リ判亂乃至革命ヲ惹起セムコトヲ避ケムカ爲頗ル强キ壓迫アリテ之ニ抵抗スルコト能ハサリシコト竝他方ニ於テハ民衆ノ貧困甚シクシテ政府ハ運賃ヲ低廉ニセサルヘカラサリシコトノ之ナリ理由ノ如何ハ別トシ事實ニ關シテハ疑ノ餘地ナシ吾人ノ見解ニ依レハ上述ノ理由ハ有力ナルモノナルモ執リタル行動ハ決シテ全部外部的壓迫ニ原因スルモノニ非ス當該省ノ運賃部ノ官吏ハ吾人ノ反覆陳述セル如ク鐵道ノ利益ヲシテ鐵道以外ノ事情ニ從タラシムルコトヲ辭セサリキ技術方面ト運轉方面トヲ問ハス之ヲ擔任セル幹部ハ妄大癖ニ陷リ居リタリト言フモ過言ニ非サル狀態ニ在リシナリ幹部ハ建物ノ宏壯ナルヘキコト、鐵道設備ノ優秀ナルヘキコト及斯ク斯クノ設備ヲ爲スヘキコト等ヲ以テ獨逸國ノ威嚴ノ爲ニ必要ナルモノト爲セリ幹部ハ布ニ應シテ衣服ヲ裁ツノ商業的必要ニ付學フ所ナカリキ

今單ニ鐵道カ國營ヨリ會社經營ニ移リタリトテ之ノミヲ以テシテハ此ノ心理的傾向ヲ一變セサルヘシ理事ノ大部分ハ獨逸國人タルヘク總支配人ハ獨逸人タルヘク而シテ其ノ責任アル職員ハ過去ノ鐵道政策ヲ體得シ實行シタル同一人タルヘシ故ニ吾人ハ鐵道監理人カ同盟國ニ依リ且其ノ利益ノ爲任命セラレ獨逸人ノ經營ヲ監視シ必要アラハ之ヲ監理スルヲ要スト思考ス故ニ本報告書ヲ終ルニ際シ鐵道監理人ノ職責及之ニ從屬スル部員ノ構成ニ關スル吾人ノ見解ヲ述フヘシ

鐵道監理人

鐵道監理人ハ鐵道界ニ於テ一流ノ人物ト目セラルル者ナラサルヘカラス鐵道經營ノ一切ノ部門ニ亙リ監督ノ責務ヲ全ウセムカ爲ニ如何ナル援助ヲ必要トスルカハ監理人ノ任命後右監理人ノ決スルニ委スヘキモノトス獨逸國鐵道系統カ今後地區ニ分割セラルルコトアリタルトキ右地區ノ何レカニ又ハ各區ニ地方的代表者ヲ置クヲ要スルヤヲ考究スルモ右監理人ノ任務トス

吾人ハ監理人ハ就任後組織ノ大綱及其ノ必要ト思考スル部員ヲ通告スヘク理事會ハ右計畫ニ對シ贊否ヲ表明スルモノト爲セリ監理人ハ勿論一切ノ報告書、統計的及財政的ノ報告書、資本勘定タルト收入勘定タルトヲ問ハス特別支出ノ提案、運賃變更又ハ例外的運賃ノ許與ニ關スル提案竝之ニ類似スル其ノ他通常總支配人ノ同意ヲ要スヘキ重要ナル提案ノ呈示ヲ受クルノ權利ヲ有セサルヘカラス監理人ハ更ニ亦獨立ノ判斷ヲ爲スコトヲ得ムカ爲其ノ必要ト思惟スル報告書及統計ノ提出ヲ要求スル權利ヲ有セサルヘカラス

監理人ノ第一ノ任務ハ現ニ進行中ノ又ハ提議セラルル一切ノ事項ニ關シ完全ニシテ最新ナル報道ヲ得以テ之ニ對スル贊否ヲ決スルニ在リ監理人カ不贊成ナルカ又ハ贊成ヲ躊躇スルトキハ總支配人ト右事項ヲ論議スヘシ監理人ハ事態不可ナリ又ハ鐵道カ收益ヲ得ルコトヲ矛盾スル方針採用セラレムトストノ意見ヲ有スルコトアルヘシ右ノ場合總支配人ヲシテ其ノ方針ヲ變更セシムルコト能ハサルトキハ監理人ハ理事會ノ注意ヲ喚起シテ其ノ適當ト思考スル行動ヲ執ルヲ得シムルノ義務ヲ有ス適材ニシテ監理人ニ任命セラレムカ總支配人ト全ク協調シテ行動スルヲ得ヘシ又總

支配人モ監理人ノ容喙ヲ忍ルコトナク寧ロ一方ニ於テ不必要ノ支出ヲ止ムルコトニ付他方ニ於テ獨逸國商業ヲ不當ニ妨害スルコトナクシテ擧ケ得ヘキ最大ノ純益ヲ鐵道ニ對シ確保スル爲適當且充分ナル運賃ヲ制定維持スルコトニ付監理人ノ支持ヲ歡迎スヘシ

監理人ノ第二ノ任務ハ外國人タル理事ノ爲ニ其ノ重要ト認ムル事項ニ付報告書ヲ作製スルニ在ルコト當然ナリ此ノ種ノ事例トシテ獨逸國ノ輸出運賃ノ大低減カ適當ナリヤ否ヤノ問題ヲ提示シ得ヘシ獨逸國製造業者ヲシテ海外市場ニ於テ不當ノ利益ヲ得シメムカ爲ニ獨逸國鐵道ノ純收入ヲ減少スヘカラスト同盟國カ要求スルコトヲ得ルハ明ナリ

獨逸國鐵道カ賠償ニ寄與スルヲ以テ適當トセラレタル純收入ヲ擧ケ得サル場合ニ於ケル監理人ノ地位如何ノ問題ハ竝ニ詳說スルノ必要ナキカ如シ概言セハ此ノ場合監理人ハ總支配人ノ職務ヲ執行スヘク又總支配人トノ協議又ハ理事會ニ對スル勸奬ノ方法ニ依ラス自ラ實效的命令ヲ出シ以テ正當ナラスト認ムル支出ヲ止メ又ハ現行運賃率ニ相當ト認ムル値上ヲ爲スヘキモノト思考ス協定セラレタル支拂カ不能ニ終リ又ハ近キ將來ニ於テ右支拂不能ノ危險アル場合ニ於テハ監理人カ同盟國ノ代表者トシテ完全ナル監理權ヲ行使スヘシトノ點ニ付豫メ獨逸國政府ノ同意ヲ取付ケ置クヲ要スルコトハ明ナリ

ダブリユー、エム、アクワース

ウエー、ルルヴエルヴ

第一專門委員會報告書第四附屬書會社ニ對スル獨逸國鐵道經營ノ特許

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

鐵道經營ノ特許

獨逸國鐵道ノ經營ハ一定期日迄ニ法律ニ依リ一會社ニ移轉セラルヘシ獨逸國政府ト特許ヲ受クル會社トノ間ノ契約ハ法律ノ承認ヲ受クヘシ契約中ニハ會社及後記ノ債券受託人ノ同意アルニ非サレハ特許條件ニ何等ノ變更ヲ加ヘ得サル旨ヲ規定スヘシ

法律中ニハ更ニ會社カ獨逸國ニ於ケル一切ノ鐵道擴張ノ獨占權ヲ有スヘキコトヲ規定スヘシ

會社ノ特許狀ハ該法律ニ添付セラレ且該法律ニ依リ承認セラルヘシ法律ハ獨逸國議會ニ提出セラルルニ先チ賠償委員會ニ依リ是認セラルルヲ要ス

有法律ニ依リ獨逸國鐵道系統ノ經營カ會社ニ移轉セラルル條件ハ左ノ如シ

會社ハ獨逸國國籍ヲ有スヘシ

會社ハ鐵道ハ車輛及裝置ヲ包含スルノ經營、保全及通常ノ改良ニ對シ責任ヲ負擔スヘク且獨逸國政府及鐵道監理人ノ權限ニ關スル後出ノ規定ニ從ヒ會社ノ適當ト信スル方法ニ於テ其ノ業務ヲ執行スルノ權利ヲ有スヘシ

獨逸國政府ハ鐵道ノ運賃及業務ニ關シ差別的取扱ヲ防遏シ且公衆ヲ保護スルニ必要ナル監督權ヲ行使スヘシ然レトモ右監督ハ資本價格ニ對スル公正ニシテ相當ナル利益(社債及優先株ニ對スル充分ナル資金、普通株ニ對スル利益金竝資本償却其ノ他ノ一切ノ目的ノ爲ニスル充分ナル準備金ヲ包含ス)ヲ收ムヘキ鐵道會社ノ能力ヲ害スル方法ニ於テ之ヲ爲スヲ可カラス右ヲ遂行スル計畫ハ後記ノ設立委員會ニ依リ立案セラルヘシ

會社ハ特許ノ當初ヨリ特許當時ノ運賃ヲ徵スルノ權利ヲ有スヘシ其ノ後

會社ハ「ヴェルサイユ」條約第三百六十五條及第三百七十八條ノ規定ニ從ヒ隨時運賃ヲ變更スルノ權利ヲ有スヘシ

常ニ前項ノ規定ニ從ヒ業務及運賃ニ對スル獨逸國政府ノ監督ヲ實行スル方法ヲ定ムルハ設立委員會ノ任務ナリトス

特許期間ハ少クトモ後記ノ規定ニ從ヒ社債償却ヲ爲スニ充分ナル期間タルコトヲ要ス特許期間終了スルトキハ會社ハ車輛及裝置ヲ包含スル全鐵道事業ノ完全ナル狀態ニ於テ無償ニテ獨逸國政府ニ還付スヘシ

獨逸國鐵道ヲ讓渡シ又ハ之ヲ抵當トスルニ付テハ千九百二十年ノ獨逸國法ニ依リ獨逸各邦ノ同意ヲ必要トスルヲ以テ獨逸國政府ハ此ノ點ニ關シ關係各邦ト必要ナル協定ヲ爲スヘシ右協定ハ特許ヲ承認スル法律ニ依リ承認セラルヘシ

右ノ法律ハ鐵道ニ屬スル財產ヲ抵當ニ付スルノ權利ヲ會社ニ付與スヘシ

法律ハ又獨逸國モ獨逸各邦モ又ハ如何ナル官憲モ鐵道會社ニ對シ總收入ノ上タルト純收入ノ上タルトヲ問ハス又動產ノ上タルト不動產ノ上タルトヲ問ハス又會社ノ使用人ニ關スルト其ノ他ノモノニ關スルトヲ問ハス何等新ナル直接稅ヲ課セサルヘキ旨ノ規定ヲ包含スヘシ

鐵道會社

第一條　會社ノ資本

創設セラルヘキ資本ニ後記スル百十億金貨「マルク」ノ第一抵當附債券額ヲ加ヘタルモノハ獨逸國鐵道系統ノ資本價格(二百六十億金貨「マルク」)ニ相當スヘシ

二十億金貨「マルク」ノ優先株ヲ發行スヘシ右優先株ハ配當率ヲ有シ且後記ノ年次金ヲ支拂ヒタル後ノ鐵道利益ニ與ルノ權利ヲ有スルモノトス右配當及利益分配竝獨逸國政府ニ依ル優先株ノ償却及買戻ノ條件ハ獨逸國政府及後記ノ設立委員會間ノ協定ニ依リ定メラルヘシ

右優先株ハ獨逸國政府及會社自身ノ利益ノ爲會社ニ依リ賣却セラルヘシ斯ノ如クシテ得タル金額ノ四分ノ一ハ獨逸國政府ノ所有ニ四分ノ三ハ會社ノ所有ニ歸スヘシ優先株ノ賣却ハ獨逸國政府カ其ノ受クヘキ全額ヲ二年內ニ受領スルカ如キ條件ニテ爲サルヘシ獨逸國政府ノ要求アルニ於テハ優先株ノ第一回賣上代金ハ獨逸國政府ノ使用ノ爲之ヲ留保スルコトヲ得

獨逸國鐵道系統ノ資本價格ノ殘額(卽チ百三十億金貨「マルク」)ハ普通株ヲ以テ代表セラルヘシ右普通株ハ獨逸國政府之ヲ所有シ其ノ欲スル所ニ從ヒ之ヲ保有シ又ハ賣却スヘシ

第二條　管理及經營

會社ハ少クトモ十八名ノ理事ヨリ成ル理事會ニ依リ管理セラルヘシ

右理事ハ總テ經驗ニ富メル實業家又ハ鐵道專門家タルヘシ其ノ半數ハ獨逸國政府之ヲ任命シ他ノ半數ハ後記ノ受託人之ヲ任命ス

優先株ノ一般賣出ト共ニ優先株主ハ獨逸國政府ノ任命シタル理事四人ニ代ルヘキ四人ノ理事ヲ選擧スルノ權利ヲ有スヘシ

設立委員會ハ各種理事ノ任期ヲ定ムヘシ

受託人ノ選任スル理事九名中五名ハ獨逸國人タルコトヲ得

理事會議長ハ理事ノ四分ノ三ノ多數ニテ一年間ヲ任期トシテ選任セラルヘシ必要ナル資格ヲ有スル限リ再選スルヲ妨ケス

優先株主カ理事ヲ選擧シタルトキハ直ニ理事會議長ハ右理事中ヨリ選擧セラルヘシ

理事會議長ハ理事トシテノ投票權ノ外ニ第二即チ決定投票權ヲ有ス

會社ノ總支配人ハ獨逸國人タルヘシ

總支配人ハ理事ニ選任セラルルコトヲ得サルモノトス總支配人ハ理事會ノ四分ノ三ノ多數投票ニ依リ選任セラルヘシ

總支配人ハ右ト同一ノ多數投票ニ依リ其ノ職ヲ免セラルルコトヲ得但シ會社ノ特許狀ニ違反シ又ハ理事會ノ命令ヲ遵守セサリシトノ理由ニテ監理人(後記第三條ニ規定スル)カ總支配人ノ免職ヲ要求シタルトキハ理事會ノ單ナル過半數投票ニ依リ其ノ職ヲ免スルヲ得ヘシ鐵道經營ニ關スル決定ハ如何ナル場合ニモ鐵道經營ノ地方的區分ハ鐵道ノ財政上及運賃上ノ統一ヲ害スヘカラストノ了解ノ下ニ爲サルヘキモノトス

第三條　監理人

鐵道監理人ハ鐵道界ニ於ケル一流ノ人物ト認メラルル者タルヲ要ス

監理人ハ外國人タル理事ノ多數投票ニ依リ任命セラルヘシ

監理人ハ理事會ノ一員タルコトナシ

監理人ハ鐵道事業及計算ニ關シ專門家ヨリ成ル充分ナル部員ヲ有スヘシ

監理人ハ全鐵道系統竝鐵道ノ設備及區分ニ對シ自ラ又ハ代理人ヲ以テ之ヲ檢閱スルノ一般的權利ヲ有スヘシ

一切ノ報告書、統計的及財政的報告書、資本勘定タルト收入勘定タルトヲ問ハス特別支出ニ對スル提案、運賃變更ニ關スル提案、特別運賃ノ許與ニ關スル提案其ノ他之ニ類スルモノニシテ通常總支配人ノ同意ヲ要スル性質ノモノニ付テハ監理人ハ之カ提示ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ

鐵道監理人ハ更ニ獨立ノ判斷ヲ爲ス爲ニ必要ナリト思考スル報告書又ハ統計ノ提出ヲ要求スル權利ヲ有スヘシ此等一切ノ報道ハ其ノ要求ニ基キ迅速、充分且正確ニ供給セラルヘシ建設、經營又ハ運賃ニ關聯スル措置カ後記ノ如ク債券所有者又ハ賠償委員會ノ權利又ハ利益ヲ大ニ脅シ特ニ後記第五條ニ定ムル支拂期日ニ於ケル支拂ヲ危カラシムルトキハ監理人ハ該問題ニ付總支配人ト協議スヘシ監理人カ總支配人ヲシテ其ノ方針ヲ變更セシムルコト能ハサルトキハ監理人ハ理事會ニ問題ヲ提出シ同會ヲシテ其ノ必要ト思考スル手段ヲ執ラシムヘシ

後記ノ債券支拂危險ニ陷リタルトキハ監理人ハ後記債券所有者ノ保證ニ關スル條項ニ從ヒ行動スルヲ要ス

鐵道監理人及其ノ部員ノ費用ハ經營費トシテ鐵道收入ヨリ之ヲ支辨ス

第四條　債券

會社ノ設立後直ニ會社ハ賠償委員會ノ任命シタル受託人ニ額面百十億金貨「マルク」ノ第一抵當附債券ヲ賠償ノ目的ノ爲ニ且無償ニテ付與スヘシ

右債券ハ會社ノ第一會計年度ニ對シ年三分ノ利子、第二年度ニ對シ四分ノ利子及二千五百萬ノ利益分配、第三年度及爾後ノ年度ニ對シ年五分ノ利子ヲ附セラレ且後記ノ如ク減債基金ニ依リ償還セラルルモノトス

右債券ニ對スル支拂ハ獨逸國政府ニ依リ保證セラルヘシ而シテ債券ハ會社代表者ニ依リ又獨逸國政府ノ代表者タル大藏大臣ニ依リ署名セラルヘシ

右債券ハ現在又ハ將來會社ノ使用シ又ハ會社ニ屬スル一切ノ不動產ノ元本及之ヨリ生スル收入ニ對スル登記セラレタル第一抵當權竝一切ノ固定又ハ可動ノ裝置、車輛及一切ノ設備ニ對スル第一流動擔保權ニ依リ保證セラルヘシ會社ハ特許ニ依リ右抵當權及擔保權ヲ設定スルノ權利ヲ付與セラルル右抵當權及擔保權ノ期限ハ特許期間ニ限定セラレサルヘシ

右抵當權及第一流動擔保權ハ賠償委員會ノ任命シタル受託人ノ爲ニ設定セラレタル旨記載セラルヘシ但シ會社及獨逸國政府ハ最早不必要ナリト認ムル鐵道會社ノ特別財産ヲ受託人ノ同意ヲ以テ何時タリトモ賣却又ハ處分スルコトヲ得尤モ賣得金ノ處分ニ關シテハ受託人ノ同意シタル條件ヲ以テスルコトヲ要ス

債券ニ對スル支拂ハ純益ノ確認ニ先チ會社ノ總收入ヨリ受託人ニ爲サルル左ノ支拂ニ依リ保證セラルヘシ

（イ）會社ノ第一會計年度ニ對シ　三億三千萬金貨「マルク」

（ロ）第二會計年度ニ對シ　四億六千五百萬金貨「マルク」

（ハ）第三會計年度ニ對シ　五億五千萬金貨「マルク」

（ニ）第四會計年度及爾後ノ年度ニ對シ　六億六千萬金貨「マルク」

獨逸國鐵道カ何レカノ年度ニ於テ右支拂ヲ爲スニ充分ナル收入ヲ得ルコト能ハサルトキハ（會社ハ此ノ目的ノ爲使用シ得ヘキ準備金ヲ其ノ全額マテ引出スコトヲ得ルモノトス）鐵道監理人ハ債券所有者ノ受託人カ債券所有者ノ權利保護ノ爲必要ナリト思考スル行動ヲ執ルノ權利ヲ有スヘシ右權利ニハ債券ニ對スル抵當又ハ擔保ニ供セラレタル鐵道及財產ノ全部又ハ一部ヲ運用シ、賃貸シ又ハ賣却スルノ權利ヲ包含スルモノトス

債券ハ會社設立ノ日ヨリ四年以後ニ於テ受託人カ賠償委員會ノ承認ヲ得テ決定スル條件ノ下ニ每年上記年次支拂中債券ノ利子ノ爲必要ナラサル部分ヲ以テ償還セラルヘシ

獨逸國政府及會社ハ賠償委員會ノ許諾ヲ經何時タリトモ上記ノ支拂額以上ノ金額ヲ受託人ニ支拂フノ權限ヲ有ス但シ賠償委員會ハ引渡委員會ニ就キ斯ノ如キ追加支拂カ年次支拂ノ引渡ニ支障ヲ來タササルコトヲ確ムルヲ要ス右追加支拂額ハ第一ニ延滯利子ノ支拂ニ之ヲ使用シ次ニ六月ノ公告ヲ以テ未償還債券ノ全部又ハ一部ヲ額面價格ニテ償却スル爲之ヲ使用スヘシ

債券ヲ運用スル目的ヲ以テ賠償委員會ハ其ノ適當ト思考スル方法ニ於テ會社ヨリノ年次支拂ニ對スル權利ヲ異ニスル（擔保權ノ順位、利率、元金ノ償還其ノ他ニ關シ）數種類ノ債券ニ分類シ又ハ鐵道債券ノ全部若ハ一部ヲ擔保トスル債券、社債券、社債株券、債務承認證書若ハ其ノ他ノ各種ノ證券ヲ委員會ノ適當ト思考スル條件及方法ニ於テ一般ニ賣出スノ權利ヲ有スヘシ

會社ハ理事會ノ四分ノ三ノ多數（內二名ハ外國人理事）ノ許可アルニ非サレハ上記以外ノ債券ヲ發行スルヲ得ス

債券ニ關スル利子及元金ノ支拂ハ之ヲ受クヘキ者カ獨逸國法ノ下ニ獨逸國ノ直接稅ヲ支拂フ義務アル場合ヲ除キ一切ノ獨逸國ノ課稅ヲ免セラルヘシ

本條ノ規定ヲ條件トシ前記債券ノ形式竝其ノ行使　及償還ニ關スル條件（抽籤及支拂猶豫ニ關スルモノヲ包含ス）ハ賠償委員會ノ承認ヲ經テ受託人ニ依リ決定セラルヘシ

第五條　政府保證ノ實行

會社カ債券ノ支拂ヲ怠リタルトキハ受託人ハ前條所定ノ方法ニ代ヘ又ハ之ニ附加シ支拂期日ニ達セル利札又ハ償還期ノ到來セル債券ヲ監理收入ヨリ監理人ニ提出スヘシ右監理人ハ振當收入ノ收益額中獨逸國政府ノ受クヘキ部分ヲ以テ額面額ニテ右利札及債券ニ對スル支拂ヲ爲スモノトス右支拂ヲ受ケタル利札及債券ハ監理收入監理人カ獨逸國政府ニ爲スヘキ拂戻金額中ニ額面額ヲ以テ加算セラルヘシ斯ノ如クシテ支拂ハレタル金額ハ債券ノ同期及次期ノ利札ニ對シ又優先株ニ對スル同年度ノ所定配當金ニ對シ必要ナル割當ヲ爲シタル後ニ非サレハ會社ヨリ政府ニ拂戻サルルコトヲ得ス

第六條　運送稅

會社ハ政府ノ爲賠償委員會ニ對シ現行運送稅即チ石炭以外ノ一切ノ貨物運輸ヨリノ總收入ニ對スル七分ノ稅及一切ノ旅客運輸ヨリノ總收入ニ對シ等級ニ依リ課セラルル一割乃至一割六分ノ稅ノ收得金ヲ支拂フヘシ右支拂ハ特許ノ第二年ニ於テ二億五千萬金貨「マルク」及爾後ノ各年度ニ於テ且特許延長期間ノ終了迄二億九千萬金貨「マルク」迄之ヲ爲スヲ要ス特許期間中債券全部ノ償却アリタル場合亦同シ

運送稅率ハ特許期間中之ヲ引下クルコトナカルヘシ該稅ニ基ク收得金ハ受託人ニ依リ三十億金貨「マルク」內外ノ數種ノ特殊債券發行ヲ擔保スルニ用ヒラルヘシ

第七條　財政上ノ取極

銀行勸定ハ新銀行ニ設ケラルヘシ上述セル會社ノ支拂ハ鐵道監理人ノ勸定ニ支拂ハルヘシ監理人ハ該金額ヲ賠償支拂取扱人ノ貸方ニ移スヘシ

第八條　債券ノ期限前償還

一切ノ第一抵當附債券カ特許期間滿了前獨逸國政府カ會社ニ與ヘタル特別補助金ニ依リ償還セラルルトキハ獨逸國政府ハ前記鐵道監理人ノ職務ヲ終了セシメ外國人タル理事ニ代ヘテ獨逸人タル理事ヲ任命セムコトヲ要求スルノ權利ヲ有ス反對ノ協定ナキ限リ運送稅ハ引續キ賠償委員會ニ支拂ハルヘシ

獨逸國政府ハ尙右ノ場合ニ於テハ優先株ヲ其ノ額面價格ニ配當金額及延滯配當金額ヲ加ヘタル價格ニテ買收シ又ハ買戻スノ權利ヲ有スヘシ

第九條　設立委員會

前述ノ規定ニ從ヒ獨逸國鐵道會社ノ設立及本計畫ノ實行ニ必要ナル細目ヲ案出セシムル爲「獨逸國鐵道會社設立委員會」ノ名稱ヲ有スル臨時委員會ヲ組織スヘシ右委員會ハ獨逸國鐵道大臣ノ任命セル代表二名、本計畫採用ニ至リタル討議ヲ熟知セル鐵道專門家卽チ「ウィリアム、アクワース」及「ルヴェルヴ」又ハ右專門家カ共同指定スル一名又ハ二名ノ者竝右ノ如ク任命セラレタル四名ノ委員ニ依リ選任セラレ又ハ右選任不能ノトキハ賠償委員會ニ依リ任命セラルル中立國國籍ヲ有スル第五委員ヨリ成ルモノトス

右設立委員會ハ鐵道會社ノ設立、鐵道監理人ノ任命及本計畫ノ實施アリタル後成ルヘク速ニ解散スヘキモノトス

委員會及其ノ職員ノ費用ハ經營費トシテ獨逸國鐵道ノ收入ニ依リ負擔セラルヘシ

第十條　仲裁裁判

獨逸國議會ノ制定スヘキ法律ハ前記鐵道監理人ノ職務カ終了セサル限リ一方賠償委員會若ハ同委員會ニ代表セラルル何レカノ政府ト他方會社、

獨逸國政府若ハ兩者ノ一トノ間ニ又ハ會社ト獨逸國政府トノ間ニ該法律ノ條項、會社ノ特許狀又ハ本計畫ノ解釋ニ關シ又ハ此等ノ何レカニ基キ爲サルヘキ事項（會社ノ資本及義務ニ關スルト會社ノ外部的又ハ內部的經營ニ關スルト其ノ他如何ナルモノニ關スルトヲ問ハス）ニ關シ爭議又ハ意見ノ相違アリタルトキハ之ヲ仲裁裁判者ノ決定ニ委スヘク右仲裁裁判者ハ獨逸國政府カ希望スルニ於テハ常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ノ指名スル中立國人タルヘク且仲裁裁判者ノ決定ハ最終的ノ效力ヲ有スヘキコトヲ規定スヘシ

第一專門委員會報告書第五附屬書工業債券ニ對スル計畫

金額及形式

第一　獨逸國政府ハ利率年五分減債基金年一分ヲ有スル工業的企業ノ債券ヲ額面總額五十億金貨「マルク」迄提供スヘシ右債券ハ數個ノ企業ノ個別的債務タルヘク且元金、利子及減債基金ノ支拂ニ付テハ債務者タル右各企業ノ設備及財產ニ對スル第一抵當權ニ依リ擔保セラルヘシ「工業的企業」ナル語ハ製造企業ノミナラス航運、鑛業及其ノ他同種ノ企業ニシテ組織委員會ノ指定スヘキモノヲ包含ス

受託人ニ對スル引渡

第二　利子支拂ニ對スル適當ナル利札ヲ有スル上記所定ノ抵當付債券ハ獨逸國政府ニ依リ賠償委員會ノ任命スル受託人ニ引渡サルヘシ受託人ハ右債券ヲ保管シ利札ニ基ク支拂ヲ受ケ其ノ收得金ヲ賠償支拂取扱人ノ勘定ニ拂込ミ又ハ賠償委員會ノ命令ノ下ニ隨時債券ノ全部又ハ一部ノ處分スルモノトス債務者ハ債券ノ卽時償還又ハ漸次償還ニ付受託人ニ申込ヲ爲スコトヲ得而シテ本委員會ハ受託人カ右償還ノ申込殊ニ外國通貨ヲ以テスル償還ノ申込ノ一般賣出其ノ他ニ優先セシムルノ權利ヲ有スヘキコトノ前告ス債券カ獨逸國政府ヨリ受託人ニ交付セラレタル後六月內ニ滿足ナル償還計畫ノ申込カ債券ヲ發行セル各別ノ債務者ニ依リ受託人ニ對シ爲サレサル場合ニハ受託人ハ其ノ裁量ニ依リ且債務者ノ信用保護ニ適當ナル注意ノ拂ヒ右債券ヲ賠償委員會ノ許可スヘキ方法及條件ニ於テ處分スルヲ得ヘシ

獨逸國政府ノ保證

第三　獨逸國政府ハ右債券ノ元金、利子及減債基金支拂ヲ保證スヘシ從テ支拂不履行ノ場合ニハ支拂期ノ到來セル利札ハ之ヲ監理收入監理人ニ提示スルコトヲ得該監理人ハ其ノ監理下ニ在リ且獨逸國政府ニ拂渡スヘキ資金ヲ以テ右利札ヲ額面價格ニテ買入ルヘシ監理人ハ該利札ヲ其ノ額面價格ニ於テ獨逸國政府ニ對スル「拂戻」中ニ包含セシムルコトヲ得ヘシ爾後獨逸國政府ハ不履行債務者ニ對シ求償權ヲ有スヘシ獨逸國政府ハ補助金ノ方法ニ依リ債務者ノ債券買戻ヲ奬勵シ之ニ依リ右債券ノ保證義務ヨリ免ルルヲ得ヘシ

免稅規定

第四　上記ノ債券及抵當權ハ所有者カ獨逸國民タル場合ニ非サレハ償還セラルル迄獨逸國ニ於ケル租稅ヲ免除セラルヘシ所有者カ獨逸國民タル場合ニハ獨逸國民ノ所有スル他ノ同樣ナル債券及抵當權ニ對スルト同樣ニ且差別ナク租稅ヲ課セラルヘシ

臨時組織委員會

第五　上記計畫ノ範圍內ニ於テ一切ノ必要ナル措置ヲ執リ且組織ノ細目ヲ定ムルカ爲ニ臨時組織委員會組織セラルヘシ右委員會ハ獨逸國政府

ノ代表者一名、工業代表者一名、賠償委員會ノ任命スル委員二名及上記四名ノ委員ニ依リ選任セラレ又ハ右選任不能ノ場合ニハ賠償委員會ニ依リ任命セラルヘキ中立國人タル第五ノ委員ヨリ成ル

右組織委員會ノ權能

第六　甲　組織委員會ハ獨逸國政府、工業的企業及賠償委員會ニ對シ均シク公平ニ本計畫ノ細目ヲ決定スル一切ノ權能ヲ有ス但シ本計畫ノ目的及主旨ハ賠償勘定ノ爲年五分ノ利子及年一分ヲ下ラサル減債基金ヲ伴フ五十億金貨「マルク」ノ支拂ヲ保障スルニ在ルコト而シテ右償還條件ノミカ債券ノ償還期限ヲ決定スルモノナルコトヲ忘ルル可カラス

乙　組織委員會ハ抵當ノ形式及性質ヲ決定スルノ權能ヲ有ス又企業カ小規模ニシテ個別的抵當債券ヲ發行スルコト實際的ナラス又望マシカラサル場合ニハ委員會ハ之ニ對シ別個ノ方法ヲ案出スルノ權能ヲ有ス委員會ハ又五十億金貨「マルク」ノ全額カ維持セラルル場合ニ限リ此ノ種ノ企業ノ抵當ヲ全然拋棄スルコトヲ得ヘシ

第一專門委員會報告書第六附屬書

賠償支拂額ノ獨逸國通貨ヨリ外國通貨ヘノ換貨及未換貨殘額ノ利用

引渡委員會

第一　本計畫ハ賠償勘定ニ對スル一切ノ支拂カ其ノ財源ノ如何ヲ問ハス第一ニ本計畫所定ノ銀行ニ於ケル預金ノ形式ヲ以テ「賠償支拂取扱人」ノ勘定ニ拂込マルヘキモノナルコトヲ規定ス右預金ノ引出ハ「引渡委員會」ト稱スル五名ヨリ成ル委員會ノ指揮ノ下ニ賠償支拂取扱人ノミ之ヲ爲スヘシ

委員ノ構成及選任

第二　引渡委員會ハ六名ノ委員ヨリ成ル賠償支拂取扱人ハ其ノ一員ニシテ且其ノ議長タルヘシ他ノ五名ハ外國爲替問題ヲ處理スルニ適スル者タルヘシ右五名ハ亞米利加合衆國委員、佛蘭西國委員、英吉利國委員、伊太利國委員及白耳義國委員ヨリ成ル賠償委員會ハ右各委員ヲ國籍ヲ同フスル新銀行監事ニ諮問シタル後右各委員ヲ任命スヘシ

銀行ノ協力

第三　委員會ハ銀行ノ總裁及監理人ト接觸ヲ保ツヘシ

委員會ノ權限

第四　委員會ハ次ノ權限及義務ヲ有ス

イ　實物引渡ニ對スル支拂及賠償回收法ニ基ク支拂ニ對シ賠償委員會カ右引渡ノ性質及額ニ付引渡委員會ト協議ノ後定期ニ定ムル計畫ニ從ヒ銀行預金殘額ノ充當スルコト

ロ　右銀行預金殘額ヲ時時外國通貨ニ換算シ且換貨後賠償委員會ノ命令ニ從ヒ處理スルコト

前記イ及ロノ權限ハ外國爲替市場ノ狀況ニ依リ獨逸國通貨ノ安定ヲ脅スコトナクシテ之ヲ行使スルコトヲ得ト委員會ノ判斷スル限度ニ於テ之ヲ行使スヘシ

委員會カ適當ト認ムル金額ヲ隨時獨逸國ニ於ケル債券又ハ其他ノ貸付ニ投資スルコト、委員會ハ貸方金額カ銀行ノ預金ト爲シ得ル額ヲ超過スルト共ニ直ニ右ノ投資ニ著手スヘシ他方ニ於テ委員會ハ其ノ取得シタル債券ヲ賣却シ又ハ其ノ許與シタル貸出ヲ清算スルニ依

リ得ヘキ金額ヲ外國貨幣ニ換フルコトヲ得ヘシト思考シ又ハ銀行カ更ニ預金ヲ受入ルルコトヲ得ト思考スルトキハ何時ニテモ右賣却又ハ清算ヲ爲スコトヲ得

債權者ノ買入ニ對スル制限

第五　上記ノ第四イノ規定ニ依リ獨逸國ヨリ債權國ニ供給セラレ且上ニ規定スルカ如ク銀行ニ依リ代金ヲ支拂ハルヘキ物品ハ受領國ノ國內的需要(殖民地及屬領ノ需要ヲ含ム)ニノミ使用セラルヘシ右ノ如ク引渡サルル物品ハ全會一致ヲ以テ行動スル委員會及獨逸國政府間ノ合意ニ依ル場合ヲ除キ受領國ヨリ之ヲ輸出スルコトヲ得ス

第六　第四ニ基ク權限ノ外賠償委員會ノ命令及債權國ノ要求ニ基キ委員會ハ獨逸國ニ於テ買入ヲ爲ス爲債權國ノ勘定ヨリ差引キテ私人ニ「マルク」ヲ引渡スコトヲ得但シ斯カル投資ハ一時的性質ノモノタルヘカラス又右買入物品ハ委員會及獨逸國政府間ニ協定セラレ且其ノ協定ニ依リ隨時修正セラルル品目表中ニ包含セラルル種類ノモノタルコトヲ要ス右協定ニ達スルニ付テハ獨逸國政府ハ其ノ債權者ニ最大限ノ支拂ヲ爲スノ必要ニ留意スルノ義務アルト同時ニ其ノ國內經濟ニ對スル監理ヲ維持スルコトヲ顧念スルノ權利ヲ有スヘシ

獨逸國政府及銀行ノ協力

第七　獨逸國政府及銀行ハ其ノ權限內ノ一切ノ適當ナル方法ニ依リ資金ノ引渡ニ付委員會ノ事業ヲ容易ナラシムルコト特ニ其ノ外國爲替ノ監理ヲ助クルカ如キ方法ヲ執ルコトヲ約スヘシ委員會ハ銀行ノ割引率カ重要ナル引渡ヲ爲スノ必要ト合致セスト認ムルトキハ之ヲ銀行ノ總裁ニ通知スヘシ

引渡ヲ挫折セシメムトスル企圖、

第八　上記ノ引渡ヲ妨クル目的ヲ以テ政府又ハ何レカノ集團カ財政上ノ共謀的術策ニ出ツルトキハ委員會ハ斯ル術策ヲ挫折スルニ必要ナルヘキ手段ヲ執ルコトヲ得斯ル場合ニハ委員會ハ第十ノ實行ヲ停止シ、資金ヲ積立テ又ハ獨逸國ニ於テ如何ナル種類ノ財產ノ買入ノ爲ニモ右資金ヲ使用スルコトヲ得

免稅規定

第九　獨逸國政府ハ債權國ノ爲ノ銀行預金若ハ買入物品ニシテ未タ輸出セラレサルモノ又ハ未移轉ノ資金ノ投資ヲ表示スル證券若ハ貸付又ハ前項ノ規定ニ從ヒ購入セラレタル財產ニ對シ課稅セサルルヘシ右免除ハ第六ニ從ヒ購入セラレタル財產ニハ之ヲ適用セス但シ該財產ニ對シ課稅上ノ差別待遇ヲ爲スコトナシ

積立ノ制限ニ關スル規定

第十　イ　第四ロ及ハノ規定ニ從ヒ引渡ヲ爲シ得サル資金ノ積立カ五十億金貨「マルク」(銀行預金タルト貸付タルトヲ問ハス)ノ額ニ達シタルトキハ其以上ノ積立ヲ爲スコトナク條約上ノ負擔ニ基ク支拂ハ第四ロ及ハニ規定セラルル引渡及支拂ヲ爲スニ必要ナル額迄減少セラルヘシ斯ノ如キ獨逸國債務ノ部分的停止ハ引渡ノ狀況カ之ヲ必要トスル期間ノミ實行セラルヘク又本計畫ニ規定スル支拂ノ標準カ本項ニ規定スル積立金ノ制限ヲ超ユルコトナクシテ實行セラレ得ルトキハ直ニ右支拂ノ標準ヲ再採用スヘシ

ロ　委員會ハ委員ノ三分ノ二カ積立ヲ以テ獨逸國ノ財政的若ハ經濟的狀態又ハ債權國ノ利益ニ對スル脅威ナリトノ意見ヲ有スルトキハ積立金カ五十億金貨「マルク」ニ達セサルトキト雖積立ヲ停止スルノ權能ヲ有スヘシ

ハ　委員會ハ三分ノ二ノ多數ニ依リ第八ニ規定スル條件ノ下ニ積立制限ヲ撤廢スルノ權能ヲ有スヘシ

第一專門委員會報告書第七附屬書

千九百二十四年一月三十一日獨逸國ニ於テ流通セル通貨ニ關スル覺書

第一章　紙幣「マルク」通貨

甲　法貨

一　「ライヒスマルク」「ライヒスマルク」ハ千八百七十五年三月十四日ノ銀行法ニ依リ「ライヒスバンク」ニ許與セラレタル特權ノ下ニ同行之ヲ發行ス千九百十三年ニ於テハ紙幣「マルク」ノ流通額二十一億ニ達シ千九百二十四年一月三十一日ニ於テハ四萬八千三百七十京「マルク」即チ一金貨「マルク」一兆紙幣「マルク」ノ割合ニテ四億八千三百七十萬金貨「マルク」ニ達セリ

二　私立銀行ノ銀行券　千八百七十五年三月十四日ノ銀行法公布ノ當時ニ於テ銀行券發行ノ權利ヲ有シタル銀行ハ右特權ヲ保有シタリ此ノ種銀行ノ數ハ當初三十二ナリシカ漸次減少シ現在ニ於テハ左ノ四箇ノ私立銀行アルノミ

「バイエルン」銀行

「サクセン」銀行

「バーデン」銀行

「ウルテンベルヒ」銀行

此等四銀行ニ依リ發行セラレタル銀行券ノ流通總額ハ千九百十三年ニ於テ一億四千萬金貨「マルク」ニ上リ千九百二十四年一月末ニ於テハ約十萬金貨「マルク」ト爲レリ

三　「ライヒスカッセンシァイネ」此ノ通貨タル銀行券ハ千八百七十五年「ライヒスバンク」設立ノ際當時流通セル國ノ紙幣ヲ回收シ以テ紙幣ノ流通ヲ鞏固ナル基礎ニ置クヲ可能ナラシメムカ爲發行セラレタルモノナリ發行額ハ當初一億二千萬金貨「マルク」ニ定メラレタリ右額ハ「スパンダウ」ニ保管セラルル戰爭資源(金)ニ相當ス千九百二十年ニ於テ三億二千萬ノ數ニ達シタル流通額ハ千九百二十三年八月ニ至ル迄漸次減少シ當時二億金貨「マルク」ヲ算セリ流通セル「ライヒスカッセンシァイネ」ハ其ノ時ニ於テ全然回收セラレタリ

四　「ダーレーエンスカッセンシァイネ」(戰爭中「ダーレーエンスカッセン」ニ依リ發行セラレタル債券)發行額ハ千九百二十二年十月其ノ最高額ニ達セリ(百四十億紙幣「マルク」)此等ノ債券ハ千九百二十三年八月以降計算書中ニ記載セラレサルニ至レリ當時ニ於テハ其ノ流通額ハ僅ニ百十億紙幣「マルク」即チ一萬金貨「マルク」未滿タリシナリ

乙　補助的支拂用具

一　擔保附非常貨幣ノ發行　「ノートゲルト」(非常貨幣)ノ發行ハ千九百二十二年七月十七日ノ法律ニ依リ規律セラルル右通貨ハ「マルク」相場低落ノ結果絕エス流通總額ノ價値減少シツツアリタル獨逸國、「ライヒスバンク」及私立發行銀行ニ依リ發行セラレタル通貨ヲ補充スルノ目的ヲ以テ發行セラレタリ大藏大臣ノ事前ノ認可ヲ必要トセリ「ノートゲルト」ハ一定價値ノ預金ニ依リ擔保セラル該預金ハ獨逸國大臣

ノ爲留置カフ且「ノートゲルト」流通額ヨリ實際又ハ見積ノ發行費用ヲ控除シタルモノニ相當ス該資產ハ伯林ニ於ケル「ライヒスクレディットアンシュタルト」ニ保管セラルヘク同銀行ハ右資產ニ對シ「ライヒスバンク」ノ割引率ヨリ二分低キ利子ヲ附スヘシ非常貨幣ニ對スル擔保ニハ又三月拂國庫債券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ヘシ但シ此ノ場合ニハ非常貨幣ヲ發行シ且擔保トシテ提供セラレタル國庫債券ヲ預金トシテ受領スルモノハ「ライヒスバンク」ナリ

公私團體ニ對シ許可セラレタル非常貨幣ノ發行ノ總額ハ千九百二十三年末ニ於テ七百六十京紙幣「マルク」即チ七百六十萬金貨「マルク」ニ達セリ右非常貨幣ノ流通ハ千九百二十三年十二月三十一日ニ於テ三百四十京紙幣「マルク」即チ三百四十萬金貨「マルク」ノ額ニ上レリ爾後非常貨幣ノ回收ニ努メ千九百二十四年一月二日ノ命令ハ一定非占領地域ヨリ全然之ヲ回收スヘキコトヲ命セリ千九百二十四年一月三十一日ニ於ケル流通額ハ百四十京紙幣「マルク」即チ百四十萬金貨「マルク」ニ達セリ

二　無擔保非常貨幣ノ發行　多數ノ非常貨幣ハ獨逸國政府ノ認可ナク又擔保預金ヲ設クルコトナクシテ公私團體ノミナラス私人ニ依リテモ發行セラレタリ

獨逸國政府ノ計算ニ依レハ認可又ハ擔保ナシニ發行セラレタル非常貨幣ハ千九百二十四年一月末ニ於テ左ノ如キ流通額ヲ示セリ

イ　非占領地域ニ於テ

二千七百六十萬金貨「マルク」

ロ　占領地域ニ於テ

三千億三千二百萬金貨「マルク」

三　鐵道非常貨幣　經營費ノ不足ヲ補ハムカ爲獨逸國鐵道ハ千九百二十二年及千九百二十三年中一萬一千四百京紙幣「マルク」ヲ發行セリ此ノ通貨ハ「ライヒスバンク」ニ於ケル政府ノ預金九千萬「レンテンマルク」ニ依リ擔保セラル千九百二十四年一月末ニ於テ流通ノ額尙五千六百萬アリタリ

第二章　金ニ依ル又ハ價値一定セル支拂用具

一　「レンテンマルク」「レンテンバンク」ハ千九百二十三年十月十五日ノ命令ニ依リ設立セラレタリ設立及經營ノ方法ハ周知ノコトニ屬ス「レンテンマルク」ニ依ル銀行券ノ發行ハ千九百二十三年十一月十五日ニ始マル

千九百二十三年一月三十一日ニ於ケル「レンテンバンク」ノ貸借對照表ニ依レハ當時ノ發行額ハ十三億七千四百萬「レンテンマルク」ナリキ「レンテンマルク」ノ創設ハ一定價値ノ非常貨幣ノ發行ヲ停止セリ

二　「弗」國庫債券（「ドラーシャッツアンワイズンゲン」）　千九百二十三年三月二日ノ法律ハ五千萬「弗」（二億一千萬金貨「マルク」）ノ全額ニ付「弗」國庫債券ノ發行ヲ許可セリ額面五「弗」乃至百「弗」ニテ發行セラレタル此ノ種債券ハ無利子ナルモ千九百二十六年四月十五日ニ於テ十二割ノ率ニテ金貨ヲ以テ償還セラルヘキモノトス

右國庫債券ハ全部應募セラレ獨逸國ニ於テ支拂ノ手段トシテ使用セラレ來レリ

三　金公債（「ウエルトベスデンディゲ、アンライエ」）　千九百二十三年八月十四日ノ法律ニ依リ許可セラレタル本公債ハ全額五億金貨「マルク」ニシテ全額ノ應募ヲ見タリ右公債ハ「弗」ヲ以テ表示セラル

十分ノ一「弗」乃至五「弗」ノ小額債券ハ無利子ニシテ千九百三十五年九月二日十七割ノ率ヲ以テ償還セラルヘシ十弗以上ノ債券ハ六分ノ利子ヲ附シ上記ノ日ニ額面償還ヲ受クヘシ右大額債券ハ當初全額一億六千四百萬金貨「マルク」ノ發行アリタルカ其ノ後ノ發行ニ依リ右額ハ二億四百萬金貨「マルク」ニ增加セリ

千九百二十三年十月紙幣「マルク」ノ低落ノ爲通貨狀態ハ甚シク惡化シ貨銀勞働者ハ一定價値ヲ有スル通貨ニテ支拂ハルルコトヲ要求セルヲ以テ政府ハ「レンテンマルク」ノ發行準備未タ充分進捗シ居ラサリシ爲小額金債券ヲ發行スルニ決セリ

右小額金債券ハ總額二億六千六百萬金貨「マルク」迄發行セラレ內四百萬ハ債券所有者ニ許與セラレタル特權ニ從ヒ千九百二十四年一月「レンテンマルク」ト交換セラレタリ

後ニ述フルカ如ク右金債券一千萬「マルク」ハ鐵道ノ發行セル一定價値ノ非常貨幣ニ對スル部分的擔保ニ振當テラレタリ

千九百二十四年一月末ニ於ケル流通狀態左ノ如シ

大額債券

一億九千四百萬金貨「マルク」

小額債券

二億九千二百萬金貨「マルク」

計　四億八千六百萬金貨「マルク」

四　六分利附國庫債券（「六分利附シャッツアンワイズンゲン」）ニ依リ擔保セラルル非常貨幣　小額ノ金債務證券ハ貨幣流通ノ需要額ニ足ラサリシヲ以テ府縣、都市、商業會議所及工業的大企業ハ大額ノ金債務證券ニ依リ保證セラルル非常貨幣ヲ金貨「マルク」ヲ基礎トシテ發行スルノ權限ヲ與ヘラレタリ

右大額金債務證券ノ缺乏ニ因リ非常貨幣ノ發行者ハ千九百二十三年十月二十日ノ命令ニ依リ特ニ本目的ノ爲發行セラレタル「弗」及金貨「マルク」ノ六分利附國庫債券ノ形式ニ於テ保證準ヲ設備クルコトヲ許可セラレタリ此等國庫債券ハ千九百三十二年十二月一日ヲ償還期日トシ且金ヲ基礎トスル獨逸國通貨ヲ以テ額面償還ヲ爲サルモノトス

右ノ方法ニ依リ保證セラレタル非常貨幣ノ總額ハ（後述スヘキ鐵道ノ發行シタル非常貨幣ヲ除キ）千九百二十四年一月三十一日ニ於テ一億一千萬金貨「マルク」ニ達セリ

本非常貨幣ハ公債債券又ハ獨逸國通貨ヲ以テスル償還ニ依リ漸次回收セラルヘシ右償還ハ千九百二十四年一月十五日ニ開始セラレ千九百二十四年四月一日以前ニ全額ノ回收ヲ見ルヘキ見込ナリ

五　各邦ノ發行セル國庫債券及中間債券　或邦ハ價値ノ一定セル公債ヲ發行セリ右公債ノ證券中ノ或モノハ小額ノモノニシテ尙支拂ノ用具トシテ使用セラル此ノ種債券ノ全額ハ約五千萬金貨「マルク」ニ達ス此等小額債券ヲ大額債券ニ引換フルコトニ依リ回收セムトスル計畫進行中ナリ

六　「ハンブルグ」及「シュフスウィッヒ・ホルシュタイン」銀行ニ依リ發行セラレタル證券　株式會社千九百二十三年「ハンブルグ」銀行及株式會社「シュレスウィッヒ・ホルスタイン、ゴルドツロ」銀行ノ二銀行ハ支拂用具トシテ今尙使用セラルル「割引證券」（「フェルレヒヌングスシァイ

ネ」)ヲ通貨ニ代ヘ引渡スコトヲ獨逸國大藏大臣ニ依リ許可セラレタリ獨逸國政府ハ金貨復魯次第此等ノ金證券ヲ廢止スルノ意思ヲ有ス「ハンブルグ」銀行ハ二千五百萬金貨「マルク」ノ額迄證券ヲ發行セリ「シユレスウィッヒ・ホルシュタイン、ゴルドジロバンク」ノ發行セル證券額ニ付テハ詳細不明ナルモ其ノ額ハ多額ニ非ス

七　鐵道ノ發行セル非常貨幣　獨逸國鐵道ハ不足額ヲ補ハムカ爲上記ノ紙幣「マルク」非常貨幣ノ外ニ價値ノ安定ナル非常貨幣ヲ二億金貨「マルク」ノ額迄發行スルコトヲ許可セラレタリ右發行額中一千萬「マルク」ハ上ニ説明シタル金債券ニ依リ保證セラレ殘額一億九千萬「マルク」ハ上述ノ如ク六分利附國庫債券ニ依リ保證セラル鐵道ノ發行セル非常貨幣ハ千九百二十四年一月三十一日ニ於テ一億三千百九十萬ニ達セリ此ノ非常貨幣ハ今後鐵道ノ發行スヘキ借入ヲ以テ回收セラルヘキモノトス

千九百二十四年一月獨逸國ニ於テ流通シタル支拂用具一覽表

百萬金貨「マルク」ヲ單位トスル概算

(註)　一金貨「マルク」ヲ一兆紙幣「マルク」トシテ計算ス

第一　紙幣「マルク」ヲ以テ表示セラレタル支拂用具

一　「ライヒスバンク」銀行券(千九百二十四年一月三十一日附報告書ニ據ル)　四八三・七

二　四私立發行銀行ノ銀行券　〇・一

三　鐵道ニ依リ發行セラレ「ライヒスバンク」ニ於ケル九千萬「レンテンマルク」ノ預金ニ依リ保證セラルル非常貨幣　五六・〇

四　通貨ヲ以テスル保證預金ニ對シ發行セラレタル非常貨幣　一・四

五　無擔保ニテ發行セラレタル非常貨幣

イ　占領地域内ニ於ケルモノ　一三二・〇

ロ　非占領地域ニ於ケルモノ　二七・六

計第一　七〇〇・八

第二　金ヲ以テ表示セラレ又ハ價値ノ一定セル支拂用具

一　「レンテンマルク」(千九百二十四年一月三十一日附「レンテンバンク」報告書ニ據ル)　一、三七四・〇

二　「弗」國庫債券(「ドラーシァツアンワイズンゲン」千九百二十三年三月二日ノ法律)　二一〇・〇

三　金公債「ウェルトベステンディゲ、アンライエ」千九百二十三年八月十四日ノ法律)　四八六・〇

四　六分利附國庫債券(六分利附「シァツアンワイズンゲン」千九百二十三年十月二十日ノ法律)ニ依リ保證セラルル非常貨幣　一一〇・〇

五　國庫債券及各邦ニ依リ發行セラレタル中間債券　五〇・〇

六　「ハンブルグ」銀行及「シユレスウィッヒ・ホルシュタイン」銀行ニ依リ發行セラレタル證券(「フェルレヒヌングスシァイネ」)　三五・〇

七　鐵道ニ依リ發行セラレ六分利附國庫債券ニ依リ保證セラルル非常貨幣(内一千萬「マルク」ハ金公債ニ依リ保證セラル)　一三一・九

計第二　二、三九六・九

第三　「レンテンブェニッヒ」ヲ以テ表示セラルル小額通貨　一五八・〇

總計　三、二五五・七

注意　右計ハ現在獨逸國ニ於ケル外國通貨ヲ包含セス右外國通貨ハ第二專門委員會ノ見積ニ依レハ十二億金貨「マルク」ニ上ルヘシト云フ是獨逸國當局ニ依リ確認セラレタル額ナリ

第一專門委員會第八附屬書

千九百二十四年度豫算ノ假一覽表

收入	單位百萬 金貨「マルク」	單位百萬 「磅」	單位百萬 「弗」
一　獨逸國ノ一般行政			
甲　通常豫算			
一　財産、運輸、商業及取引ニ對スル租税(直接税)	四、〇〇四	二〇〇・二	一、〇〇一・〇
二　關税及消費税(間接税)	一、〇八〇	五四・〇	二七〇・〇
三　公共事業ヨリ生スル非租税收入	六〇	三・〇	一五・〇
通常收入合計	五、一四四	二五七・二	一、二八六・〇
乙　特別豫算			
一　造幣收入	九〇	四・五	二二・五
二　其ノ他ノ收入	四〇	二・〇	一〇・〇

支出	單位百萬 金貨「マルク」	單位百萬 「磅」	單位百萬 「弗」
一　獨逸國ノ債務及利子及償却	一五六	七・八	三九・〇
二　傷病者扶助料及戰爭年金等	八一〇	四〇・五	二〇二・五
三　陸軍及海軍	四五〇	二二・五	一一二・五
四　警察	二〇八	一〇・四	五二・〇
五　産業及教育	二八	一・四	七・〇
六　失業者救濟金	五〇〇	二五・〇	一二五・〇
七　其ノ他ノ社會事業	三六〇	一八・〇	九〇・〇
八　財政及租税官廳	三八〇	一九・〇	九五・〇
九　右以外ノ一般行政費	二五〇	一二・五	六二・五
十　各邦及地方團體ニ對スル割當金	一、八〇〇	九〇・〇	四五〇・〇
通常支出合計	四、九四二	二四七・一	一、二三五・五
一　戰爭損害復舊ノ戰爭ノ結果ノ除去	六	〇・三	一・五
二　公ノ建物	四四	二・二	一一・〇
三　戰費ノ決濟	二〇	一・〇	五・〇

特別收入合計	一三〇	六・五	三二・五
甲及乙ノ合計	五、二七四	二六三・七	一、三一八・五

二　「ヴェルサイユ」條約ノ實施

一　獨逸國ノ一般行政			
二　「ヴェルサイユ」條約ノ實施			
支出合計			
收入			
不足額			

差引

四　「ルール」ニ關スル支出ノ決濟	六〇	三・〇	一五・〇
特別支出合計	一三〇	六・五	三二・五
甲及乙ノ合計	三、〇七二	二五三・六	一、二六八・〇

一　現金賠償支拂（白耳義國ニ與ヘレタル國庫債券ノ償還ノ爲「ライヒスバンク」ニ支拂フヘキ債務ノ履行）　五二　一・六　一三・〇

二　占領軍ノ費用　六　〇・三　九　一・五

三　占領地方委員會ヲ含ム其ノ同盟國委員會ノ費用　三六〇　一八〇　九〇・五

四　賠償委員會ヲ含ム其ノ同盟國委員會ノ費用、代償及武裝解除ノ爲ノ費用　三四　一八　一七　〇・九　四・五

五　「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ國內支出　一八〇　一六〇　八〇　〇・五　二・五

支出合計　六四〇　一六〇　八〇　四〇・〇　二〇・〇

五、〇七二	二五三・六	一、二六八・〇	六四〇
六四〇	三二・〇	一六〇・〇	一六〇・〇
五、七一二	二八五・六	一、四二八・〇	八〇〇・〇
五、二七四	二六三・七	一、三一八・五	四三八
			二一・九
			一〇九・五

（註）本表ノ數字ハ假見積ニ過キスシテ全然留保附ナリ收入ノ右見積ハ占領地域ニ於ケル獨逸國及其ノ各邦ノ行政權及稅權カ回復セラルルコト竝獨逸國及其ノ各邦ノ國庫ニ收メラルルコトヲ前提トス

第一專門委員會報告書第九附屬書

千九百二十一年、千九百二十二年、千九百二十三年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積

千九百二十一年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會ノ報告書

千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會ノ報告書

千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會ノ報告書

千九百二十一―千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會ノ報告書

千九百二十一―千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會ノ報告書

第一專門委員會報告書第九附屬書

千九百二十一―千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三―千九百二十四年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會ノ報告書

千九百二十一―千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三―千九百二十四年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會報告書第九附屬書

千九百二十一―千九百二十一年、千九百二十二年及千九百二十三―千九百二十四年ニ於ケル獨逸國ノ一般行政及「ヴェルサイユ」條約ノ實施ノ爲ノ支出合計竝ニ收入合計ノ假見積ニ關スル專門委員會報告書第九附屬書

（イ）（ロ）

全部獨逸國工業會社ノ配當金ヨリ

半ヲ獨逸國會社ヨリ他ノ半ヲ外國會社ヨリ

金貨「マルク」

一五、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

五〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

ノ收入ヲ得ル四人ノ者ヲ假定セヨ

左ノ各年度ノ稅率ニ從ヒ支拂ハルヘキ所得稅（又ハ之ニ代ルヘキ租稅）及資本稅ノ額ハ何程ナルカ

千九百二十一―千九百二十一年

千九百二十三―千九百二十四年

千九百二十四―千九百二十五年

獨逸國政府ノ回答

左ノ理由ニ依リ質問事項ニ對シ信賴スヘキ見積ヲ爲スコト不可能ナリ

一　千九百二十一―千九百二十一年ニ於ケル租稅負擔ハ通貨ノ騰落ノ影響ニ因リ之ヲ計算スルヲ得サルコト

二　千九百二十三年ニ對シテハ準的的稅率ニ基ク查定存在セス實ニ千九百二十四年ニ於テ獨逸國ニハ三百萬乃至一千萬紙幣「マルク」ノ投資收入ヲ得ル納稅者六人、百萬乃至三百萬紙幣「マルク」即チ約六萬七千乃至二十萬金貨「マルク」ノ投資收入ヲ得ル納稅者六十六人アリタルノミ千九百二十二年ノ半頃以降投資收入ハ事實上消滅シタリ

三　千九百二十四年ニ付テハ未タ準法ニ基キ課セラルル所得稅ヲ存セス千九百二十四年ニ對スル豫定支拂ハ概ネ外面的標準ニ從ヒ徵收セラルル千九百二十四年ノ實際收入ハ法律ニ依リ千九百二十四年中ニ決定セラルヘキ稅率ニ基キ千九百二十五年ニ於テ始メテ查定セラルヘキモノナリ

稅ノ形式ニ關スル細目ハ既送覺書中ニ之ヲ記載セリ（千九百二十一―千九百二十一年ニ關シテハ英文第八十一頁及第九十六頁佛文第八十一頁及第九十七頁又十九百二十三―千九百二十四年ニ關シテ英文第八十三頁、第八十四頁及第九十六頁佛文第八十四頁及第九十七頁參照）千九百二十四年二月十六日附「千九百二十四年度賃銀稅竝所得稅及法人稅ノ豫定支拂ノ豫算見積額ニ關スル說明書（送付番號第五イ第二、千四百八十）」ヲ參照セラレ度シ

問題ノ額ニ達スル配當金收入ハ戰前獨逸國ニ於テハ限ラレタル範圍ニ於テノミ存在シ而シテ千九百二十二年後ハ通貨ノ低落期間中ノ經濟的變遷ノ爲殆ト之ヲ見ルコト能ハサルコトヲ指摘セサルヘカラス

既ニ千九百二十年ニ於テ獨逸國ニハ三百萬乃至一千萬紙幣「マルク」即チ二十萬乃至六十六萬七千金貨「マルク」ノ投資收入ヲ得ル納稅者六人、百萬乃至三百萬紙幣「マルク」即チ約六萬七千乃至二十萬金貨「マルク」ノ投資收入ヲ得ル納稅者六十六人アリタルノミ千九百二十二年ノ半頃以降投資收入ハ事實上消滅シタリ

上述ノ事情ニ鑑ミ如何ナル算定モ非常ナル困難ヲ伴フ以下質問書ニ於テ要求セラルル計算ノ爲使用シ得ヘキ基礎ヲ使用セムトス

五萬、十萬、五十萬及百萬金貨「マルク」ノ配當金收入ニ對スル負擔ヲ示シタル添付表中ノ見積ハ質問書所定ノ左ノ條件ヲ充スモノナリ

(イ)　全收入カ獨逸國工業會社ノ配當金ヨリ生シタルモノナルコト

(ロ)　收入ノ半カ獨逸國工業會社ヨリ他ノ半カ外國ノ工業會社ヨリ生シタルモノナルコト

右ノ表ヲ作製スルニ方リ獨逸國工業會社ノ配當金ヨリ生スル收入ニ對スル負擔ノ計算中ニハ獨逸國ノ會社カ問題ノ額迄配當金ヲ分配スルトキ支拂フヲ要スル稅金ヲモ包含セシメタリ右稅金ヲ之ヲ配當金分配ニ先チ控除セラルルコトヲ忘ルヘカラス金貨「マルク」ノ收入ヲ紙幣「マルク」ニ換算シ紙幣「マルク」ノ稅ヲ金貨「マルク」ニ換算スルニ方リ「弗」相場ヲ其標準ニ使用セリ右方法ハ收入ヲ金貨「マルク」ニテ表示セラレ從テ「弗」相場ニ依ル稅ノ計算カ比較ノ基礎ヲ與フルヲ以テ可能ナリキ

計算ヲ爲スニ方リ左ノ假定ヲ爲セリ

一　千九百二十—千九百二十一年　配當金ハ千九百二十年ニ於テ納稅者ニ支拂ハレタリ會社ノ支拂フ稅金ハ會社カ千九百十九年ニ取得シ且千九百二十年ニ於テ納稅ヲ了シタル利益ノ基礎トシテ先ツ控除セラレタリ右以外ノ先取租稅ハ資本收入ニ對スル一割ノ稅ニシテ右ハ納稅者ノ獨逸國配當金ヨリ千九百二十年ニ於ケル配當金受領ノ時之ヲ控除シ又外國配當金ノ場合ニハ千九百二十一年ニ於テ納稅者之ヲ納付セリ資本收入稅ヲ控除セル殘部ノ所得ヨリ納稅者ハ稅表ニ從ヒ千九百二十年度ノ所得稅ヲ支拂ヒタリ實際上ノ租稅負擔額ヲ算出ス

ルニ方リ所得ハ千九百二十年ニ於テ爲サレタルコト、法人稅及資本收入稅ハ之亦千九百二十年ニ於テ配當金支拂ノ時ニ納付セラレタルコト及他方ニ於テ外國配當金ニ關スル資本收入稅及所得稅ハ千九百二十一年迄納付セラレス從テ低落セル通貨ニテ納付セラレタルノ事實ヲ考慮ニ加ヘタリ平均「弗」相場ヲ基礎トスレハ一金貨「マルク」ハ千九百二十年ニ於テハ十五紙幣「マルク」ニ當リ千九百二十一年ニ於テハ二十四・九紙幣「マルク」ニ當レリ

例一　千九百二十年ニ於ケル獨逸國會社ノ配當金ヨリ生スル收入ヲ五萬金貨「マルク」即チ七十五萬紙幣「マルク」ト假定セム有七十五萬紙幣「マルク」ヲ配當スルニ先チ會社ハ千九百二十年ニ於テ平均十二萬七千五百紙幣「マルク」ノ稅ヲ納付スルヲ要セリ配當金受領者ニ支拂フヘキ七十五萬紙幣「マルク」ハ受領ト同時ニ其ノ一割即チ七萬五千紙幣「マルク」タケ差引カレタリ從テ千九百二十年ニ於テハ二十萬二千五百紙幣「マルク」即チ一萬三千五百金貨「マルク」ノ稅ヲ支拂ヒタリ殘額六十七萬五千紙幣「マルク」ヨリ配當金受領者ハ千九百二十一年ニ於テ所得稅トシテ三十五萬六千六百紙幣「マルク」即チ一萬四千三百二十一金貨「マルク」ヲ支拂フヲ要シタリ從テ負擔總額ハ二萬七千八百二十一金貨「マルク」ナリ

例二　千九百二十年ニ於ケル獨逸國會社ノ配當金ヨリ生スル收入二萬五千金貨「マルク」即チ三十七萬五千紙幣「マルク」又外國會社ノ配當金ヨリ生スル收入二萬五千金貨「マルク」合計五萬金貨「マルク」即チ七十五萬紙幣「マルク」ト假定セム三十七萬五千紙幣「マルク」ヲ配當スルニ先チ獨逸國會社ハ千九百二十年ニ於テ平均六萬三千七百五

十紙幣「マルク」即チ四千二百五十金貨「マルク」ノ稅ヲ納付スルヲ要セリ配當金受領者ノ受領スヘキ獨逸國配當金三十七萬五千紙幣「マルク」ハ其ノ受領ト同時ニ一割即チ三萬七千五百紙幣「マルク」即チ二千五百金貨「マルク」タケ差引カレタリ

從テ千九百二十年ニ於テハ六萬七千五百金貨「マルク」ノ稅ヲ支拂ヒタリ千九百二十一年ニ於テハ配當金受領者ハ第一ニ三十七萬五千紙幣「マルク」ニ對スル一割即チ三萬七千五百紙幣「マルク」即チ千五百六金貨「マルク」ヲ資本收入稅トシテ支拂フヲ要シタリ加之資本收入稅ヲ控除シタル殘配當金受領者ハ殘額六十七萬五千紙幣「マルク」ニ對シ三十五萬六千六百紙幣「マルク」即チ一萬四千三百二十一金貨「マルク」ノ所得稅ヲ支拂フコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ千九百二十一年度ノ稅ハ一萬五千八百二十七金貨「マルク」ニ上ル千九百二十年度ノ稅ヲ合算スレハ全負擔額ハ二萬二千五百七十七金貨「マルク」ナリ

二　千九百二十三—千九百二十四年

千九百二十三年度ノ配當金カ株主ニ配當セラレタルモノト假定ス全先取租稅額ニ於テハ財產稅ハ之ヲ度外視セリ配當金分配ノ基礎タリシ千九百二十二年ノ營業年度ニ對シ會社カ通貨ノ低落ニ關スル千九百二十三年三月二十日ノ法律ニ基キ支拂ヒタル法人稅ノミヲ先取租稅トシテ計算セリ稅率表ニ依レハ先取租稅ハ四割五分ナリシモ千九百二十三年ニ於ケル貨幣大低落ノ爲支拂當時ニ於ケル其ノ金貨價格ハ極メテ少額ナリキ從テ先取租稅ハ僅ニ三分トシテ計上セラレタルニ過キス蓋シ稅金納付當時即チ四月二十五日ニ於ケル「弗」相場ハ二萬九千二百ニシテ千九百二十二年ニ於ケル平均「弗」相場（千八百八十五・七八）ノ約十五倍ナリシヲ以テナリ多クノ場合貸借對照表締切ノ遲延及之ニ伴フ租稅納付ノ遲延ニ基キ先取租稅ハ貨幣ノ急激ナル低落ノ結果トシテ遙ニ三分ヲ下レリ配當金受領者ノ場合ニハ稅金ハ千九百二十三年ニ對シ增加セル豫定支拂及確定支拂トシテ納付ヲ要シタルモノナリ

千九百二十三年ニ於テハ滑準法ニ依ル所得稅ノ適當ナル査定ナカリシヲ以テ千九百二十三年ニ對スル確定支拂ハ千九百二十三年ニ於ケル金貨「マルク」支拂額ヲ基礎トシ而シテ或ル場合ニハ奢侈ノ事實ヲ基礎トスル納稅者ノ支拂能力ニ從ヒ之ヲ決定セリ

大藏當局カ其ノ有スル資料ニ依リ納稅者ニ五萬又ハ十萬金貨「マルク」ニ對シ三割五分又百萬金貨「マルク」ニ對シ四割ノ課稅ヲ爲スヘシ故ニ獨逸國會社ノ支拂フ配當金ヨリ生スル收入カ五萬又ハ十萬金貨「マルク」ナル場合ニハ負擔全額ハ二割八分ニ達スル收入ノ半カ外國會社ヨリ取得セラルルモノナルトキハ法人稅ヨリ成ル先取租稅ノ半ハ問題トナラス從テ負擔ノ全額ハ二割六分五厘トナル五十萬金貨「マルク」ノ收入ニ對シテハ課稅全額ハ三割八分又ハ三割六分五厘、百萬金貨「マルク」ノ收入ニ對シテハ四割三分又ハ四割一分五厘トナル

三　千九百二十四—千九百二十五年

千九百二十四年ノ配當金カ株主ニ配當セラルルモノト假定ス

上記ノ先取租稅ハ法人稅ノ豫定支拂及千九百二十三年度ニ對スル確定支拂トシテ會社ノ支拂セタル稅ナリ

五萬金貨「マルク」ヲ例トスレハ次ノ如キ計算ト爲ル一金貨「マルク」ハ千九百二十二年ニ於ケル平均「弗」相場ニ依レハ四百四十九紙幣「マルク」ニシテ五萬金貨「マルク」ハ二千二百四十五萬紙幣「マルク」ニ等シ

第一回豫定支拂（千九百二十三年三月二十日ノ貨幣低落ニ關スル法律ニ依ル）二割即チ四百四十九萬紙幣「マルク」即チ三百六十九金貨「マルク」（一金貨「マルク」ハ一萬二千百九十紙幣「マルク」ニ當ル）五月二十五日支拂

第二回豫定支拂（千九百二十三年七月九日及八月十一日ノ增加法ニ依ル）一割ノ六百倍即チ十三億四千七百萬紙幣「マルク」即チ千二百三金貨「マルク」（一金貨「マルク」ハ百十二萬紙幣「マルク」ニ當ル）八月二十五日支拂

千九百二十四年一月十日ニ於ケル確定支拂（第二回財政緊急命令第一條第二項ニ依ル）千九百二十二年ノ租稅負擔各千「マルク」ニ付〇・六〇金貨「マルク」ニ配當金ニ關スル千九百二十二年ノ租稅負擔ハ上揭二千二百四十五萬紙幣「マルク」ノ四割五分即チ千十萬二千五百紙幣「マルク」ニ達ス從テ千「マルク」ニ付〇・六金貨「マルク」ノ最終支拂ハ六千六十一金貨「マルク」ト爲ス故ニ先取租稅ハ全額七千六百三十三金貨「マルク」ニ達ス

配當金受領者ノ場合ニハ要求セラルル支拂ハ單ニ千九百二十四年ニ於テ所得稅豫定支拂及財產稅トシテ支拂ハルヘキモノニ過キス一割即チ五萬金貨「マルク」ニ對シ五千金貨「マルク」ヲ最初所得稅豫定支拂トシテ投資收入ヨリ其ノ源泉ニ於テ控除スルニ過キス財產稅ニ關シテハ獨逸國會社ノ支拂フ配當金ハ株券ノ市價ノ一分平均ト推定セラル此ノ計算ハ現在多數ノ獨逸會社ニ取リテハ尠高キニ失スルモノナリ

外國會社ノ場合ニハ配當金ハ株券ノ市價ノ五分ト推定セラル故ニ獨逸國會社ヨリノ配當金五萬「マルク」ハ五百萬「マルク」ノ市價ヲ示スモノナリ

財產稅ニ關スル株主ノ支拂ニ關シテハ右ハ市價ノ半額即チ二百五十萬「マルク」ト推算スル蓋シ會社自身財產稅ヲ支拂フヲ要シ其ノ場合財產ハ少クトモ株券市價ノ總額ト推定セラルレハナリ

二百五十萬「マルク」ノ全財產ニ對スル財產稅ハ一萬七千五百萬「マルク」ニ達ス獨逸國會社ノ配當金五萬「マルク」ノ收入ニ對スル暫定課稅左ノ如シ

法人稅	七、六三三金貨「マルク」
投資收入ヨリ其ノ源泉ニ於テ爲ス控除	五、〇〇〇金貨「マルク」
財產稅	一七、五〇〇金貨「マルク」
計	三〇、一三三金貨「マルク」

配當金ノ半額カ外國會社ヨリ來ルトキハ資本ニ關スル課稅左ノ如シ獨逸國會社ヨリ二萬五千「マルク」、市價二百五十萬（利子一分）之ヲ半額即チ百二十五萬「マルク」ト計算ス

外國會社ヨリ二萬五千「マルク」、市價五十萬「マルク」（利子五分）之ハ全額ニテ計算ス蓋シ會社ハ獨逸國ニ於テ財產稅ヲ支拂ハサルカ故ナリ

收入（單位金貨「マルク」）	法人稅、資本收入稅、所得稅	法人稅、所得稅千九百二十三—千九百二十四年
	千九百二十—千九百二十一年	
五〇、〇〇〇(イ)	二七、八二一	一四、〇〇〇
五〇、〇〇〇(ロ)	二二、五七七	一三、二五〇
一〇〇、〇〇〇(イ)	五七、五八六	二八、〇〇〇
一〇〇、〇〇〇(ロ)	四七、〇九八	二六、五〇〇

法人稅及財產稅ニ關スル負擔所得稅豫定支拂ニ關スル一時限リノ負擔千九百二十四—千九百二十五年

五〇〇、〇〇〇(イ)	二九五、七〇七	一九〇、〇〇〇
五〇〇、〇〇〇(ロ)	二四三、二六七	一八二、五〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇(イ)	五九三、三五七	四三〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇(ロ)	四八八、四七七	四一五、〇〇〇

三一三、八三〇
一九四、四一五
六二七、六六〇
三八八、八三〇

(イ) 獨逸國會社
(ロ) 半ハ獨逸國會社ヨリ半ハ外國會社ヨリ

●獨逸國ニ依リ爲サルヘキ一切ノ實物引渡ノ手續ニ關シ倫敦協定第二附屬書第三條項ノ規定ニ基ク特別委員會作成ノ實物引渡規程

（大正十五年三月五日外務省告示第十九號）

獨逸國ニ依リ爲サルヘキ一切ノ實物引渡ノ手續ニ關シ倫敦協定第二附屬書第三條項ノ規定ニ基キ任命セラレタル特別委員會ノ作成シタル左記ノ實物引渡規程ハ引渡委員會及賠償委員會ノ承認並獨逸國政府ノ同意ヲ經タル上大正十四年五月一日ヨリ實施セラルルニ至レリ

實物引渡規程目次

第一條　實物引渡トシテ供給セラレ得ヘキ物品及役務ノ定義
第二條　機關
第三條　表ノ調製及改訂
第四條　丙表ノ係數ヲ決定スル方法、引渡價格ノ一部ノ直接支拂ニ適用セラルヘキ規定
第五條　計畫ノ作成
第六條　契約ノ承認
第七條　平和條約ノ附屬書ノ期限滿了セサル限リ同附屬書ノ實行ニ關スル計畫及倫敦協定第二附屬書第二條項(二)ノ實行ニ關スル計畫中商事契約ノ適用ナキ部分ノ獨逸國政府ニ依ル實行ニ關スル規定
第八條　賠償委員會ノ註文及「ベメルマン、クンツェ」協定(千九百二十二年六月二日伯林)及「ジレ、ルツベル」協定(千九百二十二年六月巴里)ニ基キ千九百二十四年九月一日前ニ締結セラレタル契約支拂
第九條　倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)第二項(再輸出)ノ適用ニ關スル措置
第十一條　仲裁裁判
第十二條　違反及詐欺
第十三條　本規程ノ改訂
附屬書
　實物引渡規程
獨逸國ニ依リ爲ササルヘキ一切ノ實物引渡ニ左ノ手續ヲ適用ス

第一條　實物引渡トシテ供給セラレ得ヘキ物品及役務

(註)ノ定義

一　獨逸國ノ經濟制度ニ依リ生產セラルル一切ノ物品又ハ役務ハ左記ノ條件ニ從ヒ實物引渡ノ目的物ト爲ルコトヲ得卽チ專門家計畫ニ基キ賠償支拂取扱人ノ勘定ニ拂込マレタル獨逸國ノ通貨ヨリ成ル資金中ヨリ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得

(甲)「除外物品」ト題シテ甲表(附屬書一(一)ニ表示セラルル物品ハ實物引渡トシテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

(乙)「制限物品」ト題シテ乙表及丁表(附屬書一(一)ニ表示セラルル物品ハ乙表ニ付テハ左記第五條ニ規定セラルル手續ニ從ヒ作成セラルル計畫ニ依リテノミ又丁表ニ付テハ同表ニ依リ夫々定メラルル各限度內ニ於テノミ實物引渡トシテ之ヲ要求スルコトヲ得

(丙)　丙表(附屬書一(一)ニ表示セラルル物品ハ其ノ價格ノ一部カ左記第四條及第九條第二節ニ揭クル條件ニ依リ直接ニ支拂ハレサル限リ實物引渡トシテ之ヲ供給スルコトヲ得ス

二　甲表、乙表及丁表ニ表示セラレサル一切ノ物品及役務又ハ左記四ニ依ル一切ノ物品及役務ハ左記第五條及第六條ニ規定セラルル方法ニ依ル引渡契約ノ承認ノミヲ條件トシテ數量ノ制限ナク之カ引渡ヲ爲スコトヲ得

三　尤モ千「ライヒスマルク」未滿ノ契約ハ既ニ承認セラレタル契約ノ追加ニ非サル限リ實物引渡契約トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

四　「ヴェルサイユ」條約第八編第五附屬書及倫敦協定第二附屬書第二條項(二)ニ依ル物品ノ引渡ハ左記第七條ニ規定セラルル方法ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

(註)「役務」ナル語ハ倫敦會議ニ於テ同語ニ與ヘラレタル意味及解釋ニ依ルヘキモノトス(第三委員會報告、千九百二十四年八月十日附書翰參照)

第二條　機關(註一)

一　實物引渡ノ最有效ナル運用ヲ確保セムカ爲ニハ計畫ノ併成及契約ノ承認ノ爲成ルヘク簡單且迅速ナル手續ヲ定ムルノ必要アルコトハ特別委員會全會一致ノ意見ナリ

二　依テ賠償委員會ハ本規程ニ定メラルル手續ノ嚴重ナル適用ノ任ニ當リ且其ノ責ニ任スル「賠償委員會實物引渡事務所」(下稱スル專門的事務所ヲ巴里ニ於テ同委員會ノ本部ニ設置スヘシ獨逸國政府ハ右事務所ト密接ナル連絡ヲ有スル「獨逸國實物引渡事務所」(以下獨逸國事務所ト稱スル)ト稱スル專門的事務所ヲ巴里ニ於テ戰爭債務委員會ノ本部ニ設置スヘシ右獨逸國事務所ハ本規定ニ基ク獨逸國政府ノ權利ヲ行使スル爲全權ヲ以テ同政府ヲ代表シ得ル樣組織セラルヘシ

三　倫敦協定第二附屬書第二條項(ロ)ノ適用ニ付獨逸國事務所ハ債權國政府(註二)ノ要求ニ依リ賠償委員會事務所ニ對スル契約ノ寄託ニ先タツ一切ノ調査ニシテ契約ノ承認ニ關スル手續ノ適用ヲ容易且迅速ナラシムヘキモノニ付右政府ヲ援助スヘシ

(註一)　附屬書七、第十二回會議議事錄拔萃第四參照

(註二)　本規程ニ於テ「債權國政府」ナル字句ハ專門家計畫ニ基ク年次金ニ付取分ノ權利アル國ヲ意味ス

第三條　表ノ調製及改訂

一　甲表、乙表及丙表ハ每二年ニ改訂セラルルコトヲ得第一期ノ二年ハ千九百二十七年四月一日ニ終ル

債權國政府又ハ獨逸國政府カ右表ノ改訂ヲ希望スル場合ニハ改訂ヲ行ヒ得ヘキ期日前三月內ニ賠償委員會ニ其ノ要求ヲ提出スルコトヲ要ス

二　右ノ如キ場合ニハ賠償委員會及獨逸國政府ハ本規程ヲ作成シタル特別委員會ト同一ノ方法ニ依リ構成セラルル特別委員會ヲ直ニ召集スヘシ右委員會ノ決定ハ現特別委員會ノ決定ト同一ノ方法ニ依リテ承認セラレ且實施セラルヘシ

三　丁表ハ千九百二十七年四月一日ニ終ル二年間有效トス同表ハ之ニ規定セラルル方法ニ依リ改訂セラルルコトヲ得

四　附屬丙表ハ「ベメルマン、クンツェ」協定ノ乙表ヲ變更シタルモノニ過キスシテ同表ニ表示セラルル係數ニ關スル限リ改訂セラルヘシ但シ第四條ニ定メラルル規定ヲ考量スヘキモノトス

五　委員會カ正式ニ本規程ヲ賠償委員會ニ送付シタル後ニ直ニ爲サルヘキ右改訂ハ同盟國人及獨逸國人タル技術的專門家ヨリ成ル委員會ニ依リ爲サルヘキ提案ニ基クコトヲ要シ且賠償委員會及獨逸國政府間ノ協定ニ依リ該目的ノ爲ニ權限ヲ擴張セラルル現特別委員會ニ依リテ行ハルヘシ

六　改訂ハ遲クモ千九百二十五年四月三十日迄ニ完了セラルヘシ

七　右改訂ニ至ル迄ノ間ノ暫行措置トシテ、物品ノ價格中第四條及第九條(第二節)ニ依リ定メラルル條件ノ下ニ直接ニ支拂ハルヘキ部分ハ賠償支拂取扱人ニ依リテ支拂ハルヘシ賠償支拂取扱人ハ右目的ノ爲債權國政府ノ各ニ付「前渡」勘定ヲ開クヘシ右勘定ハ改訂ノ完了後其ノ結果ヲ相當斟酌シテ第九條第二款五及六ニ定メラルル方法ニ依リ之ヲ締切

ルヘシ

第四條　丙表ノ係數ヲ決定スル方法、引渡價格ノ一部ノ直接支拂ニ適用セラルヘキ規定

第一節

一　丙表ノ係數ハ工場又ハ倉庫ニ於テ引渡サルル物品ノ賣價ニ對スル右物品中ニ包含セラルル外國原料ノ價格ノ割合ヲ表示スヘキモノトス

二　右係數ハ物品ノ賣價ノ精細ナル見積書ニ基クモノトス

三　各改訂後ノ丙表ハ物品ニシテ前記一ニ指示セラルル如ク決定セラレタル其ノ係數カ二割五分以上ナルモノヲ包含スヘシ

四　右ノ如キ物品ニ付テハ工場又ハ倉庫ニ於テ引渡サルル物品ノ賣價ノ一部ハ其ノ係數ニ應シ左記第九條第二節ニ定メラルル方法ニ依リ直接ニ支拂ハルヘシ

第二節

一　契約カ物品ノ獨逸國外ノ運送（陸路ニ依リ又ハ獨逸國以外ノ國旗ノ下ニ可航水路若ハ海路ニ依ルモノ）ニ關シ賣主ニ責任アリト爲ストキハ右ノ如キ運送ハ其ノ費用カ四百金貨「マルク」ヲ超過スル場合ニ非サレハ直接支拂ヲ生セス右超過ノ場合ニハ獨逸國外ノ運送ノ總費用ハ直接ニ支拂ハルヘシ

右規定ハ本規程附屬書五ニ依リ定メラルル賠償石炭ノ水路ニ依ル運送ニハ適用ナキモノトス

二　契約カ獨逸國外ノ建設ニ關シ賣主ニ責任アリト爲ストキハ右ノ如キ建設ハ其ノ費用カ千金貨「マルク」ヲ超過スル場合ニ非サレハ直接支拂ヲ生セス右超過ノ場合ニハ獨逸國外ノ建設費ノ五割ハ直接ニ支拂ハルヘシ

右規定ハ左記四ニ規定セラルル獨逸國外ノ勞力ノ使用ニハ適用ナキモノトス

三　結合物（工場又ハ機械ノ据付、船舶等）ノ供給ニ關スル契約カ右結合物ノ一部トシテ丙表中ノ物品ノ引渡ヲ含ムトキハ工場又ハ倉庫ニ於テ引渡サルル右物品ノ價格カ契約ノ總額ノ一割ヲ超過スル場合ニ非サレハ之等物品ノ引渡ニ付直接支拂ヲ生セス右超過ノ場合ニハ丙表ニ包含セラレ且全體ノ一部トシテ引渡サルル物品ノ各カ各別ニ引渡サレタリト假定シタル場合ト同一ノ價格ニ付直接支拂ヲ爲スヘキモノトス

四　第五條六ニ規定セラルル特別契約ニシテ獨逸國外ニ於ケル獨逸人ノ勞力ノ使用ヲ含ムモノニ付テハ右勞力ノ使用ニ關シ爲サルヘキ直接支拂ノ割合（豫メ最終的ニ決定スルコトヲ得ス）ハ各特別契約ニ付其ノ契約ヲ承認スル決議ニ依リテ定メラルヘシ但シ海外ニ於ケル獨逸人ノ勞力ノ使用及之ニ對スル支拂方法ニ關スル契約當事者間ノ合意ニ付考量スヘキモノトス尤モ契約ノ作成ヲ容易ナラシムル爲獨逸國事務所ハ各關係債權國政府ノ請求ニ依リ獨逸國外ニ於ケル獨逸人ノ勞力ノ使用ニ關シ爲サルヘキ直接支拂ノ割合ヲ豫メ定ムル或種契約ノ原則ノ決定ヲ得ル爲ノ調査ニ協力スヘシ右原則ノ決定ハ特別契約ニ關シ第六條ニ掲ケラルル方法ニ依リテ爲サルヘシ

五　獨逸國ノ國旗ノ下ニ獨逸國内又ハ獨逸國外ニ於テ可航水路又ハ海上ニ依リ爲サルル運送ハ其ノ單ニ賠償引渡ニ附帶スルモノナルト契約ノ唯一ノ目的ナルトヲ問ハス直接支拂ヲ生セス

第五條　計畫ノ作成

一　「ヴェルサイユ」條約第八編第五附屬書ノ有效期間中ニ於ケル其ノ實

施ノ爲ノ計畫ハ本規程附屬書四（石炭等）ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作成スヘシ（註一）

賠償委員會事務所ハ各關係債權國カ要求セムトスル最大數量ヲ包含スル表ヲ計畫決定期日直前ノ會議ニ於テ引渡委員會ニ提出シタル上同委員會カ右計畫ニ反對セサルコトヲ右期日内ニ確保スヘシ

二　計畫ハ約六月ノ期間ヲ置キ作成セラルヘク毎回次ノ十八月ノ期間内ニ取得セラルヘキ乙表ニ包含セラルル物品ノ最高數量ヲ決定スヘシ

各計畫實施ノ正確ナル期日ハ前記ノ指示及引渡委員會ノ會議ノ時ヲ考量シ且左記三所定ノ手續開始前少クトモ滿十五日前債權國政府及獨逸國事務所ニ該期日ヲ通告スルコトヲ得ル樣賠償委員會事務所ニ依リ決定セラルヘシ

三　二ニ掲クル計畫ヲ作成スル手續ハ左ノ如クナルヘシ

(イ) 債權國政府ニ依ル其ノ注文ノ賠償委員會事務所ヘノ發送、、、、、、、、、、、二十三日

(ロ) 賠償委員會事務所ニ依ル右注文ノ獨逸國事務所ヘノ通知、、、、、、、、、、二十一日

(ハ) 右注文ヲ共同ニ審査スル爲ノ二事務所ノ會合（何レカ一方カ専門家ノ召集ヲ希望スルトキハ其ノ援助ヲ求ム）、、、、、、、、、、十三日

(ニ) 獨逸國事務所ニ依ル其ノ最終的意見ノ賠償委員會事務所ヘノ送達、、、、、、、、、八日

(ホ) 賠償委員會事務所ニ依ル其ノ報告ノ賠償委員會及引渡委員會ヘノ發送（右報告ニハ獨逸國事務所ノ意見ヲ添附スヘク又獨逸國事務所ハ右報告書ノ寫ヲ受領スヘシ）、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、六日

(ヘ) 引渡委員會ノ意見、、、、、、、、、、、、、、

(ト) 賠償委員會ノ決定、、、、、、引渡委員會ノ意見ノ後五日内

四　木材、粗糖、合成法ニ依ル硫酸「アンモニア」及其ノ他ノ合成含窒素生成物、染料及化學藥品ニ關スル計畫ハ本規程ノ附屬書一（丁表）、三及四ニ表示ス

五　獨逸國産又ハ獨逸國内ニテ製造セラレ又ハ獨逸國ヨリ直接來ル一切ノ其他ノ物品ハ右諸計畫ニ特ニ掲ケラレサル場合ニモ賠償委員會ノ計畫ニ包含セラルルモノト見做サルヘシ

各債權國カ其ノ處分シ得ヘキ債權ノ範圍内ニ於テ取得シ得ヘキ右物品ノ數量ニ關シテハ倫敦協定第二附屬書第二條項(ロ)及専門家計畫ニ規定セラルル制限ヲ除キ何等ノ權限ナキモノトス（註二）

六　債權國政府ハ特別契約ノ承認ヲ求ムル爲之ヲ提出スルコトヲ得左記ハ特別契約ト認メラルヘシ

(イ) 完全ナル据付、公共事業、造船ニ關スル契約

(ロ) 二十四月ヲ超ユル期間ニ亘ル引渡又ハ支拂ヲ定ムル契約（擔保トシテ保留セラルル額ニシテ契約ノ總價格ノ一割ヲ超エサルモノヲ包含セス）

(ハ) 計畫又ハ丁表ニ依リテ制限セラレサル物品ニ關スル契約ニシテ一年ニ付千二百萬金貨「マルク」ヲ超過スル支拂ヲ含ムモノ

七　倫敦協定ノ意味ニ於ケル「役務」ハ計畫ニヨリ定メラルルコトヲ要セス右ノ如キ役務ニ關スル契約ハ普通契約トシテ取扱ハルヘク又賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民カ獨逸國事務所ノ要求ニ基キ之ヲ特別契約ト決定スルトキハ特別契約トシテ取扱ハルヘシ

八　附屬書ニ反對ノ規定アル場合ヲ除キ賠償委員會ニ依ル計畫ノ決定ハ該計畫ニ掲クル額ニ達スル迄契約ヲ爲スノ選擇權ヲ債權國ニ與フヘシ但シ債權國政府ハ右計畫ニ定メラルル數量ノ引渡ヲ受クル何等ノ義務ヲ負ハサルモノトス

（註一）一及二ニ基キ作成セラルル計畫ニ依リテ決定セラルル數量ハ賠償委員會之ヲ債權國間ニ分配スヘシ

一國ニ割當テラレタル數量ニシテ其ノ國ニ依リ拋棄セラレタルモノハ之ヲ他ノ債權國間ニ分配スルコトヲ得

（註二）附屬書七（第十二會議議事錄拔萃第五）及「實物引渡及正常ナル獨逸國ノ輸出貿易」ニ關スル獨逸國ノ宣言參照

第六條　契約ノ承認

甲　普通契約

一　第五條六ニ於テ特別契約トシテ定メラレタルモノヲ除ク一切ノ契約ハ左ノ如ク處理セラルヘシ

(イ)　各契約（註一）ハ關係債權國ニ依リ賠償委員會事務所ニ三通送付セラルヘク同事務所ハ日附ヲ附シタル受領證ヲ交付スヘシ一通ハ同日同事務所ヨリ獨逸國事務所ニ轉送セラルヘシ

(ロ)　前記事務所ノ契約受領後休日ヲ除キ滿三日內ニ賠償委員會事務所カ右契約ニ對シ異議ヲ唱ヘサルカ又ハ獨逸國事務所カ賠償委員會事務所ニ書面ニテ異議ヲ通告セサル場合ニハ賠償委員會事務所ハ該契約カ承認セラレタルモノトシテ之ニ捺印スヘク且之ヲ引渡委員會ニ通告シ契約所定ノ期日ニ支拂ヲ爲サシムル爲直ニ之ヲ賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ債權國及獨逸國事務所ハ直ニ右通告ヲ受クヘシ

(ハ)　契約受領後休日ヲ除キ滿三日內ニ獨逸國事務所ニ於テ右契約カ本規程ノ條項ニ適合セストノ理由ニ依リ該契約ニ對シ異議ヲ有スルカ又ハ右期間內ニ賠償委員會事務所カ異議ヲ唱フル場合ニハ右問題ハ直ニ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ニ付託セラルヘク同委員ハ休日ヲ除キ通常滿三日ノ期間內ニ最終的決定ヲ爲スヘシ（註二）右決定カ契約ノ承認ヲ包含スル場合ニハ賠償委員會事務所ハ該契約カ承認セラレタルモノトシテ之ニ捺印スヘク且之ヲ引渡委員會ニ通告シ契約所定ノ期日ニ支拂ヲ爲サシムル爲直ニ之ヲ賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ債權國及獨逸國事務所ハ直ニ右通告ヲ受クヘシ

例外ノ場合ニハ獨逸國事務所ハ契約ヲ審査スル爲亞米利加合衆國人民タル委員四十八時間ノ延長ヲ請求スルコトヲ得ヘク同委員ハ賠償委員會事務所ト協議シタル後之ヲ決定スヘシ

(ニ)　承認又ハ拒否ニ關スル決定ハ遲滯ナク爲サルヘキモノナルコトノ最重要ナルコトハ全會ノ一致スル所ナルモ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ハ例外ノ場合ニ於テ且其ノ權限ニ基キ右決定ヲ事件カ同委員ニ付託セラレタル日ヨリ起算シ長クトモ十八日間延期スルノ權限ヲ有ス

二　何時ニテモ債權國政府ノ地位ヲ知ラムカ爲賠償委員會ハ賠償支拂取扱人ニ依リ供給セラレタル情報ニ基キ、債權國政府カ尙利用シ得ヘキ見積債權額及次ノ二十四月間ニ於ケル其ノ契約ヲ示スヘキ口座ヲ各政府ニ付設クヘシ

右特殊ノ見地ヨリスル契約ノ承認又ハ拒否ニ關シテハ賠償委員會事務所ハ賠償委員會及引渡委員會ニ依リ起草セラルヘキ特別ノ規則ヲ適用スヘシ但シ右規定ハ承認ニ關スル前記時間ノ制限ヲ變更スルコトナキモノトス

本項ノ規定ハ獨逸國事務所ニ關係ナキモノトス

乙　特別契約

一　各契約ハ關係債權國ニ依リ賠償委員會事務所ニ三通送付セラルヘク同事務所ハ日附ヲ付シタル受領證ヲ交付スヘシ

一通ハ同日同事務所ヨリ獨逸國事務所ニ轉送セラルヘシ

契約ノ承認ニ關スル手續ハ左ノ如クナルヘシ

賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民又ハ其ノ代表者ノ議長ノ下ニ於ケル兩事務所ニ依ル契約ノ共同審査（各事務所ハ其ノ希望スル專門家ノ援助ヲ受クヘキ權利ヲ有シ、關係債權國政府ハ代表セラルヘク又契約當事者ハ發表セラレタル意見ニ從ヒ契約ヲ修正スルノ全權ヲ有スルモノトス）、、、、、、、契約寄託ノ日ノ後十三日內

獨逸國事務所ニ依ル書面ニ認メラレタル最終的意見ノ賠償委員會事務所ヘノ寄託、、、、、、、、契約寄託ノ日ノ後十五日內

賠償委員會ニ依ル兩事務所ノ意見ノ引渡委員會及賠償委員會ヘ送達（一通ハ獨逸國事務所ニモ送付セラル）、、、、、、、契約寄託ノ日ノ後二十日內

前記手續ノ完了後引渡委員會ノ最初ノ會議ニ於ケル同委員會ノ意見賠償委員會ノ決定、、、、、、、引渡委員會ノ意見ノ後五日內

契約ハ賠償委員會及引渡委員會ノ雙方ニ依ル同意的決定アリタル場合ニ於テノミ承認セラルヘシ

二　契約カ計畫ニ依リテ制限セラルル物品ニ關シ且計畫ノ有效期間ヲ超ユル場合ニハ賠償委員會ハ其ノ承認ヲ與フル前ニ右契約ヲ提出スル國以外ノ同盟國ノ權利ヲ考慮スヘシ

決定カ暫定的ノ拒否又ハ條件附ノ承認ニシテ且關係債權國政府カ要求セラレタル修正ヲ加ヘテ契約ヲ賠償委員會事務所ニ再ヒ提出スル場合ニハ之ニ對スル最終的承認ハ普通契約ト同一ノ形式及時間ノ制限內ニ於テ與ヘラレ且通告セラルヘシ

休日ヲ除キ滿三日內ニ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ニ於テ普通契約又ハ特別契約カ其ノ包含スル條項ニ依リ特別契約ノ部類ニ屬スルモノト認メサル限リ右追加契約ハ普通契約ニ關シ規定セラルル手續ニ從ヒテ處理セラルヘシ

（註一）本規定ノ意味ニ於ケル契約ハ左ノモノト了解セラルヘシ

(イ)　兩當事者ニ依リ署名セラレタル文書

(ロ)　明細書ノ有無ヲ問ハス確定的申込ニシテ買主ニ依リ書面又ハ電報ヲ以テ無留保ニテ承諾セラレタルモノ

(ハ)　確定的申込ニシテ賣主ニ依リ書面又ハ電報ヲ以テ無留保ニテ承諾セラレタルモノ

（註二）亞米利加合衆國人民カ本規程ニ依リ負ヒタル義務ヲ實行スルコト能ハサル場合ニハ同人ハ其ノ代理人ヲ選任スヘシ

第七條　平和條約ノ附屬書ノ期限滿了セサル限リ同附屬書ノ實行ニ關スル計畫及倫敦協定第二附屬書第二條項(二)ノ實行ニ關スル計畫中商事契約ノ適用ナキ部分ノ獨逸國政府ニ依ル實行ニ關スル規定

右規定左ノ如シ

合成法ニ依ル硫酸「アンモニア」及其他ノ合成含窒素生成物ニ付テハ本規程ノ附屬書三

石炭、骸炭及褐炭ニ付テハ本規程ノ附屬書四

石炭、骸炭及褐炭ノ運送ニ付テハ本規程ノ附屬書五
染料及化學藥品ニ付テハ本規程ノ附屬書六

第八條　賠償委員會ノ注文及「ベメルマン、ソツェ」協定（千九百二十二年六月二日伯林）及「ジレ、ルッベル」協定（千九百二十二年六月巴里）ニ基キ千九百二十四年九月一日前ニ締結セラレタル契約

一　「ヴエルサイユ」條約第八編第二附屬書、第三附屬書及第四附屬書ニ基キ締結セラレタル賠償委員會ノ一切ノ舊注文竝「ベメルマン、クンツェ」協定及「ジレ、ルッベル」協定ニ基キ爲サレタル一切ノ契約ニシテ千九百二十四年九月一日前ニ締結セラレタルモノハ左記ノモノヲ除キ千九百二十五年七月一日ニ於テ取消サレタルモノト認メラルヘシ

(イ)　既ニ原注文又ハ契約ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ定ムル追加契約ノ目的ト爲リ且千九百二十四年九月一日以後同盟國政府、獨逸國政府及賠償委員會ニ依リテ承認セラレタル注文又ハ契約

(ロ)　千九百二十五年七月一日前ニ注文又ハ契約ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ定ムル追加契約ノ目的ト爲リ且同盟國政府、獨逸國政府及賠償委員會ニ依リテ承認セラレタル注文又ハ契約

關係同盟國政府ハ獨逸國政府トノ合意ニ依リ前記(イ)及(ロ)ニ揭クル一切ノ注文及契約ノ完全ナル表ヲ千九百二十五年七月一日迄ニ賠償委員會事務所ニ提出スヘシ右表ニハ注文及契約ノ履行セラルヘキ優先順位ヲ記載スヘシ右優先順位ニ關シ獨逸國政府及關係同盟國政府間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛爭ハ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ニ依リテ解決セラルヘシ實物引渡ニ關スル獨逸國事務所及賠償支拂取扱人ハ該表ノ寫ヲ受領スヘシ

二　前記ノ注文又ハ契約ニ關シ關係同盟國政府ハ二十四月ヲ超エサル期間內ニ爲サルヘキ一切ノ引渡及必要ナル支拂ニ關スル細目（期日ヲ含ム）ヲ賠償委員會事務所ニ時時通報スヘシ如何ナル場合ニ於テモ右ノ如キ支拂ハ當該期間內ニ關係國ノ爲ニ使用シ得ヘキ賠償支拂取扱人保管ノ資金ヲ超過スルコトヲ得ス賠償委員會事務所ハ右細目ノ寫ヲ獨逸國事務所及賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ

本條約ニ基キ爲サレタル引渡ハ本規程第四條ノ意味ニ於ケル直接支拂ヲ生セサルモノトス但シ右ハ一部支拂カ千九百二十四年九月一日前ニ獨逸國政府ニ依リテ爲サレタル場合ニ限ル

三　契約ニ依リ定メラルル支拂ヲ專門家計畫ノ年次金中ニ包含セシムルコトニ關スル問題ニ付賠償委員會、關係債權國政府及獨逸國政府ノ一切ノ權利ハ留保セラルルモノトス

第九條　支拂

第一節　賠償勘定ニ於ケル支拂

一　關係債權國政府ノ權限アル代表者ハ買主ノ要求ニ依リ契約ノ履行ニ關シ賣主ニ支拂フヘキ金額ニ付爲替手形ヲ振出スヘク右代表者ノ署名ハ賠償支拂取扱人ニ移牒セラルヘシ

右爲替手形ノ振出ハ普通ノ商業上ノ意義ヲ有スル外別ニ左記事項ヲ意味ス

(イ)　爲替手形ヲ振出ス政府ハ支拂期日ニ於テ手形面記載ノ金額ヲ賠償支拂取扱人ニ依リ借記セラルルコトニ同意ス

(ロ)　爲替手形ヲ振出ス政府ハ右手形カ正當ナル形式ニ於テ振出サレタルモノナルコトヲ保證ス

(ハ)　定期拂ノ爲替手形ノ場合ニ於テ賠償支拂取扱人カ滿期日ニ右手形ノ支拂ニ要スル資金ヲ供スルノ準備ナキトキハ右手形ヲ振出シタル政府ハ右手形ノ支拂ニ必要ナル資金ヲ滿期日ノ二日前ニ伯林ニ於ケル「ライヒスバンク」ノ「ライヒスクレディットケゼルシァフト」ノ使用ニ供スルコトヲ約ス

二　債權國政府ハ振出ノ日ヨリ六月內ニ支拂期日ノ到來スル爲替手形ノミヲ振出スヘシ

三　買主ハ賣主ノ爲ニ裏書シタル爲替手形ヲ賣主ニ差付スヘシ

四　爲替手形ハ原則トシテ「ライヒスマルク」ニテ作成セラルヘシ

但シ契約カ他ノ通貨ニテ表示セラレタル價格ヲ計算ノ貨幣トシテ定ムル場合ニハ爲替手形ハ右通貨ニテ作成セラルヘク且支拂期日ニ於テ右手形ノ金額ハ賠償支拂取扱人ニ依リ支拂期日ノ伯林取引所ノ公定率ヲ以テ「ライヒスマルク」ニ換算セラルヘシ

五　爲替手形ハ附屬書二ニ包含セラルル形式ノ一ニ依ルヘシ形式甲ハ一覽後五日拂ノ手形ニ又形式乙ハ定期拂ノ手形ニ使用セラルヘシ右手形ニハ獨逸語ノ本文ト之ヲ手形振出債權國ノ國語ニ翻譯セルモノトヲ揭クヘシ

爲替手形ノ形式ハ賠償委員會、引渡委員會及獨逸國政府間ノ協定ニ依リ變更セラルルコトヲ得

六　「ヴエルサイユ」條約第八編第五附屬書ニ基ク引渡ニ對スル支拂ニシテ商事約ノ適用ナキモノハ債權國政府ノ權限アル代表者ニ依リ獨逸國政府又ハ其ノ受任者ノ爲拂出サレ且賠償支拂取扱人ニ宛テタル支拂命令ニ依リテ爲サルヘシ

七　契約履行ノ結果トシテ又ハ契約ニ結末ヲ付クル爲賣主カ買主ニ對シ現金支拂ヲ爲スヘキ場合ニハ買主ハ之ヲ自國ノ政府ニ通報シ且賣主ニ對シ賠償支拂取扱人ニ支拂ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ要ス賠償支拂取扱人ハ右金額ヲ關係國政府ニ貸記スヘシ

尤モ右規定ハ最高一萬金貨「マルク」ノ契約ノ總額ニ割ヲ超エサル支拂ニシテ契約ノ定ムル最後ノ支拂ヲ爲サレタル後賣主カ買主ニ爲スヘキモノニハ適用ナキモノトス右支拂ハ商業ノ通常ノ規則ニ從ヒ賣主ニ依リ買主ニ對シ直接ニ爲サルヘシ

八　債權國政府ハ二十四時間內ニ其ノ代表者ノ署名アル左記ヲ賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ

(イ)　一日中ニ債權國ニ依リ振出サレタル支拂命令及一覽後五日拂ノ爲替手形ノ附屬書二乙ノ形式ニ依ル摘要及右摘要ノ副本

(ロ)　一日中ニ債權國ニ依リ振出サレタル定期拂ノ爲替手形ノ附屬書二丁ノ形式ニ依ル摘要及右摘要ノ副本

定期拂ノ爲替手形ノ場合ニハ右ノ外債權國政府ハ右摘要（附屬書二丁）ノ副本ヲ「ライヒスクスディットゲゼルシヤフト」ニ送付スヘシ

債權國ハ又一週間中ニ同國ニ依リテ振出サレタル支拂命令及爲替手形ノ摘要ヲ每週賠償委員會事務所ニ供給スヘシ

賠償支拂取扱人ハ其ノ爲シタル各支拂ニ對シ借記證書ノ原本一通及其ノ寫二通ヲ賠償委員會ニ送付スヘク右借記證書ノ原本ハ關係債權國ノ代表者ヲ通シ直ニ同國ニ又其ノ寫ノ一通ハ賠償委員會事務所ニ送付セラルヘシ

第二節　直接支拂

一　或種ノ物品又ハ或種ノ役務ノ價格ノ一部ノ直接支拂ニ關スル本規程第四條ノ規定ハ左ノ方法ニ依リ各契約ニ適用セラルヘシ

(イ)　契約中ニ右ノ趣旨ノ條項ヲ挿入スルコト

(ロ)　契約ヲ承認スル決定ニ依ルコト

二　右(イ)ノ場合ニ於テ契約ニハ直接ニ爲サルヘキ支拂ノ期日及金額ヲ正確ニ記載スヘク且契約當事國ハ契約ヲ本規程第四條ノ規定ニ依リテ調節スル爲契約ヲ承認スル決定カ定ムルコトアルヘキ方法ニ於テ其ノ契約ヲ變更スルコトヲ互ニ約ス

三　右(ロ)ノ場合ニ於テ契約ヲ承認スル決定ニハ直接ニ爲サルヘキ支拂ノ期日及金額ヲ正確ニ記載スヘシ賠償委員會事務所ト獨逸國事務所トノ間ニ協定ナキ限リ契約ニ依リ支拂期日到來セル各金額ハ契約ノ目的タル物品ニ適用セラルヘキ係數ニ相當スル一部ノ直接支拂ヲ包含スヘシ兩事務所ノ間ニ別段ノ合意アル場合ヲ除キ獨逸國外ノ運送及建設ノ費用ニ關シテハ之ニ相當スル直接支拂ハ該役務カ爲サレタル後直ニ到來スヘキ契約上ノ支拂期日ニ於テ爲サルヘシ

四　右何レノ場合ニ於テモ賠償支拂取扱人ハ前記第一節ニ揭ケラルル規定ニ從ヒ賠償勘定ニテ支拂ヒ得ヘキ金額ヲ支拂フヘシ買主ハ普通ノ商業上ノ慣習ニ從ヒ賣主ニ直接支拂ヲ爲スヘシ

五　尤モ前記ノ條項ハ賠償支拂取扱人ヲシテ或種ノ契約ノ場合ニ契約ニ依リ規定セラルル支拂ノ金額ヲ支拂フコトヲ得シムル爲ノ取極ヲ債權國政府カ賠償支拂取扱人ト結ハムトスルコトヲ妨クルモノニ非ス但シ右ノ場合ニハ支拂中直接ニ爲サルヘキ部分ハ特別勘定ニ於テ關係債權國ニ借記セラルヘク右債權國ハ金融市場ニテ買入レタル「ライヒスマルク」ヲ右特別勘定ニ拂込ムコトニ依リ時時之ヲ締切ルコトヲ要ス

六　右勘定ハ少クトモ毎二月ニ一回又同勘定ノ借記額ノ殘高カ佛蘭西國ノ場合ニハ四百萬金貨「マルク」、其ノ他ノ關係國ノ場合ニハ其ノ賠償分配率ノ割合ニテ右金額ヲ減額シタルモノヲ超過セサルコトヲ確保スル爲必要ナル回數ニ於テ之ヲ締切ルヘシ

第十條　倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)第二項（再輸出）ノ適用ニ關スル措置

再輸出禁止ニ關スル條項ノ適用ニ關シ各債權國政府ハ左記ノ甲乙二方法中ノ一ヲ選擇スルコトヲ得右選擇ハ一年間有效ナルヘク且第一回ハ本規程實施後二月內ニ又第二回ハ第一年ノ終了前二月內ニ之ヲ行フヘシ二方法中ノ一ノ選擇ハ賠償委員會事務所ニ通告セラルヘク且右事務所ニ依リ直ニ獨逸國事務所ニ通知セラルヘシ

右通告ヲ爲ササルカ又ハ其ノ通告ヲ爲ス迄ノ間ハ乙方法ノミ適用セラルヘシ第二回ノ選擇カ行ハレサル場合ニハ第一年度ニ對シテ採用セラレタル方法ハ第二年度ニ對シテモ有效ナルヘシ

右二方法中ニ規定セラルル條件ニ拘ラス關係國政府ハ獨逸國ヨリ引渡トシテ受領シタル物品ノ再輸出ニ關シ倫敦協定ニ於テ爲サレタル約束ヲ維持スヘシ

甲方法

一　專門家計畫書第六附屬書第五ニ規定セラルル方法ニ依リ再輸出ノ認メラレタルコトアルヘキ物品又ハ總價格カ三千金貨「マルク」ヲ超エサル物品ニ關スル契約ノ場合ヲ除キ關係債權國政府ハ買主ニ依リ署名セラルル左記ノ宣言書ヲ添附セスシテ其ノ國民カ締結シタル一切ノ契約ヲ賠償委員會事務所ニ寄託セサルヘシ

「余ハ契約第、、、號ニ基キ買入レタル物品ヲ、、、、ヨリ再輸出セサルコトヲ約ス

又余カ右物品ノ全部又ハ一部ヲ賣却スル場合ニハ余ハ其ノ買主ニ對シ余カ本宣言書ニ依リテ爲シタル一切ノ約束ヲ同人ニ於テモ爲スヘキコト及爾後ノ買主ヲシテ同一ノ約束ヲ爲サシムヘキコトヲ要求スルコトヲ約ス

又余カ右約束ノ何レカヲ履行セサルトキハ余ハ二年間賠償勘定ニ於テ契約ヲ爲シ得サルコトニ同意シ且再輸出ヲ禁止スル條項ヲ附セスシテ再輸出シ又ハ轉賣シタル物品ノ價格ノ二割五分ニ等シキ金額ヲ、、、、ノ政府(關係債權國政府)ニ支拂フヘシ

他ノ物品トノ合成又ハ變形ノ場合ニハ賠償勘定トシテ獨逸國ニ依リ引渡ササル物品ノ價格カ輸出セラルル物品ノ、、、、(註一)國境ノ價格(關稅ヲ含マス)又ハ、、、、(註二)ノ甲板渡ノ價格ノ六割ヲ超ヘサルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ

物品カ關係債權國政府ノ殖民地又ハ屬地ニ送付セラルルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ」

政府ハ自ラ契約ヲ締結スル場合ニハ右政府ハ再輸出ヲ爲ササル約束ヲ附シテ之ヲ提出スルコトヲ要シ又政府カ國內ニ於テ轉賣ヲ爲ス場合ニハ右ニ規定セラルル形式ニ依ル約束ヲ爲スヘキコトヲ其ノ買主ニ要求スルコトヲ要ス(註三)

二　倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)ノ規定ニ從ヒ右約束ハ契約當事者カ契約中ニ挿入スル再輸出禁止ニ關スル合意ヲ妨クルモノニ非ス但シ違約金ノ重課ヲ許サス即チ違約金カ契約ニ基キテ支拂ハルルトキハ宣言書ニ基キテ支拂ハルヘキ違約金ハ之ニ應シテ減額セラルヘキモノトス

三　再輸出ノ禁止ニ違反スル同盟國ノ買主ハ賠償契約ヲ爲スノ權利ヲ二年間喪失スヘシ再輸出アリタリヤ否ヤニ關シ債權國ト獨逸國政府トノ間ニ意見ノ相違ヲ生スルトキハ兩當事者ハ倫敦協定及本規程ノ意義ニ於ケル再輸出アリタリヤ否ヤヲ決定スヘキ仲裁裁判者ヲ指名スヘキコトヲ本規程第十一條ニ基キテ設置セラルル仲裁裁判所ノ裁判長ニ要求スヘシ

乙方法

一　專門家計畫書第六附屬書第五ニ規定セラルル方法ニ依リ再輸出ノ認メラレタルコトアルヘキ物品又ハ總價格カ三千金貨「マルク」ヲ超エサル物品ノ場合ヲ除キ賠償契約トシテ提出セラルル一切ノ商事契約ハ左記ノ條項ヲ包含スヘシ

「買主ハ本契約、、、、ニ基キ買入レタル物品ヲ、、、、ヨリ再輸出セサルコトヲ約ス

又買主カ右物品ノ全部又ハ一部ヲ賣却スル場合ニハ買主ハ第二ノ買主ニ對シ買主カ買入レタル物品ニ付爲シタルト同一ノ約束ヲナスヘキコト及右物品ノ爾後ノ買主ヲシテ同樣ノ約束ヲ爲サシムヘキコトヲ要求スルコトヲ約ス

買主カ右約束ノ何レカヲ履行セサルトキハ買主ハ二年間賠償勘定ニテ契約ヲ爲シ得サルコトニ同意ス

他ノ物品トノ合成又ハ變形ノ場合ニハ賠償勘定トシテ獨逸國ニ依リ引渡ササル物品ノ價格カ輸出セラルル物品ノ、、、、(註四)ノ國境ノ價格(關稅ヲ含マス)又ハ、、、、(註五)ノ甲板渡ノ價格ノ六割ヲ超エサルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ

物品カ關係債權國政府ノ殖民地又ハ屬地ニ送付セラルルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ

二　契約當事者ハ前記約束ノ不履行ニ對スル違約金又ハ損害賠償金ノ支拂ヲ約スル條項ニシテ受領國ノ法令ニ違反セサルモノヲ契約中ニ挿入

スルノ權利ヲ有ス

三　再輸出ノ禁止ニ違反スル同盟國ノ買主ハ賠償契約ヲ爲スノ權利ヲ二年間喪失スヘシ再輸出アリタリヤ否ヤニ關シ債權國ト獨逸政府トノ間ニ意見ノ相違ヲ生スルトキハ兩當事者ハ倫敦協定及本規程ノ意義ニ於ケル再輸出アリタリヤ否ヤヲ決定スヘキ仲裁裁判者ヲ指名スヘキコトヲ本規程第十一條ニ基キテ設置セラルル仲裁裁判所ノ裁判長ニ要求スヘシ

（註一）　例ヘハ佛蘭西國ニ於ケル

（註二）　例ヘハ拂蘭西國ノ港ニ於ケル

（註三）　特別委員會ハ各政府カ其ノ賠償引渡物品ヲ再輸出スル場合ノ制裁ヲ規定セサリキ蓋シ右ノ如キ行爲ハ明カニ倫敦協定ニ反スルモノナレハナリ

（註四）　例ヘハ佛蘭西國ニ於ケル

（註五）　例ヘハ佛蘭西國ノ港ニ於ケル

第十一條　仲裁裁判

賠償委員會、引渡委員會若ハ債權國ノ一ト獨逸國政府トノ間ニ本規程ノ解釋若ハ適用ニ關シ紛爭ヲ生スルトキ又ハ一債權國若ハ賠償委員會ニ於テ獨逸國政府カ倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)ノ第一項ニ基キテ有スル義務ヲ履行セスト認ムルトキハ右紛爭ハ當事者ノ合意ニ依リ指名セラルル一名又ハ三名ノ仲裁裁判者ニ付セラルヘク右合意ヲ得サルトキハ倫敦協定第二附屬書第一條項ニ依リ設ケラルル仲裁裁判所ニ依リ指名セラルル三名ノ仲裁裁判者ニ附セラルヘシ

仲裁判決ヲ爲ス前ニ於テ且係爭問題ニ影響ヲ及ホスコトナク仲裁裁判者ハ何レカノ當事者ノ發議アルトキハ當事者ノ利益保護ノ爲必要ナル暫行的措置ヲ命スヘシ

第十二條　違反及詐欺

一　債權國政府、獨逸國政府竝巴里ニ於ケル賠償委員會及獨逸國政府ノ各事務所ハ情報交換ニ依リ本規程ノ違反又ハ本規程ニ基キテ承認セラレタル契約ノ履行ニ關スル詐欺ヲ防遏スル爲一切ノ手段ヲ講スヘシ

二　賠償委員會ニ依ル契約ノ承認後關係債權國及獨逸國政府ハ契約ノ履行ニ付本規程ノ違反又ハ詐欺アリヤ否ヤヲ確ムルノ爲各自國內ニ於テ其ノ必要ナリト思考スル調査ヲ爲スコトヲ得賠償委員會事務所又ハ關係債權國ニ對シ引渡カ現實ニ爲サレタリヤ否ヤヲ判斷スルコトヲ得ヘキ貨物引渡證又ハ其ノ他ノ證據ヲ要求スル等ノ調査ヲ時時爲スコトヲ得

三　關係債權國又ハ獨逸國政府（其ノ事務所ヲ通シ）ハ契約ニ關スル右調査ヲ物サムトスルノ意思ヲ賠償委員會事務所ニ通告シ且右調査ノ結果ヲ證據書類ト共ニ同事務所ニ送付スヘシ

賠償委員會事務所ハ各場合ニ應シ關係債權國又ハ巴里ニ於ケル獨逸國事務所ニ右情報ヲ通知スヘク又其ノ爲シタル調査ノ結果ヲ關係債權國及巴里ニ於ケル獨逸國事務所ニ通知スヘシ

四　本國政府ニ依リ本規程ノ故意ノ違反又ハ詐欺ヲ爲シタリト認メラルル買主ノ氏名ハ關係債權國ヨリ賠償委員會事務所ニ通告セラルヘク同事務所ハ之ヲ獨逸國事務所ニ通知スヘシ

獨逸國政府ニ依リ本規程ノ故意ノ違反又ハ詐欺ヲ爲シタリト認メラルル賣主ノ氏名ハ獨逸國事務所ニ依リ賠償委員會事務所ニ通告セラルヘク獨逸國事務所ハ右決定ニ關スル理由ヲ供給スヘシ賠償委員會事務所ハ之ヲ一切ノ債權國政府ニ通知シ且特ニ關係アル國ノ政府ニ右理由ヲ

通報スヘシ

右通告ノ日ヨリ二年間賠償委員會事務所ハ氏名ノ通告セラレタル賣主又ハ買主カ契約當事者ノ一タル一切ノ契約ノ承認ヲ拒絕スヘシ

關係國政府ハ本條ニ基キ獨逸國政府ニ依リテ執ラレタル特殊ノ措置カ倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)第一項ノ規定ニ違反スト認ムルトキハ本規程第九條ニ依リテ定メラルル仲裁裁判所ニ右措置ノ取消ヲ訴フルノ權利ヲ有スヘシ

五　契約ニ基ク最終支拂前ニ買主又ハ賣主ノ何レカ一方カ其ノ本國政府ニ依リ本規程ノ故意ノ違反又ハ詐欺ヲ爲シタリト認メラレ且其ノ氏名カ前記四ノ規定ニ依リ賠償委員會事務所ニ通告セラレタルトキハ賠償支拂取扱人ハ右契約ニ關スル爾後ノ支拂ヲ爲ササルヘク且同盟國人タル買主及獨逸國人タル賣主ハ其ノ間ニ於テ直接ニ該契約ノ履行ヲ繼續スヘキモノトス

第十三條　本規程ノ改訂

本規程ハ四月一日ヨリ實施セラルヘキ改訂ヲ二年毎ニ加ヘラルルコトヲ得第一回ノ改訂ハ千九百二十七年四月一日附トス

第一回ノ改訂ノ要求ハ債權國ノ一、賠償委員會、引渡委員會（引渡委員會ノ關スル限リ）又ハ獨逸國政府ニ依リ改訂ノ年ノ一月一日前ニ賠償委員會事務所ニ提出セラルヘシ

改訂ハ本規程ヲ作成シタル委員會ト同一ノ方法ニ依リ構成セラレ且之ト同一ノ權限ヲ有スヘキ特別委員會ニ依リテ爲サルヘシ

本規程ハ佛蘭西語、英吉利語及獨逸語ヲ以テ作成セラレ解釋ニ關シテハ右三本文ヲ以テ共ニ正文トス尤モ解釋ニ關シ仲裁裁判ニ付シタル場合ニ於テ且仲裁裁判所ノ判決アル迄ハ關係債權國ニ依リ實物引渡ノ適當ナル實行上最有利ナリト認メラルル解釋ヲ以テ正當ナルモノト爲スヘシ

千九百二十五年三月六日巴里ニ於テ作成ス

特別委員會ヲ代表シテ

議長マルク、ワレンベルク

附屬書一

（本附屬書ハ佛蘭西語、英吉利語及獨逸語ヲ以テ作成セラレ解釋ニ關シテハ獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス）

表

甲　「賠償」勘定ニテ引渡スコトヲ得サル物品

乙　制限物品

丙　賠償支拂取扱人ノ資金中ヨリ一部ノミ支拂ヲ爲シ得ル物品

丁　制限カ特別特別委員會ニ依リテ決定セラレタル制限物品

甲表　「賠償」勘定ニテ引渡スコトヲ得サル物品（註一）

第一類

(イ)　獨逸國ノ領域內ニテ加工セラレサリシ外國產ノ一切ノ物品

(ロ)　輸入原料品ヲ以テ製造セラレタル食料品

(ハ)　金、白金及銀ノ製品

第二類　契約締結ノ時ニ於テ輸出ヲ禁止セラレ居ル工業生產品

第三類　各種ノ工業生產品

(イ)　屑鐵及屑鋼（八四三イ）

(ロ)　鞣皮及毛皮（一五三乃至一五五）

(ハ)　紙屑、反古等（六七三イ）

(ニ)　屑絲、屑綿等、機織屑及其ノ他ノ屑ニシテ製紙ニ使用セラルルモノ（五四三ロ）

第四類　各種ノ農業生產品

(イ)　亞麻(二八ハ及ニ)及大麻(二八ホ)

(ロ)　各種ノ穀類(一乃至八(油糟)一九三)及野菜類(一一及一二)但シ乙表ニ揭クルモノ及乾菜類ヲ除ク

(ハ)　牛乳及バター(一三三及一三四)卵(一三六)蜂蜜(一三九及一四〇)

(ニ)　馬鈴薯(二三)

(ホ)　甜菜(二五)

(ヘ)　穀類製食麵麭類(一六二イロ但シ一六二ハヲ除ク)

(ト)　獸脂(一二六乃至一三二)動物性肥料(一六一)

(チ)　丸太材但シ坑內支柱ヲ除ク

乙表　制限物品(註二)

一　「コールタール」(二四四イ)及「ヴエルサイユ」條約第八編第五附屬書八ノ末項ニ揭クル其ノ他ノ生產品

二　「ベンゾール」(二四五イ)

三　「パラフイン」(二五〇及二五一)

四　耐火粘土(二二三及二二六但シ硅岩ヲ除ク)

五　各種ノ農業生產物

(イ)　「ピクトリア、ピーズ」(一一ロヲ除ク)

(ロ)　含油果實(一三乃至一七)

(ハ)　家畜(一〇〇乃至一〇七)

(ニ)　各種ノ農業用種子、育種場培養物

(ホ)　幼魚及魚卵

尙輸出禁止貨物ノ輸出許可ノ日ヨリ二年間引續キ本乙表中ニ記載セラルヘシ

(註一)(註二)　括弧內ノ數字ハ獨逸國ノ物品統計表ノ物品ノ番號ナリ

丙表　賠償支拂取扱人ノ資金中ヨリ一部ノ支拂ノミヲ爲シ得ル物品

本表ハ實物引渡規程第三條四乃至六ニ揭ケラルル修正濟ノ表ナリ

類別目次

類別

一　鐵以外ノ一切ノ卑金屬ノ鑛材、半製品、粗製品及精製品ニシテ鑄造又ハ延展セラレタルモノ

二　銑鐵、粗鋼、鐵ノ合金

三　電線、蓄電池、電信電話線、電極

四　化學製品、人造肥料、鞣皮製品

五　油及脂肪工業製品、鑛油、「ベンヂン」、臘、魚油、藥用植物及樹皮

六　護謨、「コルク」製品、石綿製品

七　絹、羊毛、綿、其ノ他ノ植物性纖維原料

八　上等皮(加工品)、生毛皮、剝製動物

九　皮類、獸皮未製品、足袋類、馬具、高級柔皮製品、手袋、未加工皮革製調帶、各種柔皮製品

一〇　帶、塗刷毛及其ノ他ノ刷毛類、羽蒂、麥稈眞田製品

一一　檀及家具類、鉛筆、石磐、海綿、「ボタン」(布著セ「ボタン」ヲ除ク)、彫刻可能ナル動物生成物、裝飾用羽毛、煙草、木質「パルプ」

(細目及附屬書省略)

●實物引渡規程第十三條ニ依リ同規程改訂要求アラハ改訂ヲ爲シ得ルノ件

(昭和二年三月十二日外務省告示第十二號)

大正十五年三月五日附外務省告示第十九號實物引渡規程第十三條ニ依リ同規程改訂ノ要求ヲ昭和二年二月一日前ニ賠償委員會事務所ニ提出シタルモノナク仍テ規程ノ改訂ヲ爲ササルコトニ決定セル處賠償委員會ト獨逸國政府トノ合意ニ基キ昭和三年一月一日前ニ改訂ノ要求アラハ同年四月一日ヨリ改訂ヲ爲シ得ルコトトナレリ

●「ドーズ」案ノ第二年度年次金ノ優先負擔トナルベキ占領軍、「ライン」地方高級委員會及軍事監督委員會ノ經費ノ割當金額決定

(昭和二年十一月二十八日外務省告示第六十五號)

「ドーズ」案ノ第二年度年次金ノ優先負擔トナルベキ占領軍、「ライン」地方高級委員會及軍事監督委員會ノ經費ノ割當金額ハ大正十四年九月二十一日ニ決定セラレタル處(大正十五年二月二十七日附官報外務省告示第十七號參照)今般大正十五年四月一日ヨリ昭和五年一月十日迄ノ分ニ關シ昭和二年一月十三日巴里ニ於テ左ノ通決定セラレタリ

協定

下名ニ依リ夫々代表セラルル白耳義國、亞米利加合衆國、佛蘭西國、「グレート、ブリテン」國、伊太利國、日本國、「ブラジル」國、希臘國、「ポーランド」國、「ポルトガル」國、「ルーマニア」國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及「チエッコスロヴァキア」國ノ政府ハ左ノ如ク協定セリ

千九百二十六年四月一日ヨリ千九百三十年一月十日ニ至ル期間ノ占領軍「ライン」地方高級委員會及軍事監督委員會ニ對シ專門家計畫ノ年次金中ヨリ割當テラルベキ金額ニ關スル協定

第一條　占領軍

一　千九百二十六年四月一日ヨリ千九百三十年一月十日迄ノ期間又ハ占領地帶ノ變更アル迄「ライン」地方協定ニ基ク一切ノ種類ノ給付及役務ノ經費ヲ包含スル占領軍ノ總經費ニ關シ專門家計畫ノ年次金ニ對スル優先負擔トシテ認メラルベキ金額ハ左記ノ如ク分配セラルル每年一億四千百萬金貨「マルク」ノ基礎ニテ計算セラルベシ

佛蘭西國軍隊……一億金貨「マルク」

英吉利國軍隊……二千五百萬金貨「マルク」

白耳義國軍隊……一千六百萬金貨「マルク」

右數字ハ左ノ兵員ニ相當スルモノニシテ且最高額ヲ爲スモノトス

佛蘭西國軍隊……六萬

英吉利國軍隊……七千九百

白耳義國軍隊……八千九百

二　千九百二十六年四月一日ヨリ八月三十一日迄ノ期間及爾後各六月間ノ各占領國ニ對スル割當ハ其ノ最高割當額ノ範圍內ニ於テ且關係國ノ

左ノ何レカノ選擇ニ依リ決定セラルベシ

(イ) 前記期間中ニ於ケル實員數ト前記ノ基礎的兵員トノ割合

(ロ) 「ライン」地方協定第八條乃至第十二條ニ基ク給付及役務以外ノ經費ニハ千九百二十二年三月十一日ノ大藏大臣協定第一條第一項及第四項ヲ適用シ又「ライン」地方協定第八條乃至第十二條ニ基ク給付及役務ノ經費ハ右給付及役務ニ關スル最終ノ借記額ヲ基礎トス

三　(イ)ノ方法ヲ採用スル關係國ハ千九百二十二年三月十一日ノ協定ノ適用ニ關スル現行規則ニ從ヒ自國ノ兵員及月割平均費用ノ認證明細書ヲ提出スベシ

(ロ)ノ方法ヲ採用スル關係國ハ自國ノ月割平均人員ノ認證明細書ヲ提出スベシ

四　「ライン」地方協定第八條乃至第十二條ニ基キ千九百二十六年四月一日前ニ供給セラレタル給付及役務ハ引續キ千九百二十五年九月二十一日ノ協定ノ規定ニ依リ精算セラルベシ

五　千九百二十六年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ノ期間及第三年度ノ前半六月間ノ假割當額ハ第一項ノ最高額ニ基キ定メラルベシ爾後假割當額ハ賠償委員會ノ一致ノ決議ニ依リ定メラルベシ該委員會ハ原則トシテ(イ)ノ方法ヲ採用シテ右割當額ヲ定ムベシ尤モ千九百二十六年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ノ期間ト前記第三年度ノ前半六月間トノ間ニ於テ關係國中ノ一國內ノ小賣價格カ騰貴シタル場合ニハ賠償委員會ハ右價格ノ騰貴ノ影響ヲ能フ限リ正確ニ計算スベキ騰貴ノ係數ヲ(イ)ノ方法ノ採用ニ依リ算出セラルル數字ニ適用スベシ

假割當額ト實際ノ取分額トノ間ニ於ケル必要ナル整理ハ其ノ判明スルヲ待チ直ニ之ヲ行フベシ

第二條　同盟國「ライン」地方高級委員會

千九百二十六年四月一日以降ノ同盟國「ライン」地方高級委員會ニ關スル最高年次負擔額ハ「ライン」地方協定ニ基ク一切ノ給付及役務、經費ヲ含ミ三百三十三萬五千金貨「マルク」ニ必要ニ應ジ外國通貨又ハ獨逸國通貨ニテ支拂ハルベキモノトス)ヲ超過セザルベシ右金額ハ佛蘭西國、英吉利國及白耳義國ノ高級委員部ノ間ニ左ノ如ク割當テラルベシ

佛蘭西國高級委員部……百五十三萬五千金貨「マルク」

英吉利國高級委員部……九十萬金貨「マルク」

白耳義國高級委員部……九十萬金貨「マルク」

千九百二十六年四月一日ヨリ八月三十一日迄ノ期間ニ對シテハ前記年次額ノ十二分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ズ

右金額ハ必要ニ應ジ且必要ナル程度ニ於テノミ引出サルベク同盟國「ライン」地方高級委員會ハ每六月末ニ「ライン」地方協定ニ基キ各委員部ガ其ノ職務ノ實行ニ付實際支拂ヒタル經費ノ認證明細書ヲ賠償委員會ニ送付スベシ

每年度末ニ於ケル節約額ハ千九百二十五年一月十四日ノ大藏大臣協定ノ規定ニ從ヒ、專門家計畫ノ年次金トシテ獨逸國ヨリ受領スル額ニシテ賠償トシテノ分配ニ使用セラルルモノノ分配ニ參加スル權利ヲ同協定ニ依リテ有スル國ノ間ニ分配スル爲共同ノ賠償資金ニ拂込マルベシ

千九百二十四年九月一日ヨリ千九百二十五年八月三十一日迄ノ期間ニ對シ「ライン」地方協定第六條ニ基キ獨逸國政府ガ提出シタル未拂要求額ニシテ正當トセラルベキモノヲ支辨スル爲關係同盟及聯合國政府ハ前記金

額ニ加フルニ高級委員會ノ請求ニ依リ專門家計畫ノ第一年度中同委員會ニ依リ爲サレタル節約額ヲ超過セザル額(約五十五萬金貨「マルク」)ヲ年次金中ヨリ其ノ使用ニ供スベシ

本條ノ規定ハ千九百三十年一月十日迄又ハ現在ノ占領地帶ノ變更アル迄效力ヲ存續ス

第三條　同盟國軍事監督委員會

千九百二十五年九月二十一日ノ協定第三條ノ規定ハ專門家計畫ノ第三年度末迄效力ヲ有スル尤モ前條第一項ニ定ムル最高額ハ右第三年度ニ付テハ一月三十五萬金貨「マルク」ニ減額セラルベシ

本協定ハ佛蘭西語及英吉利語ヲ以テ本書一通ヲ作成シ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託スベク同國政府ハ其ノ認證謄本ヲ各署名國ニ送付スベシ

本協定ノ解釋ニ關シテハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス

モークレール
ギュット
アール、ダブリュー、エス、ヒル
ダブリュー、エー、グッドチャイルドコルシ
山路鎭夫
モニイズ、デ、アラガオ
カラパノス
フェルナンデス
コンデュラキー
ドクトル、プロジュ
ステファン、オススキー

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

千九百二十七年一月十三日巴里ニ於テ
(右英佛文略ス)

●同盟國國際委員會ト勃爾牙利國政府間ニ成立シタル同國賠償支拂ニ關スル議定書竝修正修補議定ノ件

(大正十四年三月五日外務省告示第三十一號)

大正十二年五月一日賠償委員會ハ同年三月二十一日同盟國國際委員會ト勃爾牙利國政府トノ間ニ成立シタル左記(甲)ノ同國賠償支拂ニ關スル議定書ヲ或留保ヲ附シテ承認シタルカ其ノ後右留保ニ關シ同盟國國際委員會ト勃爾牙利國政府トノ間ニ商議ヲ重ネタル結果右議定書附屬支拂計畫書ニ對シ左記(乙)ノ修正及追補ヲ爲スコトニ協定纏リ賠償委員會ハ同年九月五日之ヲ承認セリ

(甲)　議定書

勃爾牙利國總理大臣外務大臣「アレキサンドル、スタムボーリスキー」ヲ一方トシ

對勃爾牙利國同盟國國際委員會議長英帝國代表者「サー、エリオット、コルヴィン」
佛蘭西共和國代表者全權公使伯爵「ルネ、ドゥ、シェリゼイ」
伊太利王國代表者全權公使伯爵「ディ、カロビオ」ヲ他ノ一方トスル
下名ハ「ヌイイー」條約第百二十一條及第百二十二條ノ規定ノ實施ノ爲左ノ如ク協定セリ

第一條　「ヌイイー」條約第百二十一條ニ規定スル勃爾牙利國賠償債務ハ之ヲ甲種割賦及乙種割賦ノ二種ニ分ツヘシ

イ　甲種割賦ハ同條約第七編附屬書一ノ第五項ニ掲ゲタル第一順位ノ債務ヲ除キ五億五千萬金貨「法」ト決定ス右金額ハ利子五分トシ本議定書附屬支拂計畫書ニ從ヒ六十年間毎半年ニ支拂ハルヘシ
第一回支拂ハ千九百二十三年十月一日ニ之ヲ爲スヘシ

ロ　乙種割賦ハ賠償債務ノ殘額ヨリ成ル此ノ割賦ハ千九百五十三年四月一日前ニ勃爾牙利國ニ對シ之ヲ要求スルコトナカルヘシ且無利子トス「ヌイイー」條約第百三十六條、第百四十二條及第百四十五條ニ依リテ勃爾牙利國ノ貸方ニ計上セラルル金額ハ同日（千九百五十三年四月一日）ニ於テ乙種割賦ヨリ之ヲ差引クヘク且無利子タルヘシ
「ヌイイー」條約第百二十二條ノ規定ハ右ノ殘額ニモ適用アルモノトス

第二條　勃爾牙利國政府ハ同王國憲法第四十七條ニ基キ公布セラレタル千九百二十三年三月十六日附勅令第十號ノ規定ニ依リ關稅收入ヲ前記ノ支拂ノ擔保ニ充ツルコトヲ約ス右勅令ノ本文ハ附屬書ニ之ヲ掲ク

第三條　勃爾牙利國政府ハ前條ニ規定シタル關稅收入カ第一條ニ規定シタル支拂計畫書ニ定メラルル金貨「法」ノ金額ニ其ノ一割ヲ加ヘタルモノヨリ少カラサル樣注意スヘシ

第四條　勃爾牙利國政府及對勃爾牙利國同盟國國際委員會ハ「ヌイイー」條約第百二十一條第八項、第九項、第十項及第十一項ノ適用問題ヲ賠償委員會ニ付託スヘシ

第五條　勃爾牙利國ハ「ヌイイー」條約第百二十三條ニ規定スルカ如ク支拂計畫書ニ規定スル金額ノ全部又ハ一部ヲ規定期日前ニ支拂フノ權利ヲ保有ス

第六條　同盟國國際委員會ノ承諾ハ留保附ニシテ賠償委員會ニ依ル本協定ノ承認ヲ條件トス

第七條　新議會召集ト共ニ勃爾牙利國政府ハ本議定書及上記ノ勅令ニ對シ議會ノ承認ヲ求ムヘキコトヲ約ス右勅令ハ右ノ時迄法律的效力ヲ有スヘシ支拂計畫書及本議定書ハ右勅令ニ代ルヘキ法律ノ中ニ之ニ再錄スヘシ

第八條　千九百二十三年三月二十一日「ソフィア」ニ於テ本議定書二通ニ署名シタリ一通ハ勃爾牙利國政府之ヲ保有シ他ノ一通ハ同盟國國際委員會之ヲ保有ス

アー、スタムボーリスキー
イー、コルヴィン
ヴイ、デイ、カロビオ
伯爵「ルネ、ドゥ、シエリゼイ」ノ命ニ依リ之ニ代リテ
モンマラン
支拂計畫書
（千九百二十三年三月二十一日附議定書附屬書）

年	度	每半期支拂
千九百二十三―千九百二十四年	前半期二、五〇〇、〇〇〇	千九百二十三年十月一日
同	後半期二、五〇〇、〇〇〇	千九百二十四年四月一日
千九百二十四―千九百二十五年	前半期三、〇〇〇、〇〇〇	千九百二十四年十月一日
同	後半期三、〇〇〇、〇〇〇	千九百二十五年四月一日
千九百二十五―千九百二十六年	前半期三、五〇〇、〇〇〇	千九百二十五年十月一日
同	後半期三、五〇〇、〇〇〇	千九百二十六年四月一日
千九百二十六―千九百二十七年	前半期四、〇〇〇、〇〇〇	千九百二十六年十月一日
同	後半期四、〇〇〇、〇〇〇	千九百二十七年四月一日
自千九百二十七―毎前半期至千九百三十二―毎後半期	五、〇〇〇、〇〇〇	十月一日
自千九百二十七―毎前半期至千九百三十三年―毎後半期	三、〇〇〇、〇〇〇	四月一日
自千九百三十三―毎前半期千九百三十四年―毎後半期至千九百八十二―毎後半期千九百八十三年	二一、六九七、六六八	十月一日
	二一、六九七、六六八	四月一日

アルスタムボーリスキー
イー、コルヴィン
ヴイ、デイ、カロビオ
伯爵「ルネ、ドゥ、シエリゼイ」ノ命ニ依リ之ニ代リテ
モンマラン
勅令第十號
神佑ヲ保有シ民意ヲ代表スル勃牙利國皇帝「ボリス」第三世ハ千九百二十三年三月十六日附第三百七十五號報告書ニ於テ爲サレタル總理大臣兼外交及宗教大臣ノ提案ニ基キ茲ニ勃爾牙利國憲法第四十七條ニ依ル內閣ノ決定ニ從ヒ左ノ勅令ヲ發布ス

第一條　「ヌイイー」條約第百二十一條ニ規定セラルル勃爾牙利國賠償債務ノ支拂ヲ規則的ニ實行スル爲ノ保障トシテ關稅收入ハ對勃爾牙利國同國國際委員會ト協議ノ上決定セラレ且後ニ公布セラルヘキ支拂計畫書ニ規定セラルル年次金ノ支拂ニ之ヲ振當ツヘシ

第二條　「關稅收入」ナル語ハ千九百二十二―千九百二十三年ノ豫算第十一節、第十二節及第十三節ニ掲ケル租稅及課金即チ
(イ)輸入品ニ對スル關稅及從價稅
(ロ)輸出品ニ對スル關稅及從價稅
(ハ)保稅倉庫料、統計稅、封印料其ノ他ノ稅關ノ課金
ヲ包含ス

第三條　徵收セラレタル關稅收入ハ國立銀行ニ於ケル國庫ノ特別勘定甲中ニ拂込マルヘシ右特別勘定甲ハ預金部トシテ行動スル國立銀行ニ依リ管理セラルヘク且其ノ直接ノ責任ノ下ニ置カルヘシ
右勘定甲中ヨリ銀行ハ賠償ノ爲支拂フヘキ年次金ノ十二分ノ一ニ均シキ金貨「法」ノ額ヲ國庫ノ爲最有利ナル條件ニテ且勃爾牙利國ノ勘定ノ爲ニ買入ルルニ必要ナル額ヲ取出スヘシ
國立銀行ハ直ニ右ノ金貨「法」ヲ特別勘定乙ニ振込ムヘシ右勘定乙ハ金貨「法」ヲ以テ表示セラレ無利子ニシテ且對勃爾牙利國同盟國國際委員會ノ名ニ於テ開カルルモノトス
第一條ニ掲ケル支拂計畫書ニ基ク一切ノ月次支拂額カ完全ニ支拂ハルル迄ハ勘定甲中ヨリ引出ヲ爲スコトヲ得ス右金額カ支拂ハレタル後ハ勘定甲ノ殘額ハ國庫ノ一般勘定ニ振込マルルコトヲ得

二十三年三月十六日附第三百七十五號報告書ニ於テ爲サレタル總理大臣

第四條　同盟國國際委員會ノ特別勘定ニ對スル拂込ハ各月十五日ニ於テ所定ノ年次金ノ十二分ノ一ノ額迄爲サルヘシ斯クテ各年ノ九月十五日及三月十五日ニ爲サルル月次支拂ハ十月一日及四月一日ヲ以テ終ル各半年ニ對スル金貨「法」ノ額ヲ完濟スルニ必要ナル額ノ支拂ヲ完了スルモノトス

第五條　勃爾牙利國國立銀行ハ同盟國國際委員會ノ特別勘定ニ爲サレタル各支拂ヲ直ニ同委員會ニ通知スヘシ委員會ハ何時ニテモ國庫ノ關稅收入特別勘定ヲ檢査スルコトヲ得

第六條　徵收セラレ且國庫ノ特別勘定ニ拂込マルル額カ同盟國國際委員會ノ特別勘定ニ對スル各半年ノ所定支拂額ニ達セサルトキハ勃爾牙利國ノ國立銀行ハ國庫ノ一般勘定ヨリ委員會ノ特別勘定ニ對スル各半年ノ支拂ヲ完了スル爲必要ナル額ヲ國庫ノ一般勘定ヨリ引出スヘシ

第七條　賠償年次金ノ支拂ニ必要ナル額ヲ各年ノ國家豫算中ニ計上スヘシ

本勅令ノ實施ハ之ヲ大藏大臣ニ委任ス

千九百二十三年三月十六日「ソフィア」ニ於テ

御　名

總理大臣兼外務及宗教大臣

アル、スタムボーリスキー（副署）

國　璽

本勅令ハ千九百二十三年三月二十二日第八百五十六號トシテ登錄セラレタリ

國璽尚書司法大臣

エス、ドゥーバリノフ

（乙）修正及追補

千九百二十三年十月一日	千九百二十三―二十四年	前半期二、五〇〇、〇〇〇
千九百二十四年四月一日	同	後半期二、五〇〇、〇〇〇
千九百二十四年十月一日	千九百二十四―二十五年	前半期三、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十五年四月一日	同	後半期三、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十五年十月一日	千九百二十五―二十六年	前半期三、五〇〇、〇〇〇
千九百二十六年四月一日	同	後半期三、五〇〇、〇〇〇
千九百二十六年十月一日	千九百二十六―二十七年	前半期四、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十七年四月一日	同	後半期四、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十七年十月一日	自千九百二十七年至千九百二十八年	每前半期五、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十八年四月一日	至千九百三十一年	每後半期五、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十八年十月一日	千九百三十二年	前半期一〇、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十九年四月一日	千九百三十二―三十三年	後半期一〇、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年十月一日	千九百三十三―三十四年	前半期一六、四四七、六六八
千九百三十一年四月一日	同	後半期一六、四四七、六六八
千九百三十一年十月一日	自千九百三十四年至千九百八十三年	每前半期二一、六九七、六六八
千九百三十二年四月一日		每後半期二一、六九七、六六八

附記「ヌイイー」條約第百二十一條第七項ノ規定ハ本支拂計畫書ニ規定スル年次金ノ全部又ハ年次金ノ割賦ニ適用セラルヘキモノトス必要ノ場合ニハ此等年次金ノ實物ニ依ル支拂カ提議セラレ且承諾セラルルコトヲ得

（右英文略ス）

千九百二十三年十月一日
千九百二十四年四月一日
千九百二十四年十月一日
千九百二十五年四月一日
千九百二十五年十月一日
千九百二十六年四月一日
千九百二十六年十月一日
千九百二十七年四月一日
千九百二十七年十月一日
千九百三十年十月一日
千九百三十一年四月一日
千九百三十一年十月一日
千九百三十二年四月一日
千九百三十三年十月一日
千九百三十四年四月一日

二十年間洪牙利國ニ課セラルヘキ條約上ノ負擔額ニ關スル賠償委員會ノ決定

（大正十四年三月五日外務省告示第三十二號）

賠償委員會ハ二十年間洪牙利國ニ課セラルヘキ條約上ノ負擔額ニ關シ大正十三年二月二十一日左ノ如ク決定セリ

二十年間洪牙利國ニ課セラルヘキ條約上ノ負擔額ニ關スル賠償委員會ノ決定

賠償委員會ハ

洪牙利國財政ノ現狀ニ鑑ミ

千九百二十三年十月十七日ノ本委員會決議ノ要請ニ基キ國際聯盟理事會ノ洪牙利國委員會ヨリ本委員會ニ送附シ來レル第一議定書及第二議定書竝千九百二十三年十二月二十日附國際聯盟財政委員會報告書ノ三ヨリ成ル洪牙利國財政復興ニ關スル國際聯盟案ヲ了承シ

右國際聯盟案ニ於テ計畫セラレタル洪牙利國財政復興公債ニ對シ充分ナル應募ヲ見ルコトハ洪牙利國及洪牙利國ニ對スル賠償債權國ノ利益ノ爲緊要ナルコト然レトモ右ノ如キ公債ノ發行期日前ニ「トリアノン」條約第百六十三條ニ基キ洪牙利國ノ補償スヘキ損害ノ總額ヲ決定シ、同國ニ右債務ノ一部ヲ割當テ及右割當テラレタル債務ノ保障及履行ノ爲支拂計畫ヲ調製スルコト不可能ナルニ鑑ミ

尙右案ノ公債ニ對スル應募ハ該案中ニ揭ケラレタル洪牙利國ノ對外債務賠償及監督委員長ノ權限ニ關スル勸告カ賠償委員會ノ承認ヲ得ヘキコト從テ「トリアノン」條約ニ基ク賠償及其ノ他ノ債務ノ爲洪牙利國ニ課セラルヘキ負擔（該條約成立前ニ存在シタル洪牙利國又ハ洪牙利國國民ノ債務ニ關シ該條約ニ依リ發生スル負擔アリトセハ之ヲ一切除キ）カ本決定ノ日ヨリ二十年間本決定ノ附屬書ニ揭ケタル金額ヲ超エサルヘク且該案ノ規定スル條件ニ從フヘシトノ了解ノ下ニ爲サルヘキコトヲ認メ前記金額ノ支拂ヲ所定期日ニ爲スヘシトノ千九百二十四年二月二十一日ノ洪牙利國政府ノ約束ヲ了承シ左ノ如ク決定セリ

千九百二十四年一月一日ヨリ千九百四十三年十二月三十一日迄洪牙利國カ賠償義務ニ關シ爲スヘキ支拂及引渡ハ前記ノ案ニ從ヒ且同案ニ揭ケラレタル條件ノ下ニ本決定ノ附屬書所揭ノモノタルヘシ尤モ右二十年中ニ洪牙利國カ賠償委員會ノ同意ヲ經テ賠償勘定以外ノ條約上ノ支拂又ハ引渡（戰爭前ニ存在シタル洪牙利國又ハ同國國民ノ債務例ヘハ第百八十六條及第二百三十一條二揭クル債務竝第二百三十二條ニ揭クルカ如キ債務ニ關スル支拂又ハ引渡ヲ含マス）ヲ爲ストキハ右支拂額又ハ右引渡ノ價額ハ支拂計畫ニ定ムル當該期ノ支拂額ヲ超ユヘカラス又支拂計畫ニ揭クル當該期ノ洪牙利國債務額ヨリ之ヲ控除スヘキモノトス

支拂計畫ニ定ムル千九百二十七年乃至千九百四十三年ノ支拂額ヲ千九百二十四年、千九百二十五年及千九百二十六年ニ爲シタル引渡ノ價額又ハ支拂ニ加算シタル總額カ二億金貨「冠」ニ達セサルトキハ右不足額ハ千九百四十年、千九百四十一年、千九百四十二年及千九百四十三年ニ於テ每年其ノ四分ノ一ツツヲ支拂計畫ニ定ムル支拂額又ハ引渡額ニ追加シテ支拂ヒ又ハ引渡スヘシ又上記ノ總額カ二億金貨「冠」ヲ超ユルトキハ超過額ハ右ト同一ノ方法ニ依リ上記四年ノ支拂額又ハ引渡額ヨリ之ヲ控除スヘシ

尤モ第一議定書及第二議定書カ之ニ掲クル一切ノ政府ニ依リ又ハ其ノ代表者ニ依リテ千九百二十四年三月三十一日迄ニ適當ニ署名セラレサル場合又ハ國際聯盟カ前記ノ主タル復興公債ニ對スル應募金額ヲ考慮シタル上該議定書ニ掲ケラレタル復興案ヲ完了スルノ責任ヲ執ルヘキコトヲ千九百二十四年十二月三十一日前ニ賠償委員會ニ通告セサル場合ニハ本決定ハ失效スヘク玆ニ之ヲ宣言ス

國際聯盟理事會ハ第二議定書第二條及第七條ニ關シ理事會ニ於テ本決定ノ支拂計畫ニ掲クル支拂又ハ引渡カ本決定ニ從テ履行セラレサルコトヲ確認シタルトキハ復興案ニ從ヒ洪牙利國ノ財政監督ヲ再開スヘシトノ意味ニ解釋ストノ宣言ヲ來ル三月三十一日前ニ爲スヘキ了解ノ下ニ賠償委員會ハ本決定ヲ爲スモノナリ從テ本決定ハ理事會カ右宣言ヲ上記期日前ニ爲シタルトキ始メテ其ノ效力ヲ發生スヘシ

支拂又ハ引渡

（價格ハ金貨「冠」ヲ以テ之ヲ表示ス）

期間		
千九百二十四年一月一日至千九百二十六年十二月三十一日	勞働日一日當石炭八百八十噸ノ價額ニ相應スル金額迄時時賠償委員會ニ依リ許可セラルルコトアルヘキ實物引渡又ハ支拂	二、五〇〇、〇〇〇
千九百二十七年六月三十日		二、五〇〇、〇〇〇
千九百二十七年十二月三十一日		五、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十八年六月三十日		二、五〇〇、〇〇〇
千九百二十八年十二月三十一日		五、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百二十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百三十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百四十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百五十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百六十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百七十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十三年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十四年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十四年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十五年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十五年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十六年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十六年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十七年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十七年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十八年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十八年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十九年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百八十九年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十一年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十一年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十二年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十二年十二月三十一日		六、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十三年六月三十日		三、〇〇〇、〇〇〇
千九百九十三年十二月三十一日		六、〇〇

フト」

佛蘭西共和國大統領
　內閣議長外務大臣「アレキサンドル、ミルラン」
伊太利國皇帝陛下
　參議院議員「マッツヨリーノ、フェラーリス」
日本國皇帝陛下
　佛蘭國西駐劄日本國特命全權大使松井慶四郎
諾威國皇帝陛下
　佛蘭西國駐劄諾威國特命全權公使男爵「ヴェデル、ヤールスベルグ」
和蘭國皇帝陛下
　佛蘭西國駐劄和蘭國特命全權公使「ヨーン、ラウドン」
瑞典國皇帝陛下
　佛蘭西國駐劄瑞典國特命全權公使伯爵「エーレンスヴェルド」

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一條

締約國ハ熊島即チ「ベーレン、アイランド」ト共ニ緯度參經十度乃至三十五度、北緯七十四度乃至八十一度ノ間ニ存在スル一切ノ島嶼殊ニ西「スピッツベルゲン」島、北東島、「バーレンツ」島、「エッジ」島、「ウィッヘ」諸島、希望島即チ「ホーペン、アイランド」「ブランス、シァール」島竝附屬ノ島嶼及岩礁ヲ包含スル「スピツベルゲン」群島ニ對スル諸威國ノ完全無缺ナル主權ヲ本條約ノ規定ニ從ヒ承認スルコトニ一致ス（附屬地圖參照）

第二條

一切ノ締約國ノ船舶及國民ハ第一條所揭ノ地域及其ノ領水內ニ於ケル漁獵權ノ行使ヲ均等ニ許容セラルヘシ

諾威國ハ右地域及其ノ領水內ニ於ケル地方動植物ノ保存ヲ及必要アルトキハ其ノ繁殖ヲ確保スルニ適當スル措置ヲ維持シ、採用シ又ハ命令スルノ權能ヲ有ス尤モ此等ノ措置ハ一切ノ締約國ノ國民ニ常ニ均等ニ適用セラルヘク其ノ中ノ或一國ノ利益ノ爲直接又ハ間接ニ何等ノ免除、特權又ハ恩典ヲ設クヘカラサルモノトス

土地占有者ニシテ第六條及第七條ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ承認セラレタルモノハ(一)地方警察規則ノ條件ニ從ヒ住宅、家屋、倉庫、工場及土地開發ノ目的ヲ以テ爲サレタル設備ノ附近ニ於テ(二)企業又ハ開發事業ノ本據ヨリ十吉米ノ圈內ニ於テ其ノ有スル土地ノ上ニ排他的狩獵權ヲ享有スヘシ但シ右孰レノ場合ニ於テモ諾威國政府ノ本條ニ準據シテ制定スル規則ヲ遵守スヘキモノトス

第三條

一切ノ締約國ノ國民ハ事由及目的ノ如何ヲ問ハス第一條所揭ノ地域內ノ水域、峽江及港灣ニ到リ及之ニ寄航スルノ自由ヲ均等ニ有スヘシ右國民ハ當該地方ノ法令規則ヲ遵守スル限リ完全ナル均等ノ基礎ニ於テ海事上工業上、鑛業上及商業上ノ一切ノ作業ニ何等ノ障礙ヲ受クルコトナク從事スルコトヲ得ヘシ

右國民ハ陸上ニ於テモ領水內ニ於テモ海事上、工業上、鑛業上及商業上ノ一切ノ企業ヲ實行經營スルコトヲ同シク均等條件ノ下ニ許サルヘク企業ノ如何ヲ問ハス獨占權ハ決シテ之ヲ設定スヘカラサルモノトス

沿岸貿易ニ關スル諾威國現行ノ法規ノ如何ニ拘ラス第一條所揭ノ地域ヲ

發シ又ハ之ニ向フ締約國船舶ハ右地域ヨリ來リ若ハ之ニ向フ旅客若ハ貨物ヲ搭載シ若ハ陸揚スル爲ニ又ハ其ノ他ノ目的ノ爲ニ往航復航共諾威國港灣ニ寄航スルノ權利ヲ有スヘシ

一切ノ締約國ノ國民竝其ノ船舶及貨物ハ一切ノ點ニ關シ殊ニ輸出、輸入及通過ニ關シ諾威國ニ於テ最惠國待遇ヲ享受スル國民、船舶及貨物ニ適用セラレサル何等ノ負擔又ハ制限ヲ課セラルルコトナカルヘク諾威國ノ國民竝其ノ船舶及貨物ハ之カ爲他ノ締約國ノモノト同一視セラレ何レノ點ニ付テモ一層ノ優遇ヲ享ケサルヘキモノトス

締約國中ノ或一國ノ領域ニ仕向ケラルル貨物ノ輸出ニ課スル負擔及制限ハ他ノ締約國(諾威國ヲ含ム)又ハ別國ノ領域ニ仕向ケラルル同種ノ貨物ノ輸出ニ課スルモノト異リ又ハ之ヨリ重キモノニ非サルコトヲ要ス

第四條

諾威國政府ノ認許ニ依リ又ハ其ノ經營ノ下ニ第一條所揭ノ地域內ニ既ニ設置セラレ又ハ將來設置セラルヘキ公衆用無線電信局ハ千九百十二年七月五日ノ無線電信條約又ハ同條約ニ代フル爲締結セラルヘキ國際條約ノ定ムル條件ニ從ヒ各國ノ船舶及締約國ノ國民ノ通信ノ爲完全ナル均等ノ基礎ニ於テ常ニ之ヲ公開スルコトヲ要ス

不動產ノ所有者ハ自己ノ用務ノ爲ニ常ニ無線電信裝置ヲ架設利用スルコトヲ得ヘク該無線電信裝置ハ私用ノ爲ニ他ノ固定又ハ移動無線電信局(船舶上及航空機上ニ設ケラレタルモノヲ含ム)ト通信スルノ自由ヲ有スヘシ但シ戰爭狀態ヨリ生スル國際義務ニ從フモノトス

第五條

締約國ハ第一條所揭ノ地域內ニ國際測候所ヲ設置スルノ有益ナルコトヲ承認ス其ノ構成ハ後日ノ條約ニ依リ之ヲ規定スヘシ

右ノ地域內ニ於テ科學的研究ヲ行フノ條件モ亦條約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六條

締約國ノ國民ニ屬スル既得權ハ有效ト認メラルヘシ但シ本條ノ規定ヲ留保ス

本條約署名前ニ於ケル土地ノ占有又ハ先占ニ基ク權利ニ關スル請求ハ本條約附屬書ノ規定ニ從ヒテ處理セラルヘク該附屬書ハ本條約ト同一ノ效力ヲ有スヘシ

第七條

諾威國ハ第一條所揭ノ地域內ニ於ケル所有權(鑛業權ヲ含ム)ノ取得、享有及行使ノ方法ニ關シテハ締約國ノ一切ノ國民ニ對シ完全ナル均等ヲ基礎トシ且本條約ノ規定ニ準據スル待遇ヲ許與スルコトヲ約ス

公用徵收ハ公共ノ利益ヲ目的トシ且正當ナル補償金ノ支拂ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サルヘシ

第八條

諾威國ハ主トシテ各種ノ稅金、課金又ハ料金竝勞働ノ一般的及特別的條件ノ見地ヨリ締約國(諾威國ヲ含ム)中ノ一國又ハ其ノ國民ノ爲ノ一切ノ特權、獨占權又ハ恩典ヲ排斥シ且各種ノ有給從業員ニ對シ其ノ身體上、道德上及智能上ノ福祉ニ必要ナル給料及保護ノ保障ヲ確保スヘキ鑛業法規ヲ第一條所揭ノ地域ニ付制定スルコトヲ約ス

徵收スヘキ稅金、課金及手數料ハ專ラ右地域內ノ費途ニ供セラルヘク且其ノ目的ノ上正當ト認メラルル限度ヲ超過スルコトヲ得サルヘシ

特ニ鑛物ノ輸出ニ關シテハ諾威國政府ハ輸出稅ヲ設クルノ權能ヲ有スヘシ尤モ該稅ハ十萬噸以內ニ付テハ輸出鑛物ノ最高價格ノ百分ノ一ヲ超ユ

ルコトヲ得サルヘク其ノ超過噸數ニ付テハ遞減率ニ從フヘシ價格ハ本船積込値段ノ平均ヲ計算シテ航行可能季終了ノ際之ヲ決定スヘシ

諸威國政府ハ鑛業法規ノ草案ヲ同法實施ノ爲定メタル日ヨリ三月前ニ他ノ締約國ニ通知スルコトヲ要ス右ノ期間内ニ其ノ一國又ハ數國カ該規則ノ施行前其ノ修正ヲ爲スコトヲ提議シタルトキハ諸威國政府ハ締約國ノ各一名ノ代表者ヨリ成ル委員會ノ審議決定ニ付スル爲右ノ提議ヲ他ノ締約國ニ通知スヘシ該委員會ハ諸威國政府ニ依リテ招集セラルヘク且其ノ招集ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ決定ヲ爲スコトヲ要ス委員會ノ決定ハ表決ノ過半數ニ依ルヘシ

第九條

諸威國ハ其ノ國際聯盟加入ニ基キテ生スル同國ノ權利及義務ニ從フノ外第一條所揭ノ地域内ニ海軍根據地ヲ設置セス及其ノ設置ヲ容認セス且築城ヲ構設セサルコトヲ約ス前記地域ハ戰爭ノ目的ノ爲ニ之ヲ利用スルコトヲ得サルモノトス

第十條

締約國カ露西亞國政府ヲ承認スルノ結果露西亞國ヲシテ本條約ニ加入スルコトヲ得シムルニ至ル迄ノ間露西亞國ノ國民及會社ハ締約國ノ國民ト同一ノ權利ヲ享有スヘシ

右ノ國民及會社カ第一條所揭ノ地域内ニ於テ主張スルコトアルヘキ請求ハ第六條及本條約附屬書ノ定ムル條件ニ從ヒ丁抹國政府ノ仲介ニ由リ提出セラルヘク同政府ハ之カ爲周旋ヲ爲スコトニ同意ス

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ正文トシ批准ヲ要ス

批准書ノ寄託ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ爲スヘシ

政府カ歐羅巴以外ノ地ニ在ル國ハ巴里ニ於ケル自國ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ單ニ其ノ批准濟ノ旨ヲ通報スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

本條約ハ第八條ノ規定ニ關スル限リ各署名國ノ批准後直ニ實施セラルヘク其ノ他ノ點ニ關シテハ同條ニ規定スル鑛業法規ト同時ニ實施セラルヘシ

第三國ハ正當ニ批准セラレタル本條約ニ對スル加入ヲ佛蘭西共和國政府ニ依リテ招請セラルヘシ右ノ加入ハ佛蘭西國政府宛ノ通告ニ依リ行ハルヘク同政府ハ之ヲ他ノ締約國ニ通知スヘキモノトス

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ本書二通ヲ作成シ一通ハ之ヲ諸威國政府ニ送付シ他ノ一通ハ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託保存スヘク本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

ヒユー、シー、ウォレス　(印)
ダービー　(印)
ジョージ、エッチ、パーレー　(印)
アンドリュー、フィッシアー　(印)
トーマス、マッケンジー　(印)
アール、エー・ブランケンバーグ　(印)
ダービー　(印)
ハー、アー、ベルンホフト　(印)
アー、ミルラン　(印)
マッジョリー、フェラーリス　(印)

松井慶四郎　(印)
ヴェデル、ヤールスベルグ　(印)
イエー、ラウドン　(印)
ジエー、エーレンスヴェルド　(印)

(附屬地圖略ス)

(右英佛文略ス)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正九年二月九日佛蘭西國巴里ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十四年大正十三年十二月十六日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

攝政

外務大臣　男爵　幣原喜重郎

●同上條約第八條實施ノ件

(大正十四年九月三日外務省告示第七十號)

「スピッツベルゲン」ニ關スル條約第八條所定ノ鑛業法規ハ本年八月十四日ヨリ實施セラレタルニ依リ同條約(第八條ニ付テハ右條約參照)ハ同日ヨリ實施セラルルニ至リタル旨今般在本邦諸威國臨時代理公使ヨリ通知アリタリ

●「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ附屬書

(大正十四年一月二十日外務省告示第十二號)

大正九年二月九日巴里ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名調印シタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ附屬書左ノ通

附屬書

一　本條約署名前既ニ諸國政府ニ提出セラレタル一切ノ土地ノ請求ハ請求者ノ本國政府ヨリ該請求ノ審理ヲ擔當スル委員ニ對シ本條約實施ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ之ヲ通告スヘシ右委員ハ必要ナル資格ヲ有スル丁抹國民タル裁判官又ハ法律家ニシテ丁抹國政府ノ選任ニ係ルモノタルヘシ

二　該通告ハ請求地域ノ限界ヲ明確ニスヘク且請求地域ヲ明示スル百萬分一ヲ下ラサル梯尺ノ地圖ヲ之ニ添附スルコトヲ要ス

三　該通告ト同時ニ請求審理費用支辨ノ爲請求地域一「エーカー」(四十アール)ニ付一「片」ノ金額ヲ供託スルコトヲ要ス

四　委員ハ其ノ必要ト認ムル他ノ一切ノ文書、證書又ハ情報ノ提出ヲ請求者ニ求ムルコトヲ得ヘシ

五　委員ハ右通告アリタル請求ヲ審理スヘク之カ爲其ノ必要ト認ムル專門家ノ助力ヲ受ケ且必要ニ應シ實地調査ヲ行フコトヲ得ヘシ

六　委員ノ報酬ハ丁抹國政府及他ノ關係國政府協議シテ之ヲ定ムヘシ委員ハ其ノ使用ヲ必要ト認ムル補助員ノ報酬ヲ自ラ定ムヘシ

七　請求ノ審理後委員ハ直ニ承認スヘキモノト認ムル請求ト異議其ノ他ノ事由ノ爲後ニ揭クル仲裁裁判ニ付スヘキモノト認ムル請求トヲ精細ニ記載シタル報告書ヲ作成スヘク右報告書ノ謄本ハ該委員之ヲ關係國政府ニ送付スヘシ

八　第三號ニ基ク供託金ノ額カ請求審理費用ヲ支辨スルニ足ラサル場合ニ於テ委員カ當該請求ヲ理由アリト認ムルトキハ右委員ハ請求者ノ拂込ムヘキ追加金額ヲ直ニ指定スヘシ右金額ハ請求者ノ權原カ正當ト認

メラレタル土地ノ面積ニ應シテ決定セラルヘシ

第三號ニ基ク供託金ノ額カ前記費用ノ額ヲ超過スルトキハ右差額ハ後ニ揭クル仲裁裁判ノ費用ニ之ヲ充ツヘシ

九　諸威國政府ハ委員カ正當ト認ムル請求ヲ爲シタル請求者ニ對シ當該土地ニ對スル排他的所有權ヲ之ニ確保スヘキ有效ナル權原證書ヲ付與スル爲本節第七號ニ揭クル報告書ノ日附ヨリ三月ノ期間内ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ尤モ本條約第一條所揭ノ地域内ニ於テ既ニ實施セラレ又ハ將來實施セラルヘキ法令及規則ニ從フヘク且同條約第八條所揭ノ鑛業法規ヲ留保ス

尤モ本節第八號ニ基キ追加金額ノ拂込ヲ必要トスル場合ハ假權原證書ノ付與ニ止ムヘク該證書ハ當該請求者カ諸威國政府ノ定ムル相當ノ期間内ニ右拂込ヲ了シタル時ヨリ確定的ト爲ルモノトス

二

第一節所揭ノ委員カ論據ノ如何ヲ問ハス理由アリト認メサリシ請求ハ次ノ規定ニ從ヒテ處理セラルヘシ

一　承認セラレサリシ請求ヲ爲シタル請求者ノ本國政府ハ前節第七號ニ揭クル報告書ノ日附ヨリ三月ノ期間内ニ各一名ノ仲裁裁判官ヲ選任スヘシ

委員ハ斯ク構成セラレタル裁判所ノ裁判長タルヘク可否同數ノ場合ニハ決定裁決權ヲ有スヘシ委員ハ本節第二號ニ揭クル書類ノ受理ト裁判所ノ開廷ニ必要ナル手續ノ執行トヲ擔當スヘキ書記一名ヲ選任スヘシ

二　第一號ニ揭クル書記ノ任命ノ日ヨリ一月ノ期間内ニ請求者ハ其ノ請求ヲ明細ニ記載シタル覺書ヲ各自ノ本國政府ヲ經由シテ右ノ書記ニ送付スヘク該覺書ニハ請求者カ援用セムト欲スルコトアルヘキ文書及論證ヲ添附スヘシ

三　裁判所ハ其ノ付託セラレタル請求ヲ審理スル爲第一號ニ揭クル書記ノ任命ノ日ヨリ二月ノ期間内ニ「コーペンハーゲン」ニ開廷スヘシ

四　裁判所ノ用語ハ英吉利語タルヘシ文書又ハ論證ハ關係當事者ヨリ自國語ヲ以テ裁判所ニ之ヲ提出スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ英吉利語ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

五　請求者ハ希望ヲ表示スルニ於テハ自身又ハ辯護人ヨリ裁判所ニ意見ヲ陳述スルノ權利ヲ有スヘク裁判所ハ其ノ必要ト認ムル補充的ノ說明書、文書又ハ論證ノ提出ヲ請求者ニ求ムルコトヲ得ヘシ

六　事件ノ辯論開始前ニ於テ裁判所ハ裁判費用中各當事者ノ分擔額ノ支辨ニ必要ト認ムル金額ノ供託又ハ擔保ヲ當事者ニ求ムルコトヲ要ス裁判所ハ右金額ヲ決定スルニ當リテハ主トシテ請求地域ノ面積ヲ基礎トスヘシ尙裁判所ハ特別ノ費用ヲ要スル事件ニ付テハ供託金ノ追加ヲ當事者ニ求ムルコトヲ得ヘシ

七　裁判官ノ報酬額ハ月俸トシ關係國政府之ヲ決定スヘク書記及裁判所ノ使用スル其ノ他ノ人員ノ給料ハ裁判長之ヲ決定スヘシ

八　本附屬書ノ規定ニ從フノ外裁判所ハ自ラ其ノ手續ヲ定ムルノ充分ナル權能ヲ有スヘシ

九　裁判所ハ請求ノ審理ニ當リ左ノ點ニ付考量スルコトヲ要ス

(イ)　適用シ得ヘキ國際法ノ法規

(ロ)　正義及衡平ノ一般原則

(ハ)　左ノ事情

(一)　請求ノ土地カ請求者又ハ其ノ前主ニ依リ最初ニ占有セラレタル日

(二)　請求カ請求者ノ本國政府ニ通告セラレタル日

(三)　請求者又ハ其ノ前主カ右請求ノ土地ヲ開發經營セル程度右ニ關シ裁判所ハ千九百十四年乃至千九百十九年ノ戰爭狀態ニ基キ請求者カ其ノ事業ノ遂行ヲ妨ケラルルニ至リタル事情又ハ制限ヲ參酌スルコトヲ要ス

十　裁判ノ一切ノ費用ハ裁判所ノ定ムル割合ニ從ヒ請求者間ニ分擔セシメラルヘシ第六號ノ規定ニ依ル供託金ノ額カ裁判費用ノ額ヲ超過スルトキハ其ノ差額ハ請求ノ承認ヲ受ケタル當事者ニ對シ裁判所ノ衡平ト認ムル割合ニ從ヒ還付セラルヘシ

十一　裁判所ハ其ノ判定ヲ關係國政府ニ及一切ノ場合ニ於テ諸威國政府ニ通知スヘシ

諸威國政府ハ裁判所ニ依リ請求ノ承認ヲ受ケタル請求者ニ對シ判定受領後三月ノ期間内ニ有效ナル權原證書ヲ付與スル爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ尤モ本條約第一條所揭ノ地域内ニ於テ既ニ實施セラレ又ハ將來實施セラルヘキ法令及規則ニ從フヘク且同條約第八條所揭ノ鑛業法規ヲ留保ス該權原證書ハ又請求者カ裁判費用中自己ノ負擔部分ヲ諸威國政府ノ定ムル相當ノ期間内ニ拂込ミタル後ニ非サレハ確定的ト爲ルコトナカルヘシ

三

第一節第一號ニ從ヒ委員ニ通告セラレサリシ請求又ハ委員ノ承認ヲ得ス第二節ニ從ヒ裁判所ニ付託セラレサリシ請求ハ終局的ニ消滅シタルモノト看做サルヘシ

(右英佛文略ス)

●同上條約ニ關シ帝國政府ハ其ノ批准濟ノ旨ヲ佛蘭西共和國政府ニ通報セル件

(大正十四年一月二十日外務省告示第十號)

大正九年二月九日巴里ニ於テ日本帝國、亞米利加合衆國、英帝國、丁抹國、佛蘭西共和國、伊太利國、諸威國、和蘭國及瑞典國ノ署名調印シタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ白耳義國政府ハ本年五月二十七日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

(大正十四年九月十日外務省告示第七十三號)

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ白耳義國政府ハ本年五月二十七日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

(大正十四年九月十日外務省告示第七十三號)

スルコトヲ要ス

ヴツベルゲン」ニ關スル條約ニ關シ帝國政府ハ同條約末文第三項ノ規定ニ從ヒ客年十二月二十日其ノ批准濟ノ旨ヲ佛蘭西共和國政府ニ通報セリ

●同上條約ノ批准寄託ヲ了セル國名

(大正十四年一月二十日外務省告示第十一號)

大正九年二月九日巴里ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名調印シタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ批准寄託ヲ了セル國左ノ通

和蘭國	大正九年九月三日
英帝國	大正十二年十二月二十九日
丁抹國	大正十三年一月二十四日
亞米利加合衆國	大正十三年四月二日
伊太利國	大正十三年八月六日
佛蘭西國	大正十三年九月六日
瑞典國	大正十三年九月十五日
諸威國	大正十三年十月八日

●同上條約ニ加入國名

(大正十四年八月二十九日外務省告示第六十九號)

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「モナコ」國ハ本年六月二十二日、支那國ハ同七月一日夫々該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十四年十月　九日　外務省告示第七十九號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ本年七月六日、「ルーマニア」國ハ同七月十日夫々該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十四年十月二十四日　外務省告示第八十四號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ瑞西國ハ本年六月三十日、「フィンランド」國ハ同八月十二日夫々該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十四年十一月二十日　外務省告示第九十二號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「エジプト」國ハ本年九月十三日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十五年一月十一日　外務省告示第二號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「ブルガリア」國ハ客年十月二十日又希臘國ハ同年十月二十一日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨及「ヘヂァーズ」國政府ハ客年八月十四日附ヲ以テ在「ヂェダー」佛蘭西國領事ニ對シ該條約加入ノ通告ヲ爲シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十五年二月二日　外務省告示第十號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國ノ爲シタル招請ニ基キ西班牙國ハ千九百二十五年十一月十二日又獨逸國ハ同年十一月十六日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十五年二月十六日　外務省告示第十四號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「アフガニスタン」國ハ千九百二十五年十一月二十三日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨今般在本邦佛蘭西國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

（昭和二年五月二十八日　外務省告示第二十五號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「ドミニカン」共和國ハ千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ニ加入ノ旨同條約末條末項ニ依リ本年二月三日佛蘭西國政府ニ通告シタル趣本月十九日附ヲ以テ在本邦佛國大使ヨリ通知アリタリ

（昭和二年七月二十五日　外務省告示第三十七號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西共和國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「アルゼンティン」共和國ハ本年五月六日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタル旨七月十二日附書翰ヲ以テ在本邦佛蘭西共和國大使ヨリ通知アリタリ

（昭和三年二月　四日　外務省告示第十七號）

「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」（大正九年二月九日巴里ニ於テ署名）ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國ノ爲シタル招請ニ基キ「ハンガリー」國ハ昭和二年十月二十九日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタリ（昭和三年一月二十一日附在本邦佛蘭西國大使通牒）

（昭和三年二月　四日　外務省告示第十八號）

「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」（大正九年二月九日巴里ニ於テ署名）ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國ノ爲シタル招請ニ基キ「ポルトガル」共和國ハ昭和二年十月二十四日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタリ（昭和三年一月二十一日附在本邦佛蘭西國大使通牒）

（昭和三年　五月　二日　外務省告示第四十七號）

「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」（大正九年二月九日巴里ニ於テ署名）ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國ノ爲シタル招請ニ基キ「ヴェネズエラ」國ハ昭和三年二月八日該條約ニ無條件且無留保ニテ加入シタリ（昭和三年四月十六日附在本邦佛蘭西國大使通牒）

（昭和四年　八月十日　外務省告示第七十一號）

千九百二十年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ノ最終條項ニ從ヒ佛蘭西國政府ノ爲シタル招請ニ基キ「チリ」國ハ大正九年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約ニ昭和三年十二月十七日加入セリ（昭和四年八月一日附在本邦佛蘭西國臨時代理大使通牒）

（昭和五年六月二十　日　外務省告示第三十八號）

埃地利國ハ大正九年二月九日巴里ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」ニ加入ノ旨昭和五年三月十二日佛蘭西國政府ニ通告セリ（昭和五年六月十四日附在本邦佛蘭西國臨時代理大使通牒）

（昭和五年七月十八日　外務省告示第四十九號）

大正九年二月九日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」ニ對スル「エストニア」國ノ加入ハ昭和五年四月七日佛蘭西國政府ニ通告セラレタリ（昭和五年七月九日附在本邦佛蘭西國大使通牒）

（昭和五年十月十　六日　外務省告示第七十四號）

大正九年二月九日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」ニ對スル「アルバニア」國ノ加入ハ昭和五年四月二十九日佛蘭西國政府ニ通告セラレタリ（昭和五年十月九日附在本邦佛蘭西國大使通牒）

（昭和六年二月　七日　外務省告示第十五號）

大正九年二月九日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」ニ對スル「チェッコスロヴアキヤ」國ノ加入ハ昭和五年七月九日佛蘭西國政府ニ通告セラレタリ（昭和六年二月二日附在本邦佛蘭西國大使通牒）

（昭和七年五月十二日外務省告示第三十六號）

大正九年二月九日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」ニ對スル「ポーランド」國ノ加入ハ昭和六年九月二日佛蘭西國政府ニ通告セラレタリ（昭和七年五月四日附本邦駐劄佛蘭西國大使通牒）

（昭和十年八月十七日外務省告示第六十九號）

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ハ大正九年二月九日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「「スピッツベルゲン」ニ關スル條約」ニ對スル同聯邦ノ加入ヲ昭和十年五月七日佛蘭西國政府ニ通告セリ（昭和十年七月二十四日附本邦駐劄佛蘭西國特命全權大使通牒）

●「ローザンヌ」締結ノ平和條約、海峽制度ニ關スル條約、「トラース」國境ニ關スル條約、居住及裁判管轄ニ關スル條約、通商條約及議定書等（條約第九號）（大正十三年八月十六日）

聯合國側ノ諮詢ヲ經テ大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國トノ加入ニ關スル議定書」、「「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」、「千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書」及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ署名ニ關スル議定書」ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、希臘國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ヲ一方トシ

土耳其國ヲ他ノ一方トシ

此等諸國ハ千九百十四年以來東方ヲ擾亂シタル戰爭狀態ヲ決定的ニ終了セシメムコトノ同一ノ希望ニ促サレ

此等諸國間ニ於テ相互國民ノ共同ノ福祉ニ必要ナル友好及通商ノ關係ヲ恢復セムコトヲ欲シ

且右關係ハ國家ノ獨立及主權ノ尊重ニ基カサルヘカラサルコトヲ思ヒ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ大不列顚愛蘭聯合王國及大不列顚海外領土皇帝印度皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員「サー、ホレース、ジョージ、モンタギュ、ラムボルド」

佛蘭西共和國大統領

近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、ペレ」

伊太利國皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「カミーユ、ガロニ」

希臘國駐劄伊太利國特命全權公使「ジュール、セザール、モンタニア」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎

希臘國皇帝陛下

前內閣議長「エレフテリオス、カー、ヴェニゼロス」

英吉利國駐劄希臘國特命全權公使「デメートル、カクラマノス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、イ、ディアマンディ」

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、コンツュスコ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ドクトル、ミルーティヌ、ヨヴァノヴィッチ」

土耳其國國民議會政府

外務大臣國會議員「イスメット、パシャ」

衞生及社會救護大臣國會議員「ドクトル、リザー、ヌール、ベイ」

前大臣國會議員「ハサン、ベイ」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一編　政治條項

第一章

第一條

本條約實施ノ日ヨリ一方英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、希臘國、羅馬尼亞國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ト他方土耳其國トノ間竝此等國民相互ノ間ニ於テ平和狀態ハ確定的ニ恢復セラルヘシ

兩當事國相互ノ間ニ公關係ヲ恢復シ其ノ外交官及領事官ハ相互ノ領域內ニ於テ國際法ノ一般原則ニ依リ確定セル待遇ヲ享有スヘシ但シ特別ノ協定ヲ締結スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一款　領土條項

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

第二條

黑海ヨリ多島海ニ至ル迄ノ土耳其國ノ國境ハ左ノ如ク之ヲ決定ス（附屬地圖第一號參照ノ（地圖略ス）

一　勃爾牙利國トノ國境

「レヅヴァヤ」河ノ河口ヨリ「マリツァ」河ノ土耳其國、勃爾牙利國及希臘國ノ三國國境ノ交會點ニ至ル間ニ於テハ

現ニ劃定セラレタル勃爾牙利國ノ南方ノ國境

二　希臘國トノ國境

前記交會點ヨリ「アルダ」河及「マリツァ」河ノ會流點ニ至ル間ニ於テハ

「マリツァ」河ノ水流

右地點ヨリ「アルダ」河ノ上流ニ向ヒ「チョレッ・キョイ」村ノ隣接地ニ於テ實査ノ上決定セラルヘキ同河川ノ一地點ニ至ル間ニ於テハ

「アルダ」河ノ水流

右地點ヨリ東南ノ方向ニ向ヒ「ボスナ・キョイ」ヨリ下流一キロメートルノ距離ニ於テ「マリツァ」河上ニ位スル一地點ニ至ル間ニ於テハ

「ボスナ・キョイ」村ヲ土耳其國ニ屬セシムルコトトナル略眞直ノ線「チョレッ・キョイ」村ハ第五條ニ規定スル委員會ニ於テ同地住民ノ多數ヲ希臘國民又ハ土耳其國民ナリト認ムル所ニ從ヒ之ヲ希臘國又ハ土耳其國ニ屬セシムヘシ但シ千九百二十二年十月十一日後同村ニ移住シタル住民ハ之ヲ該計算ニ加ヘサルモノトス

右地點ヨリ多島海ニ至ル間ニ於テハ

「マリツァ」河ノ水流

第三條

地中海ヨリ波斯國ノ國境ニ至ル迄ノ土耳其國ノ國境ハ左ノ如ク之ヲ決定ス

一　「シリア」トノ國境

千九百二十一年十月二十日ノ佛蘭西國及土耳其國間ノ協定第八條ニ規定セラレタル國境

二　「イラーク」トノ國境

土耳其國ト「イラーク」トノ間ノ國境ハ九月ノ期間内ニ土耳其國ト英帝國トノ間ニ於テ友誼的ニ之ヲ決定スヘシ

右期間内ニ兩國政府間ニ協定成立セサルトキハ右ニ關スル爭議ヲ國際聯盟理事會ニ提出スヘシ

土耳其國及英帝國ノ政府ハ國境ノ問題カ決定スルニ至ル迄ハ該決定ニ依リ其ノ歸屬ヲ決スヘキ地域ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ生スヘキ軍事的又ハ其ノ他ノ如何ナル行動ヲモ執ラサルヘキコトヲ相互ニ約定ス

第四條

本條約ニ掲クル國境ハ本條約附屬百萬分ノ一ノ地圖面ニ之ヲ表示ス本文ト地圖トノ間ニ相違アル場合ニハ本文ニ據ルヘキモノトス

第五條

境界委員會ハ第二條ニ二ニ記載セル國境ヲ實査劃定スヘシ該委員會ハ希臘國及土耳其國各一名ノ割合ヲ以テスル右兩國ノ代表者竝右代表者カ第三國國民中ヨリ選任スル委員長一名ヲ以テ之ヲ組織ス

該委員會ハ一切ノ場合ニ於テ行政境界及地方的ノ經濟上ノ利害關係ヲ出來得ル限リ參酌シ成ルヘク本條約ノ定ムル所ニ從フコトニ力ムヘシ

該委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リテ之ヲ決シ且該決議ハ關係國ヲ拘束スヘシ

境界委員會ノ經費ハ關係國ニ於テ均等ニ之ヲ負擔スヘシ

第六條

河川ノ岸ニ依ラス其ノ水流ニ依リテ劃定セラルル國境ニ關シテハ本條約ノ規定中ニ使用スル「水流」又ハ「水路」ナル語ハ一方航行不能ナル河川ニ在リテハ水流又ハ其ノ本流ノ中央線、他方航行可能ナル河川ニ在リテハ主要航行水路ノ中央線ヲ謂フモノトス但シ將來水流若ハ水路ニ移動生スルコトアル場合ニ於テハ右ノ如ク定義セル水流若ハ水路ニ從ヒ國境線ヲ定ムヘキカ又ハ本條約實施當時ニ於ケル右ノ水流若ハ水路ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定的ニ定ムヘキカハ境界委員會ニ於テ之ヲ決定スヘシ

本條約ニ反對ノ規定ナキ限リ沿海國境ハ海岸ヨリ三浬以内ニ位スル島嶼ヲ包含スルモノトス

第七條

關係國ハ境界委員會ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル一切ノ書類就中現國境又ハ舊國境ノ劃定ニ關スル調書ノ認證謄本、一切ノ現存大縮尺地圖、測地材料、未公表ノ完成測量圖及國境水流ノ移動ニ關スル參考資料ヲ提供スヘキコトヲ約ス土耳其國官憲ノ所持ニ係ル地圖、測地材料及未公表ノ測量圖ハ本條約實施後成ルヘク速ニ「コンスタンティノープル」ニ於テ委員會ノ委員長ニ之ヲ引渡スコトヲ要ス

右關係國ハ又委員會ニ一切ノ書類就中圖面、土地臺帳及土地帳簿ヲ交付シ且委員會ノ請求アルトキハ財産及經濟事情ニ關スル一切ノ參考資料竝其ノ他ノ必要ナル情報ヲ委員會ニ提供スヘキ旨ヲ地方官憲ニ命スルコトヲ約ス

第八條

關係國ハ境界委員會ノ任務遂行上必要ナル運送、宿舍、勞力、材料（道標、境界標）ニ關スル一切ノ事項ニ付直接ニ又ハ地方官憲ヲ經由シテ該委員會ヲ援助スルコトヲ約ス

特ニ土耳其國政府ハ必要アルトキハ境界委員會ノ仕事ノ遂行ヲ援助スル爲適當ナル專門家ヲ提供スルコトヲ約ス

第九條

關係國ハ委員會ノ建設ニ係ル三角點覘標、標識、道標又ハ國境標ヲ尊重セシムヘキコトヲ約ス

第十條

國境標ハ互ニ望見シ得ル距離ニ之ヲ建設スヘシ右國境標ニハ番號ヲ附シ其ノ位置及番號ハ製圖書類ニ之ヲ記載スヘシ

第十一條

境界劃定ノ確定調書、附屬ノ地圖及書類ハ原本三通ヲ作成シ內二通ハ之ヲ接境國政府ニ交付シ一通ハ之ヲ佛蘭西共和國政府ニ交付スヘシ佛蘭西共和國政府ハ其ノ認證謄本ヲ本條約署名國ニ送達スヘシ

第十二條

「インブロス」、「テネドス」及「ラベン」ノ諸島以外ノ東部地中海ノ諸島殊ニ「レムノス」、「サモトラキ」、「ミティレーネ」、「シオ」、「サモス」及「ニカリア」ノ諸島ニ對スル希臘國ノ主權ニ關シ千九百十三年五月三十日（十七日）ノ倫敦條約ノ第五條及千九百十三年十一月十四日（一日）ノ「アテーヌ」條約ノ第十五條ノ實施ノ爲倫敦會議ニ於テ千九百十四年二月十三日ニ爲シタル決議ニシテ千九百十四年二月十三日希臘國政府ニ通告セラレタルモノハ伊太利國ノ主權ノ下ニ置カレ且本條約ノ第十五條ニ規定セラレタル諸島ニ關スル本條約ノ規定ノ留保ノ下ニ之ヲ確認ス本條約ニ反對ノ規定ナキ限リ亞細亞海岸ヨリ三浬以內ノ鳥嶼ハ依然土耳其國ノ主權ノ下ニ置カルルモノトス

第十三條

平和ノ維持ヲ確保スルカ爲希臘國政府ハ「ミティレーネ」、「シオ」、「サモス」及「ニカリア」ノ諸島ニ於テ左ノ措置ヲ遵守スヘキコトヲ約ス

一　前記諸島ニ於テハ如何ナル海軍根據地又ハ如何ナル要塞ヲモ建設セサルヘシ

二　希臘國軍用航空機ニ對シ「アナトリー」海岸ノ領域ヲ航空スルコトハ禁セラル

土耳其國政府モ亦其ノ軍用航空機ニ對シ前記諸島ヲ航空スルコトヲ禁スヘシ

三　前記諸島ニ於ケル希臘國陸軍兵力ハ陸軍兵役ノ爲ニ召集セラレ其ノ地ニ於テ教育シ得ヘキ正規兵員竝希臘國領域全部ニ亙リ現存スル憲兵及警察官ノ定員ニ比例スル憲兵及警察官ノ定員ヲ限度トスヘシ

第十四條

「インブロス」及「テネドス」兩島ハ依然土耳其國ノ主權ノ下ニ存シ地方的分子ノ以テ組織セラレ且回教信徒ニ非サル地方住民ニ對シ地方行政竝身體及財產ノ保護ニ關シ一切ノ保障ヲ與フヘキ特別行政組織ノ享有スヘシ右兩島ニ於ケル秩序ノ維持ハ前記地方行政廳ニ依リテ地方住民中ヨリ募集セラレ且該行政廳ノ指揮ノ下ニ置カルル警察官ニ依リ保障セラルヘシ希臘國及土耳其國ノ住民ノ交換ニ關シ希臘國及土耳其國間ニ締結セラレ又ハ締結セラルヘキ諸協定ハ「インブロス」及「テネドス」兩島ノ住民ニ對シテハ之ヲ適用セス

第十五條

土耳其國ハ以下列記ノ諸島即チ現ニ伊太利國ノ占領スル「スタンパリア」、「アストロパリア」、「ローデス」、「ロードス」、「カルキ」、「ハルキ」、「スカルパントス」、「カッソス」、「ティロス」、「ミシロ

ス」(「ニシロス」)、「カリムノス」、「レロス」、「パトモス」、「リプソス」、「リオ」島ニ對スル其ノ一切ノ權利及權原ヲ伊太利國ノ利益ノ爲ニ拋棄ス（附屬地圖第二號參照）

（地圖略ス）

第十六條

土耳其國ハ本條約ニ規定スル國境ノ外ニ位スル地域ニ對シ又ハ之ニ關シテ有スル一切ノ權利及權原竝本條約ニ依リ土耳其國ノ主權ヲ認メラレタル諸島以外ノ諸島ニ對シテ有スル一切ノ權利及權原ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス之ヲ拋棄スヘキコトヲ聲明ス此等諸地域及諸島ノ歸屬ハ關係國ニ依リ既ニ解決セラレ又ハ將來解決セラルヘキモノトス

本條ノ規定ハ各自國ノ隣接關係ニ基キ土耳其國ト其ノ隣接國トノ間ニ既ニ成立シ又ハ將來成立スヘキ特別協定ヲ害スルコトナキモノトス

第十七條

土耳其國ノ埃及國及「スーダン」ニ對スル一切ノ權利及權原ノ拋棄ハ千九百十四年十一月五日ヨリ效力ヲ生スヘシ

第十八條

土耳其國ハ埃及國ノ貢納ヲ擔保トスル土耳其國公債即チ千八百五十五年、千八百九十一年及千八百九十四年ノ公債ニ關スル一切ノ約束及義務ヲ免除セラルヘシ右三種ノ公債ニ對スル義務履行ノ爲埃及國ニ於テ爲シタル年賦支拂ハ現在ニ於テハ埃及國公債ヨリ生スル義務履行ノ一部ヲ構成スルモノニシテ埃及國ハ土耳其國公債ニ關シテ他ノ一切ノ義務ヲ免除セラルルモノトス

第十九條

埃及國ノ承認ニ依リテ生スル問題ハ關係國間ニ於テ決定セラルヘキ條件ノ下ニ將來締結セラルヘキ合意ニ依リテ之ヲ處理スヘク本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離セル地域ニ關スル本條約ノ規定ハ埃及國ニハ之ヲ適用セス

第二十條

土耳其國ハ千九百十四年十一月五日英國政府ノ布告シタル「キプロス」島ノ併合ヲ承認スルコトヲ聲明ス

第二十一條

千九百十四年十一月五日ニ「キプロス」島ニ居住シタル土耳其國民ハ地方法律ノ條件ニ依リ英國國籍ヲ取得シ且其ノ結果土耳其國國籍ヲ喪失スヘシ尤モ右土耳其國民ハ本條約實施ノ日ヨリ二年ノ期間内ニ於テ土耳其國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ此ノ場合ニ於テハ土耳其國民ハ右選擇權行使後十二月以内ニ「キプロス」島ヲ退去スルコトヲ要ス

本條約實施ノ日ニ「キプロス」島ニ居住スル土耳其國民ニシテ同日地方法律ノ條件ニ依リ爲シタル請求ニ基キ英國國籍ヲ取得スヘキ者又ハ同國國籍取得ノ手續中ニ在ル者ハ之カ爲メニシテ土耳其國國籍ヲ喪失スヘシ

「キプロス」島政廳ハ土耳其國政府ノ同意ヲ得スシテ土耳其國國籍以外ノ國籍ヲ取得シタル者ニ對シ英國國籍ヲ拒絕スルノ權能ヲ有スヘキモノトス

第二十二條

土耳其國ハ第二十七條ノ一般規定ヲ害スルコトナク千九百十二年十月十八日ノ「ローザンヌ」條約及其ノ關係文書ニ基キ同國カ「リビヤ」ニ於テ享有シタル一切ノ權利及特權（其ノ性質ノ如何ヲ問ハス）ノ確定的拋棄ヲ承認スヘキコトヲ聲明ス

二　特別規定

第二十三條

締約國ハ本目附ヲ以テ締結シタル海峽制度ニ關スル特別條約ニ規定シタルカ如キ「ダルダネル」海峽、「マルマラ」海及「ボルポロス」ニ於ケル平時及戰時ノ海路又ハ空中ノ通過及航行ノ自由ノ原則ヲ承認シ且聲明スルコトヲ協定ス該條約ハ本條約締約國ニ關スル限リ本條約中ニ規定セラレタルト同一ノ效力及價値ヲ有スヘキモノトス

第二十四條

本條約第二條ニ規定スル國境ノ制度ニ關シ本日附ヲ以テ締結セラレタル特別條約ハ本條約締結國ニ關スル限リ本條約中ニ規定セラレタルト同一ノ效力及價値ヲ有スヘキモノトス

第二十五條

土耳其國ハ同國ト共ニ戰ヒタル諸國ト他ノ締約國トノ間ニ締結セラレタル平和條約及追加條約ノ完全ナル效力ヲ承認シ舊獨逸帝國、墺地利國、洪牙利國及勃爾牙利國ノ領域ニ關シテ既ニ執ラレ又ハ將來執ラルヘキ措置ニ同意シ且右ニ依リ決定セラレタル國境ヲ有スル新興國ヲ承認スルコトヲ約ス

第二十六條

土耳其國ハ第二十五條ニ掲クル條約又ハ一切ノ追加條約ニ依リ既ニ決定セラレ又ハ將來決定セラルヘキ獨逸國、墺地利國、勃爾牙利國、希臘國、洪牙利國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及「チエッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ承認シ且同意スルコトヲ玆ニ聲明ス

第二十七條

土耳其國ノ政府又ハ官憲ハ土耳其國領域外ニ於テ本條約ノ他ノ署名國ノ主權又ハ保護權ノ下ニ置カレタル地域ノ國民及土耳其國ヨリ分離セル領

域ノ國民ニ對シ動機ノ如何ヲ問ハス政治上、立法上又ハ行政上ノ事項ニ關シ權力又ハ法權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

回教宗務當局ノ宗教上ノ特權ハ毀損セラルルコトナキモノトス

第二十八條

締約國ハ各自國ニ關スル限リ土耳其國ニ於ケル一切ノ點ニ關スル治外法權ノ完全ナル撤廢ヲ受諾スヘキコトヲ聲明ス

第二十九條

「モロッコ」人タル佛蘭西國民及「テュニス」人ハ一切ノ事項ニ關シ土耳其國ニ於テ其ノ他ノ佛蘭西國民ト同一ノ制度ニ從フヘシ

「リビー」國民ハ一切ノ事項ニ關シ土耳其國ニ於テ其ノ他ノ伊太利國民ト同一ノ制度ニ從フヘシ

本條ノ規定ハ土耳其國ニ居住スル「テュニス」國、「リビー」及「モロッコ」國出身者ノ國籍ニ影響スルコトナシ

同樣ニ土耳其國民ハ第一項及第二項ノ規定ノ利益ヲ享有スル者ヲ其ノ住民トスル地方ニ於テ夫々佛蘭西國及伊太利國ニ於ケル同一ノ制度ヲ享有スヘシ

第一項ノ規定ノ利益ヲ享有スル者ヲ其ノ住民トスル地方ヨリ來リ又ハ此等諸國ヲ仕向地トスル商品カ土耳其國ニ於テ從フヘキ制度及同樣ニ土耳其國ヨリ來リ又ハ同國ヲ仕向地トスル商品カ前記諸地方ニ於テ從フヘキ制度ハ佛蘭西國政府及土耳其國政府間ノ協定ニ依リテ之ヲ決定スヘシ

第二款　國籍

第三十條

本條約ノ規定ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域ニ定住スル土耳其國民ハ地方法制ノ條件ニ從ヒ當然ニ右地域讓受國ノ國民ト爲ルヘシ

第三十一條

第三十條ニ依リ土耳其國ノ國籍ヲ喪失シ當然ニ新國籍ヲ取得スル十八歳以上ノ者ハ本條約實施ノ日ヨリ二年ノ期間内ニ土耳其國ノ國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

第三十二條

本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域ニ定住スル十八歳以上ノ者ニシテ右地域住民ノ多數ト民族ヲ異ニスル者ハ本條約實施ノ日ヨリ二年ノ期間内ニ於テ選擇權行使者ト同一民族ニ屬スル者カ住民ノ多數ヲ占ムル國ノ中何レカ一國ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得ヘシ但シ該國ノ同意アルコトヲ要ス

第三十三條

第三十一條及第三十二條ノ規定ニ從ヒ選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シタル國ニ其ノ住所ヲ移スコトヲ要ス

右ノ者ハ其ノ國籍選擇ノ以前ニ住所ヲ有シタル他ノ國ノ領域内ニ於テ所有スル不動産ヲ保有スルコトヲ得

各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク之カ爲其ノ出入ニ付稅金又ハ料金ヲ課セラルルコトナカルヘシ

第三十四條

本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域ノ出身者ニシテ本條約實施ノ當時外國ニ定住スル十八歳以上ノ土耳其國民ハ右地域住民ノ多數ト同一民族ニ屬シ且右地域ニ於テ權力ヲ行使スル政府ノ同意アルトキハ其ノ出身地域ノ屬スル國ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得ヘシ但シ土耳其國ヨリ分離シタル地域ニ於テ權力ヲ行使スル政府ト右ノ者ノ定住スル國ノ政府トノ間ニ必要ナルコトアルヘキ協定ヲ妨クルモノニ非ス右選擇權ハ本條約實施ノ日ヨリ二年ノ期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第三十五條

締約國ハ本條約ニ依リ、獨逸國、墺地利國、勃爾牙利國若ハ洪牙利國ト締結セラレタル平和諸條約ニ依リ又ハ土耳其國以外ノ右締約國ト若ハ其ノ或一國ト露西亞國トノ間ニ又ハ前記締約國相互間ニ締結セラルル條約ニ依リ規定セラレ當事者ノ他國國籍ノ取得ヲ認容スル選擇權ノ行使ニ對シ何等ノ障礙ヲ加ヘサルコトヲ約ス

第三十六條

本款規定ノ適用アル一切ノ場合ニ付妻ハ其ノ夫ノ身分ニ、十八歳未滿ノ子ハ其ノ父母ノ身分ニ從フヘシ

第三款　少數民族ノ保護

第三十七條

土耳其國ハ第三十八條乃至第四十四條ニ掲クル規定ヲ根本法トシテ承認シ如何ナル法令、規則又ハ處分行爲モ右規定ニ牴觸又ハ背馳スルコトナカルヘク且如何ナル法令、規則又ハ處分行爲モ右規定ノ效力ヲ左右スルコトナカルヘキコトヲ約ス

第三十八條

土耳其國政府ハ出生、國籍、言語、種族又ハ宗教ノ如何ヲ問ハス土耳其國内ノ一切ノ住民ニ對シ其ノ生命及自由ニ付充分且完全ナル保護ヲ與フルコトヲ約ス

土耳其國内ノ一切ノ住民ハ信仰、宗教又ハ信條ニシテ其ノ實行カ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサルモノニ限リ公タルト私タルトヲ問ハス自由ニ之ヲ行フコトヲ得ヘシ

非回教信徒少數民族ハ完全ニ往來及落住ノ自由ヲ享有スヘシ但シ土耳其國政府カ國防ノ爲又ハ公ノ秩序ノ維持ノ爲其ノ領土ノ全部又ハ一部ニ於テ一切ノ土耳其國民ニ適用スル措置ヲ執ルコトハ之ヲ妨ケス

第三十九條

非回教信徒少數民族ニ屬スル土耳其國民ハ回教信徒ト同一ノ公權及私權ヲ享有スヘシ

土耳其國内ノ一切ノ住民ハ宗教ノ如何ヲ問ハス法律ノ前ニ平等タルヘシ

宗教、信條又ハ歸依ノ相異ハ土耳其國民ノ公權及私權ノ享有特ニ公職及公務ニ參與シ若ハ榮典ヲ享ケ又ハ種種ノ職業及産業ニ從事スルコトヲ妨クルコトナシ

土耳其國民ハ私交、商取引、宗教、新聞雜誌其ノ他各種ノ出版物又ハ公ノ集會ニ於テ如何ナル言語ヲ使用スルモ其ノ用語ノ自由ニ付テハ何等ノ制限ヲ加ヘラルルコトナシ

公用語ノ存スル場合ト雖土耳其語ニ非サル言語ヲ用ヰル土耳其國民ハ法廷ニ於テ口頭ヲ以テ其ノ言語ヲ使用スルニ付相當ノ便宜ヲ供與セラルヘシ

第四十條

非回教信徒少數民族ニ屬スル土耳其國民ハ法律上及事實上他ノ土耳其國民ト同一ノ待遇及保障ヲ享クヘク殊ニ其ノ費用ヲ以テ慈善的、宗教的又ハ社會的ノ施設竝學校及其ノ他ノ教育設備ヲ開設、經營及管理シ且右ノ施設及設備ニ於テ自由ニ其ノ言語ヲ用ヰ及其ノ宗教上ノ勤行ヲ爲スニ付均等ノ權利ヲ有スヘシ

第四十一條

公ノ教育制度ニ關シ土耳其國政府ハ非回教信徒ノ多數居住スル都市及地方ニ於ケル小學校ニ於テ右土耳其國民ノ兒童ヲ其ノ言語ヲ以テ教育スルコトヲ保障スル爲相當ノ便宜ヲ供與スヘシ但シ土耳其國政府カ右小學校ニ於テ土耳其語ヲ必須科目ト爲スコトヲ妨ケス

非回教信徒少數民族ニ屬スル土耳其國民ノ多數居住スル都市及地方ニ於テ右少數民族ハ國、地方團體其ノ他ノ豫算ニ依リ公共基金中ヨリ教育、宗教又ハ慈惠ノ目的ノ爲支出セラルルコトアルヘキ金額ノ支給又ハ割當ヲ受クルニ付衡平ナル配分ヲ保障セラルヘシ

右ノ基金ハ關係ノ設備及施設ノ正當ナル代表者ニ支拂ハルヘシ

第四十二條

土耳其國政府ハ非回教信徒少數民族ニ對シ其ノ親族法又ハ身分法ノ關係スル限リ右少數民族ノ慣習ニ從ヒ此等ノ問題ヲ解決スルニ足ル措置ヲ執ルコトヲ約ス

右措置ハ土耳其國政府及各關係少數民族ノ同數ノ代表者ヲ以テ組織スル特別委員會ニ於テ之ヲ審議スヘシ意見ノ一致ヲ見サル場合ニハ土耳其國政府及國際聯盟理事會ハ協議ノ上歐羅巴人タル法律家中ヨリ選定スル一名ノ居中調停者ヲ任命スヘシ

土耳其國政府ハ右少數民族ノ教會、猶太教寺院、墓地其ノ他ノ宗教的設備ニ對シ一切ノ保護ヲ與フルコトヲ約ス土耳其國内ニ現存スル右少數民族ノ喜捨財團竝宗教的及慈善的ノ設備ニ對シテハ一切ノ便宜及許可ヲ與フヘク且土耳其國政府ハ新ナル宗教的及慈善的設備ノ開設ニ對シ同種ノ他ノ私的設備ニ供與セラルル必要ナル便宜ヲ供與スルコトヲ拒マサルヘシ

第四十三條

非回教信徒少數民族ニ屬スル土耳其國民ハ其ノ信仰又ハ宗教的儀式ニ違反スル行爲ヲ爲スコトヲ强制セラルルコトナカルヘク且其ノ每週ノ安息日ニ於テ法廷ニ出頭シ又ハ法律上ノ行爲ヲ爲スコトヲ拒絶スルモ何等能力ヲ喪失セシメラルルコトナカルヘシ

尤モ本規定ハ公ノ秩序ヲ維持スル爲他ノ一切ノ土耳其國民ニ課スル義務ヲ前記土耳其國民ニ對シ免除スルコトナカルヘシ

第四十四條

土耳其國ハ本款前諸條カ土耳其國ノ非回教信徒タル國民ニ關スル限リ右規定ハ國際的利害關係ノ義務ヲ設定スルモノニシテ國際聯盟ノ保障ノ下ニ置カルヘキコトヲ約ス右規定ハ國際聯盟理事會ノ過半數ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國ハ國際聯盟理事會カ過半數ヲ以テ適法ニ同意ヲ與ヘタル右諸條ノ變更ニ對シ同意ヲ拒マサルコトヲ玆ニ約ス

土耳其國ハ前記義務中何レカノ一ノ違反又ハ違反ノ虞アルコトヲ國際聯盟理事會ノ一員タル國カ之ヲ聯盟理事會ニ注意スルノ權利ヲ有スルコト及聯盟理事會カ事宜ニ應シ適當ニシテ有效ナリト認ムル措置ヲ執リ且指示ヲ與ヘ得ヘキコトヲ約ス

土耳其國政府ト署名國又ハ國際聯盟理事會ノ一員タル其ノ他ノ國トノ間ニ於テ右諸條ニ關スル法律上又ハ事實上ノ問題ニ付意見ノ一致ヲ見サルトキハ土耳其國ハ之ヲ以テ國際聯盟規約第十四條ニ定ムル國際的性質ヲ有スル紛爭ト看做スヘキコトヲ約ス土耳其國政府ハ對手國ノ要求アルニ於テハ此ノ種ノ紛爭ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スヘキコトヲ約ス常設國際司法裁判所ノ判決ハ終審トシ且右規約第十三條ニ據ル判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十五條

本款ノ規定ニ依リ土耳其國ニ於ケル非回教信徒少數民族ニ對シ認メラレタル權利ハ均シク希臘國ニ依リ同國領域内ニ於ケル回教信徒少數民族ニ對シテ認メラルヘシ

第二編　財政條項

第一款　土耳其國公債

第四十六條

本款ノ規定ニ依リ土耳其國ノ一般的財政ニ關スル條項ヲ定ムル爲メ聯合及關係國ハ各一名ノ委員ヲ任命シ土耳其國ハ二名ノ委員ヲ任命スヘシ

本款附屬表所定ノ土耳其國公債ハ土耳其國、千九百十二年乃至千九百十三年ノ「バルカン」戰爭ノ結果土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ヲ取得シタル國、本條約第十二條及第十五條ニ揭クル諸島及本條末項ニ揭クル地域ヲ歸屬セシメラレタル國竝本條約ニ依リ土耳其帝國ヨリ分離シタル亞細亞地域ニ於ケル新興國間ニ於テ本款ノ定ムル條件ニ從ヒ配分セラルヘシ右ノ外前記諸國ハ第五十三條所定ノ日ヨリ土耳其國公債ノ義務履行ニ關スル每年ノ負擔額ヲ本款ニ揭クル條件ニ從ヒ分擔スルコトヲ要ス

第五十三條所定ノ期日以後土耳其國ハ他國ノ負擔ニ屬スル分擔額ニ付何等ノ責任ヲ負フコトナカルヘシ

千九百十四年八月一日ニ於テ土耳其國主權ノ下ニ在リタル「トラース」ノ地域ニシテ本條約第二條ニ依リ定メラレタル土耳其國ノ境界ノ外ニ在ルモノハ土耳其國公債ノ分配ニ關シテハ本條約ニ依リ土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ト看做サルヘシ

第四十七條

土耳其國公債管理委員會ハ本條約實施後三月ノ期間内ニ第五十條及第五十一條ノ定ムル基礎ニ依リ本款附屬表(イ)ノ部ニ揭クル公債ニ屬シ且各關係國ノ負擔スヘキ年賦金ノ總額ヲ定メ之ヲ右關係諸國ニ通告スルコトヲ要ス

右關係諸國ハ右ニ關スル土耳其國公債管理委員會ノ事務ニ從事セシムル爲其ノ代表者ヲ「コンスタンティノープル」ニ派遣スルコトヲ得

公債管理委員會ハ千九百十九年十一月二十七日ノ勃爾牙利國トノ平和條約第百三十四條ニ規定スル職務ヲ遂行スヘシ

本條ニ定ムル原則ノ適用ニ關シ關係國間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ爭議ハ第一項ニ揭クル通告後遲クモ一月内ニ之ヲ國際聯盟理事會ノ任命スヘキ一名ノ仲裁人ニ付託スヘシ該仲裁人ハ最長期間三月内ニ右ノ爭議ヲ裁決スルコトヲ要ス仲裁人ノ報酬ハ國際聯盟理事會之ヲ決定シ仲裁裁判ニ要シタル他ノ費用ト共ニ之ヲ關係國ニ負擔セシム仲裁人ノ裁決ハ終審トス仲裁人ニ對スル付託ハ年賦金ノ支拂ヲ停止セシムルコトナシ

第四十八條

本款附屬表(イ)ノ部ニ定メラレタル土耳其國公債ノ配分ヲ受ケタル諸國中土耳其國以外ノ國ハ第四十七條所定ノ每年ノ負擔額中各自國ノ負擔ニ屬スル部分ニ關シ同條ノ規定ニ依リ通告アリタル日ヨリ三月ノ期間内ニ右負擔部分ノ支拂ヲ確保スルニ充分ナル擔保ヲ公債管理委員會ニ提供スルコトヲ要ス右ノ擔保カ前記期間内ニ提供セラレサルトキ又ハ提供セラレタル擔保ノ適否ニ付意見ノ相違アルトキハ本條約ノ署名國政府ハ之ヲ國際聯盟理事會ニ訴フルコトヲ得

國際聯盟理事會ハ擔保トシテ提供セラレタル收入ノ徵收ヲ公債ノ配分ヲ受ケタル諸國中土耳其國以外ノ國ニ存スル國際財政機關ニ委任スルコトヲ得國際聯盟理事會ノ裁決ハ終審トス

第四十九條

第四十七條ノ規定ニ依リ各關係國ノ負擔ニ屬スル年賦金總額ノ確定セラレタル日ヨリ一月ノ期間内ニ本款附屬表(イ)ノ部ニ揭クル土耳其國公債ノ元本額面金額ノ分配方法ヲ決定スル爲巴里ニ於テ委員會ヲ開催スヘシ右分配ハ年賦金分配ノ爲採用セラレタル割合ニ依リ且借款ニ關スル契約ノ約款及本款ノ規定ヲ參酌シテ之ヲ行フコトヲ要ス

第一項ニ揭クル委員會ハ土耳其國政府ノ代表者一名、土耳其國公債管理委員會代表者一名、整理公債及土耳其國冨籤公債以外ノ公債ノ代表者一名竝各關係國ノ任命スルコトヲ得ヘキ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス委員會ニ於テ協議調ハサル一切ノ問題ハ第四十七條第四項ニ揭クル仲裁人ニ之ヲ付託スヘシ

土耳其國カ自國ノ負擔ニ屬スル部分ニ對シ新證券ヲ發行スルコトニ決定シタルトキハ土耳其國政府ノ代表者、土耳其國公債管理委員會ノ代表者竝土耳其國ノ整理公債及冨籤公債以外ノ公債ノ代表者ヨリ成ル委員會ハ先ツ土耳其國ニ關スルモノニ限リ公債元本金ノ配分ヲ行フヘシ右ノ新證券ハ之ヲ前項ニ揭クル委員會ニ引渡スヘシ該委員會ハ舊公債所持人ニ對スル土耳其國債務ノ免除及土耳其國公債ノ一部ヲ負擔スル他國ニ對スル右所持人ノ權利ヲ確認スルコトヲ條件トシテ右新證券ヲ右所持人ニ交付スルコトヲ保障スヘシ各國ノ土耳其國公債負擔額ニ付發行セラルヘキ證券ハ締約國ノ領域内ニ於テハ其ノ發行ニ因ル一切ノ印紙稅其ノ他ノ課金ヲ免除セラルヘシ

各關係國ノ負擔ニ屬スル年賦金ノ支拂ハ元本額面額ノ配分ニ關スル本條諸規定ノ爲延期セラルルコトナカルヘシ

第五十條

第四十七條ニ揭クル每年ノ負擔額及第四十九條ニ揭クル土耳其國公債ノ元本額面金額ノ配分ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

一　千九百十二年十月十七日前ノ諸公債及之ニ關スル負擔額ハ千九百十二年乃至千九百十三年ノ「バルカン」戰爭ノ結果存在セル土耳其帝國、右戰爭ノ結果土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ヲ取得シタル「バルカン」諸國竝本條約第十二條及第十五條ニ揭クル諸島ヲ歸屬セシメラレタル諸國間ニ配分スヘク右配分ニ付テハ「バルカン」戰爭ノ終結セシメタル諸條約又ハ爾後ノ諸條約ノ實施以後ニ於テ生シタル領土上ノ變更ヲ參酌スヘシ

二　右第一次配分後ニ於テ土耳其帝國ノ負擔ニ屬スル公債ノ殘額及之

ニ屬スル年賦金ノ殘額ハ千九百十二年十月十七日ト千九百十四年十一月一日トノ間ニ於テ土耳其帝國ノ契約シタル公債及之ニ屬スル年賦金ト合セ土耳其國、本條約ニ依リ土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ヲ取得シタル亞細亞ノ諸新興國及本條約第四十六條末項ニ揭クル地域ヲ歸屬セシメラレタル國ノ間ニ之ヲ配分スヘシ

元本金ノ配分ハ各公債ニ付本條約ノ實施ノ日ニ於テ存スル元本金額ニ對シ之ヲ行フヘシ

第五十一條

第五十條ニ定ムル配分ノ結果土耳其國公債ノ每年ノ負擔額中各關係國ニ屬スル分擔額ハ左ノ通之ヲ定ム

一　第五十條第一號ニ揭クル配分ニ關シテハ先ツ第十二條及第十五條ニ揭クル諸島竝「バルカン」戰爭ノ結果土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ノ全體ノ負擔スヘキ部分ヲ決定スヘシ右ノ負擔總額ト第五十條第一號ノ規定ニ依リ配分スヘキ年賦金ノ總額トノ割合ハ千九百十年乃至千九百十一年及千九百十一年乃至千九百十二年ノ兩會計年度間ニ於ケル前記ノ諸島及分離地域ノ總歲入ノ平均額ト土耳其帝國ノ總歲入ノ平均額（千九百七年制定ノ關稅ノ附加稅ノ收入ヲ含ム）トノ割合ト同一ナルコトヲ要ス

右ノ如ク決定セラレタル金額ハ前項ニ揭クル諸地方ヲ歸屬セシメラレタル諸國間ニ於テ之ヲ配分スヘシ右ノ如ク配分セラレタル各國ノ分擔ニ屬スル部分ト右諸國ノ配分總額トノ割合ハ千九百十年乃至千九百十一年及千九百十一年乃至千九百十二年ノ兩會計年度ニ於ケル前記ノ各國ニ歸屬セシメラレタル地域ノ歲入ノ平均額ト「バルカン」戰爭ノ結果土耳其帝國ヨリ分離シタル諸地域ノ歲入ノ平均額トノ割合ト同一ナルコトヲ要ス

右ノ如ク決定セラレタル金額ハ前項ニ揭クル諸地方ヲ歸屬セシメラレタル諸國間ニ於テ之ヲ配分スヘシ右ノ如ク配分セラレタル各國ノ分擔ニ屬スル部分ト右諸國ノ配分總額トノ割合ハ千九百十年乃至千九百十一年及千九百十二年ノ兩會計年度ニ於ケル前記ノ各國ニ歸屬セシメラレタル地域ノ歲入ノ平均額トノ割合ト同一ナルコトヲ要ス

二　第一次ノ分配ノ結果土耳其帝國ノ負擔ニ屬スル額及千九百十二年十月十七日ト千九百十四年十一月一日トノ間ニ土耳其帝國ノ契約シタル本附屬表ノ立替金ニ關シテハ本條約實施ノ日ニ於テ現存スル未償還ノ元本總額、千九百二十年三月一日以後支拂期限到來シタル利子及同期日以後爲サレタル償還額ハ第五十條第二號及第五十一條第二號ノ規定ニ依リ配分セラルヘシ

第五十二條

本款附屬表ロノ部ニ揭クル立替金ハ左ノ條件ニ依リ土耳其國及第四十六條ニ揭クル他ノ諸國トノ間ニ配分セラルヘシ

一　千九百十二年十月十七日ニ於テ存在スル本附屬表ノ立替金ニ關シテハ本條約實施ノ日ニ於テ現存スル未償還ノ元本總額、第五十三條第一項所定ノ期日以後支拂期限到來シタル利子及同期日以後爲サレタル償還額ハ第五十條第一號及第五十一條第一號ノ規定ニ依リ配分セラルヘシ

二　第一次ノ分配ノ結果土耳其帝國ノ負擔ニ屬スル額及千九百十二年十月十七日ト千九百十四年十一月一日トノ間ニ土耳其帝國ノ契約シタル本附屬表ノ立替金ニ關シテハ本條約實施ノ日ニ於テ現存スル未償還ノ元本總額、千九百二十年三月一日以後支拂期限到來シタル利子及同期日以後爲サレタル償還額ハ第五十條第二號及第五十一條第二號ノ規定ニ依リ配分セラルヘシ

土耳其國公債管理委員會ノ本條約實施後三月ノ期間內ニ於テ各關係國ノ

負擔ニ屬スル前記立替金ノ部分ノ總額ヲ定メ之ヲ右諸國ニ通知スルコトヲ要ス

土耳其國以外ノ國ノ負擔ニ屬スル金額ハ當該負擔國之ヲ公債管理委員會ニ拂込ミ該委員會ハ之ヲ債權者ニ支拂ヒ又ハ土耳其國カ右諸國ノ爲利子若ハ償還トシテ支拂ヒタル金額ニ達スル迄土耳其國政府ノ貸方ニ計上スヘシ

前項ニ揭クル拂込ハ本條約實施後五回ノ均等ナル年賦金支拂ノ方法ニ依リ爲サルヘシ土耳其帝國ノ債權者ニ辨濟セラルヘキ右支拂ノ部分ニハ立替契約ニ定ムル利子ヲ附スヘク土耳其國政府ニ拂込マルヘキ部分ニハ利子ヲ附セサルモノトス

第五十三條

本款附屬表（イ）ノ部ニ於テ定メラレタル土耳其國公債ノ年賦金ニシテ「バルカン」戰爭ノ結果土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ヲ取得シタル諸國ノ負擔スヘキモノハ右諸國ノ前記地域ノ讓渡ヲ定ムル條約ノ實施ノ日ヨリ辨濟セラルヘキモノトス第十二條ニ揭クル諸島ニ關シテハ該年賦金ハ千九百十三年十一月十四日（一日）ヨリ辨濟セラルヘキモノトシ第十五條ニ揭クル諸島ニ關シテハ該年賦金ハ千九百十二年十月十七日ヨリ辨濟セラルヘキモノトス

本條約ニ依リ土耳其帝國ヨリ分離シタル亞細亞地域ニ於ケル諸新興國及第四十六條末項ニ揭クル地域ヲ歸屬セシメラレタル國ノ負擔ニ屬スル年賦金ハ千九百二十年三月一日ヨリ辨濟セラルヘキモノトス

第五十四條

本款附屬表（イ）ノ部ニ列擧スル千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ國庫證券ハ契約ニ依リ定ムル償還期日後十年ノ期間內ニ所定ノ利子ト共ニ之カ償還ヲ爲スヘキモノトス

第五十五條

第四十六條ニ揭クル諸國（土耳其國ヲ含ム）ハ本款附屬表（イ）ノ部ニ定メラレタル土耳其國公債ノ部分ニ屬スル年賦金額ニシテ右諸國ノ負擔ニ屬シ且第五十三條所定ノ期日以後辨濟スヘキモノニシテ未タ其ノ支拂ナキモノヲ土耳其國公債管理委員會ニ支拂フヘシ右支拂ハ本條約實施後無利息ニテ二十回ノ均等ナル年賦金支拂ノ方法ニ依リ爲サルヘシ

土耳其國以外ノ諸國カ公債管理委員會ニ支拂フヘキ年賦金額ハ右諸國ノ爲土耳其國ノ支拂ヒタル金額ニ達スル迄公債管理委員會ニ於テ之ヲ土耳其國カ負擔スヘキ未拂額ノ控除額トシテ計上スヘシ

第五十六條

土耳其國公債管理委員會ニハ獨逸人、墺地利人及洪牙利人タル公債所持人ノ代表者ヲ含マサルモノトス

第五十七條

締約國ノ領域內ニ於テハ土耳其國ノ公債及立替金ニ屬スル利札竝埃及國ノ貢納ヲ擔保トシタル千八百五十五年、千八百九十一年及千八百九十四年ノ土耳其國公債ノ呈示期間竝償還ニ當該シタル前記公債證券ノ呈示期間ハ千九百十四年十月二十九日ヨリ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄停止シタルモノト看做ス

第一款　附屬書

千九百十四年十一月一日前ノ土耳其國公債表

（イ）ノ部

公債	契約ノ日附	利子	償還期限	發行銀行
整理公債	一九〇三年九月一四日（一日）―一九〇六年六月二一日（八日）	百分率四	―	土耳其帝國銀行
土耳其宮籤	一八七〇年一月五日	三	一九三一年	土耳其帝國銀行
「オスマニエ」波斯煙草「テュンベキ」優先	一八九〇年四月三〇日（一八日）	四	一九五四年	獨逸銀行及同行系團體（國際銀行及佛蘭西ノ銀行ニヲ含ム）
四千萬「法」（東方鐵道）	一八九三年五月八日（四月二六日）	四	一九五七年	土耳其帝國銀行
一八九六年五分利	一八九四年三月一三日（一日）	五	一九四六年	土耳其帝國銀行
一九〇二年關稅	一八九六年三月一二日（二月二九日）	四	一九五八年	土耳其帝國銀行
一九〇三年四分利漁業	一八九六年五月二九日（一七日）―一八九七年一〇月一一日（九月二八日）	四	一九五八年	獨逸銀行
「バグダード」第一	一八九八年一〇月三日―一九〇三年三月六日（二月二一日）	四	二〇〇一年	獨逸銀行
一九〇四年四分利	一九〇三年三月五日（二月二〇日）	四	一九六〇年	土耳其帝國銀行
一九〇一―五年四分利	一九〇三年九月一七日（四日）	四	一九六一年	土耳其帝國銀行
軍需品（テジュヒザート・アスケリエ）	一九〇一年一二月四日（一一月二一日）―一九〇三年一一月六日―一九〇五年五月八日（四月二五日）	四	一九六一年	獨逸銀行
「バグダード」第二回	一九〇五年四月一七日（四日）	四	二〇〇六年	獨逸銀行
「バグダード」第三回	一九〇八年六月二日（五月二〇日）―一九〇八年六月二日（五月二〇日）	四	二〇一〇年	獨逸銀行

公債	契約ノ日附	利子	償還期限	發行銀行
一九〇八年四分利	一九〇八年九月一九日（六日）	四	一九六五年	土耳其帝國銀行
一九〇九年四分利	一九〇九年一〇月一三日（九月三〇日）	四	一九五〇年	土耳其帝國銀行
「ソマ」―「パンデルマ」	一九一〇年一二月三日（一一月二〇日）	四	一九九二年	土耳其帝國銀行
「フディダ」―「サナー」	一九一一年三月九日（二月二四日）	四	二〇〇六年	佛蘭西銀行
一九一一年關稅	一九一〇年一一月九日（一〇月二七日）	四	一九五二年	獨逸銀行及同行系團體
「コニア」平野灌漑	一九一三年一一月一八日（五日）	四	一九三二年	
船渠、造兵廠及海軍建設物	一九一三年一二月二日（一一月一九日）	五半	一九四三年	土耳其帝國銀行
一九一四年五分利	一九一四年四月二六日（一三日）	五	（一九六二年）	
官營煙草立替金	一九一三年八月四日	―	―	―
一九一一年五分利國庫證券（軍艦買入）	一九一一年七月一三日	※五	一九一六年	土耳其國立銀行
一九一二年土耳其帝國銀行國庫證券	一九一二年一一月二一日（八日）	※六	一九一五年	土耳其帝國銀行
一九一三年國庫證券（直接發行ノ證券ヲ含ム）	一九一三年二月一日（一月一九日）	※五	一九一八年	「ベリエ」會社

※第五十四號參照

（ロ）ノ部

立替金	契約ノ日附	利子	發行當時ノ元本額面金額（土耳其磅）
「バグダード」會社	一九〇八年六月一六日（三日）	百分率七	三〇〇、〇〇〇
燈臺管理	一九〇四年八月一八日（五日）	八	五五、〇〇〇
同　上	一九〇七年七月一八日（五日）	七	三〇〇、〇〇〇
「コンスタンザ」海底電信會社	一九〇四年一〇年九日（二七日）	四	一七、三三五
隧道會社	―	―	三、〇〇〇
孤兒基金	各種ノ日附	五半	一五三、一四七
獨逸銀行	一九一二年八月二六日（一三日）	七	三三、〇〇〇
燈臺管理	一九一三年四月一六日（三日）	七	五〇、〇〇〇
「アナトリー」鐵道會社	一九一四年三月五日（二三日）	六	二〇〇、〇〇〇

第二款　雜則

第五十八條

一方ニ於テ土耳其國及他方ニ於テ他ノ締約國（希臘國ヲ除ク）ハ千九百十四年八月一日以後本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ戰爭行爲又ハ徵發、保管、處分若ハ沒收ノ措置ニ因リ土耳其國及前記締約國竝其ノ國民（法人ヲ含ム）ノ被リタル損失及損害ニ對スル一切ノ金錢上ノ請求ヲ相互ニ拋棄ス

尤モ前項ノ規定ハ本條約第三編（經濟條項）ノ規定ニ影響ヲ及ホスコトナシ

土耳其國ハ千九百十九年六月二十八日ノ獨逸國トノ平和條約第二百五十九條第一號及千九百十九年九月十日ノ塊地利國トノ平和條約第二百十條第一號ニ依リ獨逸國及塊地利國ヨリ讓渡セラレタル金ノ額ニ對スル一切ノ權利ヲ他ノ締約國（希臘國ヲ除ク）ノ爲ニ拋棄ス

第一回發行ノ土耳其國貨幣證券ニ關スル千三百三十一年六月二十日（千九百十五年七月三日）ノ契約約款及右證券裏面ノ文言ニ依リ土耳其國公債管理委員會ノ負擔スヘキ一切ノ支拂義務ハ消滅シタルモノトス

又土耳其國ハ同國政府ヨリ英吉利國ニ於テ註文シタル軍艦ニシテ千九百十四年英國政府ニ依リ徵發セラレタルモノニ對シテ支拂ヒタル金額ノ返還ヲ英國政府及其ノ國民ニ請求セサルコトヲ約ス土耳其國ハ本件ニ關スル一切ノ請求ヲ拋棄ス

第五十九條

希臘國ハ同國ノ軍隊又ハ行政官廳ノ戰爭法規違反ノ行爲ニ因リ「アナトリー」ニ於テ生シタル損害ヲ賠償スルノ義務ヲ承認ス

他方土耳其國ハ戰爭ノ延引及戰爭ノ結果ニ因ル希臘國ノ財政狀態ヲ考量シ希臘國ニ對シ賠償ニ關スル一切ノ請求ヲ確定的ニ拋棄ス

第六十條

「バルカン」戰爭ノ結果タルト本條約ニ因ルトヲ問ハス土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ヲ取得シタル諸國ハ右地域ニ存在スル土耳其帝國ノ一切ノ財産及所有物ヲ無償ニテ取得スヘシ

千三百二十四年八月二十六日（千九百八年九月八日）、千三百二十五年四月二十日（千九百九年五月二日）ノ勅令ニ依リ帝室費ヨリ國ニ讓渡セラレタル財産及所有物竝千九百十八年十月三十日迄公用ノ爲帝室費ニ依リ管理セラレタル財産及所有物ハ前項ニ掲ケタル財産及所有物ニ包含セラルヘク前記諸國ハ該財産及所有物ニ關シ土耳其帝國ニ代位スヘキモノトス前記財産ヨリ成ル喜捨財團ハ之ヲ尊重スヘキモノトス

帝室費ヨリ國ニ讓渡セラレタル財産及所有物ニシテ「バルカン」戰爭ノ結果又ハ有戰爭以後ニ於テ希臘國ニ讓渡セラレタル舊土耳其帝國ノ地域ニ存在スルモノニ關シ希臘及土耳其兩國政府間ニ生シタル爭議ハ合意ノ上千九百十三年十一月十四日（一日）ノ「アテーヌ」條約附屬特別議定書第二號ニ依リ海牙ノ仲裁裁判所ニ付託セラルヘシ

本條ノ規定ハ帝室費ノ名ニ於テ登記セラレ又ハ帝室費ニ依リ管理セラレタル財産及所有物ニシテ本條第二項及第三項ニ掲ケサルモノノ法律上ノ性質ヲ變更セサルモノトス

第六十一條

土耳其國ノ文官及軍人ノ恩給受領者ニシテ本條約ニ依リ土耳其國以外ノ國ノ國民トナリタル者ハ其ノ恩給ニ關シ土耳其國政府ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルヘシ

第六十二條

土耳其國ハ千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ締結セラレタル獨逸國トノ平和條約第二百六十一條竝千九百十九年九月十日ノ塊地利國トノ平和條約、千九百十九年十一月二十七日ノ勃爾牙利國トノ平和條約及千九百二十年六月四日ノ洪牙利國トノ平和條約ノ對當條項ニ遵據シ獨逸國、塊地利國、勃爾牙利國及洪牙利國カ土耳其國ニ對シテ有スル一切ノ債權ノ讓渡ヲ承認ス

他ノ締約國ハ右ニ依リ土耳其國ノ負擔スヘキ債務ヲ同國ニ對シ免除スルコトニ同意ス

土耳其國カ獨逸國、塊地利國、勃爾牙利國及洪牙利國ニ對シテ有スル債權ハ前記締約國ニ均シク讓渡セラルルモノトス

第六十三條

土耳其國政府ハ戰後獨逸國ヨリ土耳其國ニ輸出スル商品ニ對スル支拂トシテ土耳其國政府發行ノ紙幣ノ一定ノ爲替相場ニテ受領スルコトニ付戰時中獨逸國政府ノ契約シタル義務ヲ他ノ締約國トノ協議ニ依リ獨逸國ニ對シ免除スルコトヲ聲明ス

第三編　經濟條項

第六十四條

本編中「同盟國」トハ土耳其國以外ノ締約國ヲ謂ヒ「同盟國國民」トハ土耳其國以外ノ締約國又ハ右締約國中ノ一國ノ保護ノ下ニ在ル國若ハ地域ニ屬スル自然人、會社、組合及營造物ヲ謂フ

「同盟國國民」ニ關スル本編ノ規定ハ同盟國ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ事實上同盟國ノ保護ノ下ニ在リタル理由ニ依リ土耳其國官憲ヨリ同盟國國民ト同一ノ待遇ヲ受ケ且之カ爲損害ヲ被リタル者ニ對シ之ヲ適用スヘシ

第一款　財産、權利及利益

第六十五條

本條約實施ノ日ニ於テ土耳其國ニ屬スル地域ニ現存シ且識別セラレ得ヘキ財産、權利及利益ニシテ千九百十四年十月二十九日ニ同盟國國民タル者ニ屬スルモノハ現狀ノ儘直ニ其ノ權利者ニ返還セラルヘシ

同樣ニ千九百十四年十月二十九日ニ同盟國ノ主權若ハ保護ノ下ニ置カレタル地域又ハ「バルカン」戰爭ノ結果土耳其帝國ヨリ分離シ且現ニ同盟國ノ主權ノ下ニ在ル地域ニ現存シ且識別セラレ得ヘキ財産、權利及利益ニシテ土耳其國民ニ屬スルモノハ現狀ノ儘直ニ其ノ權利者ニ返還セラルヘシ本條約ニ依リ土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ニ於テ土耳其國民ニ屬スル財産、權利及利益ニシテ同盟國ノ官憲ニ依ル清算又ハ他ノ非常措置ノ目的物ト爲リタルモノニ付亦同シ

本條約ニ依リ土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ニ存在シ且土耳其國政府ニ依ル戰時非常措置ノ目的物ト爲リタル後前記地域上ニ權力ヲ行使スル締約國ノ權內ニ現存スル財産、權利及利益ニシテ識別セラレ得ヘキモノハ現狀ノ儘正當ノ所有者ニ返還セラルヘシ前記ノ地域上ニ權力ヲ行使スル締約國ニ依リ清算セラレタル不動產ニ付亦同シ個人間ニ於ケル一切ノ他ノ返還請求ハ當該地方裁判官轄權ニ屬スルモノトス

請求セラレタル財産ノ識別又ハ返還ニ關スル爭議ハ本編第五款ニ掲クル混合仲裁裁判所ニ之ヲ付託スヘシ

第六十六條

締約國ハ第六十五條第一項及第二項ノ規定ヲ實行スル爲權利者ノ同意ナクシテ設定セラレタル負擔又ハ役務ヲ受ケシムルコトナク其ノ財產、權利及利益ノ占有ヲ最迅速ナル手續ニ依リ權利者ニ回復セシムヘシ右返還

ヲ實施スル國ノ政府ハ直接又ハ間接ニ同政府ヨリ取得シ且右返還ノ爲損害ヲ被リタル第三者ニ對シ損害賠償ヲ爲スコトヲ要ス右賠償問題ニ付生スルコトアルヘキ爭議ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬ス

其ノ他ノ一切ノ場合ニ於テハ損害ヲ被リタル第三者ハ當事者ニ對シ其ノ損害賠償ヲ請求スヘキモノトス

之カ爲締約國カ敵人ノ財産、權利及利益ニ關シ執リタル一切ノ處分行爲又ハ他ノ戰時非常措置ハ其ノ請算未タ完了セサル場合ニ於テハ直ニ之ヲ中止又ハ停止スヘク請求ヲ爲ス所有者ハ當該財産、權利及利益ノ識別セラレタルトキハ直ニ其ノ返還ニ依リ滿足セシメラルヘシ

第六十五條ノ規定ニ依リ返還セラルヘキ財産、權利及利益カ本條約署名ノ日ニ於テ締約國中ノ一國ノ官憲ニ依リ清算セラレタル場合ニ於テハ右締約國ハ清算高ヲ右所有者ニ支拂フコトニ依リ右財産、權利及利益ヲ返還スルノ義務ヲ免除セラルルモノトス清算カ公正ナル價格ノ實現ヲ保障スヘキ諸條件ノ下ニ行ハレサリシコトヲ所有者ノ請求ニ依リ第五款ニ掲クル混合仲裁裁判所ニ於テ認メタル場合ニ於テハ右仲裁裁判所ハ當事者間ニ合意成立セサルトキハ其ノ相當ト認ムル金額ヲ清算高ニ增額スルコトヲ得ヘシ所有者ト合意成立シタル後又ハ前記混合仲裁裁判所ノ判定アリタル後二月ノ期間内ニ右支拂ナキトキハ前記ノ財産、權利及利益ハ之ヲ返還スヘキモノトス

第六十七條

一方ニ於テ希臘國、羅馬尼亞國、「セルプ、クロアート、スロヴェーヌ」國及他方ニ於テ土耳其國ハ夫々土耳其國領域又ハ希臘國、羅馬尼亞國及「セルプ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ領域ニ於テ其ノ軍隊及行政官廳ノ爲

攜去、差押又ハ保管セラレタル各種ノ動產ニシテ右領域内ニ現存スルモノノ右領域内ニ於ケル捜索及返還ニ付適當ナル行政措置及一切ノ關係書類ノ引渡ニ依リ相互ニ便宜ヲ與フルコトヲ約ス

前記ノ物件中土耳其國又ハ其ノ國民ニ歸屬シタルモノニシテ希臘國、羅馬尼亞國又ハ「セルプ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ領域内ニ於テ獨逸國、墺地利洪牙利國又ハ勃爾牙利國ノ軍隊及行政官廳ニ依リ差押又ハ保管セラレタルモノ竝希臘國、羅馬尼亞國又ハ「セルプ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ其ノ國民ニ歸屬シタル物件ニシテ土耳其國ノ領域内ニ於テ希臘國、羅馬尼亞國又ハ塞爾比亞國ノ軍隊ニ依リ差押又ハ保管セラレタルモノハ均シク捜索及返還セラルヘシ

前記ノ捜索及返還ニ關スル請求ハ本條約實施後六月ノ期間内ニ之ヲ提出スヘシ

第六十八條

希臘國軍隊ノ占領シタル土耳其國ノ地域ニ於テ一方希臘國ノ官憲及行政官廳ト他方土耳其國民トノ間ニ締結セラレタル契約ヨリ生スル金錢債務ハ該契約ノ定ムル條件ニ依リ希臘國政府之ヲ支拂フヘシ

第六十九條

千九百十四年八月一日現行ノ法令ニ依リ同盟國國民及其ノ財產ニ課セラレサリシ租稅、料金又ハ附加稅ハ千九百二十二年乃至千九百二十三年ノ年度前ノ諸年度分トシテ同盟國國民又ハ其ノ財產ニ對シ一切徵收セラレサルヘシ

千九百二十二年乃至千九百二十三年ノ年度前ノ諸年度分トシテ千九百二十三年五月十五日以後徵收セラレタル金額ハ本條約實施後權利者ニ其ノ總額ヲ返還スヘシ

千九百二十三年五月十五日前ニ取立テラレタル金額ニ關シテハ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條

第六十五條、第六十六條及第六十九條ニ基ク請求ハ本條約實施後六月ノ期間内ニ當該官憲ニ、合意ヲ缺ク場合ニ於テハ本條約實施後十二月ノ期間内ニ混合仲裁裁判所ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第七十一條

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、羅馬尼亞國及「セルプ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ前記諸國民カ千九百十四年十月二十九日前ニ其ノ財產、權利及利益ニ關シ土耳其國政府ニ對シ提起シタル請求又ハ訴訟ハ本款ノ規定ニ依リ何等影響ヲ受ケルコトナカルヘシ土耳其國政府又ハ其ノ國民カ英帝國、佛蘭西、伊太利、羅馬尼亞及「セルプ、クロアート、スロヴェーヌ」ノ諸國政府ニ對シ提起シタル請求又ハ訴訟ハ治外法權撤廢ヲ參酌シ且土耳其國政府及本條ニ掲クル他ノ政府ニ於テ同一ノ條件ノ下ニ行ハルヘシ

第七十二條

本條約ニ依ル土耳其國ノ領域内ニ於テ獨逸、墺地利、洪牙利及勃爾牙利ノ諸國又ハ其ノ國民ニ屬シ且本條約ノ實施前同盟國政府ニ依リ差押又ハ領有セラレタル財產、權利及利益ハ右同盟國政府ト獨逸、墺地利、洪牙利及勃爾牙利ノ諸國ノ政府又ハ其ノ關係國民トノ間ニ協定ノ締結セラルル迄ハ右同盟國政府引續キ之ヲ占有スヘシ右ノ財產、權利及利益カ清算セラレタルモノナルトキハ其ノ清算ハ之ヲ確認スヘシ

本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域ニ於テハ右地域ニ於テ權力ヲ行使スル政府ハ本條約實施ノ日ヨリ一年ノ期間内ニ獨逸、墺地利、洪牙利及勃爾牙利ノ諸國又ハ其ノ國民ニ屬スル財產、權利及利益ニ關シテハ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七十三條

當事者ニシテ後ニ至リ第八十二條所定ノ敵人ト爲リタル者ノ間ニ於テ同條ニ定ムル期日前ニ締結セラレタル契約ニシテ左ニ掲クル種類ニ屬スルモノハ有效ニ存續ス但シ右契約ノ規定及本條約ノ規定ヲ留保ス

(イ) 不動產ノ賣却ヲ目的トスル契約ニシテ賣却カ適法ニ實行セラレサリシモ當事者カ第八十二條ノ條項ニ依リ敵人ト爲ルニ先チ引渡ヲ了シタルモノ

(ロ) 個人間ノ賃貸借、不動產賃貸借契約及不動產賃貸豫約

(ハ) 鑛業、林業又ハ農業ノ經營ニ關スル個人間ノ契約

(ニ) 抵當權、質權及其ノ他ノ擔保ノ契約

(ホ) 會社設立契約但シ合名會社ニシテ同會社ヲ支配スル法律ニ依リ契約當事者ノ人格ト異ル人格ヲ構成セサルモノ(「パートナーシップ」)ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

(ヘ) 目的ノ如何ヲ問ハス個人又ハ會社ト國、州、都市又ハ他ノ類似ノ行

(ト)政法人ト(チ)ノ間ノ契約
親族法上ノ契約
一切ノ贈與又ハ債務免除ノ契約

本條ハ契約締結當時契約自體ノ有スル效力以外ノ效力ヲ付與スル爲之ヲ援用スルコトヲ得ス

本條ハ利權契約ニ之ヲ適用セス

第七十四條

保險契約ハ本款附屬書ノ規定ニ依ルモノトス

第七十五條

第七十三條及第七十四條ニ列擧スル契約以外ノ契約竝利權契約以外ノ契約ニシテ其ノ當事者カ後日敵人ト爲リタルモノハ右當事者ノ敵人ト爲リタル日ヨリ失效シタルモノト看做スヘシ

尤モ契約ノ各當事者ハ右契約締結當時ノ狀態ト右契約ノ維持ヲ請求シタル時ノ狀態トノ相違ニ伴フ損害賠償ヲ必要アルニ於テハ相手方ニ辨濟スルノ條件ニ於テ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄該契約ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ右ノ損害賠償ハ當事者間ニ合意ナキ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所之ヲ決定スヘシ

第七十六條

第七十三條乃至第七十五條ニ揭クル契約ノ當事者タル締約國國民カ本條約實施前爲シタル取極（支拂貨幣又ハ爲替相場ニ關スル取極ヲ含ム）ニシテ殊ニ右契約ノ取消、維持、履行方法又ハ變更ヲ目的トスルモノハ有效スト

第七十七條

千九百十八年十月三十日後同盟國及土耳其國ノ兩國國民間ニ締結セラレタル契約ハ有效ニシテ普通法ノ適用ヲ受クヘシ

千九百二十年三月十六日後「コンスタンティノープル」政府ト適法ニ締結セラレタル一切ノ契約及協定ニシテ右政府カ有效ニ權力ヲ行使スル地域ニ關スルモノハ本條約實施後三月ノ期間內ニ當事者ノ請求アルトキハ土耳其國國民議會ノ同意ヲ求ムヘキモノトス前記ノ契約ニ依リ行ハレタル支拂ハ同支拂ヲ爲シタル者ノ貸方ニ記入セラルヘキモノトス

右ノ同意ヲ得サル場合ニ於テハ當事者ハ實際被リタル直接ノ損害ニ相當スル賠償ヲ必要アルニ於テハ請求スルコトヲ得ヘク友誼的協定成立セサル場合ニ於テハ右ノ損害賠償ハ混合仲裁裁判所之ヲ決定スヘシ

本條ノ規定ハ利權契約及利權讓渡ニ之ヲ適用セス

第七十八條

當事者ニシテ後ニ至リ敵人ト爲リタル者ノ間ニ成立シタル利權契約以外ノ契約ニ關シ既ニ生シ又ハ左ニ揭クル六月ノ期間滿了前ニ生スルコトアルヘキ一切ノ爭議ハ混合仲裁裁判所之ヲ算轄ス但シ中立國ノ法令ノ適用ニ依リ當該中立國ノ國內裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニアラス此ノ場合ニ於テハ右爭議ノ混合仲裁裁判所ヲ排除シテ當該國內裁判所之ヲ管轄ス本條ニ依リ混合仲裁裁判所ノ管轄ニ屬スル爭議ニ關スル訴ハ當該混合仲裁裁判所設置ノ日ヨリ六月ノ期間內ニ右裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

右期間滿了後ハ混合仲裁裁判所ニ提起セラレサリシ爭議ハ普通法ニ從ヒ權限ヲ有スル裁判所之ヲ管轄ス

本條ノ規定ハ一切ノ契約當事者カ戰時中同一國ニ居住シ其ノ身體及財產ヲ自由ニ處理シタル場合及當事者カ敵人ト爲リタル日前ニ管轄裁判所ノ裁判シタル爭議ニ關スル場合ニ之ヲ適用セス

第七十九條

各締約國ノ領域內ニ於テ一切ノ時效期間又ハ出訴期間ハ敵人間ノ關係ニ付テハ其ノ進行ノ開始カ開戰前ナルト開戰後ナルトヲ問ハス千九百十四年十月二十九日ヨリ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄ハ其ノ進行ヲ停止シタルモノト看做ス

右ノ規定ハ殊ニ利札及配當證ノ呈示期間竝當籤セル有價證券若ハ其ノ他ノ事由ニ因リ償還セラルヘキ有價證券ノ拂戻ヲ受クル爲ノ呈示期間ニ之ヲ適用ス

羅馬尼亞國ニ關シテハ前記ノ時效又ハ出訴ノ期間ハ千九百十六年八月二十七日ヨリ其ノ進行ヲ停止シタルモノト看做ス

第八十條

敵人間ノ關係ニ就テハ戰爭前ニ發行シタル流通證券ハ所要ノ期間內ニ引受若ハ支拂ノ爲ニスル其ノ呈示ノ爲サス、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲サス又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲サス其ノ他戰時中或形式ヲ履行セサリシ故ノミヲ以テ失效シタルモノト看做サルルコトナカルヘシ

引受若ハ支拂ノ爲ニスル流通證券ノ呈示、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成又ハ引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲スコトヲ要スル期間カ戰時中經過シ且同證券ノ呈示、拒絕證書ノ作成ヲ爲スコトヲ要スル期間ニ於テハ同證券ノ呈示、引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲ス爲本條約實施後三月ノ期間ヲ當事者ニ付與スヘシ

第八十一條

戰爭前ニ於ケル金錢債務ニシテ辨濟期限到來シタルモノヲ保證スル擔保又ハ抵當權ヲ實行スル爲戰時中爲サレタル賣却ハ債務者ニ其ノ通知ヲ爲ス爲要求セラレタル一切ノ形式ヲ履行セサルモ有效ト看做ス但シ債權者

ヲシテ損害賠償ノ制裁ノ下ニ混合仲裁裁判所ニ計算書ヲ提出シ出廷セシムルノ債務者ノ權利ハ特ニ之ヲ留保ス

混合仲裁裁判所ハ其ノ職權トシテ右當事者間ノ計算書ヲ檢查シ、擔保又ハ抵當トシテ提供セラレタル財產ノ賣却條件ヲ審查シ且債權者カ惡意ヲ以テ右賣却ヲ爲シタル場合又ハ賣却ヲ避クル爲若ハ右賣却カ公正ナル價格ノ實現ヲ保障スヘキ條件ノ下ニ行ハルル爲能フ限リノ注意ヲ拂ハサリシ場合ニ於テハ賣却ニ因リ債務者ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ債權者ニ負擔セシムヘシ

本規定ハ敵人間ニ限リ之ヲ適用スヘク千九百二十三年五月一日後爲サレタル前記ノ行爲ニ之ヲ適用セス

第八十二條

本款ノ適用ニ付テハ契約當事者ハ其ノ間ニ於ケル取引カ事實上不能ト爲リタル日ヨリ又ハ右當事者中ノ一方カ服スル法律、命令若ハ規則ニ依リ禁止セラレ若ハ不法ト爲リタル日ヨリ之ヲ敵人ト看做ス

締約國中ノ一國ノ領域內ニ於テ敵人（會社ヲ含ム）又ハ其ノ代理人間ニ締結セラレタル契約ハ右領域內ニ戰時中殘留シ右領域內ニ於テ其ノ身體及財產ヲ自由ニ處理シ得タル契約當事者ノ一人ニ對シ右領域カ敵地タリシ場合ニ於テハ第七十三條乃至第七十五條、第七十九條及第八十條ノ規定ニ拘ラス普通法ノ適用ヲ受クルモノトス

第八十三條

本款ノ規定ハ日本國及土耳其國間ニ之ヲ適用セス本款ノ規定ニ關係アル事項ニ付テハ右兩國ハ各自國ノ法令ニ依リ之ヲ處理スヘシ

附屬書

一　生命保險

生命保險契約ニシテ保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ敵對行爲ノ開始ニ因リ又ハ右ノ者カ敵人ト爲リタルノ事實ニ因リ失效シタルモノト看做サルルコトナカルヘシ

前項ニ依リ失效シタルモノト看做サレサル契約ノ條項ニ基キ戰時中支拂ヲ請求シ得ルニ至リタル保險金額ハ戰爭後之ヲ支拂ハシムルコトヲ得ヘク右金額ニハ支拂ヲ請求シ得ルニ至リタル日ヨリ支拂當日ニ至ル迄年五分ノ利息ヲ附スヘシ

契約カ保險料不拂ノ爲戰時中消滅シタルトキ又ハ契約條項不履行ノ爲其ノ效力ナキニ至リタルトキハ被保險者又ハ其ノ代理人若ハ承繼人ハ本條約實施ノ日ヨリ十二月以內何時ニテモ保險者ニ對シ契約ノ消滅又ハ取消ノ日ニ於ケル保險證券買戻價額ヲ年五分ノ利息ト共ニ請求スルコトヲ得ヘシ

土耳其國民ハ其ノ千九百十四年十月二十九日前ニ加入シタル生命保險契約カ其ノ條項ニ依リ保險料未拂ノ爲本條約前ニ失效シ又ハ減額セラレタル場合ニ於テハ本條約實施後三月ノ期間內ニ且本人生存中ナル場合ニ限リ保險金全額ニ對スル保險證券上ノ權利ヲ回復スルノ權利ヲ有ス之カ爲會社ノ醫師ヨリ會社ノ充分ト認ムル健康診斷ヲ受ケタル後延滯保險料ヲ五分ノ利息ト共ニ支拂フコトヲ要ス

二

現ニ同盟國ノ國籍ヲ有スル會社ト土耳其國民トノ間ニ千九百十四年十月二十九日前ニ於テ土耳其「磅」以外ノ貨幣ヲ以テ締結セラレタル生命保險契約ニシテ其ノ保險料カ千九百十五年十一月十八日ノ前後ニ亙リテ支拂ハレタルモノ又ハ其ノ以前ニノミ支拂ハレタルモノニ付テハ次ノ規定ニ依リ之ヲ決濟スヘキモノトス

(一)保險證券ノ一般條件ニ從ヒ被保險者ノ權利ヲ決定スルニ當リテハ千九百十五年十一月十八日前ノ期間ニ付テハ其ノ契約上ノ貨幣ニシテ其ノ發行國ニ於ケル通貨タルモノニ依ルコト（例ヘハ「法」、「金貨」「法」又ハ實價「法」ニテ計上セラレタル金額ハ佛國「法」ニ依リ支拂ハルヘキモノトス）

(二)千九百十五年十一月十八日後ノ期間ニ付テハ土耳其紙幣「磅」ニ依ルコト但シ土耳其「磅」ハ戰前ノ法定平價ヲ以テ評價ス

土耳其國貨幣以外ノ貨幣ニ依リ契約ヲ爲シタル土耳其國民カ千九百十五年十一月十八日以後引續キ其ノ契約ニ定ムル貨幣ニ依リ保險料ヲ支拂ヒタルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ其ノ契約ハ千九百十五年十一月十八日後ノ期間ニ付テモ亦右同一貨幣ニシテ其ノ發行國ニ於ケル通貨タルモノニ依リ之ヲ決濟スヘキモノトス

土耳其國民カ現ニ同盟國ノ國籍ヲ有スル會社ト土耳其國貨幣以外ノ貨幣ヲ以テ千九百十四年十月二十九日以前ニ契約ヲ締結シ右契約カ保險料拂込ニ依リ倍效力ヲ有スル場合ニ於テハ右土耳其國民ハ本條約實施後三月ノ期間內ニ契約上ノ貨幣ニシテ其ノ發行國ニ於ケル通貨タルモノニ依リ保險金全額ニ對スル保險證券ヲ回復スルノ權利ヲ有スルモノトス之カ爲右國民ハ千九百十五年十一月十八日以後拂込ムヘキ保險料ヲ右貨幣ヲ以テ支拂フコトヲ要ス之ニ反シ前記ノ期日以後土耳其紙幣「磅」ヲ以テ右國民ノ現ニ支拂ヒタル保險料ハ同一ノ貨幣ヲ以テ之ヲ拂戻スヘキモノトス

三

土耳其「磅」ヲ以テ締結セラレタル保險契約ニ關シテハ土耳其紙幣「磅」ヲ以テ之ヲ決濟スヘキモノトス

四

二及三ノ規定ハ明確ナル協定ニ依リ保險會社ト既ニ其ノ保險證券ノ價格ノ決定及保險料拂込ノ方法ニ付取極メタル被保險者竝本條約實施ノ日ニ於テ保險證券ニ付決定的ニ取極ヲ了シタル被保險者ニハ之ヲ適用セス

當事者相互間ノ約定ニ於ケル計算ニ付人命ノ推算ト利率トヲ基礎トスル保險契約ハ前數項ノ適用上之ヲ生命保險契約ト看做スヘシ

二　海上保險

六

海上保險契約ハ保險者ノ責任カ當事者ノ敵人ト爲リタル以前ニ始マリタル場合ニ於テ且保險者ノ所屬國又ハ其ノ同盟國ニ依リ爲サレタル戰爭行爲ニ基ク損害ヲ塡補セサルコトヲ條件トシ之ヲ失效シタルモノト看做ササルヘシ但シ契約中ノ條項ヲ留保ス

三　火災保險及其ノ他ノ保險

七

前項ニ揭ケル留保ノ下ニ火災保險契約及其ノ他ノ一切ノ保險契約ハ之ヲ失效シタルモノト看做ササルヘシ

第三款　金錢債務

第八十四條

締約國ハ戰爭前ニ成立シタル契約ニ依ル金錢債務ニシテ戰爭前又ハ戰時中彈濟期限到來シ戰爭ノ爲未タ辨濟セラレサリシモノハ右契約ノ定ムル條件ニ依リ且契約上ノ貨幣ニシテ其ノ發行國ニ於ケル通貨タルモノニ依リ之カ決濟及支拂ヲ爲スコトヲ承認スルコトニ同意ス

戰爭前ノ契約ニ依リ戰時中該契約中ニ定ムル貨幣以外ノ貨幣ヲ以テ全部又ハ一部ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ右支拂ハ現ニ取立テラレタル金額ヲ取立テラレタル通貨ヲ以テ拂込ムコトニ依リ有效ニ行ハレタルモノトス但シ本編第二款附屬書ノ規定ノ適用ヲ妨ケス本規定ハ本條約實施前當事者間ノ合意ニ依リ成立シタル反對ノ規定ヲ害セサルモノトス

第八十五條

土耳其國公債ノ合意ニ依リ本款及本編（經濟條項）ノ他ノ諸款ノ適用ヲ受ケサルモノトス

第四款　工業所有權及文學的又ハ美術的著作物ニ關スル權利

第八十六條

各締約國ノ法令ニ依リ千九百十四年八月一日ニ於テ現存シタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ハ戰爭狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ各締約國ノ領域內ニ於テ之ヲ回復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス若シ戰爭ナカリセハ工業所有權保護ノ爲爲サレタル正規ノ出願ニ基キ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果トシテ戰時中取得シ得ヘカリシ權利ハ權利者タルヘカリシ者ノ爲ニ均シク本條約實施ノ時ヨリ承認設定セラルヘシ

前項ノ規定ニ依リ回復セラルヘキ權利ヲ毀損スルコトナク土耳其國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國ノ立法機關又ハ執行若ハ行政官廳ノ執リタル特別措置ニ基ク一切ノ行爲（特許ノ付與ノ含ム）ハ依然有效ニシテ其ノ完全ナル效力ヲ存續スヘキモノトス本規定ハ同盟國國民ノ權利ニ關シ土耳其國官憲ノ執リタル同種ノ特別措置ニ之ヲ準用ス

第八十七條

土耳其國民ニシテ他ノ各締約國ノ領域內ニ在ル者及右締約國國民ニシテ土耳其國內ニ在ル者ハ千九百十四年八月一日ニ於ケル其ノ既得ノ工業所有權若ハ戰爭ナカリセハ戰爭前若ハ戰時中ノ出願ニ基キ同日以後ニ其ノ取得シ得ヘカリシ工業所有權ヲ保存若ハ取得スル爲又ハ右ニ付異議ヲ申立ツル爲本條約實施ノ時ヨリ一年ヲ下ラサル期間內ハ何等ノ附加金又ハ

過意金ヲ徴收セラルルコトナク一切ノ行爲ヲ追究シ、手續ヲ履行シ、料金ヲ納付シ其ノ他當該國ノ法令規則ノ定ムル一切ノ義務ヲ履行スルコトヲ得

工業所有權ニシテ其ノ行爲ノ追究、手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ怠リタルノ結果一旦失效シタルモノハ其ノ效力ヲ回復スヘシ但シ特許及意匠ニ關シテハ其ノ失效シタリシ期間内ニ右ノ特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用シタル第三者ノ權利ヲ保護スルカ爲各國ハ衡平ノ見地ヨリ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ルモノトス

千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ實施ニ付又ハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間ニ之ヲ算入セス倘千九百十四年八月一日ニ於テ有效ナリシ特許、製造標若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了前ハ單ニ其ノ不實施又ハ不使用ノ事由ノミニ依リ失效シ又ハ取消サルルコトナカルヘシ

第八十八條

一方ニ於テ土耳其國ノ國民又ハ同國内ニ居住シ若ハ營業ニ從事スル者及他方ニ於テ同盟國ノ國民又ハ同國領域内ニ居住シ若ハ營業ニ從事スル者ノ結果タル國籍ノ變更ニ拘ラス其ノ分離當時土耳其國法令ニ依リ有シタル一切ノ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ土耳其國内ニ於テ引續キ完全ニ享有スヘシ

工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域内ニ於テ該地域分離ノ際有效ナルモノ又ハ第八十六條ノ適用ニ依リ回復セラルヘキモノハ右地域ヲ讓受ケタル國ニ於テ之ヲ承認スヘク且土耳其國法令ニ依リ之ニ許與セラルヘキ期間右地域内ニ於テ引續キ其ノ效力ヲ保有スヘシ

關スル權利ノ利用竝該權利ノ實施ニ因リ生シタル一切ノ生產品、裝置、物品又ハ作品ノ販賣、販賣ノ提供又ハ使用ヲ包含ス

第八十九條

工業所有權ニシテ其ノ行爲ノ追究、手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ怠リタルノ結果一旦失效シタルモノハ其ノ效力ヲ回復スヘシ但シ特許及意匠ニ關シテハ其ノ失效シタリシ期間内ニ右ノ特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用シタル第三者ノ權利ヲ保護スルカ爲各國ハ衡平ノ見地ヨリ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ルモノトス

千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ實施ニ付又ハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間ニ之ヲ算入セス倘千九百十四年八月一日ニ於テ有效ナリシ特許、製造標若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了前ハ單ニ其ノ不實施又ハ不使用ノ事由ノミニ依リ失效シ又ハ取消サルルコトナカルヘシ

第八十八條

一方ニ於テ土耳其國ノ國民又ハ同國内ニ居住シ若ハ營業ニ從事スル者及他方ニ於テ同盟國ノ國民又ハ同國領域内ニ居住シ若ハ營業ニ從事スル者ノ結果タル國籍ノ變更ニ拘ラス其ノ分離當時土耳其國法令ニ依リ有シタル一切ノ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ土耳其國内ニ於テ引續キ完全ニ享有スヘシ

工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域内ニ於テ該地域分離ノ際有效ナルモノ又ハ第八十六條ノ適用ニ依リ回復セラルヘキモノハ右地域ヲ讓受ケタル國ニ於テ之ヲ承認スヘク且土耳其國法令ニ依リ之ニ許與セラルヘキ期間右地域内ニ於テ引續キ其ノ效力ヲ保有スヘシ

第八十九條

本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域内ノ住民ハ右地域ノ分離及其ノ結果タル國籍ノ變更ニ拘ラス分離當時土耳其國法令ニ依リ有シタル一切ノ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ土耳其國内ニ於テ引續キ享有スヘシ

工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域内ニ於テ該地域分離ノ際有效ナルモノ又ハ第八十六條ノ適用ニ依リ回復セラルヘキモノハ右地域ヲ讓受ケタル國ニ於テ之ヲ承認スヘク且土耳其國法令ニ依リ之ニ許與セラルヘキ期間右地域内ニ於テ引續キ其ノ效力ヲ保有スヘシ

第九十一條

發明特許ノ付與又ハ製造標ノ登錄竝特許又ハ製造標ノ移轉又ハ讓渡ニ關スル登錄ニシテ千九百十八年十月三十日以後土耳其帝國政府ニ依リ「コンスタンティノープル」又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ適法ニ實行セラレタルモノハ本條約實施後三月ノ期間内ニ爲サレタル當事者ノ請求ニ基キ之ヲ土耳其國政府ニ送付ノ上登錄スヘシ右登錄ハ當初ノ登錄ノ日ヨリ效力ヲ有ス

第五款　混合仲裁裁判所

第九十二條

本條約實施ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ一方同盟國ノ各國ト他方土耳其國トノ間ニ一箇ノ混合仲裁裁判所ヲ設置ス

該裁判所ハ各三名ノ裁判員ヲ以テ之ヲ構成ス右裁判員中ノ二名ハ關係國政府夫々之ヲ選任スヘク關係國政府ハ數名ヲ指定シ事宜ニ應シ右ノ内ヨリ裁判所ノ裁判員トシテ出席スヘキ者ヲ選任スルノ權ヲ有ス裁判長ハ兩國關係國政府ノ合意ニ依リ之ヲ選任スヘシ

本條約實施後二月ノ期間内ニ右合意ノ成立セサルトキハ該裁判長ハ關係國政府ノ一方ノ請求ニ依リ戰時中中立國タリシ國ノ國民中ヨリ海牙常設國際司法裁判所ノ裁判所長之ヲ選任スヘシ

右二月ノ期間内ニ關係國政府ノ一方カ混合仲裁裁判所ニ其ノ政府ヲ代表スヘキ裁判員ヲ選任セサルトキハ他方關係國政府ノ請求ニ依リ國際聯盟理事會之ヲ選任スヘシ

裁判所ノ裁判員カ死亡シ退職シ又ハ何等カノ理由ニ因リ執務不能ト爲リタルトキハ死亡シ若ハ退職シ又ハ正當ナリト確認セラレタル執務不能ノ日ヨリ起算セラルヘキ二月ノ期間内ニ裁判員ノ選任ニ付定メラレタル手續ニ依リ之カ補闕ヲ爲スヘシ

第九十三條

混合仲裁裁判所所在地ハ「コンスタンティノープル」トス關係國政府ハ事件ノ數及性質ニ依リ必要ナルトキハ各裁判所ニ一箇又ハ數箇ノ支部ヲ設置シ其ノ所在地ヲ適當ト認ムル場所ニ定ムルコトヲ得右各部ハ副裁判長一名及第九十二條第二項乃至第五項ニ遵據シテ選任スヘキ裁判員二名ヲ以テ之ヲ組織ス

各國政府ハ該裁判所ニ於テ自國ヲ代表セシムル爲一名又ハ數名ノ代理人ヲ選任ス

混合仲裁裁判所又ハ前記支部中ノ一ノ設置ヨリ三年後ニ於テ右ノ裁判所又ハ支部カ其ノ事務ヲ完了セス且右裁判所又ハ支部ノ所在地タル地域ノ屬スル國ノ請求アルトキハ該所在地ハ右地域ノ外ニ移轉セラルヘシ

第九十四條

第九十二條及第九十三條ニ基キ設置スル混合仲裁裁判所ハ本條約ニ依リ其ノ權限内ニ屬スル爭議ヲ裁判スヘシ

右裁判所ノ判定ハ裁判員ノ過半數ノ決定ニ依ルヘシ

締約國ハ右混合仲裁裁判所ノ判定ヲ確定的ノモノト看做シ且各自ノ國民ニ對シ拘束力アルモノト爲シ判定ノ通知ノ到達シタル時ヨリ何等執行命令ノ手續ヲ要スルコトナク各自國領域内ニ於テ其ノ執行ヲ確保スルコトヲ約ス

締約國ハ尚各自國ノ裁判所及官憲ヲシテ通知書ノ送達及證據ノ蒐集其ノ他權限内ノ一切ノ助力ヲ直接ニ混合仲裁裁判所ニ與ヘシムルコトヲ約ス

第九十五條

混合仲裁裁判所ハ正義、衡平及誠實ヲ旨トスヘシ

各混合仲裁裁判所ハ審理上ノ用語ヲ定メ事件ヲ完全ニ理解セシムル爲必要ナル辯護ヲ命スヘシ裁判所ハ手續ノ準則及期限ヲ定ムヘシ右手續準則

ハ左ノ原則ニ遵據スルコトヲ要ス

一　訴訟當事者ハ覺書及反對覺書ヲ夫々提出スルコトヲ要シ且答辯書及辯駁書ヲ提出スルコトヲ得當事者ノ一方カ口頭ヲ以テ意見ヲ提出シ又ハ提出セシムルコトヲ申請スルトキハ相手方ニ對シテモ右同樣ノ場合右ノ手續ヲ爲スコトヲ得ル權利ヲ留保シ右申請ヲ許可スヘシ

二　裁判所ハ審理、文書ノ提出及鑑定ヲ命シ、臨檢搜索ヲ爲シ、一切ノ參考資料ヲ要求シ、一切ノ證人ノ陳述ヲ聽取シ且當事者又ハ其ノ代理人ニ口頭又ハ書面ヲ以テ一切ノ辯明ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

三　本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前記裁判所ノ判定ニ依リ與ヘラレ且遠隔又ハ不可抗力ノ理由ニ依リ特ニ正當ト認メラレタル特別ノ許可アルニ非サレハ前記裁判所ノ設置後六月ノ期間滿了後ハ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ許ササルヘシ

四　裁判所ハ事件ノ迅速ナル進捗ヲ保障スル爲必要ナル開廷ノ數ヲ每週保持スルコトヲ要ス但シ一年間ニ總計八週間ヲ超過セサル休暇期間ハ此ノ限ニ在ラス

五　討論終結後ハ事件ヲ裁判所ノ合議ニ付シ遲クモ右討論終結後二月以內ニ其ノ判定ヲ爲スコトヲ要ス

六　事件カ必要トスル場合ニ於テ爲スロ頭辯論及一切ノ場合ニ於テ爲ス判定ノ言渡ハ公判廷ニ於テ之ヲ行フモノトス

七　各混合仲裁裁判所ハ事件ノ進捗上有益ト認ムル場合ニ於テハ裁判所所在地ノ外ニ於テ一回又ハ數回開廷スルコトヲ得ヘシ

第九十六條

關係國政府ハ合意ニ依リ各裁判所ノ書記局長ヲ選任シ且書記局長ニ各一名又ハ數名ノ書記ヲ配屬セシムヘシ書記局長及書記ハ裁判所ノ指揮ヲ受クヘシ右裁判所ハ關係國政府ノ同意ニ依リ補助ヲ必要トスル一切ノ人員ヲ雇入ルルコトヲ得

各裁判所ハ書記局ハ「コンスタンティノープル」ニ其ノ事務所ヲ有ス關係國政府ハ其ノ適當ト認ムル他ノ場所ニ附屬事務所ヲ設置スルコトヲ得

各裁判所ハ其ノ受理シタル事件ノ記錄、證書及文書ヲ其ノ書記局ニ保存シ其ノ任務終了ノ場合ニ於テハ右裁判所所在地ノ政府ノ記錄ニ之ヲ寄託スヘシ右記錄ハ常ニ關係國政府ニ公開セラルヘシ

第九十七條

各國政府ハ其ノ選任シタル混合仲裁裁判所ノ審判員竝一切ノ代理人及書記ノ報酬ヲ支拂フヘシ

審判長及書記局長ノ報酬ハ關係國政府ニ於テ合意ヲ以テ之ヲ決定ス右ノ報酬及裁判所ノ一般ノ費用ハ兩國政府之ヲ折半シテ支拂フヘシ

第九十八條

本款ハ日本國及土耳其國間ノ事件ニシテ本條約ニ依リ混合仲裁裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス右ノ事件ハ兩國政府間ノ取極ニ從ヒ之ヲ解決スヘシ

第六款　條約

第九十九條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外經濟上又ハ技術上ノ性質ヲ有スル多數國間ノ條約及取極ニシテ左ニ列記スルモノハ土耳其國ト右諸條約及取極ノ當事國タル締約國トノ間ニ本條約實施ノ時ヨリ再ヒ效力ヲ發生ス

一　海底電信線ノ保護ニ關スル千八百八十四年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約竝千八百八十七年七月七日ノ最終議定書

二　萬國關稅誌ノ刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲ノ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約

三　巴里ニ於ケル公衆衞生國際事務局ノ設置ニ關スル千九百七年十二月九日ノ協定

四　羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百五年六月七日ノ條約

五　「エスコー」河通行稅ノ免除ニ關スル千八百六十三年七月十六日ノ條約

六　蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル制度ノ設定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約但シ本條約第十九條ノ特別規定ヲ留保ス

七　萬國郵便聯合ノ條約及取極（千九百二十年十一月三十日馬德里ニ於テ署名セラレタル條約及取極ヲ含ム）

八　千八百七十五年七月二十二日（十日）聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約、千九百八年六月十一日里斯本ノ萬國電信會議ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約書附屬國際業務規則及國際料金表

第百條

土耳其國ハ次ニ列擧スル諸條約若ハ取極ニ加入シ又ハ之ヲ批准スルコトヲ約ス

一　自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一日ノ條約

二　千八百八十六年五月十五日ノ稅關ノ檢査ヲ受クヘキ鐵道貨車ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書

三　海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約

四　病院船ノ港內ニ於ケル稅金及課金ノ免除ニ關スル千九百四年十二月二十一日ノ條約

五　醵業ヲ行ハシムル爲ノ婦女賣買ノ禁止ニ關スル千九百四年五月十八日、千九百十年五月四日及千九百二十一年九月三十日ノ條約

六　猥褻出版物禁止ニ關スル千九百十年五月四日ノ條約

七　千九百十二年一月十七日ノ衞生條約但シ第五十四條、第八十八條及第九十條ヲ留保ス

八　「フィロクセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十一年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約

九　千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名セラレタル阿片條約及千九百十四年附屬議定書

十　千九百十二年七月五日ノ萬國無線電信條約

十一　千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ署名セラレタル阿弗利加ニ於ケル火酒類取締ニ關スル條約

十二　千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ署名セラレタル千八百八十五年二月二十六日ノ伯林一般議定書竝千八百九十年七月二日ノ「ブリュッセル」一般議定書及宣言書ノ改正ニ關スル條約

十三　航空法規ニ關スル千九百十九年十月十三日ノ條約但シ千九百二十年五月一日ノ議定書ノ適用ニ依リ土耳其國ヵ其ノ地理上必要トスル除外例ヲ認メラレタル場合ニ限ル

十四　千九百六年九月二十六日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル條約

右ノ外土耳其國ハ有線電信及無線電信ニ關スル國際新條約作成ニ參加スルコトヲ約ス

第四編　交通手段及衞生事項

第一款　交通手段

第百一條

土耳其國ハ千九百二十一年四月十四日「パルセロナ」會議ニ依リ採用セラレタル通過ノ自由ニ關スル條約及規程竝千九百二十一年四月十九日同會議ニ依リ採用セラレタル國際可航水路制度ニ關スル條約及規程竝附屬議定書ニ加入スルコトヲ宣言ス

右ノ結果土耳其國ハ本條約實施ノ時ヨリ右ノ條約、規程及議定書ノ諸規定ヲ適用スルコトヲ約ス

第百二條

土耳其國ハ「無海岸國ノ船旗ニ關スル權利ヲ承認スル」千九百二十一年四月二十日附「パルセロナ」會議ノ勸告ニ加入スルコトヲ宣言ス

第百三條

土耳其國ハ國際制度ノ下ニ置カルル港ニ關スル千九百二十一年四月二十日附「パルセロナ」會議ノ勸告ニ加入スルコトヲ宣言ス土耳其國ハ同制度ノ下ニ置カルヘキ港ヲ今後公示スヘシ

第百四條

土耳其國ハ國際鐵道ニ關スル千九百二十一年四月二十日附「パルセロナ」會議ノ勸告ニ加入スルコトヲ宣言ス土耳其國政府ハ相互條件ノ留保ノ下ニ本條約實施ノ時ヨリ右勸告ヲ適用スヘシ

第百五條

土耳其國ハ本條約實施ノ時ヨリ千八百九十年十月十四日、千八百九十三年九月二十日、千八百九十五年七月十六日、千八百九十八年六月十六日及千九百六年九月十九日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル貨物ノ鐵道運送ニ關スル諸條約及諸協定ニ加入スルコトヲ約ス

第百六條

新國境劃定ノ結果同一國內ノ二地方ヲ連絡スル鐵道線カ他國ヲ過ル場合又ハ一國內ニ起點ヲ有スル支線カ其ノ終點ヲ他國內ニ有スル場合ニ於テハ兩國間ノ交通ニ關スル作業條件ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外當該鐵道當局間ノ協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ前記協定ノ條件ニ付當該鐵道當局間ノ協議調ハサルトキハ右條件ハ仲裁手段ニ依リ之ヲ決定スヘシ

土耳其國ト其ノ隣接スル國トノ間ノ一切ノ新國境停車場ノ設置竝此等停車場間ノ鐵道作業ハ右ト同一條件ノ下ニ締結セラルル協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第百七條

土耳其國若ハ希臘國ヨリ來リ又ハ土耳其國若ハ希臘國ニ向フ旅客及貨物ニシテ通過ニ際シ希臘國及勃爾牙利國間ノ國境ト「クーレリ・ビュルガス」ニ近キ希臘國及土耳其國間ノ國境トノ間ニ於ケル東方鐵道ノ三區間ヲ利用スルモノハ右通過ノ事實ニ依リ何等ノ稅金又ハ料金及旅券又ハ稅關ノ檢査ニ關スル何等ノ手續ヲ課セラルルコトナカルヘシ

本條規定ノ實施ハ國際聯盟理事會ニ於テ選定スル一名ノ委員ニ依リ確保セラルヘシ

希臘國政府及土耳其國政府ハ右委員附トシテ各一名ノ代表者ヲ選出スルノ權利ヲ有ス同代表者ハ前記規定ノ實施ニ關スル問題ニ付委員ノ注意ヲ喚起スルノ職務ヲ有シ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ便宜ヲ享有スヘシ同代表者ハ其ノ必要トスル補助人員ノ人數及資格ニ付委員ト協議スヘシ

委員ハ前記規定ノ實施ニ關スル問題ニシテ其ノ解決スルコト能ハサルモノヲ國際聯盟理事會ニ付議スルノ權限ヲ有ス希臘國政府及土耳其國政府ハ理事會カ多數決ニ依リテ爲シタル一切ノ決定ヲ遵守スルコトヲ約ス

委員ノ俸給及其ノ職務執行ニ要スル諸費用ハ希臘國政府及土耳其國政府

均等ニ之ヲ負擔スヘシ

土耳其國カ將來「アドリアノープル」ヲ「クーレリ・ビュルガス」ト「コンスタンティノープル」トノ間ノ一線ニ連絡セシムル鐵道ヲ敷設シタル場合ニハ本條ノ規定ハ各「クーレリ・ビュルガス」及「ポスナ・キョイ」ノ附近ニ位スル希臘國ト土耳其國トノ國境ノ諸地點間ノ通過ニ關スル限リ其ノ效力ヲ失フヘシ

本條約實施ノ時ヨリ五年ノ期間後前記兩關係國ハ何レモ本條第二項乃至第五項ニ規定セル管理ヲ繼續スルヲ要スルヤ否ヤヲ定決セシムル爲國際聯盟理事會ニ提議スルノ權利ヲ有ス尤モ第一項ノ規定ハ希臘國及勃爾牙利國國境ト「ポスナ・キョイ」トノ間ノ東方鐵道ノ二區間ニ於ケル通過ニ關シテハ引續キ其ノ效力ヲ有スルモノトス

第百八條

鐵道ノ讓渡ハ左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ但シ土耳其國政府ニ屬スルト私設會社ニ屬スルトヲ問ハス本條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域內ニ在ル港及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定竝特許權利者ニ關シ及職員退職恩給ノ支給ニ關シ締約國間ニ於テ既ニ取極メラレ又ハ將來取極メラルヘキ規定ハ之ヲ留保ス

一　一切ノ鐵道ノ工作物及設備ハ出來得ル限リ良好ノ狀態ニ於テ全部之ヲ引渡スヘシ

二　自線所屬ノ車輛ヲ有スル一鐵道系統全體カ讓渡地域內ニ在ル場合ニ於テハ其ノ車輛ハ千九百十八年十月三十日ノ最終財產目錄ニ從ヒ全部之ヲ引渡スヘシ

三　本條約ニ依リ管理ヲ分配セラルヘキ鐵道線ニ付テハ其ノ車輛ノ分配ハ各管理區域ノ配屬ヲ受ケタル鐵道當局者間ノ協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ右協定ヲ爲スニ當リテハ千九百十八年十月三十日ノ最終財產目錄ニ當該鐵道線所屬トシテノ記入濟車輛ノ數量、軌道ノ延長（側線ヲ含ム）竝運送ノ種類及數量ヲ考量スルコトヲ要ス協議調ハサルトキハ其ノ紛議ハ仲裁手段ニ依リ之ヲ解決スヘシ該仲裁判定ニハ必要アル場合ニ於テハ各區域ニ於テ引渡サルヘキ機關車、客車及貨車ヲ指定シ、車輛受領ニ關スル條件ヲ決定シ且讓渡車輛ノ現存工場內ニ於ケル保存ヲ一定ノ期間確保スルニ必要ナリト認ムル規定ヲ定ムヘシ

四　備品、附屬品、機械類ハ車輛ト同一ノ條件ノ下ニ之ヲ引渡スヘシ

第百九條

新國境劃定ノ結果一國內ノ治水（運河ノ開鑿、浸水、灌漑、排水又ハ類似ノ事項）カ他國領域內ノ既設工事ニ倚據スル場合又ハ一國ノ領域內ニ於テ他國領域內ニ發源スル水若ハ水力ヲ戰爭前ノ慣習ニ基キテ使用スル場合ニハ別段ノ規定ナキ限リ關係諸國間ニ此等諸國ノ各自取得シタル利益及權利ヲ保全スル爲之ヲ取極ヲ締結スヘシ

取極成立ニ至ラサルトキハ仲裁手段ニ依リ之ヲ解決スヘシ

第百十條

羅馬尼亞國及土耳其國ハ「コンスタンザ」及「コンスタンティノープル」間ノ海底電線ノ經營條件ヲ衡平ニ決定スルコトニ一致セリ協議調ハサルトキハ本事項ハ仲裁手段ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百十一條

土耳其國ハ其ノ領域內ニ陸揚セサルコトト爲リタル海底電線ノ全部又ハ一部ニ對スル一切ノ權利、權原又ハ特權ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス自國及其ノ國民ノ名ニ於テ之ヲ拋棄ス

前項ノ規定ニ依リ讓渡セラレタル海底電線ノ全部又ハ一部カ私有財產タル場合ニ於テハ右電線ヲ讓受ケタル政府ハ其ノ所有者ニ對シ之カ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス賠償ノ額ニ付協議調ハサルトキハ其ノ額ハ仲裁手

段ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百十二條

土耳其國ハ少クトモ一端カ引續キ土耳其國ノ領域内ニ陸揚セラルル海底電線ニ付從來有シタル所有權ヲ保有スヘシ

右海底電線ヲ土耳其國以外ノ地域内ニ陸揚スル權利ノ行使及其ノ經營ノ條件ニ付テハ關係國間ニ於テ協議ノ上之ヲ決定スヘシ協議調ハサルトキハ其ノ紛議ハ仲裁手段ニ依リ之ヲ解決スヘシ

第百十三條

各締約國ハ各自國ノ關スル限リ土耳其國ニ於ケル外國郵便局ノ撤廢ヲ受諾スヘキコトヲ宣言ス

第二款　衞生事項

第百十四條

「コンスタンティノープル」高等衞生委員會ハ之ヲ廢止ス土耳其國行政官廳ハ同國ノ沿岸及國境ノ衞生組織ノ責ニ任ス

第百十五條

土耳其國旗ト外國國旗トノ間ニ差別ヲ設ケス一切ノ船舶ニ對シ又土耳其國民ニ對スルト同一條件ノ下ニ外國國民ニ對シ單一ナル衞生稅ヲ賦課スヘシ其ノ稅率ト條件トハ衡平ナルコトヲ要ス

第百十六條

土耳其國ハ解職セラレタル衞生職員カ舊「コンスタンティノープル」高等衞生委員會ノ基金ニ對シテ有スル賠償請求權竝同委員會ノ現職員、舊職員及其ノ權利承繼人ノ他ノ一切ノ既得權ハ全部之ヲ尊重スルコトヲ約ス

右ノ諸權利、舊「コンスタンティノープル」高等衞生委員會ノ準備金ノ使途、舊衞生官廳ノ確定的清算及之ニ類似シ又ハ關聯スル其ノ他ノ一切ノ問題ハ「コンスタンティノープル」高等衞生委員會ヲ組織セル各國中獨逸國、墺地利國及洪牙利國ヲ除キタルモノノ各一名ノ代表者ヲ以テ組織セラルル特別委員會ニ於テ之ヲ決定スヘシ右ニ掲クル清算又ハ其ノ清算後殘存スル基金ノ剩餘ノ使途ニ關シ委員間ニ協議調ハサルトキハ同委員會ニ代表者ヲ有スル各國ハ之ヲ國際聯盟理事會ニ提出スルノ權利ヲ有ス該理事會ノ決定ハ終審トス

第百十七條

土耳其國竝「ジェルサレム」及「ヘヂアーズ」ヘノ巡禮及「ヘヂアーズ」鐵道ノ取締ニ付利害關係ヲ有スル諸國ハ國際衞生條約ノ規定ニ從ヒ適當ノ措置ヲ執ルヘシ右實施上完全ナル統一ヲ期スル爲前記ノ諸國及土耳其國ハ巡禮衞生委員會ヲ設クヘシ右委員會ニハ土耳其國ノ衞生機關竝埃及ノ海上衞生及檢疫委員會ノ代表者ヲ參加セシムヘシ

右委員會ハ豫メ其ノ會合地ノ屬スル國ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第百十八條

巡禮整理委員會ノ事業報告ハ國際聯盟保健委員會及公衆衞生國際事務局竝巡禮ニ關係ヲ有スル國ノ政府ニシテ之ヲ要求スルモノニ之ヲ交付スヘシ右委員會ハ國際聯盟、公衆衞生國際事務局又ハ關係國政府ノ照會スル一切ノ問題ニ對シ其ノ意見ヲ供與スヘシ

第五編　雜則

一　俘虜

第百十九條

締約國ハ俘虜及抑留人民ニシテ尙各自國ニ殘存スル者ヲ卽時送還スルヲトヲ約ス

希臘國及土耳其國ニ於テ各自抑留セル俘虜及抑留人民ノ交換ハ千九百二

十三年一月三十日「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル兩國間ノ特別協定ニ依リ之ヲ定ム

第百二十條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否トヲ問ハス之ヲ送還スヘシ

紀律違反以外ノ行爲ニ付取調中又ハ處罰中ノ者ハ引續キ之ヲ抑留スルコトヲ得

第百二十一條

締約國ハ失綜者ノ搜索ノ爲又ハ送還セラレサルノ希望ヲ表示シタル俘虜及抑留人民ノ識別ノ爲各自國領域内ニ於テ一切ノ便宜ヲ與フルコトヲ約ス

第百二十二條

締約國ハ俘虜及抑留人民ニ屬スルカ又ハ屬シタル一切ノ物品、貨幣、有價證券、書類又ハ各種ノ私有品ニシテ押收セラレタルモノヲ本條約實施後返還スルコトヲ約ス

第百二十三條

締約國ハ自國軍隊ノ捕ヘタル俘虜收容ニ因ル費用ノ相互ノ償還ヲ爲ササルコトヲ聲明ス

二　墳墓

第百二十四條

本條約第百二十六條ノ特別規定ヲ留保シ締約國ハ千九百十四年十月二十九日以後戰場ニ於テ斃レ又ハ負傷、事故若ハ疾病ニ因リ死亡シタル各締約國ノ陸海軍軍人竝同日以後抑留中死亡シタル俘虜及抑留人民ノ墓地、墳墓、納骨堂及記念碑ヲ自國ノ權力ノ下ニ在ル領域内ニ於テ尊重シ且保存セシムヘシ

締約國ハ前記ノ墓地、納骨堂及墳墓ヲ識別シ、登錄シ、保存シ且其ノ位置ニ適當ナル記念碑ヲ建設スルコトヲ委任シ得ヘキ委員會ニ對シ各自國ノ領域内ニ於テ其ノ任務執行ニ必要ナル一切ノ便宜ヲ與フヘキモノトス右委員會ハ軍事的性質ヲ帶フルコトヲ得ス

締約國ハ國内法ノ規定上及公共衞生ノ必要上差支ナキ限リ陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サムトスル要求ヲ滿足セシムル爲一切ノ便宜ヲ相互ニ供與スルコトヲ約ス

第百二十五條

締約國ハ相互ニ左記ノモノヲ供給スルコトヲ約ス

一　抑留中死亡シタル俘虜及抑留人民ノ全表竝其ノ識別上有用ナル一切ノ情報

二　識別セラレスシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ表示

第百二十六條

千九百十六年八月二十七日以後羅馬尼亞國領域内ニ於テ死亡シタル土耳其國　陸海軍軍人及俘虜ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ保存竝抑留人民ニ關シ第百二十四條及第百二十五條ヨリ生スル他ノ一切ノ義務ハ羅馬尼亞國政府及土耳其國政府間ノ特別協定ニ依リ之ヲ規定スヘシ

第百二十七條

第百二十四條及第百二十五條ノ一般規定ヲ補充スル爲一方ニ於テ英帝國佛蘭西國及伊太利國ノ各政府竝他方ニ於テ土耳其國及希臘國ノ各政府ハ第百二十八條乃至第百三十六條ノ特別規定ニ同意ス

第百二十八條

土耳其國政府ハ英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ各政府ニ對シ戰場ニ於テ斃レ又ハ負傷、事故若ハ疾病ニ因リ死亡シタル右諸國ノ陸海軍軍人竝抑留中死亡シタル俘虜及抑留人民ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ存在スル

土耳其國ノ領域内ニ於ケル土地ヲ各別ニ且永久ニ讓與スルコトヲ約ス又土耳其國政府ハ第百三十條ニ規定スル委員會ニ於テ共同墓地、納骨堂又ハ記念碑ヲ設置スル爲將來必要ト認ムヘキ土地ヲ前記各國政府ニ讓與スヘシ

尚土耳其國政府ハ右墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ヘノ出入ヲ自由トシ且必要アル場合ニハ必要ナル道路ノ開設ヲ許可スルコトヲ約ス

希臘國政府ハ其ノ地域ニ關スル限リ右同樣ノ義務ヲ負擔ス

前記ノ規定ハ讓與スヘキ地域ニ對スル土耳其國ノ主權ヲ害スルコトナシ

第百二十九條

土耳其國政府ノ讓與スヘキ土地中ニハ特ニ英帝國ノ爲ニ第三號地圖ニ示シタル「アンザック」(「アリ、ブルヌ」)地方ノ土地ヲ含ムモノトス(附屬地圖第三號略ス)

英帝國ノ前記土地ノ享有ハ左ノ條件ニ從フヘシ

一　該土地ハ本條約ニ基ク用途以外ニ之ヲ轉用スルコトヲ得ス從テ該土地ハ軍事上若ハ商業上ノ目的ノ爲又ハ前記ノ用途ニ異リタル目的ノ爲之ヲ利用スルコトヲ得ス

二　土耳其國政府ハ何時タリトモ該土地(墓地ヲ含ム)ヲ檢査セシムルノ權利ヲ有ス

三　墓地ノ警護ニ當ルヘキ非軍人タル看守人ノ數ハ墓地毎ニ一名ヲ超ユルコトヲ得ス墓地以外ニ於ケル土地ニ對シテハ特別ノ看守人ヲ置クコトヲ得ス

四　墓地ノ内外ヲ問ハス該土地ニハ看守人ニ必要缺クヘカラサル住居以外ノモノヲ建設スルコトヲ得ス

五　該土地ノ沿岸ニハ人又ハ商品ノ乘船又ハ下船ヲ容易ナラシムヘキ埠頭、波止場又ハ棧橋ヲ建設スルコトヲ得ス

六　一切ノ必要ナル手續ハ海峽ノ内側沿岸以外ニ於テハ之ヲ履行スルヲ得サルヘク且多島海沿岸ヨリ該地域ヘノ出入ハ右手續完了後ニ非サレハ許可セラレサルヘシ土耳其國政府ハ能フ限リ右手續ヲ簡易ニシ且本條ノ他ノ規定ヲ害スルコトナクシテ土耳其國ニ赴ク他ノ外國人ニ課セラルル手續ヨリモ其ノ負擔ヲ重カラシメサルコト及一切ノ不必要ナル遲延ヲ避クルニ足ルヘキ諸條件ノ下ニ右手續ヲ履行セシムルコトヲ受諾ス

七　該土地ニ參詣セムト欲スル者ハ武裝ヲ爲スコトヲ得ス土耳其國政府ハ右嚴重ナル禁止ノ勵行ヲ監視スルノ權利ヲ有ス

八　百五十名ヲ超ユル一切ノ參詣者團體ノ到著ニ付テハ少クトモ一週間以前ニ土耳其國政府ニ通知スルコトヲ要ス

第百三十條

英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ各政府ハ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ニ關スル諸問題ヲ其ノ現場ニ於テ解決スルノ任務ヲ有スル委員會ヲ設クヘシ土耳其國及希臘國ノ政府ハ之ニ各一名ノ代表者ヲ參加セシムヘシ右委員會ハ特ニ左ノ任務ヲ有ス

一　埋葬行ハレタルカ又ハ行ハレタリト認メラルル地帶ノ認定竝現存ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ確認

二　必要ニ應シ墳墓ノ集合ヲ行フヘキ條件ヲ定ムルコト、建設セラルヘキ共同墓地、納骨堂及記念碑ノ敷地ヲ土耳其國領域ニ關シテハ土耳其國代表者ト、希臘國領域ニ關シテハ希臘國代表者ト協力シテ指定スルコト竝右敷地ノ面積ヲ必要ナル最小限度ニ局限シテ其ノ境界ヲ定ムルコト

三　各自國民ノ爲既ニ建設セラレ又ハ將來建設セラルヘキ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ確定計畫ヲ各自國政府ノ名ニ於テ土耳其國及希臘國政府ニ通告スルコト

第百三十一條

被讓與國政府ハ右讓與セラレタル土地ヲ前記ノ用途以外ノ用途ニ使用セス又使用セシメサルコトヲ約ス該土地カ海岸ニ存在スルトキハ被讓與國政府ハ右沿岸ヲ陸海軍ノ軍事上又ハ商業上ノ目的ノ爲ニ利用スルコトヲ得ス墳墓及墓地用ノ土地ニシテ其ノ目的ノ爲ニ利用セラレス且記念碑建設ノ爲ニ利用セラレサルニ至リタルモノハ土耳其國政府又ハ希臘國政府ニ返還セラルヘシ

第百三十二條

第百三十條第三號ニ規定スル通告アリタル後六月以内ニ土耳其國及希臘國ノ各政府ハ第百二十八條乃至第百三十條ニ掲クル土地ノ完全ナル永久ノ享有權ヲ英帝國、佛蘭西國及伊太利國政府ニ讓與スル爲必要ナル立法上又ハ行政上ノ措置ヲ執ルコトヲ要ス若シ收用ノ必要アル場合ニハ土耳其國及希臘國ノ政府ハ各自國ノ領域ニ於テ自ラ且自己ノ費用ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第百三十三條

英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ各政府ハ其ノ國民ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ建設、整理及維持ヲ其ノ適當ト認ムル實行機關ニ委託スルコトヲ得ヘシ右機關ハ軍事的性質ヲ帶フルコトヲ得ス右機關ハ墳墓ノ集合竝墓地及納骨堂ノ建設ヲ確保スル爲必要ト認ムル遺骸ノ發掘及移轉竝被讓與國政府カ送還ヲ爲スノ必要アリト認メタル遺骸ノ發掘及移轉ヲ專ラ行フノ權利ヲ有ス

第百三十四條

英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ各政府ハ其ノ國民中ヨリ選任シタル看守人ヲシテ土耳其國内ニ在ル其ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ警護ヲ爲サシムルノ權利ヲ有ス土耳其國官憲ハ右看守人ヲ承認シ且其ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ保護ヲ爲サシムル爲助力ヲ與フヘシ右看守人ハ軍事的性質ヲ帶ヒサルモ身體防衛ノ爲拳銃又ハ短銃ヲ携帶スルコトヲ得

第百三十五條

土耳其國及土耳其國官憲又ハ希臘國及希臘國官憲ハ第百二十八條乃至第百三十一條ニ規定スル土地ニ對シ如何ナル種類ノ借地料又ハ稅金ヲモ課セサルヘシ英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ政府ノ代表者竝墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ參詣希望者ハ何時ニテモ自由ニ右土地ニ出入スルコトヲ得ヘシ土耳其國及希臘國ノ各政府ハ右土地ニ到ル道路ノ維持ニ付永久ニ其ノ責ニ任スヘシ

土耳其國希臘國ノ各政府ハ前記墓地、墳墓、納骨堂及記念碑ノ維持又ハ看守ニ當ル人員ノ需要ニ必要ナル分量ノ水ヲ得シムル爲竝該土地ノ灌水ノ爲一切ノ便宜ヲ英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ政府ニ供與スルコトヲ約ス

第百三十六條

英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ政府ハ自國ノ權力ノ下ニ在ル領域(土耳其國ヨリ分離シタル地域ヲ含ム)内ニ眠レル土耳其國陸海軍人ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ建設ノ爲土耳其國政府ニ對シ第百二十八條及第百三十條乃至第百三十五條ノ規定ノ利益ヲ供與スルコトヲ約ス

第百三十七條

締約國間ニ反對ノ規定アル場合ヲ除キ「コンスタンティノープル」ヲ占領シタル諸國ノ官憲ニ依リ又ハ其ノ墳墓、墓地、納骨堂及記念碑ノ警護ヲ爲サシムルノ權利ヲ有ス土耳其國官憲ハ右看守人ヲ承認シ且其ノ墳墓、墓地、

シ與ヘラレタル判決又ハ命令ハ確定セラレタルモノト看做スヘク且右ノ判決又ハ命令ニ關シテハ前記諸國又ハ其ノ官憲ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前記ノ判決又ハ命令ニ因リ被リタル損害ヲ理由トスル他ノ一切ノ請求ハ之ヲ混合仲裁裁判所ニ提出スヘシ

第百三十八條

司法事項ニ關シテハ「コンスタンティノープル」ヲ占領シタル諸國ノ一切ノ判事、裁判所又ハ官憲竝千九百二十一年十二月八日ニ組織セラレタル臨時混合司法委員會カ千九百十八年十月三十日以後本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ於テ土耳其國ニ於テ與ヘタル判決及命令竝其ノ執行措置ハ確定セラレタルモノト看做ス但シ大赦ニ關スル本日附宣言第四項及第六項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

尤モ民事事件ニ關シ軍事裁判所又ハ警察カ他人ニ有利ナル司法判決ヲ下シタル結果被リタル損害ノ賠償ニ付個人ヨリ請求ヲ提出シタル場合ニハ右請求ハ之ヲ混合仲裁裁判所ノ審査ニ付スヘク同裁判所ハ必要ニ應シ賠償ノ支拂ヲ命シ且返還ヲモ命スルコトヲ得ヘシ

第百三十九條

行政、司法、財政又ハ喜捨財團ノ管理ニ關スル土耳其國内ニ在ル記錄、登錄簿、圖面、證書及其ノ他一切ノ文書ニシテ土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ノ政府ニ專ラ關係アルモノ竝土耳其帝國ヨリ分離シタル地域ニ在ルモノニシテ土耳其國政府ニ專ラ關係アルモノハ相互ニ之ヲ引渡スヘシ

前記ノ記錄、登錄簿、圖面、證書及其ノ他ノ文書ニシテ之ヲ所持スル政府カ自ラ均シク關係アリト認ムルモノハ右政府之ヲ保有スルコトヲ得ヘシ但シ關係國政府ノ請求アルトキハ其ノ寫眞又ハ認證謄本ヲ與フルコトヲ要ス

土耳其國又ハ同國ヨリ分離シタル地域ヨリ持去ラレタル記錄、登錄簿、圖面、證書及其ノ他ノ文書ハ其ノ持去ラレタル地域ニ專ラ關スル限リ相互ニ其ノ原本ヲ返還スヘシ

右實行ニ依リ生スル費用ハ請求國政府ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

前記ノ規定ハ千九百十二年以後希臘國ニ讓渡セラレタル舊土耳其帝國ノ地域内ニ在ル不動產又ハ喜捨財團ニ關スル登錄簿ニ對シ右ト同一條件ノ下ニ之ヲ適用ス

第百四十條

土耳其國ト他ノ締約國トノ間ニ於テ戰時中及千九百十八年十月三十日前ニ相互ニ實行シタル海上捕獲ニ付テハ相互ニ何等ノ請求ヲ提出セサルヘシ「コンスタンティノープル」ヲ占領シタル諸國ニ於テ同日後休戰條約違反ノ故ヲ以テ實行シタル拿捕ニ付亦同シ

「コンスタンティノープル」ヲ占領シタル諸國ノ政府及國民竝土耳其國ノ政府及國民ハ千九百十四年十月二十九日以後千九百二十三年一月一日ニ至ル間ニ於テ各自國ノ港又ハ其ノ占領シタル港ニ於テ右政府相互ノ一ニ處分シタル各種ノ端艇、小噸數船舶、快走船及艀舟ニ關シ何等ノ請求ヲ提出セサルモノトス尤モ本規定ハ大赦ニ關スル本日附宣言ノ第六項ノ規定ヲ及千九百十四年十月二十九日前ノ權利ニ基キ他人ニ對シテ主張シ得ヘキ個人ノ返還請求權ヲ害スルコトナシ

千九百十八年十月三十日以後希臘國軍力ニ依リ拿捕セラレタル土耳其國ニ屬スル船舶ハ之ヲ土耳其國ニ返還スヘシ

第百四十一條

本條約第二十五條竝千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」平和條約第百五十五條、第二百五十條、第四百四十條及第八編（賠償）第三附屬書ノ適用ニ依リ土耳其國ノ政府及國民ハ獨逸國ノ政府又ハ國民カ戰時中同盟國政府ノ同意ナクシテ土耳其國ノ政府又ハ國民ニ移轉シタル一切ノ獨逸國船舶ニシテ現ニ同盟國政府ノ占有ニ係ルモノニ關シ獨逸國ノ政府又ハ國民ニ對シテ負フコトアルヘキ一切ノ義務ヲ免除セラルルモノトス

土耳其國ト之ト共ニ戰ヒタル他國トノ關係ニ於テモ必要ニ應シ右ト同一規定ヲ適用スヘシ

第百四十二條

希臘國及土耳其國ノ住民ノ交換ニ關シ千九百二十三年一月三十日右兩國間ニ締結セラレタル特別條約ハ右兩締約國間ニ於テハ本條約中ニ規定セラレタルト同一ノ效力及價値ヲ有スヘシ

第百四十三條

本條約ハ成ルヘク速ニ之ヲ批准スヘシ

批准書ハ巴里ニ於テ之ヲ寄託スヘシ

日本國政府ハ巴里ニ於ケル其ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ批准濟ノ旨ヲ通報スルニ止ムルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

各署名國ハ本條約及其ノ署名セル他ノ文書ニシテ「ローザンヌ」會議最終議定書ニ掲ケラレ且批准ヲ要スルモノヲ單一ナル批准書ニ依リ批准スヘシ

批准書寄託ノ第一回調書ハ一方ニ於テ土耳其國、他方ニ於テ英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國又ハ右ノ中三國カ其ノ批准書ヲ寄託シタル後直ニ之ヲ作成スヘシ

本條約ハ右ニ依リ批准シタル締約國間ニ於テハ第一回調書ノ日ヨリ之ヲ實施ス他ノ諸國ニ付テハ各其ノ批准書寄託ノ日ヨリ之ヲ實施ス

尤モ希臘國及土耳其國ニ關シテハ第一條、第二條第二號及第五條乃至第十一條ノ規定ニ限リ批准書寄託ノ日ニ於テ前記調書カ未タ作成セラレサル場合ニ於テモ希臘國及土耳其國ノ政府カ其ノ批准書ヲ寄託シタル後直ニ之ヲ實施スヘシ

佛蘭西國政府ハ批准書寄託調書ノ認證謄本ヲ一切ノ署名國ニ送付スヘシ」

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各締約國ニ交付スヘシ

ホレース、ラムボルド　（印）
ペレ　（印）
ガロニ　（印）
ジー、チ、モンターニア　（印）
落合謙太郎　（印）
エー、カー、ヴェニゼロス　（印）
デー、カクラマノス　（印）
コンスタンティン、ディアマンディ　（印）
コンスタンティン、コンツェスコ　（印）
エム、イスメット　（印）
ドクトル、リザー、ヌール　（印）
ハサン

右佛文略ス）

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、勃爾牙利國、希臘國、羅馬尼亞國、露西亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及土耳其國ハ

本日附平和條約第二十三條ニ依リ確立セラレタル原則ニ從ヒ海峽ニ於テ一切ノ國民ニ對シ地中海及黑海間ノ通過及航行ノ自由ヲ保障セムコトヲ希望シ

且右自由ノ維持ハ一般平和及世界商業ノ爲ニ必要ナルコトヲ思ヒ

之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員「サー、ホレース、ジョージ、モンタギュ、ラムボルド」

佛蘭西共和國大統領

近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、ペレ」

伊太利國皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「カミーユ、ガロニ」

希臘國駐劄伊太利國特命全權公使「ジュール、セザール、モンターニア」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎

勃爾牙利國皇帝陛下

前鐵道、郵便及電信大臣「ボグダン、モルフォフ」

英吉利國駐劄勃爾牙利國特命全權公使法學博士「ディミトリ、スタンシオフ」

希臘國皇帝陛下

前內閣議長「エレフテリオス、カー、ヴェニゼロス」

英吉利國駐劄希臘國特命全權公使「デメートル、カクラマノス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、イ、ディアマンディ」

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、コンツェスコ」

露西亞國

「ニコラス、イヴァノヴィッチ、イオルダンスキ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ドクトル、ミルーティヌ、ヨヴァノヴィッチ」

土耳其國國民議會政府

外務大臣國會議員「イスメット、パシャ」

衞生及社會救護大臣國會議員「ドクトル、リザー、ヌール、ベイ」

前大臣國會議員「ハサン、ベイ」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ「ダルダネル」海峽「マルマラ」海及「ボスポロス」（以下此等ヲ「海峽」ナル一般名稱ヲ以テ包括ス）ニ於ケル海路又ハ空中ノ通過及航行ノ自由ノ原則ヲ承認シ且聲明スルコトヲ協定ス

第二條

平時及戰時ニ於ケル商船及商用航空機竝軍艦及軍用航空機ノ海峽ノ通過及航行ハ今後左記附屬書ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

附屬書

商船及商用航空機竝軍艦及軍用航空機ノ海峽通過ニ關スル規則

一

(イ) 商船（病院船、快走船及漁船ヲ含ム）及非軍用航空機

平時

國際衞生規定ノ留保ノ下ニ且水先案內料、曳船料又ハ同種ノ手數料ノ如キ直接ニ供與セラレタル役務ニ對スルモノニ非サル限リ何等ノ手續、稅金又ハ課金ヲ要スルコトナク國旗及載荷ノ如何ヲ問ハス晝

ヲ通シ航行及通過ノ安全ナル自由ヲ有ス但シ土耳其國政府ニ依リ現ニ特許セラレタル事務及企業カ右ニ關シ行使スル權利ハ害セラレサルモノトス

有賦課金ノ徵收ヲ容易ナラシムルカ爲海峽ヲ通過スル商船ハ土耳其國政府ノ指定スル監視所ニ對シ其ノ船名、國籍、噸數及目的地ヲ通報スルコトヲ要ス

水先案內ハ隨意トス

(ロ) 戰時　土耳其國カ中立ナル場合

前記ト同一ノ條件ノ下ニ晝夜ヲ通シ完全ナル航行及通過ノ自由ヲ有ス中立國トシテノ土耳其國ノ權利及義務ハ海峽ノ航行ヲ妨害シ得ヘキ何等ノ手段ヲ執ルノ權能ヲ同國ニ對シ付與スルモノニ非ス海峽ノ水上及上空ハ戰時ニ於テモ土耳其國カ中立ナル場合ニハ平時ニ於ケルト同樣完全ニ自由ナルコトヲ要ス

水先案內ハ隨意トス

(ハ) 戰時　土耳其國カ交戰狀態ニ在ル場合

中立國船舶又ハ中立國非軍用航空機ハ該船舶又ハ航空機カ敵ヲ援助スルコト（殊ニ戰時禁制品、軍隊又ハ敵國人民ノ輸送ニ依リ）ナキ場合ニハ航行ノ自由ヲ有ス土耳其國カ右船舶及航空機ヲ臨檢スルノ權利ヲ有スヘク且右目的ノ爲航空機ハ土耳其國ニ於テ之カ爲指定シ且設備スヘキ地帶ニ著陸又ハ著水スルコトヲ要ス敵國船舶ニ對シ國際法ニ依リ容認セラレタル措置ヲ適用スルノ土耳其國ノ權利ハ害セラレサルモノトス

土耳其國ハ敵國船舶ノ海峽使用ヲ禁遏スルカ爲其ノ必要ナリト認ムル措置ヲ執ルノ完全ナル權能ヲ有スヘシ尤モ右措置ハ中立國船舶ノ自由通過ヲ禁止スルカ如キ性質ノモノタラサルヘク且土耳其國ハ之カ爲該

船舶ニ對シ必要ナル指圖又ハ水先案內ヲ供與スルコトヲ約ス

二

(イ) 軍艦（補助艦、軍隊輸送船、航空母艦及軍用航空機ヲ含ム）

平時

軍力ノ總數ニ關スル次ノ留保ノ下ニ何等ノ手續、秘金又ハ課金ヲ要スルコトナク國旗ノ如何ヲ問ハス晝夜ヲ通シ通過ノ完全ナル自由ヲ有スル一國カ黑海ヲ目的地トシテ海峽ヲ通過セシメ得ル最大ノ軍力ハ黑海沿岸諸國ニ屬スル最強ノ艦隊ニシテ其ノ通過ノ當時同海ニ現存スルモノノ軍力ヲ超ユルコトヲ得ス尤モ諸國ハ時及事情ノ如何ヲ問ハス一萬噸ヲ各超過セサル軍艦三隻ヲ超エサル軍力ヲ黑海ニ派遣スルノ權利ヲ留保ス

海峽ヲ通過スル軍艦ノ數ニ關シ土耳其國ハ何等ノ責ニ任スルコトナシ本規則ノ遵守ヲ可能ナラシムル爲第十條ニ規定スル海峽委員會ハ每年一月一日及七月一日ニ於テ各黑海沿岸國ニ對シ該國カ黑海ニ於テ有スル戰鬪艦、戰鬪巡洋艦、航空母艦、巡洋艦、驅逐艦、潛水艦、其ノ他一切ノ型ノ軍艦及海軍航空機ノ隻數ヲ、在役軍艦ト減員セラレタル軍艦及豫備、修繕中又ハ變更中ノ軍艦トヲ區別シ、問合スヘシ

海峽委員會ハ然ル後黑海ニ於ケル最強ノ海軍軍力ヲ構成スル戰鬪艦、戰鬪巡洋艦、航空母艦、巡洋艦、驅逐艦、潛水艦、航空機及其ノ他ノ型ノ船艦ノ數ヲ關係諸國ニ通知スヘシ尚右軍力ニ賜スル軍艦ノ黑海入航又ハ黑海出航ヨリ生スル一切ノ變更ハ直ニ之ヲ關係諸國ニ通知スヘシ

黑海ヲ目的地トシテ海峽ヲ通過セシムル海軍軍力ノ計算ニ關シテハ在役軍艦ノ數及型ノミヲ考量スヘキモノトス

(ロ) 戰時　土耳其國カ中立ナル場合

何等ノ手續、稅金又ハ課金ヲ要スルコトナク（二）ノ（イ）ニ規定セラレタルト同一ノ制限ノ下ニ國旗ノ如何ヲ問ハス晝夜ヲ通シテ通過ノ完全ナル自由ヲ有ス

尤モ該制限ハ交戰國ニ對シ黑海ニ於ケル交戰權ヲ侵害シテ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス

中立國トシテノ土耳其國ノ權利及義務ハ海峽ノ航行ヲ妨害シ得ヘキ何等ノ手段ヲ執ルノ權能ヲ同國ニ對シ付與スルモノニ非ス海峽ノ水上及上空ハ戰時ニ於テモ土耳其國カ中立ナル場合ニハ平時ニ於ケルト同樣完全ニ自由ナルコトヲ要ス

交戰國ノ軍艦及軍用航空機ニ對シテハ海峽ニ於テ拿捕ヲ行ヒ臨檢ノ權利ヲ行使シ且其ノ他如何ナル敵對行爲ヲモ爲スコトヲ禁セラルルモノトス

補給及修繕ニ關シテハ軍艦ハ海上中立ニ關スル千九百七年ノ海牙條約第十三ノ規定ノ適用ヲ受クヘシ

航空機ニ關スル中立規則ヲ確立スヘキ國際條約ノ締結ニ至ル迄軍用航空機ハ海峽ニ於テ千九百七年ノ海牙條約第十三ニ依リ軍艦ニ供與スル取扱ト同樣ノ取扱ヲ享受スヘシ

（ハ）　戰時　土耳其國カ交戰狀態ニ在ル場合

何等ノ手續、稅金又ハ課金ヲ要スルコトナク二ノ（イ）ニ規定セラレタルト同一ノ制限ノ下ニ中立國軍艦ハ通過ノ完全ナル自由ヲ有ス

土耳其國カ敵國ノ船舶及航空機ノ海峽使用ヲ禁遏スルカ爲執ルヘキ措置ハ中立國ノ船舶及航空機ノ自由通過ヲ禁止スルカ如キ性質ノモノタラサルヘク且土耳其國ハ之カ爲右軍艦及航空機ニ對シ必要ナル指圖又ハ水先案內ヲ供與スルコトヲ約ス

中立國軍用航空機ハ自己ノ危險ニ於テ海峽通過ヲ行フヘク且其ノ性質ニ關シ搜索ノ權利ニ服スヘシ右目的ノ爲航空機ハ土耳其國ニ於テ之カ爲指定シ且設備スヘキ地帶ニ著陸又ハ著水スルコトヲ要ス

三

（イ）　土耳其國ト平和狀態ニ在ル諸國ノ潛水艦ハ水面ニ依ルノ外海峽ヲ通過スルコトヲ得ス

（ロ）　地中海ヨリ來ルト黑海ヨリ來ルトヲ問ハス外國海軍軍力ノ司令官ハ「ダルダネル」又ハ「ボスポロス」ノ入口ニ在ル信號所ニ對シ海峽ニ入航スヘキ其ノ指揮下ノ軍艦ノ數及艦名ヲ停船スルコトナク通知スヘシ

土耳其國ハ前記信號所ヲ告示スヘク且右告示ヲ爲ス前ニ在リテモ外國軍艦ニ對スル海峽通過ノ自由ハ依然存在シ海峽ヘノ入航ハ遲延セシメラルルコトナカルヘシ

（ハ）　本規則ニ定ムル條件ノ下ニ海峽ヲ航空スル軍用航空機及非軍用航空機ニ對スル許可ハ當該航空機ニ對シテ左ノ事項ヲ包含スルモノトス

一　海峽ノ狹窄部ノ兩岸ノ上空五キロメートルノ地帶ヲ航空スルノ自由

二　故障ヲ生シタル場合ニ土耳其國ノ沿岸ニ著陸シ又ハ其ノ領水ニ著水スル權能

四

軍艦ノ通過期間ニ關スル制限

海難又ハ海上罹災ノ場合ヲ除クノ外如何ナル場合ニ於テモ軍艦ハ海峽通過ニ當リ其ノ通過ヲ爲スニ必要ナル時間（航海ノ安全ノ爲ニ必要ナル夜間碇泊ノ期間ヲ含ム）以上ニ亙リ海峽內ニ滯在スルコトヲ得ス

五

海峽及黑海ノ港ニ於ケル碇泊

（イ）　本附屬書一、二及三ハ船舶、軍艦及航空機ノ海峽及其ノ上空ノ通過ニ適用セラルヘキモ土耳其國ノ港及飛行場ニ同時ニ寄航シ得ル同一國ノ

軍艦及軍用航空機ノ數竝其ノ滯在期間ニ關シ土耳其國カ必要ナリト認ムル規則ヲ制定スルノ同國ノ權利ヲ害スルコトナシ

（ロ）　黑海沿岸諸國ハ其ノ港及飛行場ニ關シ同一ノ權利ヲ有スヘシ

（ハ）　「ダニューブ」河歐羅巴委員會ニ現在代表セラルル諸國カ同河河口及「ガラツ」ニ至ル間ニ警備艦トシテ存置スル小艦ハ之ヲ二ニ揭クル船艦中ニ加算セラレサルヘク且必要アル場合ニハ他ノ艦船ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

六

衞生上ノ保護ニ關スル特別規定

艦內ニ「ペスト」、「コレラ」若ハ「チフス」患者ヲ發生シ又ハ七日以內ニ之ヲ發生シタルコトアル軍艦及五晝夜ニ達セサル期間內ハ惡疫流行ノ一港ヲ去リタル軍艦ハ檢疫狀態ニ於テ海峽ヲ通過スヘク且艦內ニ在ル各種ノ手段ニ依リ海峽ノ惡疫傳播ノ一切ノ危惧ヲ避クルニ必要ナル豫防方法ヲ講スヘキモノトス

船內ニ醫師ヲ有シ且寄港又ハ荷揚スルコトナク海峽ヲ直行通過スル商船ニ付亦同シ

船內ニ醫師ヲ有セサル商船ハ海峽ニ寄港セサル場合ト雖海峽ニ入港スルニ先チ國際衞生規定ヲ遵守スルヲ要ス

海峽ノ一港ニ寄港スル軍艦及商船ハ右港內ニ於テ該港ニ適用セラルル國際衞生規定ニ從フヘシ

第三條

海峽ノ通過及航行ノ自由ヲ一切ノ障礙ニ對シテ保持スルカ爲海峽ノ水上及沿岸竝海峽內ニ存在シ又ハ之ト隣接セル諸島嶼ニ對シテハ第四條乃至第九條ニ規定セラレタル處置ヲ適用スヘシ

第四條

左記ノ地帶及島嶼ハ武裝ヲ解除セラルヘシ

一　「ダルダネル」海峽及「ボスポロス」海峽ノ兩岸ニ於テハ左ノ如ク劃定セラルル地帶（附屬地圖參照）（地圖略ス）

「ダルダネル」

北西方　「ガリポリ」半島及「バクラ・ブルヌ」ノ東北四キロメートルニ位スル「ゼロス」灣ノ一地點ニ發シ「マルマラ」海ノ「クンバギ」ニ達シ且「カヴァク」（同地ヲ除ク）ノ南方ヲ通過スル線ノ東南ノ地方

南東方　「テネドス」ニ相對スル「エスキースタンプール」岬ニ發シ「カラビガ」ノ正北方ニ位スル「マルマラ」海海岸ノ一地點ニ達スル線ニシテ海岸ヨリ二十キロメートルノ距離ニ引カルヘキモノト該海岸トノ間ノ地方

「ボスポロス」（第八條「コンスタンティノープル」ノ特別制度ヲ害スルコトナシ）

東方　「ボスポロス」ノ東海岸ヨリ十五キロメートルノ距離ニ引カルヘキ線ニ至ル迄ノ地帶

西方　「ボスポロス」ノ西海岸ヨリ十五キロメートルノ距離ニ引カルヘキ線ニ至ル迄ノ地帶

二　「エミル・アリ・アダジ」島ヲ除クノ外「マルマラ」海ニ於ケル一切ノ島嶼

三　多島海ニ於ケル「サモトゥラキ」、「レムノス」、「インブロス」、「テネドス」ノ諸島及「ラペン」諸島

第五條

佛蘭西國、英帝國、伊太利國及土耳其國ノ政府ニ依リ各任命セラレタル四名ノ委員ヨリ成ル委員會ハ第四條第一號ニ規定スル地帶ノ境界ヲ實査劃

定スル爲本條約實施後十五日以內ニ會合スヘシ

各國代表者ノ要求シ得ヘキ手當ノ支給ハ右委員會ニ代表セラルル政府ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

該委員會ニ於ケル事務執行ノ爲生スル一般費用ハ代表者ヲ出セル諸國ニ於テ均等ニ之ヲ分擔スヘシ

第六條

武裝解除ノ地帶及島嶼ニ於テハ要塞、大砲ノ及潛水艦以外ノ海中軍用機關ノ永久的設備、軍用航空設備竝海軍根據地ヲ有スルコトヲ得ス但シ「コンスタンティノープル」ニ關スル第八條ノ規定ハ之ヲ留保ス

秩序維持ノ爲必要ナル警察隊及憲兵隊ニシテ其ノ武器トシテ拳銃、軍刀、小銃及百人ニ付四門ノ機關銃（一切ノ大砲ヲ除ク）以外ヲ具有セサルモノヲ除キテハ如何ナル武裝軍力ト雖該地域內ニ駐屯スルコトヲ得ス

武裝解除ノ地帶及島嶼ノ領水ニ於テハ潛水艦以外ノ海中軍用機關ヲ有スルコトヲ得ス

土耳其國ハ前諸項ノ規定ニ拘ラス自國領域內ニ於ケル武裝解除ノ地帶及島嶼竝土耳其國艦隊カ碇泊ノ權利ヲ有スル其ノ領水ニ於テ其ノ武裝軍力ヲ通過セシムルノ權利ヲ保有スヘシ

尙海峽ニ關シテハ土耳其國政府ハ航空機又ハ繫留氣球ヲ用キテ海面及海底ヲ監視スルノ權能ヲ有スヘシ土耳其國航空機ハ常ニ海峽ノ水上及土耳其國領域內ニ於ケル武裝解除地帶ヲ航空シ此等地域ノ何レノ地點ニ於テモ自由ニ著陸又ハ著水スルコトヲ得ヘシ

土耳其國及希臘國ハ均シク武裝解除ノ地帶及島嶼竝其ノ領水ニ於テ該地帶及島嶼ヨリ徵募シタル者ヲ該地帶及島嶼ノ外ニ於テ訓練スルカ爲必要ナル人員移動ヲ行フコトヲ得ヘシ

土耳其國及希臘國ハ各自ノ領域內ニケル前記ノ地帶及島嶼ニ於テ電信、電話又ハ視覺信號ニ依ル一切ノ看測及通信ノ機關ヲ設クルノ自由ヲ有スヘシ希臘國ハ其ノ艦隊ヲシテ武裝解除ノ自國島嶼ノ領水ヲ通過セシムルコトヲ得ヘシ但シ土耳其國ニ對スル作戰根據地トシテ又ハ右目的ノ爲ニスル海軍力若ハ陸軍力ノ集中ノ爲右領海ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條

潛水艦以外ノ海中軍用機關ハ「マルマラ」海ノ海中ニ之ヲ設備スルコトヲ得ス

土耳其國政府ハ「マルマラ」海ノ歐羅巴側沿岸地方及「ボスポロス」武裝解除地帶ノ東方「ダリジェ」ニ至ル「アナトリー」側沿岸地方ニ於テ海峽ノ通過ヲ阻礙スヘキ大砲又ハ水雷發射管ノ永久的裝備ヲ爲ササルヘシ

第八條

「コンスタンティノープル」（「スタンブール」、「ペラ」、「ガラタ」、「スクタリ」及「プランス」諸島ヲ含ム）及其ノ隣接地方ニ於テ首府ノ必要ニ應スル爲最大限一萬二千人ノ衞戍部隊ヲ駐屯セシムルコトヲ得「コンスタンティノープル」ニ於テ一兵器廠及一海軍根據地ヲ維持スルコトヲ得

第九條

戰爭ノ場合ニ土耳其國又ハ希臘國カ交戰國ノ權利ヲ行使スルコトニ依リ前記ノ武裝解除狀態ニ變更ヲ加フルノ餘儀ナキニ至リタルトキハ右兩國ハ平和克復後本條約ニ定ムル制度ヲ回復スルコトヲ要ス

第十條

第十二條ニ定ムル組織ヲ有シ且「海峽委員會」ナル名稱ヲ有スル國際委員會ヲ「コンスタンティノープル」ニ設置スヘシ

第十一條

該委員會ハ海峽ニ關スル其ノ權限ヲ執行スヘシ

第十二條

該委員會ハ土耳其國代表者ヲ議長トシ佛蘭西國、英帝國、伊太利國、日本國、勃牙利國、希臘國、羅馬尼亞國、露西亞國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國カ本條約ノ署名國タル限リ且本條約ヲ批准スルニ從ヒ右諸國ノ代表者ニ依リ組織セラルヘシ

合衆國ハ本條約ニ加入スルコトニ依リ右委員會ニ均シク一名ノ代表者ヲ出スノ權利ヲ有スヘシ

同一ノ權利ハ本條第一項ニ記載セラレサル黑海沿岸ニ於ケル諸獨立國ノ爲ニ同一ノ條件ノ下ニ留保セラルヘシ

第十三條

各國代表者ノ要求シ得ヘキ手當ノ支給ハ該委員會ニ代表セラルル政府ニ於テ之ヲ負擔スヘシ該委員會ノ一切ノ追加支出ハ前記諸國政府ニ於テ國際聯盟ノ經費分擔ノ爲定メラレタル割合ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第十四條

該委員會ハ第二條附屬書ノ二、三及四ニ規定セラレタル軍艦及軍用航空機ノ通過ニ關スル規定カ適當ニ遵守セラルルコトヲ確保スルノ任務ヲ有ス

第十五條

海峽委員會ハ國際聯盟ノ庇護ノ下ニ其ノ任務ヲ執行シ國際聯盟ニ對シテ每年其ノ任務遂行ニ關スル報告竝商業上及航海上有益ナル一切ノ情報ヲ提出スヘシ之カ爲委員會ハ海峽ノ航行ヲ管掌スル土耳其國政府ノ諸機關ト連絡ヲ保ツヘシ

第十六條

該委員會ノ任務ノ遂行上必要ナル諸規則ノ作成ハ該委員會ノ權限ニ屬ス

第十七條

本條約ノ規定ハ土耳其國カ自國領水ニ於テ其ノ艦隊ヲ自由ニ巡行セシムルノ權利ヲ害セサルヘシ

第十八條

締約國ハ海峽及其ノ隣接地帶ノ武裝解除カ土耳其國ニ對シ軍事上不當ナル危險ノ原因ト爲ラサルコト竝戰爭行爲カ海峽ノ自由又ハ武裝解除地帶ノ安全ヲ危殆ニ陷ラシメサルコトヲ希望シ左ノ規定ニ同意ス

通過ノ自由ニ關スル規定ノ違反、不意ノ攻擊又ハ何等カノ戰爭行爲若ハ戰爭ノ脅威カ海峽航行ノ自由又ハ武裝解除地帶ノ安全ヲ危殆ニ陷ラシメタル場合ニハ締約國殊ニ如何ナル場合ニ於テモ佛蘭西國、英帝國、伊太利國及日本國ハ國際聯盟理事會ニ於テ之カ爲決定スヘキ一切ノ方法ニ依リ共同シテ之ヲ阻止スヘシ

前項ニ規定スル行動ヲ必要ナラシメタル行爲ノ終止シタル後ニ於テハ直ニ本條約ニ規定スル海峽ノ規程ハ再ヒ嚴格ニ適用セラルヘシ

海峽ノ武裝解除及自由ニ關スル規定ノ一部ヲ爲ス本規定ハ締約國カ國際聯盟規約ニ基キテ有スヘキ權利義務ヲ害セサルモノトス

第十九條

締約國ハ未署名國ヲシテ本條約ニ加入セシムルカ爲一切ノ努力ヲ爲スヘシ

右加入ハ外交機關ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ之ヲ通告スヘク同國政府ハ一切ノ署名國又ハ加入國ニ對シ之ヲ通告スヘシ右加入ハ佛蘭西國政府ニ對スル通告ノ日ヨリ效力ヲ生スヘシ

第二十條

本條約ハ批准ヲ要ス

批准書ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ寄託スヘシ

本條約ハ本日附ノ平和條約ト同一ノ條件ノ下ニ之ヲ實施ス該平和條約ニ署名セサル國ニシテ右實施ノ當時未タ本條約ヲ批准セサルモノニ對シテハ本條約ハ該國ノ批准書ヲ寄託スルニ從ヒ之ヲ實施スヘク右寄託ハ佛蘭西共和國政府ニ於テ他ノ締約國ニ之ヲ通告スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各締約國ニ交付スヘシ

ホレース、ラムボルド　(印)
ペレ　(印)
ガロニ　(印)
ジー、チ、モンターニア　(印)
落合謙太郎　(印)
ベー、モルフォフ　(印)
スタンシオフ　(印)
エー、カー、ヴェニゼロス　(印)
デー、カクラマノス　(印)
コンスタンティン、ディアマンディ　(印)
コンスタンティン、コンツェスコ　(印)
エヌ、イオルダンスキ　(印)
エム、イスメット　(印)
ドクトル、リザー、ヌール　(印)
ハサン　(印)

(右佛文略ス)

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、勃爾牙利國、希臘國、羅馬尼亞國、セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及土耳其國ハ「トラース」ノ國境ニ於ケル平和ノ維持ヲ確保セムコトヲ欲シ且之カ爲ニハ本日附ヲ以テ署名セラレタル平和條約第二十四條ノ規定スルカ如ク該國境ノ兩側ニ關シ一定ノ相互的特別措置ヲ執ルヘキコトヲ必要ト思量シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大不列顚愛蘭聯合王國及大不列顚海外領土皇帝印度皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員「サー、ホレース、ジョージ、モンタギュ、ラムボルド」

佛蘭西共和國大統領

近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、ペレ」

伊太利國皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「カミーユ、ガロニ」

希臘國駐劄伊太利國特命全權公使「ジュール、セザール、モンターニア」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎

勃爾牙利國皇帝陛下

前鐵道、郵便及電信大臣「ボグダン、モルフォフ」

英吉利國駐劄勃爾牙利國特命全權公使法學博士「ディミトリ、スタンシオフ」

希臘國皇帝陛下

前內閣議長「エレフテリオス、カー、ヴェニゼロス」

英吉利國駐劄希臘國特命全權公使「デメートル、カクラマノス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、イ、ディアマンディ」

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、コンツェスコ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ドクトル、ミルーティヌ、ヨヴァノヴィッチ」

土耳其國國民議會政府

外務大臣國會議員「イスメット、パシャ」

衞生及社會救護大臣國會議員「ドクトル、リザー、ヌール、ベイ」

前大臣國會議員「ハサン、ベイ」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタルノ後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

多島海ヨリ黑海ニ至ル迄ノ土耳其國ト勃爾牙利國及希臘國トノ國境ノ兩側ニ在ル地域ハ幅員約三十キロメートルノ左ノ境界內ニ於テ其ノ武裝ヲ解除スヘシ(附屬地圖參照)

(地圖略ス)

一　多島界ヨリ黑海ニ至ル迄ノ土耳其國領域ニ於テハ

本日附ヲ以テ署名セラレタル平和條約第二條第一號及第二號ニ定ムル土耳其國ト希臘國及勃爾牙利國トノ國境ニ略併行セル線右ノ線ハ該國境ヨリ最小限三十キロメートルノ距離ヲ以テ劃定セラルヘシ但シ「キルク・キリセ」地方ニ於テハ該都市自體及同市ノ中心ヨリ起算シ最小限五キロメートルノ周圍地域ハ之ヲ武裝解除地帶ノ外ニ置クヘシ右ノ線ハ多島海ノ「イブリジェ・プルヌ」岬ニ起リ黑海ノ「セルベス・プルヌ」岬ニ終ルモノトス

二　多島海ヨリ希臘國ト勃爾牙利國トノ國境ニ至ル迄ノ希臘國領域ニ於テハ

「マクリ」岬(「マクリ」村ヲ除ク)ノ尖端ニ起リ北方ニ向ヒ「マリツア」河ノ水流ニ略併行シテ「タータリ」ノ高地ニ至リ次ニ「メヘルコヅ」ノ東方ヨリ「クチュク、デルベンド」ノ西方約十五キロメートルニ於テ希臘國ト勃爾牙利國トノ國境上ニ定メラルヘキ地點ニ達スル線

三　希臘國ト勃爾牙利國トノ國境ヨリ黑海ニ至ル迄ノ勃爾牙利國領域ニ於テハ

前記定ムル地點ヨリ起リ「パパス、キョイ」ノ西方五キロメートルニ於テ「アドリアノープル」ヨリ「コスカヴィク」ニ至ル街道ヲ橫斷シ次ニ希臘國ト勃爾牙利國トノ國境及土耳其國ト勃爾牙利國トノ國境ヨリ最小限三十キロメートルヲ以テ劃定セラレ黑海ニ於テ「アンベルレル」ノ西北ニ位スル灣ノ最凹部ニ終ル線但シ「ハルマンリ」地方ニ於テハ該都市自體及同市ノ中心ヨリ起算シ最小限五キロメートルノ周圍地域ハ之ヲ武裝解除地帶ノ外ニ置ク

第二條

本條約實施ノ日ヨリ十五日以內ニ境界委員會ヲ組織スヘシ該委員會ハ第一條ニ規定スル境界ヲ決定シ且之ヲ實査劃定スルノ任務ヲ有ス該委員會ハ佛蘭西國、大不列顚國、伊太利國、勃爾牙利國、希臘國及土耳其國ニ依リ各國一名ノ割合ニテ任命セラルル代表者ヲ以テ之ヲ組織スヘシ勃爾牙利國、希臘國及土耳其國ノ代表者ハ夫々勃爾牙利國、希臘國及土耳其國ノ領域ニ關スル事業ニノミ參加スヘシ尤モ右事業ニ基ク總括的事務ハ委員會總會ニ於テ之ヲ決定シ且登錄スヘシ

第三條

第一條ニ規定スル地帶ノ武裝解除ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ實行シ且維持スヘシ

一　現存スル一切ノ永久的要塞ノ又ハ野戰用ノ工作物ハ其ノ存在スル地域ノ屬スル國ニ於テ其ノ武裝ヲ解除シ且之ヲ破壞スルコトヲ要ス此ノ種ノ新工作物ハ之ヲ建造スルコトヲ得サルヘク且一切ノ兵器廠又ハ軍需品倉庫及其ノ他ノ陸海軍又ハ空軍用ノ攻擊的又ハ防禦的施設ハ之ヲ建造スルコトヲ得サルヘシ

二　憲兵、警察官、稅關吏、國境守備兵ノ如キ國內ノ秩序及國境ノ監視ヲ確保スル爲必要ナル特殊部隊以外ノ一切ノ武裝軍力ハ之ヲ駐屯セシメ又ハ移動セシムルコトヲ得ス

右特殊部隊ノ定員ハ航空隊ヲ包含スルコトヲ得ス且左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

(イ)　土耳其國領域內ノ武裝解除地帶ニ於テハ總數五千人

(ロ)　希臘國領域內ノ武裝解除地帶ニ於テハ總數二千五百人

(ハ)　勃爾牙利國領域內ノ武裝解除地帶ニ於テハ總數二千五百人

右部隊ノ武裝ハ拳銃、軍刀、小銃及百人ニ付四門ノ機關銃（一切ノ大砲ヲ除ク）ノミヲ以テ之ヲ爲スヘシ

右規定ハ千九百十九年十一月二十七日ノ「ヌイイー」條約ニ基キ勃爾牙利國ノ負擔スル義務ニ影響スルコトナシ

三　國旗ノ如何ヲ問ハス陸海軍航空機ニ依ル武裝解除地帶ノ航空ハ之ヲ禁止ス

第四條

本條約ニ於テ其ノ領域ニ付規定セラレタル隣接國ノ一國カ前記諸規定ノ遵守ニ關シ請求ヲ爲サムトスル場合ニハ右請求ハ該國之ヲ國際聯盟理事會ニ提出スヘシ

第五條

本條約ハ批准ヲ要ス

批准書ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ寄託スヘシ

本條約ハ勃爾牙利國、希臘國及土耳其國カ各之ヲ批准シタル後直ニ之ヲ實施スヘシ右批准書ハ特別調書ニ依リ之ヲ確認スヘシ右實施ノ當時未タ本條約ヲ批准セサル他ノ諸國ニ付テハ本條約ハ該國ノ批准書ヲ寄託スルニ從ヒ之ヲ實施スヘク右寄託ハ佛蘭西共和國政府ニ於テ他ノ締約國ニ之ヲ通告スヘシ

日本國政府ハ巴里ニ於ケル其ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ批准濟ノ旨ヲ通報スルニ止ムルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

ホレース、ラムボルド　（印）
ペレ　（印）
ガロニ　（印）
ジー、チ、モンターニア　（印）
落合謙太郎　（印）
ベー、モルフオフ　（印）
スタンシオフ　（印）
エー、カー、ヴェニゼロス　（印）
デー、カクラマノス　（印）

コンスタンティン、ディアマンディ　（印）
コンスタンティン、コンツェスコ　（印）
エム、イスメット　（印）
ドクトル、リザー、ヌール　（印）
ハサン　（印）

（右佛文略ス）

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、希臘國、羅馬尼亞國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ヲ

一方トシ

土耳其國ヲ

他ノ一方トシ

此等諸國ハ土耳其國ニ於ケル他ノ締約國國民ノ居住ノ條件及他ノ締約國領域內ニ於ケル土耳其國民ノ居住ノ條件竝裁判管轄ニ關スル一定ノ事項ヲ現時ノ國際法ニ準據シテ規定セムコトヲ希望シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大不列顚愛蘭聯合王國及大不列顚海外領土皇帝印度皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員「サー、ホレース、ジョージ、モンタギュ、ラムボルド」

佛蘭西共和國大統領

近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、ペレ」

伊太利國皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「カミーユ、ギロニ」

希臘國駐劄伊太利國特命全權公使「ジュール、セザール、モンターニア」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎

希臘國皇帝陛下

前內閣議長「エレフテリオス、カー、ヴェニゼロス」

英吉利國駐劄希臘國特命全權公使「デメートル、カクラマノス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、イ、ディアマンディ」

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、コンツェスコ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ドクトル、ミルーティヌ、ヨヴァノヴィッチ」

土耳其國國民議會政府

外務大臣國會議員「イスメット、パシャ」

衞生及社會救護大臣國會議員「ドクトル、リザー、ヌール、ベイ」

前大臣國會議員「ハサン、ベイ」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一章　居住ノ條件（自第一條至第十三條）第二章　裁判管轄（自第十四條至第十八條）ハ昭和五年九月外務省告示第六十三號ヲ以テ昭和六年八月十四日以後其ノ效力ヲ失フコトトナレリ

第三章　末則

第十九條

締約國ハ本條約ノ實施ニ際シ本條約ノ規定ハ自治政府ヲ有スル領地、殖

民地、保護國、屬地又ハ其ノ主權若ハ權力ノ下ニ在ル海外領域ノ全部又ハ一部ニ對シ之ヲ適用セサルコトヲ聲明スルノ權利ヲ留保ス此ノ場合ニ於テ土耳其國ハ同國カ本條約ニ依リ前記ノ領地、殖民地、保護國、屬地又ハ領域ニ對シ負擔スル義務ヲ免除セラルヘシ

尤モ前記締約國ハ該締約國カ本條約ノ規定ニ依リ其ノ適用ノ除外ヲ聲明シタル自治政府ヲ有スル領地、殖民地、保護國、屬地又ハ領域ノ名ニ於テ將來本條約ニ加入スルコトヲ得ヘシ

第二十條

本條約ハ其ノ實施後七年ノ期間效力ヲ有スルモノトス

右期間滿了ノ少クトモ一年前締約國中ノ何レカノ一國ニ於テ本條約ノ廢棄ヲ通告セサルトキハ本條約ハ其ノ廢棄ノ通告ヲ爲ス ニ至ル迄效力ヲ存續ス右廢棄ノ通告ハ一年ノ期間滿了後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セサルモノトス

土耳其國以外ノ締約國中ノ何レカノ一國ニ於テ本條約ノ廢棄ヲ通告シタルトキハ右廢棄ノ通告ハ該締約國ト土耳其國トノ間ニ於テノミ其ノ效力ヲ生スルモノトス

土耳其國ハ他ノ一切ノ締約國ニ對シ又ハ右締約國中ノ一國ノミニ對シ本條約ノ廢棄ヲ通告スルノ權ヲ有ス此ノ後ノ場合ニ於テハ本條約ハ他ノ締約國ニ對シ其ノ效力ヲ存續ス

第二十一條

本條約ハ批准ヲ要ス

批准書ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ寄託スヘシ

本條約ハ本日附平和條約ト同一ノ條件ノ下ニ之ヲ實施ス

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

ホレース、ラムボルド　(印)
ペレ　(印)
ガロニ　(印)
ジー、チ、モンターニア　(印)
落合謙太郎　(印)
エー、カー、ヴェニゼロス　(印)
デー、カクラマノス　(印)
コンスタンティン、ディアマンディ　(印)
コンスタンティン、コンツェスコ　(印)
エム、イスメツト　(印)
ドクトル、リザー、ヌール　(印)
ハサン　(印)

（右佛文略ス）

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、希臘國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ヲ一方トシ
土耳其國ヲ他ノ一方トシ

此等諸國ハ國際法ニ基キ且通商ヲ奬勵シ交換ヲ容易ナラシムルニ適當ナル條件ヲ以テ其ノ經濟關係ヲ樹立スヘキ希望ニ促サレ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員「サー、ホレース、ジョージ、モンタギュ、ラムボルド」

佛蘭西共和國大統領

近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、プレ」

伊太利國皇帝陛下

「コンスタンティノープル」駐在高級委員伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「カミーユ、ガロニ」

希臘國駐劄伊太利國特命全權公使「ジュール、セザール、モンターニア」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎

希臘國皇帝陛下

前內閣議長「エレフテリオス、カー、ヴェニゼロス」

英吉利國駐劄希臘國特命全權公使「デメートル、カクラマノス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、イ、デアマンデイ」

羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、コンツェスコ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ドクトル、ミルーティヌ、ヨヴアノヴィッチ」

土耳其國國民議會政府

外務大臣國會議員「イスメット、パシヤ」

衞生及社會救護大臣國會議員「ドクトル、リザー、ヌール、ベイ」

前大臣國會議員「ハサン、ベイ」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一款

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

第一條

本條約實施ノ日ヨリ他ノ締約國領域ノ生產及輸出ニ係ル天產物又ハ製造品ノ土耳其國ヘノ輸入ニ際シ適用セラルヘキ稅率ハ千九百十六年九月一日實施ノ土耳其國從量稅表ノ稅率タルヘシ

第二條

土耳其紙幣ヲ以テ徵收セラルヘキ千九百十六年九月一日ノ土耳其國稅表所定ノ關稅ハ次ニ規定スル條件ニ依リ爲替相場ニ應シ定期ニ改定セラルル增加係數ヲ適用セラルヘシ

右增加係數ハ千九百二十三年三月一日實施セラレタルモノタルヘシ尤モ附屬書第一ニ記載ノ貨物ハ增加係數九ヲ適用セラルヘシ

前記ノ增加係數ハ左ノ規定ニ依リ爲替相場ニ應シ之ヲ改定スヘシ

本增加係數ハ英金貨「磅」カ七百四十五紙幣「ピアストル」ニ相當シタル時ニ定メラレタルヲ以テ本條約實施前一月間ニ於テ土耳其「磅」カ右ノ相場ニ對シ平均三割以上ノ騰貴ヲ示シタル場合ニハ十二及九ノ增加係數ハ同月ノ平均相場ニ比例シ之ヲ輕減スヘキモノトス右ニ依リ改定セラレタル增加係數ハ次ノ三月間引續キ有效トス三月ノ期間滿了後ハ必要ニ應シ其ノ最終月ノ平均爲替相場ニ依リ之ヲ改定スヘシ

同樣ニ本條約實施前一月間ニ於テ土耳其「磅」カ英金貨「磅」ニ對シ七百四十五「ピアストル」ノ基本相場ニ對シ平均三割以上ノ下落ヲ示ス場合ニハ十二及九ノ增加係數ハ同月ノ平均相場ニ比例シ之ヲ增加スルコトヲ得ヘシ右ニ依リ改定セラレタル增加係數ハ次ノ三月間引續キ有效トス三月ノ期間滿了後ハ必要ニ應シ其ノ最終月ノ平均爲替相場ニ依リ之ヲ改定スヘシ

土耳其「磅」下落ノ場合ニハ五ノ增加係數ハ十二及九ノ增加係數ト同一條件ニ從ヒ之ヲ增加スルコトヲ得ヘシ但シ土耳其「磅」騰貴ノ場合ニ於テハ英金貨「磅」カ五土耳其紙幣「磅」未滿ニ下落スルニ至リタル時ノ外之ヲ輕

減スルコトヲ得ス

貨幣制度改革ノ場合ニハ右ニ依リ定メラルル各種ノ增加係數ハ關稅負擔率ヲ變更セサル方法ニ於テ新舊貨幣ノ差額ニ應シ之ヲ改正スルモノトス

第三條

土耳其國ハ本條約實施後左記ノ事項ニ必要ナルモノノ外輸入及輸出ニ對スル禁止ヲ廢シ且本條約ノ有效期間中ハ之ヲ復活セサルコトヲ約ス

一　食料供給ニ缺クヘカラサル資源ノ保全及國民ノ經濟的活動ノ防護

二　國家ノ安全ノ確保

三　人、動物及植物ニ對スル傳染病ノ豫防

四　阿片其ノ他ノ毒物使用ノ防止

五　土耳其國內ニ於テ使用禁止ノ酒精含有物ノ輸入禁止

六　金貨及金塊ノ輸出防止

七　國家ノ專賣制度ノ設立又ハ維持

他ノ各締約國カ其ノ法令ニ依リ土耳其國ニ對シ衡平ナル相互主義ヲ認ムルコトヲ條件トシテ土耳其國ハ前記ノ禁止ヲ適用スルニ當リ何等ノ差別ヲ設クルコトナク且右禁止品ニ對シ除外例又ハ特許ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ依リ他ノ締約國又ハ何レカノ國ノ商業ニ利益ヲ與ヘ他ノ締約國ノ商業ヲ害セサルコトヲ約ス

第四條

相互條件ニ依リ他ノ締約國ノ生產及輸出ニ係ル貨物ハ土耳其國ノ生產ニ係ル同一又ハ類似ノ貨物カ土耳其國ニ於テ課セラルル範圍內ニ於テノミ同國ニ於テ消費稅ヲ課セラルヘシ

右ノ外土耳其國ハ土耳其國民ト他ノ締約國國民トニ對シ平等ノ待遇ヲ與フルノ條件ノ下ニ附屬書第二ニ記載ノ生產品ニ付同書所定ノ消費稅ヲ引續キ徵收スルコトヲ得ヘシ

入市稅又ハ地方官憲ノ徵收スル其ノ他ノ稅ハ相互條件ニ依リ土耳其國ニ於テ生產セラルル貨物ニ對シ賦課セラルル場合ニ在リテハ土耳其國生產品ト他ノ締約國ノ生產及輸出ニ係ル物品トノ間ニ差別ヲ設クルコトナク適用セラルヘク土耳其國ニ於テ生產セラレサル貨物ニ賦課セラルル場合ニ在リテハ其ノ原產地又ハ輸出地ノ如何ヲ問ハス同一又ハ類似ノ一切ノ外國生產品ニ對シ何等ノ差別ヲ設クルコトナク適用セラルヘシ

第五條

他ノ締約國カ其ノ法令ニ從ヒ土耳其國ニ對シ衡平ナル相互主義ヲ認ムルコトヲ條件トシテ土耳其國ハ天產物又ハ製造品ニ對シ現ニ賦課シ又ハ將來賦課スルコトアルヘキ一切ノ輸出稅ヲ如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス他ノ何レノ締約國ノ商業ヲモ害スヘキ差別ヲ設クルコトナク一切ノ仕向國ニ對シ均等ニ適用スヘシ

第六條

土耳其國ハ他ノ締約國ニ對シ第一條乃至第五條所定ノ事項ニ關シ土耳其國カ別國ニ與フヘキ最惠待遇ヲ與フヘシ但シ稅率又ハ一般ニ其ノ他ノ通商事項ニ關シ本日附平和條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル何レカノ地域ニ對シ又ハ國境貿易ニ付隣接國ニ對シ土耳其國カ適用スヘキ特殊利益ハ此ノ限ニ在ラス

第七條

土耳其國及他ノ締約國ハ輸入品ノ原產地ヲ證明スル爲輸入者ニ對シ右輸入品カ前記各國ノ生產及製造ニ係リ又ハ同國ニ於テ受ケタル加工ニ依リ同國ノ生產及製造ニ係ルモノト看做サルル旨ヲ確認スル公ノ證明書ノ提示ヲ夫々要求スルコトヲ得

本款附屬書第三ノ樣式ニ從ヒ作成セラルル原產地證明書ハ商務省、農務省、荷送人ノ屬スル商業會議所又ハ荷受國ノ承認スル他ノ一切ノ機關若ハ團體ニ依リ發給セラルルモノトス右證明書ハ荷受國ノ外交官又ハ領事官ニ依リ查證セラルヘシ

小包郵便物ハ名宛國ニ於テ商業的性質ヲ有スル輸送ニ係ルモノニ非スト認ムルトキハ原產地證明書ヲ免除セラルヘシ

第八條

本款ノ規定ノ利益ハ本條約ノ有效期間中土耳其國ニ對シ別國ニ與フルト同樣ノ待遇ヲ與ヘサル各締約國ニ在リテハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附屬書第一

增加係數九ヲ適用セラルル品目表

稅表番號		
六五	馬齒薯	
六九	「オレンヂ」	
一二一	砂糖製品	
一三〇	鑛水	
一七八	「エナメル」皮	
一八〇	豚皮	
一八五、一八七、一八八	靴	
一九二	手袋	
二〇〇、二〇一	生毛皮又ハ加工毛皮	
二一七、二一八	家具	
二七三、二七四、二七五	刺繡「レース」及木綿「リボン」	
三〇二	絹屑絲	
三〇五	紗等	
三〇六	絹「ツル」織等	
三〇八	絹織物	
三一二	絹絲物類	
三一四	絹絲組物類	
三二四	毛絲製肩掛及帶類	
三三九	衣類	
三四八	日傘雨傘類	

附屬書第二

消費稅

茶	一「キログラム」ニ付	四十「ピアストル」
珈琲	同上	二十「ピアストル」
石油	同上	六「ピアストル」
米	同上	十「ピアストル」
「マルガリン」、「オレオマルガリン」及他ノ獸脂	同上	八十「ピアストル」
「ステアリン」蠟燭	同上	三十「ピアストル」
普通石鹼	同上	五「ピアストル」
新古袋類	同上	五「ピアストル」
香料	同上	三十「ピアストル」
燐寸	六十本入一箱ニ付	半「ピアストル」
蠟燐寸	同上	一「ピアストル」
卷煙草用紙	五十枚ニ付	一「ピアストル」
點火器	一箇ニ付	二十五「ピアストル」
砂糖	一「キログラム」ニ付	十五「ピアストル」

「ビスケット」
「チョコレート」
煉乳
砂糖漬及葡萄糖
酒精ヲ含有セサル飲料、炭酸水及「シモナード」其ノ他ノ各種砂糖製品
砂糖ノ含有量ニ從ヒ消費稅ヲ課ス

波斯煙草（「テュンベキ」）
一「キログラム」ニ付　四十「ピアストル」

附屬書第三

原産地證明書樣式

（證明書發給官）（註一）ハ左ノ事項ヲ證明ス

生産者又ハ製造人
氏名
住所、、、、何某代理人
許可ヲ受ケタル商人　（註二）
住所、、、、、、、

ハ本官ノ面前ニ於テ其ノ責任ノ下ニ左記ノ貨物ハ（土耳其國又ハ、、、、、、、）ノ原産又ハ製造ニ係ルモノナルコトヲ申立テタリ右申立ハ荷送人（註三）カ本官ニ提示シタル信憑スルニ足ル文書ト一致セリ該貨物ハ商人又ハ製造人タル、、、、ノ委託ニ基キ（陸路又ハ海路、、、、）ニ依リ、、、、、、、ニ輸送セラルルモノナリ

荷物ノ數及種類	記號番號	風袋共及正味重量（キログラムヲ以テ）又ハ容量竝價格	貨物ノ種類

（申立人署名）

（證明書發給官）ハ之ヲ證明ス尙前記貨物ノ賣買ハ當國ニ於テ有效ニ成立シタルコトヲ證明ス

（日附、證明書發給官署名）

、、、領事館ハ右署名ノ確實ナルコトヲ査證ス

（日附、領事館署名捺印）

（註一）原産地證明書ハ商務省、農務省、荷送人ノ屬スル商業會議所又ハ荷受國ノ承認スル他ノ一切ノ機關若ハ團體之ヲ發給ス

（註二）不必要ノ記載ヲ爲スヘカラス

（註三）生産者又ハ製造人及其ノ代理人カ證明書ヲ提出シタル場合ニ於テハ「荷送人カ本官ニ提示シタル信憑スルニ足ル文書ト一致セリ」ナル語ハ之ヲ削除ス

第二款

第九條

土耳其國ハ他ノ締約國ノ船舶ニ對シ自國ノ船舶ニ與フルト均等ノ待遇又ハ他ノ一切ノ國ノ船舶ニ對シ與ヘ若ハ將來與フルコトアルヘキ最惠待遇ヲ相互條件ノ下ニ許與スルコトヲ約ス

土耳其國ハ他ノ各締約國ニ對シ、他ノ各締約國ハ土耳其國ニ對シ、漁業、沿岸貿易卽チ其ノ領域內ノ一港ニ於テ積載シタル貨物及旅客ヲ同一領域內ノ他ノ一港ニ海上輸送ヲ爲スコト竝港灣役務卽チ曳船、水先案內及一切ノ港內役務ヲ自國船舶ニ留保スルノ權利ヲ保有ス

第十條

一方ニ於テ土耳其國他方ニ於テ他ノ各締約國ハ漁業、沿岸貿易及港灣役務ニ關スル前條ニ定ムル例外ヲ留保シ各種貨物ヲ輸出入シ又ハ出入旅客ヲ輸送スルノ權利竝港、船渠、埠頭及港外碇泊所ニ於ケル繫留及積卸ニ對スル一切ノ便益享受ニ關シ相互條件ノ下ニ內國船舶ニ與フルト均等ノ待遇ヲ許與スヘシ

政府、官公吏、私人、團體若ハ各種營造物ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル衞生稅、港稅、埠頭稅、碇泊稅、水先案內料、檢疫稅、燈臺稅及其ノ他類似ノ稅金トシテ船舶ニ賦課セラルル各種ノ料金、負擔及支拂ニ關シテモ同一ノ相互條件ノ下ニ亦絕對ノ均等待遇ヲ許與スヘシ

輸入又ハ輸出ノ貨物ニ賦課スヘキ料金及稅金ハ第一款ノ規定ニ依リ其ノ生産地及輸出地又ハ其ノ荷受地ニ依リテノミ決定セラレ且他ノ一切ノ締約國ニ對シ均シク適用セラルヘキモノナルヲ以テ土耳其國ハ相互條件ノ下ニ輸入又ハ輸出ノ貨物ニ對シ輸出入船舶ノ國籍、發著港、航路又ハ寄港地ニ基キ何等ノ差別的料金、附加稅又ハ增加稅ヲ其ノ性質又ハ名稱ノ如何ヲ問ハス賦課セサルコトヲ約ス

第十一條

土耳其國ハ船舶、積荷及旅客ニ關スル各種ノ證明書又ハ書類ニシテ戰爭前土耳其國ニ於テ有效ト認メラレ又ハ將來主タル海國ニ依リ有效ト認メラルヘキモノハ他ノ締約國ノ船舶ニ對シ之ヲ有效ニシテ且土耳其船舶ニ發給シタル同種ノ證明書ト均等ノ效力アルモノトシテ認ムヘシ

前項ノ規定ハ土耳其國カ主タル海國ニ於テ行ハルル均等ノ條件ノ下ニ土耳其船舶ニ對シテ發給シタル證明書及書類ヲ他ノ締約國ニ於テ其ノ國ノ發給シタル證明書及書類ト均等ノ效力アリト認ムルトキニ限リ其ノ效力ヲ有ス

第三款

第十二條

土耳其國ハ相互條件ノ下ニ通商上各種ノ不正競爭ニ對シ他ノ各締約國ノ原産ニ係ルル天產物又ハ製造品ヲ保護スル爲一切ノ立法的又ハ行政的手段ヲ執リ且裁判所ニ出訴スルコトヲ得シムルコトヲ約ス

土耳其國ハ又相互條件ノ下ニ一切ノ生產品又ハ貨物ニシテ其ノ自體又ハ外觀若ハ包裝上ニ其ノ原產地、種類、性質又ハ特色ニ關シ直接又ハ間接ニ虛僞ノ表示ト爲ルヘキ各種ノ標章、名稱、記入又ハ符牒ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ輸入又ハ輸出竝國內ニ於ケル製造、分配、販賣及販賣ノ提供ヲ適當ナル制裁ニ依リ妨遏及禁止スルコトヲ約ス

第十三條

土耳其國ハ相互待遇ノ條件ノ下ニ地質又ハ氣候ノ爲特殊ノ品質ヲ有スル生產品ノ地方名使用權ヲ又ハ地方名使用許可ノ條件ヲ規定スル他ノ締約國ニ於ケル現行ノ法令及同法令又ハ司法判決ニシテ當該官憲ニ依リ土耳其國ニ對シ適法ニ通告セラレタルモノヲ承認スルコトヲ約ス

土耳其國ハ右ノ法令又ハ命令若ハ判決ニ違反シテ地方名ヲ表示スル生產品又ハ貨物ノ輸入、輸出、製造、分配、販賣及販賣ノ提供ヲ禁止シ且第十二條所定ノ方法ニ依リ之ヲ防遏スヘシ

第十四條

土耳其國ハ本條約實施後十二月ノ期間滿了前左記事項ヲ爲スコトヲ約ス

一　千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月十二日ノ巴里同盟條約ニ其ノ定ムル形式ニ從ヒ加入スルコト

二　千九百八年十一月十三日伯林ニ於テ改正セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約竝文學的及美術的著作物保護ニ關スル千九百十四年三月二十日ノ「ベルヌ」追加議定書ニ同樣ニ加入スルコト

本條約ノ他ノ署名國ハ土耳其語ニ飜譯スルノ權利ニ關スル前項記載ノ條約及議定書ノ規定ニ關シ土耳其國カ其ノ留保ヲ聲明スルトキハ本條約ノ有效期間中ハ之ニ反對ヲ爲ササルヘシ但シ前記ノ條約及議定書ノ他ノ署名國カ本條約實施後一年間ニ右留保ニ對シ反對ヲ表明スルトキ

ハ此ノ限ニ在ラス

右讓譯ノ權利ニ關スル土耳其國ノ留保ニ對シ本條約署名國カ其ノ承認ヲ爲スコト能ハサルトキハ土耳其國ハ前記條約及議定書ニ加入ヲ繼續スル義務ナカルヘシ

三　右期間滿了前ヨリ他ノ締約國國民ノ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ前記條約ノ原則ニ從ヒ有效ナル法令ヲ以テ承認シ且保護スルコト

第十五條

工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ノ用ニ供スル記錄、登錄簿及圖面ニ關スル一切ノ事項竝土耳其國ノ官廳カ同國ノ諸地域ノ割讓ヲ受ケタル國ノ官廳ニ對シテ爲スコトアルヘキ右書類ノ移送又ハ通報ハ關係國間ノ特別條約ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一般規定

第十六條

締約國ハ本條約實施ニ際シ本條約ノ規定ハ自治政府ヲ有スル領地、殖民地、保護國、屬地又ハ其ノ主權若ハ權力ノ下ニ在ル海外領域ノ全部又ハ一部ニ對シ之ヲ適用セサルコトヲ聲明スルノ權利ヲ留保ス此ノ場合ニ於テ土耳其國ハ同國カ本條約ニ依リ前記ノ領地、殖民地、保護國、屬地又ハ領域ニ對シ負擔スル義務ヲ免除セラルヘシ

尤モ前記締約國ハ該締約國カ本條約ノ規定ニ依リ其ノ適用ノ除外ヲ聲明シタル自治政府ヲ有スル領地、殖民地、保護國、屬地又ハ領域ノ名ニ於テ將來本條約ニ加入スルコトヲ得ヘシ

第十七條

「リビー」ノ原產ノ貨物及生產品又ハ同國ニ仕向ケラルル貨物及生產品ハ土耳其國ニ於テ伊太利國ノ貨物及生產品ト同一ノ制度ニ從フヘシ

「リビー」ニ於テ別國ニ與ヘラルル最惠待遇ヲ享受スヘシ

第十八條

本條約ハ五年ノ期間效力ヲ有スルモノトス

第一款ニ關シ一方ニ於テ土耳其國他方ニ於テ希臘國、羅馬尼亞國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ更ニ短キ期間內ニ其ノ通商ニ關シ新規程ヲ設定スルノ必要ヲ認メ最初ノ三十月ノ期間滿了後ハ何時ニテモ本條約ノ廢棄ノ通告ヲ爲スノ權利ヲ互ニ承認スルコトヲ協定セリ本條約ハ右廢棄通告後六月ノ期間滿了後其ノ效力ヲ失フモノトス

一方ニ於テ土耳其國他方ニ於テ他ノ各締約國ハ本條約ノ適用ニ付前記定ムル期間內何時ニテモ、新通商條約締結ノ要求ヲ受ケタルトキハ直ニ商議ヲ開キ右ニ定ムル期間滿了前商議ノ成功ヲ見ル爲敏速ニ審議ヲ行フコトヲ約ス

右ニ定ムル期間滿了前商議纏ラサルトキハ各締約國ハ行動ノ自由ヲ回復スルコトヲ得

第十九條

本條約ハ批准ヲ要ス

批准書ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ寄託スヘシ

本條約ハ本日附平和條約ト同一ノ條件ノ下ニ之ヲ實施ス右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

ホレース、ラムボルド　（印）
ペレ　（印）
ガロニ　（印）
ジー、チ、モンターニア　（印）

落合謙太郎　（印）
エー、カー、ヴェニゼロス　（印）
デー、カクラマノス　（印）
コンスタンティン、ディアマンディ　（印）
コンスタンティン、コンツェスコ　（印）
エム、イスメット　（印）
ドクトル、リザー、ヌール　（印）
ハサン　（印）

（右佛文略ス）

本日附平和條約ノ署名國タル締約國ハ白耳義國及葡萄牙國ニ對シ該條約ノ第二編（財政條項）第一款ノ規定及第三編（經濟條項）ノ規定ニ加入スルコトヲ容認スルコトヲ協定ス右加入ハ該條約ト同一ノ期間ニ於テ同一ノ條件ノ下ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス又該締約國ハ白耳義國ニ對シ同一ノ條件ノ下ニ土耳其帝國內ニ於テ許與セラルル一定ノ利權ニ關スル本日附議定書ニ加入スルコトヲ容認スルコトヲ協定ス

右ニ因リ締約國ハ正式ニ委任セラレタル白耳義國及葡萄牙國ノ代表者カ本日爲シタル加入宣言ヲ承認ス該宣言ノ實施後一方土耳其國及他方該各二國間ニ於ケル平和狀態及公關係ハ必要ナル限リ恢復セラレタルモノト看做スヘシ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ之ヲ作成ス

ホレース、ラムボルド
ペレ
ガロニ
ジー、チ、モンターニア

落合謙太郎
エー、カー、ヴェニゼロス

デー、カクラマノス
コンスタンティン、ディアマンディ
コンスタンティン、コンツェスコ
エム、イスメット
ドクトル、リザーヌール
ハサン

（右佛文略ス）

下名ハ正當ノ委任ヲ受ケ左ノ規定ヲ協定セリ

一

「マリツァ」河ト本日附平和條約ノ第二條第二號ニ定ムル土耳其國及希臘國間ノ國境トノ間ニ在ル地域ニシテ土耳其國ニ返還セラルヘキモノハ該條約ニ對スル土耳其國國民議會ノ批准カ「コンスタンティノープル」駐在同盟國高級委員ニ依リ千九百二十三年九月十五日迄ニ希臘國政府ニ通告セラルヘキコトヲ條件トシテ遲クモ同日迄ニ土耳其國官憲ニ之ヲ引渡スヘシ若シ右期日迄ニ該通告ヲ爲ササルトキハ該地域ノ引渡ハ通告ノ後十五日ノ期間內ニ之ヲ行フヘシ

二

平和條約第五條ニ定ムル國境劃定ヲ完了セサル事實ニ依リ土耳其國官憲ニ對スル前揭地域ノ引渡ヲ遲滯セシメ得サルモノトス此ノ場合ニハ希臘國及土耳其國ノ政府ニ於テ平和條約第二條第二號ニ定ムル國境線ノ暫定的實施劃定ヲ行フヘシ右暫定的劃定ハ該條約第五條ニ定ムル委員會ノ事務完結ニ至ル迄兩國政府ニ於テ之ヲ尊重スヘシ

三

「カラガッチ」ニ於ケル希臘國民タル住民ハ千九百二十三年一月三十日希臘國及土耳其國間ニ署名セラレタル條約ノ住民ノ交換ニ關スル規定ヲ適用セラルヘク且該條約ノ規定ノ利益ヲ享有スヘシ但シ該住民ハ希臘國及

土耳其國間ノ平和狀態ノ恢復後六月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其ノ移住ヲ强制セラルルコトナカルヘシ

四

「インブロス」島及「テネドス」島ニ於ケル希臘國ノ軍隊及官憲ノ撤退ハ希臘國及土耳其國ノ政府ニ於テ本日附平和條約ヲ批准シタル後直ニ之ヲ實行スヘシ該撤退ノ後ニ於テ土耳其國政府ハ該條約第十四條ノ規定ヲ適用スヘシ

五

本議定書第一ニ揭クル地域及第四ニ揭クル島嶼ノ住民ハ本日附平和條約ノ署名國タル外國又ハ其ノ國民ニ對シテ爲シタル軍事的若ハ政治的ノ行爲ノ理由ニ依リ又ハ何等カノ幫助ノ理由ニ依リ如何ナル口實ヲ以テスルモ土耳其國ニ於テ脅威又ハ迫害ヲ受クルコトナカルヘシ

前項ニ揭クル地域及島嶼ニ於ケル一切ノ住民ニ對シ其ノ本日迄ニ犯シタル一切ノ政治上又ハ普通法上ノ重罪及輕罪ニ付一般的ニシテ且完全ナル大赦ヲ行フヘシ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ之ヲ作成ス

ホレース、ラムボルド
ペレ
ガロニ
ジー、チ、モンターニア
落合謙太郎
エー、カー、ヴェニゼロス
デー、カクラマノス
エム、イスメット
ドクトル、リザー、ヌール
ハサン

（右佛文略ス）

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國及希臘國ノ政府ハ本會議中締結シタル平和條約及其ノ他ノ文書ヲ實施スルカ爲希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關シ千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル條約竝千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ前記諸國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ノ實施ヲ必要ナリト思量シ

下名ハ正當ノ委任ヲ受ケ各自國政府ノ名ニ於テ左ノ諸規定ヲ協定セリ

一　「セーヴル」ニ於テ締結セラレタル前記二條約ノ批准ニシテ未タ其ノ寄託ヲ了セサルモノハ本日附ヲ以テ「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル平和條約及文書ノ批准ト同時ニ之ヲ寄託スヘシ

二　少數民族ノ保護ニ關スル前記「セーヴル」條約ノ第七條第二項及第十五條ニ揭クル規定ハ之ヲ廢止ス

三　「トラース」ニ關スル前記「セーヴル」條約ノ第一條ニ揭クル規定ノ適用ハ本日附ヲ以テ署名セラレタル平和條約ノ第二條第二號ノ條項ニ依リ制限セラルヘシ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ之ヲ作成ス

ホレース、ラムボルド
ペレ
ガロニ
ジー、チ、モンターニア
落合謙太郎
エー、カー、ヴェニゼロス
デー、カクラマノス

（右佛文略ス）

下名ハ各自國政府ノ名ニ於テ本日附ヲ以テ「ローザンヌ」ニ於テ左ニ揭ク

ル文書ノ全部又ハ一部ニ署名シ

平和條約

海峽制度ニ關スル條約

「トラース」國境ニ關スル條約

居住及裁判管轄ニ關スル條約

通商條約

大赦ニ關スル宣言及議定書

土耳其帝國內ニ於テ許與セラルル一定ノ利權ニ關スル議定書

「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書

且各其ノ署名シタルモノニ關スル限リ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ニ對シ平和條約ノ實施セラレサル間ニ於テ本「ローザンヌ」會議ノ最終議定書中ニ揭クル同國ノ全權委員カ巴里ニ於テ前記文書ノ全部ニ署名スルノ權限ヲ認ムヘキコトニ一致ス

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ之ヲ作成ス

ホレース、ラムボルド
ペレ
ガロニ
ジー、チ、モンターニア
落合謙太郎
エー、カー、ヴェニゼロス
デー、カクラマノス
コンスタンティン、デイアマンディ
コンスタンティン、コンツエスコ
エム、イスメット
ドクトル、リザー、ヌール
ハサン
ベー、モルフオフ
スタンシオフ

（右佛文略ス）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」、「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」、「千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書」及「セルブ、クロアート、スロヴェ、ヌ」國ノ署名ニ關スル議定書」ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十四年大正十三年五月三十一日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

攝政名

外務大臣　男爵　松井慶四郎

（大正十四年五月二十九日外務省告示第五十一號）

英國政府ハ大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル通商條約第十六條第二項ノ規定ニ依リ印度政府ノ名ニ於テ同條約

ニ加入スル旨本年二月二十五日附ヲ以テ土耳其國政府ニ通告シ其ノ旨本年三月十日附ヲ以テ佛國政府ニ通知シタリ

●同上條約ノ批准書寄託國名

（昭和九年七月十三日外務省告示第六十五號）

「ルーマニア」國ハ大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル平和條約及左記文書ニ對スル批准書ヲ昭和三年十月一日佛國外務省ニ寄託セリ

一、海峽制度ニ關スル條約
二、「トラース」國境ニ關スル條約
三、居住及裁判管轄ニ關スル條約
四、通商條約
五、大赦ニ關スル宣言及議定書
六、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書竝ニ該加入ニ關スル右兩國ノ宣言
七、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、希臘國、「トルコ」國ニ依リ署名セラレタル「カラガッチ」ノ領域竝ニ「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書
八、千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝ニ同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書
九、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ署名ニ關スル議定書
十、「ローザンヌ」會議最終議定書

（昭和九年五月二十四日附佛蘭西國外務省通牒）

●海峽制度ニ關スル條約及同議定書

（昭和十二年二月二十六日條約第一號）

肰樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國全權委員ガ「モントルー」ニ於テ關係各國全權委員ト共ニ議定シ宣言ヲ附シテ署名シタル千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ署名セラレタル海峽制度ニ關スル條約ヲ右帝國全權委員ノ宣言ヲ存シテ批准シ且右條約署名ニ際シ帝國全權委員ガ政府ノ承認ヲ條件トシテ署名シタル議定書ヲ承認スルノ件ヲ裁可シ玆ニ右條約及議定書ヲ公布セシム

千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ署名セラレタル海峽制度ニ關スル條約

「アルガリア」國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、「グレート、ブリテン」、「アイルランド」及「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下、希臘國皇帝陛下、大日本帝國天皇陛下、「ルーマニア」國皇帝陛下、「トルコ」共和國大統領、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會竝ニ「ユーゴースラヴィア」國皇帝陛下ハ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル平和條約第二十三條ニ依リ確立セラレタル原則ヲ「トルコ」國ノ安全及黑海ニ於ケル其ノ沿岸諸國ノ安全ノ範圍内ニ於テ擁護スル樣「ダルダネル」海峽、

「マルマラ」海及「ボスポロス」（此等ヲ「海峽」ナル一般名稱ヲ以テ包括ス）ニ於ケル通過及航行ヲ規律スルノ希望ニ促サレ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル條約ニ代フルニ本條約ヲ以テスルコトニ決シ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

「ブルガリア」國皇帝陛下

外務宗教省事務總長、全權公使「ドクトル、ニコラス、ペー、ニコラエフ」

外務宗教省政務局長、全權公使「ピエール、ネイコフ」

佛蘭西共和國大統領

元外務大臣、元內閣議長、國際聯盟佛蘭西國常任代表委員、上院議員、「シュヴァリエー、ド、ラ、レジョン、ドノール」勳章、「グロア、ド、ゲール」「ポール・ボンクール」

「トルコ」國駐劄佛蘭西共和國特命全權大使、「グラン、オフヰシエー、ド、ラ、レジョン、ドノール」勳章「アンリ、ポンソ」

「グレート、ブリテン」、「アイルランド」及「グレート、ブリテン」國海外領土皇帝印度皇帝陛下

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」竝ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザル英帝國ノ一切ノ部分

樞密顧問官、下院議員、海軍省政務次官、「ミリタリー、クロッス」「ロード、スタンリー」

「オーストラリア」聯邦

「ロンドン」駐在「オーストラリア」聯邦高級委員、「コンパニオン、オヴ、オナー」、「ミリタリー、クロッス」「スタンリー、メルバン、ブルース」

希臘國皇帝陛下

元外務大臣、佛蘭西國駐劄希臘國特命全權公使「ニコラス、ポリティス」

國際聯盟希臘國常任代表委員「ラウル、ビビカ、ロゼッティ」

大日本帝國天皇陛下

佛蘭西國駐劄特命全權大使從三位勳一等旭日大綬章佐藤尙武

瑞西國駐劄特命全權公使從四位勳二等旭日重光章堀田正昭

「ルーマニア」國皇帝陛下

外務大臣「ニコラス、ティテュレスコ」

「ダニューブ」河「ヨーロッパ」委員會及「ダニューブ」河國際委員會「ルーマニア」國代表委員、全權公使「コンスタンティン、コントセスコ」

和蘭國駐劄特命全權公使「ヴェスパシエン、ペラ」

「トルコ」共和國大統領

「イズミル」選出下院議員、外務大臣「ドクトル、ルシュテュ、アラス」

佛蘭西國駐劄「トルコ」共和國特命全權大使「スアッド、ダヴァズ」

外務省事務總長「トルコ」國大使「ヌーマン、メネメンヂオールー」

參謀次長、軍團長「アースム、ギュンデュズ」

外交委員會報告者、「シヴァス」選出下院議員、國際聯盟「トルコ」國常任代表委員「ネヂメッディン、サーダク」

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會

外務人民委員、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會委員「マクシム、リトヴィノフ」

「ユーゴースラヴィア」國皇帝陛下

國際聯盟「ユーゴースラヴィア」王國常任代表委員「イヴァン、スープボティッチ」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ海峽ニ於ケル海路ノ通過及航行ノ自由ノ原則ヲ承認シ且確認ス

右自由ノ行使ハ今後本條約ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第一款　商船

第二條

平時ニ於テハ商船ハ後ニ揭ゲラルル第三條ノ規定ノ留保ノ下ニ何等ノ手續ヲモ要スルコトナク國旗及載荷ノ如何ヲ問ハズ晝夜ヲ通ジ海峽ニ於ケル通過及航行ノ完全ナル自由ヲ享有スベシ右船舶ガ海峽ノ港ニ寄ルコトナク通過スルトキハ右船舶ニ對シテハ本條約第一附屬書ニ徵收ニ關シ規定アルモノ以外ノ何等ノ稅金又ハ課金モ「トルコ」國官憲ニ依リ徵收セラルルコトナカルベシ

右ノ稅金又ハ課金ノ徵收ヲ容易ナラシムル爲海峽ヲ通過スル商船ハ第三條ニ揭ゲラルル檢疫所ノ所員ニ其ノ船名、國籍、トン數、目的地及出發地ヲ通知スベシ

水先案內及曳船ハ任意トス

第三條

「エーゲ」海又ハ黑海ヲ經テ海峽ニ入ル船舶ハ國際衞生規定ノ範圍內ニ於テ「トルコ」國ノ規則ニ依リ定メラレタル檢疫ノ爲海峽ノ入口ニ近キ檢疫所ニ停船スベシ右檢疫ハ健康證明書ヲ有スル船舶又ハ本條第二項ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノニ非ザルコトヲ證明スル健康申告書ヲ提出スル船舶ニ付テハ晝夜ヲ通ジ成ルベク迅速ニ行ハルベク又此等ノ船舶ハ其ノ海峽通過中他ノ何等ノ停船ヲモ强要セラレザルベシ

船內ニ「ペスト」、「コレラ」、黃熱、發疹「チフス」若ハ痘瘡ノ患者ヲ有シ又ハ七日以內ニ右患者ヲ有シタル船舶及五晝夜ニ達セザル期間內ニ汚染港ヲ去リタル船舶ハ「トルコ」國官憲ノ指定スルコトアルベキ檢疫員ヲ乘船セシムル爲前項所定ノ檢疫所ニ停船スベシ右ヲ名目トシテ何等ノ稅金又ハ課金モ徵收セラルルコトナカルベク且右檢疫員ハ海峽ノ出口ニ於ケル檢疫所ニ於テ之ヲ下船セシムルコトヲ要ス

第四條

戰時ニ於テ「トルコ」國ガ交戰狀態ニ在ラザルトキハ商船ハ國旗及載荷ノ如何ヲ問ハズ第二條及第三條ニ規定セラルル條件ノ下ニ海峽ニ於ケル通過及航行ノ自由ヲ享有スベシ

水先案內及曳船ハ任意トス

第五條

戰時ニ於テ「トルコ」國ガ交戰狀態ニ在ルトキハ「トルコ」國ト戰爭中ノ國ニ屬セザル商船ハ何等敵ヲ援助セザルコトヲ條件トシテ海峽ニ於ケル通

過及航行ノ自由ヲ享有スベシ
右船舶ハ晝間海峽ニ入ルベク且通過ハ各場合ニ於テ「トルコ」國官憲ニ依リ指定セラルル航路ニ依リ行ハルルコトヲ要ス

第六條

「トルコ」國ガ急迫セル戰爭ノ危險ニ脅威セラルト思惟スル場合ニ於テモ仍第二條ノ規定ハ引續キ適用セラルベシ但シ船舶ハ晝間海峽ニ入ルコトヲ要シ且通過ハ各場合ニ於テ「トルコ」國官憲ニ依リ指定セラルル航路ニ依リ行ハルルコトヲ要ス
右ノ場合ニ於テハ水先案内ハ之ヲ義務的ト爲シ得ベキモ無料トス

第七條

「商船」ナル語ハ本條約第二款ニ掲ゲラレザル一切ノ船舶ニ適用セラル

第二款　軍艦

第八條

本條約ノ適用ニ付テハ軍艦及其ノ類別竝ニトン數計算ニ適用セラルル定義ハ本條約第二附屬書所載ノモノトス

第九條

液體タルト否トヲ問ハズ燃料ノ輸送ノ爲特ニ設計セラレタル海軍補助艦船ハ個別的ニ海峽ヲ通過スルノ條件ノ下ニ、第十三條ニ掲ゲラルル豫告ヲ强制セラルルコトナカルベク且第十四條及第十八條ニ依リ制限ヲ受クルトシ數ノ計算ニ算入セラルルコトナカルベシ但シ右補助艦船ハ通過ニ關スル他ノ條件ニ付テハ軍艦ト看做サルベシ
前項ニ掲ゲラルル補助艦船ハ其ノ兵裝カ水上目標ニ對スル砲トシテハ最大限百五ミリメートルノ口徑ノモノ二門ヲ又空中目標ニ對スル砲トシテハ最大限七十五ミリメートルノ口徑ノモノ二門ヲ超エザル場合ニ非ザレバ前項ニ規定セラルル例外的取扱ヲ享有スルコトヲ得ズ

第十條

平時ニ於テハ黑海沿岸國ニ屬スルト又ハ非黑海沿岸國ニ屬スルトヲ問ハズ輕水上艦、戰鬪用小艦船及補助艦船ハ其ノ國旗ノ如何ニ拘ラズ晝間ニ於テ且第十三條以下ニ規定セラルル條件ノ下ニ海峽ニ入ル場合ニ限リ何等ノ稅金又ハ課金ヲモ要スルコトナク海峽ニ於ケル通過ノ自由ヲ享有スベシ
前項ニ掲ゲラルル艦種ニ屬スル軍艦以外ノ軍艦ハ第十一條及第十二條ニ規定セラルル特別條件ノ下ニ於テノミ通過ノ權利ヲ有スベシ

第十一條

黑海沿岸國ハ第十四條第一項ニ規定セラルルトン數ヲ超ユルトン數ノ自國ノ主力艦ヲシテ海峽ヲ通過セシムルコトヲ得但シ右軍艦カ二隻以下ノ水雷艇ヲ直衞トシテ一隻ヅツ海峽ヲ通過スルコトヲ條件トス

第十二條

黑海沿岸國ハ起工又ハ購入ノ通知カ「トルコ」國ニ對シ適當ノ時期ニ爲サレタルトキハ黑海外ニ於テ建造セラレ又ハ購入セラレタル自國ノ潛水艦ヲシテ其ノ根據地ヘノ回航ノ爲海峽ヲ通過セシムルノ權利ヲ有スベシ
右諸國ニ屬スル潛水艦ハ又黑海外ニ在ル船渠ニ於テ修理ヲ受クル爲海峽ヲ通過スルコトヲ得但シ右ニ關スル正確ナル通報ヲ「トルコ」國ニ爲スコトヲ條件トス
何レノ場合ニ於テモ潛水艦ハ晝間水面ヲ航行シ且個別的ニ海峽ヲ通過ス

ルコトヲ要ス

第十三條

軍艦ノ海峽通過ノ爲ニハ外交手續ニ依リ「トルコ」國政府ニ豫告ヲ爲スコトヲ要ス通常ノ豫告期間ハ八日トス但シ非黑海沿岸國ニ付テハ右期間ガ十五日タランコト望マシ豫告ニハ軍艦ノ目的地、艦名、艦型及集數竝ニ往航及場合ニ依リ復航ノ通過日ヲ示スベシ日ノ變更ニ付テハ三日ノ豫告ヲ要ス
往航ノ通過ノ爲ノ入峽ハ最初ノ豫告ニ示サレタル日ヨリ五日ノ期間内ニ爲サルルコトヲ要ス右期間ノ滿了後ハ最初ノ豫告ニ對スルト同一ノ條件ノ下ニ新ナル豫告ガ爲サルルコトヲ要ス
通過ニ際シテハ海軍兵力ノ指揮官ハ其ノ指揮ノ下ニ在ル兵力ノ正確ナル編成ヲ「ダルダネル」又ハ「ボスポロス」ノ入口ニ在ル信號所ニ對シ停止スルコトナクシテ通知スベシ

第十四條

海峽ニ於テ通過ノ途ニ在ルコトヲ得ベキ一切ノ外國海軍兵力ノ最大限總トン數ハ第十一條及本條約第三附屬書ニ規定セラルル場合ヲ除クノ外一萬五千トンヲ超ユルコトヲ得ズ
尤モ前項ニ掲ゲラルル兵力ハ九隻ヲ超ユル軍艦ヲ包含セザルコトヲ要ス
黑海沿岸國又ハ非黑海沿岸國ニ屬スル軍艦ニシテ第十七條ノ規定ニ從ヒ海峽ノ港ヲ訪問スルモノハ右トン數中ニ包含セラレザルベシ
通過ニ際シ海難ヲ蒙リタル軍艦モ亦右トン數中ニ包含セラレザルベシ右軍艦ハ修理中ハ「トルコ」國ニ依リ制定セラレタル安全ニ關スル特別規定ニ從フベシ

第十五條

海峽通過中ノ軍艦ハ如何ナル場合ニ於テモ其ノ搭載スル航空機ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條

海峽通過中ノ軍艦ハ海難又ハ海上罹災ノ場合ヲ除クノ外其ノ通過ヲ爲スニ必要ナル時間以上ニ亙リ海峽内ニ滯在スルコトヲ得ズ

第十七條

前諸條ノ規定ハトン數又ハ編成ノ如何ヲ問ハズ海軍兵力カ「トルコ」國政府ノ招請ニ基キ海峽ノ港ニ短期間ノ儀禮的訪問ヲ爲スコトヲ何等妨グルモノニ非ズ右兵力ハ第十條、第十四條及第十八條ノ規定ニ從ヒ海峽ヲ通過スルニ必要ナル條件ヲ具ヘザル限リ入峽ノ際ト同一ノ航路ニ依リ海峽ヲ去ルコトヲ要ス

第十八條

一　非黑海沿岸國カ平時黑海ニ於テ保有シ得ル總トン數ハ左ノ如ク制限セラル
(イ)　次ノ(ロ)ニ規定セラルル場合ヲ除クノ外右諸國ノ總トン數ハ三萬トンヲ超エザルベシ
(ロ)　何時カニ於テ黑海ノ最强力艦隊ノトン數カ本條約署名ノ日ニ於ケル黑海内ノ最强力艦隊ノトン數ヲ少クトモ一萬トン超過スルニ至ル場合ニハ(イ)ニ掲ゲラルル總トン數三萬トンハ四萬五千トンノ最大限ニ達スル迄ハ超過トン數ト同一ノトン數ヲ增加セラルベシ之カ爲各沿岸國ハ本條約第四附屬書ニ從ヒ毎年一月一日及七月一日ニ黑海ニ

於ケル自國ノ艦隊ノ合計トン數ヲ「トルコ」國政府ニ通知スベク「トルコ」國政府ハ右通知ヲ他ノ締約國及國際聯盟事務總長ニ移牒スベシ

(ハ)　非沿岸國ノ何レカガ黒海ニ於テ保有シ得ベキトン數ハ前記(イ)及(ロ)ニ掲ゲラルル總トン數ノ三分ノ二ニ制限セラルベシ

(ニ)　尤モ非黒海沿岸國ノ一又ハ二以上ガ人道上ノ目的ノ爲海軍兵力ヲ黒海ニ派遣セント欲スル場合ニ於テハ右兵力（其ノ全體ハ如何ナル場合ニ於テモ八千トンヲ超エザルコトヲ要ス）ハ左ノ條件ノ下ニ「トルコ」國政府ヨリ受クル認許ニ依リ本條約第十三條ニ規定セラルル豫告ヲ要セズシテ黒海ニ入航スルコトヲ許サルベシ

前記(イ)及(ロ)ニ掲ゲラルル總トン數ニ餘裕アリ且派遣ノ要求アリタル兵力ニ依リ右總トン數ノ超過ヲ來サザルトキハ「トルコ」國政府ハ自國ニ對シ爲サレタル要求ノ受領後成ルベク速ニ認許ヲ與フベシ

右總トン數ニ既ニ餘裕ナキカ又ハ派遣ノ要求アリタル兵力ニ依リ右總トン數ノ超過ヲ來スベキトキハ「トルコ」國政府ハ他ノ黒海沿岸國ニ認許ノ要求ヲ直ニ通知スベク且右沿岸國ガ右通知ヲ受ケタル後二十四時間以内ニ之ニ對シ異議ヲ申立テザルトキハ「トルコ」國政府ハ關係諸國ニ對シ其ノ要求ニ對シ執ルコトニ決シタル措置ヲ遲クトモ四十八時間ノ期間内ニ通知スベシ

非沿岸國ノ海軍兵力ノ爾後ノ黒海入航ハ總テ前記(イ)及(ロ)ニ掲ゲラルル總トン數ニ餘裕アル限度内ニ於テノミ行ハルベシ

二　非沿岸國ノ軍艦ハ其ノ黒海ニ於ケル存在ノ目的ノ如何ヲ問ハズ二十一日ヲ超エ黒海ニ留ルコトヲ得ズ

第十九條

戰時ニ於テ「トルコ」國ガ交戰狀態ニ在ラザルトキハ軍艦ハ第十條乃至第十八條ニ規定セラルル所ト同一ノ條件ノ下ニ海峽ニ於ケル通過及航行ノ完全ナル自由ヲ享有スベシ

尤モ本條約第二十五條ノ適用ノ範圍内ニ屬スル場合及「トルコ」國ヲ拘束スル相互援助條約ニシテ國際聯盟規約ノ範圍内ニ於テ締結セラレ、右規約第十八條ノ規定ニ從ヒ登錄セラレ且公表セラレタルモノニ依リ被侵略國ニ與ヘラルル援助ノ場合ヲ除クノ外何レノ交戰國ノ軍艦ニ對シテモ海峽ノ通過ハ禁止セラルベシ

前項ニ掲ゲラルル例外的ノ場合ニ於テハ第十條乃至第十八條ニ示サルル制限ハ適用セラレザルベシ

前記第二項ニ定メラルル通過禁止ニ拘ラズ黒海沿岸國タルト非黒海沿岸國タルトヲ問ハズ交戰國ノ軍艦ニシテ其ノ所屬港ヲ離レ居ルモノハ右港ニ之ヲ回航スルコトヲ得

交戰國ノ軍艦ハ海峽ニ於テ拿捕ヲ行ヒ、臨檢ノ權利ヲ行使シ及如何ナル敵對行爲ヲモ爲スコトヲ禁ゼラルルモノトス

第二十條

戰時ニ於テ「トルコ」國ガ交戰狀態ニ在ルトキハ第十條乃至第十八條ノ規定ハ適用セラレザルベシ軍艦ノ通過ハ全ク「トルコ」國政府ノ裁量ニ委セラルベシ

第二十一條

「トルコ」國ガ急迫セル戰爭ノ危險ニ脅威セラルト思惟スル場合ニ於テハ

同國ハ本條約第二十條ノ規定ヲ適用スルノ權利ヲ有スベシ

「トルコ」國ガ前項ニ依リ與ヘラレタル權能ヲ行使スルニ先チ海峽ヲ通過シテ所屬港ヨリ離レ居ル軍艦ハ右港ニ之ヲ回航スルコトヲ得但シ「トルコ」國ハ國ニシテ其ノ態度ガ本條ノ適用ノ原因ト爲レルモノノ軍艦ヲシテ右ノ權利ヲ享有セシメザルコトヲ得ルモノトス

「トルコ」國政府ガ前記第一項ニ依リ與ヘラレタル權能ヲ行使スルトキハ右政府ハ其ノ旨ノ通知ヲ締約國及國際聯盟事務總長ニ送付スベシ

國際聯盟理事會ガ三分ノ二ノ多數ニ依リ「トルコ」國ノ右ノ如ク執リタル措置ガ正當ノ理由ナキモノナルコトヲ決定シ且本條約ノ署名締約國ノ多數ノ意見モ亦右ノ如クナルトキハ「トルコ」國政府ハ右措置及本條約第六條ニ依リ執ラレタル措置ヲ撤回スルコトヲ約ス

第二十二條

艦内ニ「ペスト」、「コレラ」、黄熱、發疹「チフス」若ハ痘瘡ノ患者ヲ有シ又ハ七日以内ニ右患者ヲ有シタル軍艦及五晝夜ニ達セザル期間内ニ汚染港ヲ去リタル軍艦ハ檢疫狀態ニ於テ海峽ヲ通過スベク且艦内ニ在ル各種ノ手段ニ依リ海峽汚染ノ一切ノ危惧ヲ避クルニ必要ナル防疫措置ヲ執ルベキモノトス

第三款

航空機

第二十三條

地中海黒海間ノ非軍用航空機ノ通過ヲ確保スル爲「トルコ」國政府ハ右通過ノ用ニ供セラルル航空路ヲ海峽ノ禁止地帶外ニ於テ指定スベシ非軍用航空機ハ「トルコ」國政府ニ對シ不定期ノ飛行ニ付テハ三日ノ豫告ヲ又定期業務ノ飛行ニ付テハ通過期日ノ總括的豫告ヲ爲シ右航空路ヲ利用スルコトヲ得

他方、海峽ノ再武裝ニ拘ラズ「トルコ」國政府ハ「トルコ」國ニ於テ實施中ナル航空規則ニ從ヒ「ヨーロッパ」「アジア」間ノ同國領域ノ飛行ヲ許可セラレタル非軍用航空機ノ完全ニ安全ナル通過ノ爲ニ必要ナル便益ヲ供與スベシ飛行許可ガ與ヘラルベキ場合ノ爲海峽地帶ニ於テ依ルベキ航空路ハ定期ニ指定セラルベシ

第四款

一般規定

第二十四條

千九百二十三年七月二十四日附ノ海峽制度ニ關スル條約ニ依リ設置セラレタル國際委員會ノ權限ハ「トルコ」國政府ニ移讓セラル

「トルコ」國政府ハ第十一條、第十二條、第十四條及第十八條ノ適用ニ關スル統計ヲ蒐集シ及右各條ノ適用ニ關スル情報ヲ供給スルコトヲ約ス

「トルコ」國政府ハ本條約中海峽ニ於ケル軍艦ノ通過ニ關係アル規定ノ履行ヲ監視スベシ

「トルコ」國政府ハ外國海軍兵力ノ海峽内通過ノ豫告ヲ受ケタルトキハ直ニ在「アンカラ」締約國代表者ニ對シ右兵力ノ編成、其ノトン數、其ノ入峽豫定日及場合ニ依リ其ノ復航豫想日ヲ通知スベシ

「トルコ」國政府ハ海峽ニ於ケル外國軍艦ノ動靜ヲ示シ且通商竝ニ本條約ニ規定セラルル航海及航空ノ爲ニ有益ナル情報ヲ供給スル年報ヲ國際聯盟事務總長及締約國ニ送付スベシ

第二十五條

本條約ノ何レノ規定モ「トルコ」國又ハ國際聯盟ノ聯盟國タル他ノ何レカノ締約國ニ付國際聯盟規約ヨリ生ズル權利及義務ヲ害スルコトナシ

第五款
最終規定

第二十六條

本條約ハ成ルベク短キ期間内ニ批准セラルベシ

批准書ハ在「パリ」佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託セラルベシ

日本國政府ハ「パリ」ニ於ケル其ノ外交代表者ヲ通ジ佛蘭西共和國政府ニ對シ批准濟ノ旨ヲ通報スルニ止ムルコトヲ得ベク此ノ場合ニ於テハ成ルベク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

寄託調書ハ「トルコ」國ノ批准書ヲモ含ミテ六箇ノ批准書ガ寄託セラレタルトキ直ニ作成セラルベシ右ノ目的ノ爲ニハ前項ニ規定セラルル通告ハ批准書ノ寄託ト同一價値ヲ有スベシ

本條約ハ右調書ノ日附ノ日ニ於テ實施セラルベシ

佛蘭西國政府ハ前項ニ掲ゲラルル調書及爾後ノ批准書ノ寄託調書ノ認證謄本ヲ一切ノ締約國ニ送付スベシ

第二十七條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ千九百二十三年七月二十四日ノ「ローザンヌ」平和條約ノ署名國ノ加入ノ爲開キ置カルベシ

加入ハ外交手續ニ依リ佛蘭西共和國政府ニ及右政府ニ依リ一切ノ締約國ニ通知セラルベシ

加入ハ佛蘭西國政府ヘノ通知ノ日ヨリ效力ヲ發生スベシ

第二十八條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ二十年ノ存續期間ヲ有スベシ

尤モ本條約第一條ニ於テ確認セラレタル通過及航行ノ自由ノ原則ハ無制限ノ存續期間ヲ有スベシ

前記二十年ノ期間ノ滿了ノ二年前ニ何レノ締約國モ佛蘭西國政府ニ對シ廢棄ノ豫告ヲ爲サザリシトキハ本條約ハ廢棄ノ豫告ノ發送後二年ノ經過スルニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ右豫告ハ佛蘭西國政府ニ依リ締約國ニ通告セラルベシ

本條約ガ本條ノ規定ニ從ヒ廢棄セラルルニ至ルトキハ締約國ハ新條約ノ條項ヲ決定スル爲會議ニ代表者ヲ出スコトニ同意ス

第二十九條

本條約ノ實施ノ日ヨリ每五年ノ期間ノ滿了ニ當リ各締約國ハ本條約ノ一又ハ二以上ノ規定ノ修正ヲ發議スルコトヲ得

締約國中ノ一國ニ依リ爲サルル改正要求ハ受理セラレ得ル爲ニハ第十四條又ハ第十八條ノ修正ニ關スルモノナルトキハ他ノ一締約國ニ依リ又他ノ何レカノ條項ノ修正ニ關スルモノナルトキハ他ノ二締約國ニ依リ支持セラルルコトヲ要ス

右ノ如ク支持セラレタル改正要求ハ當該五年ノ期間ノ滿了ノ三月前ニ一切ノ締約國ニ通告セラルルコトヲ要ス右豫告ハ提案セラルル修正ノ指示及理由ヲ揭グベシ

外交手續ニ依リテ右提案ニ關シ決定ニ達スル能ハザルトキハ締約國ハ之ガ爲ニ招集セラルル會議ニ代表者ヲ出スベシ

右會議ハ全會一致ニ依リテノミ決定ヲ爲スコトヲ得但シ第十四條及第十八條ニ關スル改正ノ場合ニ於テハ締約國ノ四分ノ三ノ多數ヲ以テ足ル

右多數ハ黑海沿岸國タル締約國ノ四分ノ三（「トルコ」國ヲ含ム）ヲ包含シテ計算セラルベシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ本書十一通ヲ作成ス右ノ中全權委員ノ調印アル最初ノ一通ハ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託セラルベク他ハ署名國ニ送付セラレタリ

エヌ、ペー、ニコラエフ
ピエール、ネイコフ
ジー、ポール・ボンクール
アッシュ、ポンソ
スタンリー
エス、エム、アルース
エヌ、ポリティス
ラウル、ビビカ、ロセッチ

大日本帝國全權委員タル下名ハ本條約ノ規定ガ國際聯盟規約ニ關シテモ又右規約ノ範圍内ニ於テ締結セラレタル相互援助條約ニ關シテモ國際聯盟ノ非聯盟國トシテノ日本國ノ地位ヲ毫モ變更スルモノニ非ザルコト竝ニ日本國ガ第十九條及第二十五條ノ規定ニ於ケル右規約及右條約ニ關スル事項ニ付テハ特ニ判斷ノ完全ナル自由ヲ保持スルコトヲ本國政府ノ名ニ於テ宣言ス

佐藤尚武
堀田正昭

ネー、ティテュレスコ
ケー、コントセスコ
ヴ、ヴ、ペラ
ドクトル、エル、アラス
ズアッド、ダヴアズ
ネー、メネメンヂオールー
アースム、ギユンデュズ
ネー、サーダク
マクシム、リトヴィノフ
ドクトル、イー、ヴェー、スープボティッチ

第一附屬書

一　本條約第二條ニ從ヒ徵收セラルベキ稅金及課金ハ左表ニ示サルルモノタルベシ右ノ稅金及課金ノ減額ニシテ「トルコ」國政府ガ容認スルコトアルベキモノハ國旗ノ差別ナク適用セラルベシ

供與セラルル役務ノ種類	積量トン（登簿トン）每一トンニ對シ徵收セラルベキ稅金又ハ課金ノ額（金フラン）（註）
(イ) 檢疫	……○・○七五
(ロ) 燈臺、挂燈浮標及水路浮標又ハ其ノ他ノモノ	
八百トン迄	……○・四二
八百トンヲ超ユル部分	……○・二一

(ハ) 海難救助ノ役務(救命端艇、救命火箭發射所、霧中汽角、無線標識及(ロ)ニ含マレザル挂燈浮標又ハ同一種類ノ他ノ裝置ヲ含ム)……〇・一〇

(註) 現在百「ピアストル」ハ約二・五金「フラン」ニ相當ス

二　本附屬書一ニ附記セラレタル表ニ定メラルル稅金及課金ハ海峽ノ一往復通過ニ對シ(卽チ「エーゲ」海ヨリ黑海ニ至ル通過及「エーゲ」海ヘノ歸航ニ對シ又ハ黑海ヘノ歸航ヲ伴フ黑海ヨリ「エーゲ」海ニ至ル海峽通過ニ對シ)適用セラルベシ但シ商船ガ往航ノ爲海峽ニ入リタル日ノ後六月ヲ超エテ各場合ニ從ヒ「エーゲ」海又ハ黑海ニ歸航スル爲海峽ヲ新ニ通過スルトキハ該船舶ハ國旗ノ差別ナクシテ右ノ稅金及課金ヲ再ビ拂フコトヲ要求セラルルコトヲ得

三　往航ニ當リ商船ガ歸來スルコトナカルベキ旨ヲ申告スルトキハ該船舶ハ本附屬書一(ロ)及(ハ)ニ揭ゲラルル稅金及課金ニ付テハ定率ノ半額ノミヲ支拂フベシ

四　本附屬書一ニ附記セラレタル表ニ定メラレ居リ且當該役務ニ依リ生ジタル費用ヲ償フ爲及相當ノ積立金又ハ流動資金ヲ維持スル爲ニ缺クベカラザルモノヨリ高カラザルベキ稅金及課金ハ本條約第二十九條ノ規定ノ適用ニ依リテノミ增額セラレ又ハ補足セラルベシ右ノ稅金及課金ハ金「フラン」ヲ以テ又ハ支拂當日ノ爲替相場ニ依ル「トルコ」國ノ貨幣ヲ以テ支拂ハルベシ

五　商船ハ水先案內及曳船ノ如キ任意的役務ガ代理人又ハ當該船舶ノ船長ノ要求ニ基キ「トルコ」國官憲ニ依リ適當ニ供與セラレタルトキハ右役務ニ對シ稅金及課金ヲ支拂フノ義務ヲ負ハシメラルルコトヲ得「トルコ」國政府ハ右任意的役務ニ對シ徵收セラルベキ稅金及課金ノ定率ヲ時時公表スベシ

六　右定率ハ右役務ガ第五條ノ適用ニ依リ義務的ト爲サルベキ場合ニ於テ增額セラルルコトナカルベシ

第二附屬書(註)

(註) 本附屬書ノ本文ハ千九百三十六年三月二十五日ノ「ロンドン」海軍條約ヨリ引用セラレタリ

甲　基準排水量

一　水上艦船ノ基準排水量トハ工事完成セラレ、乘員充實セラレ、機關據附ケラレ且航海準備(一切ノ武器及彈藥、齊備品、艤裝品、乘員用ノ糧食及淸水、各種ノ需品竝ニ戰時ニ於テ搭載セラルベキ各種ノ要具ヲ含ム)完成シ唯燃料及豫備罐水ヲ搭載セザル艦船ノ排水量ヲ謂フ

二　潛水艦ノ基準排水量トハ乘員充實セラレ、機關據附ケラレ且航海準備(一切ノ武器及彈藥、齊備品、艤裝品、乘員用ノ糧食竝ニ戰時ニ於テ搭載セラルベキ各種ノ要具ヲ含ム)完成シ唯燃料、潤滑油、淸水又ハ「バラスト」用水ハ如何ナル種類ノモノタルヲ問ハズ之ヲ搭載セザル工事完成セル艦船(非防水構造內ノ水ヲ含マズ)ノ水上排水量ヲ謂フ

三　「トン」ナル語ハ「メートル式トン」ナル用語ニ於ケルモノヲ除クノ外千十六キログラム(二千二百四十ポンド)ノトンヲ示ス

乙　艦種

一　主力艦トハ左ノ二艦級ノ一ニ屬スル水上軍艦ヲ謂フ

(甲)級　航空母艦、補助艦船又ハ(乙)級主力艦以外ノ水上軍艦ニシテ基準排水量一萬トン(一萬六百トン)ヲ超ユルカ又ハ二百三ミリメートル(八インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルモノ

(乙)級　航空母艦以外ノ水上軍艦ニシテ基準排水量八千トン(八千百二十八メートル式トン)ヲ超エズ且二百三ミリメートル(八インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルモノ

二　航空母艦トハ排水量ノ如何ヲ問ハズ主トシテ海上ニ於テ航空機ヲ搭載シ且行動セシムル樣設計セラレ又ハ改造セラレタル水上軍艦ヲ謂フ

五　戰鬪用小艦船トハ補助艦船以外ノ水上軍艦ニシテ基準排水量百トン(百二メートル式トン)ヲ超エ二千トン(二千三十二メートル式トン)ヲ超エザルモノヲ謂フ但シ左ノ特性ノ何レヲモ有セザル場合ニ限ル

(イ)　百五十五ミリメートル(六・一インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルコト

(ロ)　魚雷ヲ發射スル樣設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト

(ハ)　二十ノットヲ超ユル速力ヲ得ル樣設計セラレタルコト

六　補助艦船トハ艦隊ノ一部ヲ成ス基準排水量百トン(百二メートル式トン)ヲ超ユル水上艦船ニシテ平常艦隊要務ノ爲ニ使用セラレ、軍隊輸送船トシテ使用セラレ又ハ戰鬪用艦船トシテノ用途以外ノ用途ニ使用セラレ且特ニ戰鬪用艦船トシテ建造セラレタルニ非ザルモノヲ謂フ但シ左ノ特性ノ何レヲモ有セザル場合ニ限ル

(イ)　百五十五ミリメートル(六・一インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルコト

(ロ)　七十六ミリメートル(三インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ八門ヲ超エ搭載スルコト

(甲)級　航空母艦、補助艦船又ハ(乙)級主力艦以外ノ水上軍艦ニシテ基準排水量三千トン(三千四十八メートル式トン)ヲ超ユルカ又ハ二百三ミリメートル(八インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルモノ

(乙)級　航空母艦以外ノ水上軍艦ニシテ基準排水量八千トン(八千百二十八メートル式トン)ヲ超エズ且二百三ミリメートル(八インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルモノ

二　航空母艦トハ排水量ノ如何ヲ問ハズ主トシテ海上ニ於テ航空機ヲ搭載シ且行動セシムル樣設計セラレ又ハ改造セラレタル水上軍艦ヲ謂フ

五　戰鬪用小艦船トハ補助艦船以外ノ水上軍艦ニシテ基準排水量百トン(百二メートル式トン)ヲ超エ二千トン(二千三十二メートル式トン)ヲ超エザルモノヲ謂フ但シ左ノ特性ノ何レヲモ有セザル場合ニ限ル

(イ)　百五十五ミリメートル(六・一インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルコト

(ロ)　魚雷ヲ發射スル樣設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト

(ハ)　二十ノットヲ超ユル速力ヲ得ル樣設計セラレタルコト

六　補助艦船トハ艦隊ノ一部ヲ成ス基準排水量百トン(百二メートル式トン)ヲ超ユル水上艦船ニシテ平常艦隊要務ノ爲ニ使用セラレ、軍隊輸送船トシテ使用セラレ又ハ戰鬪用艦船トシテノ用途以外ノ用途ニ使用セラレ且特ニ戰鬪用艦船トシテ建造セラレタルニ非ザルモノヲ謂フ但シ左ノ特性ノ何レヲモ有セザル場合ニ限ル

(イ)　百五十五ミリメートル(六・一インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ搭載スルコト

(ロ)　七十六ミリメートル(三インチ)ヲ超ユル口徑ヲ有スル砲ヲ八門ヲ超エ搭載スルコト

(ハ) 魚雷ヲ發射スル樣設計セラレ又ハ裝置セラレタルコト
(ニ) 裝甲鈑ニ依リ防護セラルル樣設計セラレタルコト
(ホ) 二十八ノットヲ超ユル速力ヲ得ル樣設計セラレタルコト
(ヘ) 主トシテ海上ニ於テ航空機ヲ行動セシムル樣設計セラレ又ハ改造セラレタルコト
(ト) 航空機發進裝置ヲ二基ヲ超エ搭載スルコト

丙　艦齡超過艦船

左ノ艦種及艦級ノ艦船ハ竣工後左記年數ヲ經過シタルトキハ「艦齡超過」ト爲レルモノト看做サルベシ

(イ) 主力艦……二十六年
(ロ) 航空母艦……二十年
(ハ) (甲)級及(乙)級輕水上艦
(一) 千九百二十年一月一日前ニ起工セラレタルトキハ……十六年
(二) 千九百十九年十二月三十一日後ニ起工セラレタルトキハ……二十年
(ニ) (丙)級輕水上艦……十六年
(ホ) 潛水艦……十三年

第三附屬書

日本國海軍ノ左記三隻ノ艦齡超過練習艦中二隻ハ相共ニ海峽ノ港ヲ訪問スルコトヲ得ベキモノトス
右二艦ノ總トン數ハ右ノ場合ニ於テハ一萬五千トンニ相當スルモノト看做サルベシ

	起工日	就役日	基準排水量（トン）	兵裝
淺間	一八九六・一〇・二〇	一八九九・三・一八	九、二四〇	二〇〇ミリメートル砲四門 一五〇ミリメートル砲十二門
八雲	一八九八・九・一	一九〇〇・六・二〇	九、〇一〇	二〇〇ミリメートル砲四門 一五〇ミリメートル砲十二門
磐手	一八九八・二・二	一九〇一・三・一八	九、一八〇	二〇〇ミリメートル砲四門 一五〇ミリメートル砲十四門

第四附屬書

一　本條約第十八條ニ揭ゲラルル黑海沿岸國ノ艦隊ノ合計トン數ノ計算ニ包含セラルベキ艦船ノ艦種及艦級ハ本條約第二附屬書ノ定義ニ依リ左ノ如シ

主力艦
　艦級　(甲)級
　艦級　(乙)級
航空母艦
　艦級　(甲)級
　艦級　(乙)級
輕水上艦
　艦級　(甲)級
　艦級　(乙)級
　艦級　(丙)級
潛水艦

合計トン數ノ計算ニ於テ算定セラルルヲ要スル排水量ハ第二附屬書ニ定メラルル基準排水量トス右附屬書ニ定メラルル「艦齡超過」ニ非ザル

軍艦ノミガ考慮セラルベシ

二　第十八條(ロ)ニ規定セラルル通報ハ尙本附屬書一ニ揭ゲラルル艦種及艦級ノ軍艦ノ合計トン數ヲ含ムコトヲ要ス

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル大日本帝國天皇（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員ガ「モントルー」ニ於テ關係各國全權委員ト共ニ議定シ且宣言ヲ附シテ署名シタル千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ署名セラレタル海峽制度ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ右帝國全權委員ノ宣言ヲ存シテ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百九十七年昭和十二年二月十六日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣　林　銑十郎

議定書

本日ノ日附ヲ有スル條約ニ署名スルニ當リ下名各全權委員ハ各自ノ政府ニ代リ左ノ規定ヲ受諾スルコトヲ宣言ス

一　「トルコ」國ハ右條約ノ前文ニ定メラルル海峽地帶ヲ直ニ再武裝スルコトヲ得ベシ

二　千九百三十六年八月十五日ヨリ「トルコ」國政府ハ右條約ニ定メラルル制度ヲ假ニ適用スベシ

三　本議定書ハ本日ヨリ實施セラルベシ

千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ作成ス

エヌ、ペー、ニコラエフ
ピエール、ネイコフ
ジー、ポール・ボンクール
アッシュ、ポンソ
スタンリー
エス、エム、ブルース
エヌ、ポリティス
ラウル、ビビカ、ロセッティ
佐藤尙武（政府ノ承認ヲ條件トス）
堀田正昭（政府ノ承認ヲ條件トス）
ネー、ティテュレスコ
ケー、コントセスコ
ヴ、ヴ、ペラ

ドクトル、エル、アラス
スアッド、ダヴアズ
ネー、メネメンヂオールー
アースム、ギユンデユズ
ネー、サーダク
マクシム、リトヴィノフ
ドクトル、イー、ヴエー、スーブボティッチ
右歐文左ノ如シ（略ス）

●海峽制度ニ關スル條約ノ批准及議定書承認ノ件

（昭和十二年二月二十六日外務省告示第二十二號）

帝國政府ハ昭和十一年七月二十日帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名調印シタル千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ署名セラレタル海峽制度ニ關スル條約ニ付本條約第二十六條第三項ノ規定ニ從ヒ昭和十二年二月十六日帝國批准濟ノ旨在佛帝國臨時代理大使ヲシテ佛蘭西共和國政府ニ通報セシメタル處同臨時代理大使ヨリ同日右通報ヲ了シタル旨電報アリタリ

（昭和十二年二月二十六日外務省告示第二十一號）

帝國全權委員ガ千九百三十六年七月二十日「モントルー」ニ於テ署名セラレタル海峽制度ニ關スル條約ニ署名スルニ際シ關係各國全權委員ト共ニ、政府ノ承認ヲ條件トシテ（ad referendum）署名シタル議定書ニ對シ帝國政府ハ昭和十二年二月十六日附ヲ以テ在佛帝國臨時代理大使ヲシテ佛蘭西共和國政府ニ對シ本議定書承認ノ旨通告セシメ且右通告ヲ同國政府ヨリ關係國全部ニ通告方要求セシメタリ

●海峽制度ニ關スル條約ニ對スル加入通告ノ件

（昭和十四年三月十八日外務省告示第十二號）

伊太利國政府ハ昭和十一年七月二十日「モントルー」ニ於テ署名セラレタル海峽制度ニ關スル條約ニ對スル同國ノ加入ヲ昭和十三年五月二日佛蘭西國政府ニ通告セリ

尙伊太利國政府ハ右通告ニ當リ左記宣言ヲ爲セリ

本加入ハ國際聯盟規約ニ關シテモ又右規約ノ範圍內ニ於テ締結セラレタル相互援助條約ニ關シテモ伊太利國ノ國際聯盟ニ對スル地位ヲ毫モ變更スルモノニ非ズ本加入ハ爾今右規約及前記相互援助條約ニ關スル本條約第十九條及第二十五條ノ適用ニ付伊太利國政府ノ判斷ノ完全ナル自由ヲ何等毀損スルコトナキモノトス

（昭和十四年一月十日附在佛蘭西國宮崎臨時代理大使報告）

●「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」及羅馬尼亞國ノ「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書

（大正十三年八月十六日條約第十號）

脫樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十二年十一月二十三日佛蘭西國巴里ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」及「羅馬尼亞國ノ「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書」ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國及羅馬尼亞國ハ千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル土耳其國トノ平和條約ニ依リ處分シ得ヘキモノト爲サレタル金額ヲ前記諸國民ノ被リタル損害ノ賠償ニ充當セムコトヲ希望シ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大不列顛聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

佛蘭西國駐劄英帝國特命全權大使「クリュー」侯「ロバート、オッフレー、アッシュバートン」

佛蘭西共和國大統領

近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、ペレ」

伊太利國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄伊太利國特命全權大使男爵「カミーユ・ロマノ、アヴエツァナ」

日本國皇帝陛下

伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎

羅馬尼亞國皇帝陛下

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ左ノモノヲ共同ニ其ノ國民ノ被リタル損害ノ賠償ニ充當スルコトヲ約ス

一　「ローザンヌ」條約第五十八條ニ掲クル金ノ額

二　英國政府ニ於テ前記損害ノ賠償ノ充當ニ同意シタル額面金額八十四萬六千百土耳其「磅」ノ千九百十一年ノ五分利附國庫證券

右基金ハ本條約第二條ニ掲クル委員會ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條

締約國國民ノ被リタル左ニ定ムル損害ヲ評價スル爲「評價委員會」ト稱スル委員會ヲ土耳其國トノ條約實施後一月ノ期間内ニ設置スヘシ

第三條

右ノ委員會ハ佛蘭西國、大不列顛國及伊太利國各政府ノ夫々任命スル委員三名ヲ以テ之ヲ組織ス損害カ他ノ締約國政府ノ國民ニ關係ヲ有スル場合ニ於テハ右損害評價ノ爲該政府ノ任命スル追加委員ヲ本委員會ニ追加スヘシ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四條

委員會ハ損害ノ迅速ナル決濟ヲ確保スル條件ノ下ニ其ノ手續ヲ定ムヘシ議長ハ佛蘭西國、大不列顛國及伊太利國ノ各代表者順次ニ之ニ任スヘシ決定ハ表決ノ過半數ニ依ルモノトス

委員會ノ決定ハ終審トス

委員會及其ノ職員ニ關スル豫算ハ佛蘭西國、大不列顛國及伊太利國各政府ノ同意ヲ經ヘシ

委員會ノ經費ハ賠償基金ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第五條

當事者ノ請求ハ「ローザンヌ」條約實施ノ日ヨリ一年ノ期間内ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第六條

一　委員會ハ本條約ニ掲クル條件ニ依リ左ニ定ムル損害ヲ評價シ及賠償スルコトヲ要ス

（イ）千九百十四年八月一日ニ於ケル土耳其國ノ領域内ニ於テ又ハ海上ニ於テ千九百十四年八月一日ヨリ土耳其國トノ條約ノ實施ニ至ル迄ノ期間内ニ於テ締約國國民カ土耳其國政府ノ一切ノ作爲又ハ不作爲ニ因リ其ノ身體又ハ財產ニ付被リタル直接ノ損害（本條二ニ掲クル損害ヲ除キ且徵發、差押又ハ沒收ノ措置ニ基ク損害ヲ含ム）及前記期間中前記領域内ニ於テ其ノ行爲ノ何人タルヲ問ハス一切ノ戰爭

行爲ニ因リ前記國民ノ被リタル直接ノ損害

（ロ）締約國國民ノ財產及所有權ガ「スミルナ」ノ火災ニ因リ被リタル直接ノ損害

委員會ハ右ニ依リ割當テラルル賠償額ヨリ請求者カ他ノ方法ニ依リ得タル金額ヲ控除スルコトヲ得ヘシ委員會ハ請求者カ他ノ方法ニ依リ其ノ賠償ヲ得ルノ權利ヲ有スルニ拘ラス之カ爲必要ナル一切ノ注意ヲ爲ササリシコトヲ認ムル場合ニ於テハ均シク右請求ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ

（ハ）權ヲ有シタル締約國保護民ノ被リタルモノ

イ及ロニ掲タル損害ニシテ千九百十四年八月一日前ニ於テ保護特民カ優越的利益ヲ有シタル土耳其會社カ「ローザンヌ」條約實施ノ日ニ於ケル土耳其國領域内ニ於テ被リタルモノ

（ニ）イ及ロニ掲クル損害ニシテ千九百十四年八月一日ニ於テ締約國國委員會ハ土耳其國政府カ前項ノ會社ニ許與シタル經濟上ノ利益ヲ同會社ノ被リタル損害ニ應シ參酌スルモノトス前記利益ノ價額ハ貨幣ヲ以テ之ヲ評價シ本條約ニ依リ右會社ノ受クヘキ總額ヨリ之ヲ控除スヘシ右會社ニ支拂フヘキ賠償ノ總額ハ如何ナル場合ニ於テモ第一條第二號ニ掲クル國庫證券ノ額面金額ヲ超過スルコトヲ得サルモノトス

二　左ノ損害ハ委員會ノ權限外ニ屬シ委員會ニ於テ賠償スル限ニ在ラス

（イ）間接損害（利益ノ喪失及豫想利得ノ喪失ヲ含ム）

（ロ）土耳其國ニ於ケル希臘國官憲ノ行爲ニ基因スル債務ノ支拂ニ關スル千九百二十三年七月二十四日附ノ條約ニ依リ希臘國政府ノ支拂フヘキ金額ニ關スル請求

（ハ）土耳其國政府カ利權特許會社ノ財產又ハ勤勞ヲ利用シタル理由ニ

依ル右會社ノ請求ニシテ千九百二十三年七月二十四日ニ於ケル土耳其帝國内ニ於テ許與セラルル一定ノ利權ニ關スル議定書及同附屬ノ宣言書ニ從ヒ又ハ土耳其國政府ト右會社トノ間ニ締結セラレタル協定ニ從ヒ同國政府カ決濟スルコトヲ要スルモノ

第七條

委員會ハ賠償基金ヲ關係者ノ被リタル損害ノ價額ニ比例シテ之ニ分配スヘシ委員會ノ許與スル賠償額ハ關係者タル國民ノ屬スル同盟國政府ノ仲介ニ由リ右關係者ニ支拂ハルヘシ

第八條

本條約ハ批准ヲ要ス

批准書ハ「ローザンヌ」平和條約ノ批准書ト同時ニ巴里ニ於テ之ヲ寄託スヘシ

本條約ハ右平和條約ト同時ニ各締約國ニ對シ之ヲ實施ス

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ「ローザンヌ」平和條約ノ實施前ニ於テ且右平和條約ニ署名シタルコトヲ條件トシテ本條約ニ加入スルコトヲ得

千九百二十三年十一月二十三日巴里ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

クリユー

ペレ

ロマノ、アヴェツアナ

落合謙太郎

議定書

下名ハ各自國政府ノ名ニ於テ本日附ヲ以テ巴里ニ於テ締約國ノ國民カ土耳其國ニ於テ被リタル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約ヲ署名スルニ當リ羅馬尼亞國ニ對シ同國政府ノ任命スル全權委員カ巴里ニ於テ千九百二十三年七月二十四日ノ土耳其國トノ平和條約ノ實施前ニ於テ前記條約ニ署名スルノ權利ヲ認ムルコトニ一致ス

千九百二十三年十一月二十三日巴里ニ於テ之ヲ作成ス

クリユー

ペレ

ロマノ、アヴェツアナ

落合謙太郎

（右佛文略ス）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正十二年十一月二十三日佛蘭西國巴里ニ於テ帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」及「羅馬尼亞國ノ「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書」ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十四年大正十三年五月三十一日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

攝政名

外務大臣　男爵　松井慶四郎

●羅馬尼亞國ノ「希臘國以外ノ同盟國國民ガ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ對スル議定書ニ帝國政府ノ署名シタル件

（昭和三年九月十一日外務省告示第八十一號）

帝國政府ハ羅馬尼亞國ノ「希臘國以外ノ同盟國國民ガ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ對スル署名ノ權限行使期間延長ニ對シ同意ヲ表シ昭和三年八月一日佛蘭西國駐劄帝國特命全權大使ヲシテ關係國全權委員ト共ニ左記ノ議定書ニ署名セシメタリ

議定書

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ羅馬尼亞國ガ千九百二十三年十一月二十三日ノ議定書ニ依リ同國ニ付與セラレタル土耳其國ニ於テ被リタル損害ノ評價及賠償ニ關スル同日附條約ニ署名スルノ權利ヲ千九百二十八年十月一日迄行使シ得ルコトヲ認ムルコトニ一致ス

尤モ右權利ノ利益ハ羅馬尼亞國政府ガ豫メ承認スルコトヲ要スル左ノ條件ニ從フベキモノトス(イ)羅馬尼亞國ノ損害ノ賠償ニ當テラルル金額ハ如何ナル場合ニ於テモ三十五萬土耳其金「磅」ヲ超過スルコトヲ得ズ(ロ)羅馬尼亞國ノ要求ニ對シ決定的ニ割當テラルベキ割合ハ他ノ締約國ノ要求ニ對シ割當テラルベキ割合ヲ超過スルコトヲ得ズ(ハ)羅馬尼亞國ノ要求ノ決濟ノ結果右割合ヲ支拂ヒタル後三十五萬土耳其金「磅」ノ額ニ付殘額ヲ生ジタル場合ニ於テハ該殘額ハ評價委員會ノ處分ニ一任セラルベク評價委員會ハ該殘額ノ使途ニ付提議ヲ爲スベシ

千九百二十八年八月一日巴里ニ於テ作成ス

アー、ブリアン

ネヴィル、ヘンダースン

ジー、マンゾニ

安達峯一郎

（右佛文略ス）

●「希臘國以外ノ同盟國國民ガ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ付羅馬尼亞國カ加入スルコトヲ佛蘭西共和國外務大臣ニ申入レタル旨佛蘭西共和國政府ヨリ通知ノ件（昭和三年十月三十日外務省告示第百三十二號）

帝國政府ハ「希臘國以外ノ同盟國國民ガ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」ニ付羅馬尼亞國ガ千九百二十三年十一月二十三日ノ議定書ニ依リ同國ニ付與セラレタル權利ヲ一定ノ條件

ヲ以テ行使シ得ルコトニ同意シ本年八月一日附議定書ニ關係國ト共ニ署名シタル次第ハ本年九月十一日附外務省告示第八十一號ノ通ナル處在佛蘭西共和國羅馬尼亞國代理公使ハ同九月十日附公文ヲ以テ同國ガ右條件ヲ受諾シ右條約ニ加入スルコトヲ佛蘭西共和國外務大臣ニ申入レタル旨九月十三日附ヲ以テ佛蘭西共和國政府ヨリ通知アリタリ

大赦ニ關スル宣言及議定書

（大正十三年八月十六日外務省告示第四十七號）

大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ帝國全權委員ハ關係各國全權委員ト共ニ左記大赦ニ關スル宣言及議定書ニ署名セリ

本日附平和條約ノ署名國ハ東方ニ於テ平和ヲ攪亂シタル事變ヲ忘却セムコトノ希望ニ均シク保サレ

下名ハ各其ノ全權委任狀ニ基キ左ノ如ク宣言スルコトヲ協定セリ

一

土耳其國ニ居住シ又ハ居住シタル者及相互的ニ希臘國ニ居住シ又ハ居住シタル者ハ千九百十四年八月一日ヨリ千九百二十二年十一月二十日ニ至ル期間ニ於テ本日附平和條約ノ署名國タル外國又ハ其ノ國民ニ對シテ爲シタル軍事的若ハ政治的ノ行爲ノ理由ニ依リ又ハ何等カノ黨助ノ理由ニ依リ如何ナル口實ヲ以テスルモ土耳其國及相互的ニ希臘國ニ於テ脅威又ハ迫害ヲ受クルコトナカルヘシ

二

前記平和條約ニ依リ土耳其國ヨリ分離シタル地域ノ住民ハ千九百十四年八月一日ヨリ千九百二十二年十一月二十日ニ至ル期間内ニ於ケル其ノ土耳其國ニ不利若ハ有利ナル政治的若ハ軍事的ノ態度ノ理由ニ依リ又ハ前記條約ニ依ル國籍決定ノ理由ニ依リ均シク脅威又ハ迫害ヲ受クルコトナカルヘシ

三

土耳其國政府及希臘國政府ハ前記期間内ニ犯サレタル一切ノ重罪及輕罪ニシテ同期間内ニ發生シタル政治的事件ト明ニ關聯スルモノニ付夫々一

般的ニシテ且完全ナル大赦ヲ行フヘシ

四

土耳其國民及本日附平和條約ノ他ノ署名國ノ國民ニシテ右署名國官憲又ハ土耳其國官憲ニ依リ前記平和條約ノ結果引續キ土耳其國ニ屬スル地域内ニ於テ千九百二十二年十一月二十日前ニ政治的又ハ軍事的ノ性質ノ理由ニ依リ逮捕、訴追又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相互的ニ大赦ヲ受クヘク其ノ抑留中ノ者ナルトキハ其ノ所屬國官憲ニ引渡サルヘシ本規定ハ土耳其國民ニシテ前記地域ノ一部ヲ占領シタル國ノ官憲ニ依リ右期日前ニ犯シタル普通法違反ニ對シ捕逮、訴追又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シテモ亦之ヲ適用スヘク其ノ土耳其國國外ニ移送セラレタル場合亦同シ但シ占領軍ニ屬スル者ニ對シ死亡又ハ重大ナル傷害ヲ惹起セシメタル行爲ニ付有罪ト爲リタル者ハ此ノ限ニ在ラス

五

前記犯罪ニ付言渡シタル一切ノ刑ノ宣告ハ之ヲ取消シ繼續中ノ一切ノ訴追ハ之ヲ中止スヘシ

六

土耳其國政府ハ一切ノ國ト共ニ一般的平和ヲ希望スルヲ以テ戰爭ニ依リ離散セル家族ヲ復興セシメ且正當權利者ヲシテ其ノ財産ノ占有ヲ回復セシムル目的ヲ以テ千九百十八年十月二十日ヨリ千九百二十二年十一月二十日ニ至ル期間内ニ於テ同盟國ノ庇護ノ下ニ行ハレタル處置ニ對シ異議ヲ挿マサル意嚮ヲ有スルコトヲ宣言ス

尤モ右意嚮ハ利害關係者ノ請求アル場合ニ於テ前記處置ノ更正ヲ爲シ得ルコトヲ排除スルモノニ非ス人及財産ニ關スル請求ハ赤新月社ノ代表者一名及赤十字社ノ代表者一名ヨリ成ル委員會之ヲ審査ス意見一致セサルトキハ右代表者ニ於テ一名ノ仲裁人ヲ選定スヘシ其ノ選定ニ關シ右代表者間ニ於テ合意成立セサルトキハ該仲裁人ハ國際聯盟理事會之ヲ指定スヘシ

七

英吉利國、佛蘭西國及伊太利國ノ政府ハ抑留人民ノ返還及俘虜ノ交換ニ關シ千九百二十三年一月三十日希臘國政府及土耳其國政府間ニ締結セラレタル協定第五條ニ規定スル善後措置ノ有益ナルコトヲ認メ千九百二十二年十一月二十日後ニ於テ普通法上ノ重罪及輕罪ヲ犯シタル者ヲ除キ其ノ尙抑留シ得ヘキ土耳其國民タル俘虜及抑留人民ノ爲ニ土耳其國政府ト相互條件ヲ以テ同一ノ規定ヲ採用スルノ意嚮アルコトヲ宣言ス

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ之ヲ作成ス

ホイース、ラマポルド

ベル

カロニ

ジー、チ、モンターニァ

落合謙太郎

エー、カー、ヴェニゼロス

デー、カクラマノス

コンスタンティン、ディアマンディ

コンスタンティン、コンツェスコ

エム、イスメット

ドクトル、リザー、ヌール

ハサン

議定書

大赦ニ關スル宣言第一ニ掲ラス土耳其國政府ハ同項ニ規定スル種類ニ屬スル者百五十名ニ對シ土耳其國ニ於ケル滯在及入國ヲ禁止スルノ權利ヲ

留保ス從テ土耳其國政府ハ前記ノ者ニシテ現ニ土耳其國ニ在ル者ヲ其ノ領域ヨリ追放シ且外國ニ在ル者ノ歸還ヲ禁止スルコトヲ得ヘシ右ノ者ノ氏名ハ之ヲ大赦ノ布告書ニ添附スヘシ右布告書ハ本日附平和條約ノ實施ニ際シ土耳其國政府ノ關スル限リ前記宣言ヲ實行スル爲之ヲ公布セラルヘキモノトス尚土耳其國政府カ其ノ意嚮ヲ表明セルカ如ク前記ノ者カ土耳其國ニ於ケル其ノ所有物件及其ノ他ノ財產ノ淸算ヲ行フヘキコトヲ右政府カ決シタル場合ニハ右ノ者ハ該淸算ヲ任意ニ行フカ爲前記布告書ノ日附ヨリ九月ノ期間ヲ許與セラルヘク右期間ノ滿了後土耳其國政府カ淸算ヲ行フ場合ニハ其ノ淸算高ノ全部シ前記ノ者ニ返還スヘキモノトス大赦ニ關スル宣言第一ハ希臘國政府カ希臘國及土耳其國間ノ戰爭中ニ於ケル軍事上ノ業務ニ違反シタル事實ニ付其ノ軍隊ニ所屬シ又ハ所屬シタル非回敎信徒國民ヲ訴追スルノ權利ヲ妨ケサルモノトス

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ之ヲ作成ス

ホレース、ラムボルド
ペレ
ガロニ
落合謙太郎
エー、カー、ヴェニゼロス
デー、カクラマノス
コンスタンティン、ディアマンディ
コンスタンティン、コンツェスコ
エム、イスメット
ドクトル、リザー、ヌール
ハサン

（右佛文略ス）

（大正十三年八月十六日
外務省告示第四十八號）

大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ帝國全權委員ハ關係各國全權委員ト共ニ左記最終議定書ニ署名セリ

英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ政府ハ日本國政府ト協同シテ一方ニ於テ希臘國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及亞米利加合衆國他方ニ於テ土耳其國ノ招請シ一切ノ國ニ於テ竝シク希望スル結果ニ達セムカ爲適當ナル規定ヲ共同ニ考査シ以テ東方ニ於ケル平和ヲ確定的ニ恢復セムコトヲ欲シ

又本會議ニ付議セラルヘキ事項ノ中海峽問題ニ付テハ黑海沿岸國タル勃爾牙利國及露西亞國ヲ招請シ商議及採用セラルヘキ決議ニ參加セシメ特ニ考査セサルヘカラサルモノナルコトヲ思ヒ

尙白耳義國及葡萄牙國ハ東方ニ於ケル戰爭狀態ニ基因スル兩國ノ經濟及財政ノ問題ノ討議ニ參加スルコトヲ容認セラルヘキコトヲ決定シ因テ左記全權委員ハ「ローザンヌ」ニ參集セリ

英帝國
　外務大臣侯爵「ジョージ、ナサニエル、カーゾン」
「コンスタンティノープル」駐在高級委員「サー、ホレース、ジョージ、モレタギュ、ラムボルド」
佛蘭西國
　伊太利國註劄佛蘭西共和國特命全權大使「カミーユ、バレール」
佛蘭西國特命全權大使上院議員「モーリス、ポンペール」
近東共和國駐在高級委員佛蘭西國特命全權大使陸軍中將「モーリス、ペレ」
伊太利國
「コンスタンティノープル」駐在高級委員伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「カミーユ、ガロニ」
希臘國駐劄伊太利國特命全權公使「ジュール、セザール、モンターニア」
日本國
　英吉利國駐劄日本國特命全權大使男爵林權助
　伊太利國駐劄日本國特命全權大使落合謙太郎
希臘國
　前內閣議長「エレフテリオス、カー、ヴェニゼロス」
　英吉利國駐劄希臘國特命全權公使「デメートル、カクラマノス」
羅馬尼亞國
　外務大臣「イオン、ザニー、デュカ」
　羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、イ、ディアマンディ」
　羅馬尼亞國特命全權公使「コンスタンティン、コンツェスコ」
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國
　外務大臣「モンチロ、ニンチチ」
　佛蘭西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ミロスラヴ、スパライコヴィッチ」
　羅馬尼亞國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」
　國特命全權公使「ミラゾ、ラキッチ」
　瑞西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ドクトル、ミルーティヌ、ヨヴァノヴィッチ」
亞米利加合衆國
　伊太利國駐劄亞米利加合衆國特命全權大使「リチャード、ウォッシュバーン、チャイルド」
　「コンスタンティノープル」駐在高級委員海軍少將「マーク、エル、プリトル」
　瑞西國駐劄亞米利加合衆國特命全權公使「ジョセフ、シー、グリウ」
土耳其國
　外務大臣國會議員「イスメット、パシャ」
　衞生及社會救護大臣國會議員「ドクトル、リザー、ヌール、ベイ」
　前大臣國會議員「ハサン、ベイ」
勃爾牙利國
　外務及宗敎大臣內閣議長「アレキサンドル、スタムボーリスキー」
　英吉利國駐劄勃爾牙利國特命全權公使法學博士「ディミトリ、スタンシオフ」
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國駐劄勃爾牙利國特命全權公使「コスタ、トドロフ」
　前鐵道及遞信大臣「ボガダン、モルフォフ」
露西亞國
「ジョルジ、ヴェ、チチェリン」
「クリスチァン、ラコヴスキー」

「ポリカルプ、ジェー、ディヴァニ」
「ワツラウ、ドゥーブルヴェ、ヴォロヴスキ」
白耳義國
瑞西國駐劄白耳義國特命全權公使「エフ、ベルツェル」
葡萄牙國
瑞西國駐劄葡萄牙國特命全權公使「アントニオ、マリア、バルトロメウ、フェレイラ」

千九百二十二年十一月二十日ヨリ千九百二十三年七月二十四日迄開催セラレタル會議ニ於テ一定ノ他ノ諸國カ自國ニ利害關係アリト認メタル問題ニ付當該國ノ意見ヲ表明セシメ右會議ノ結果左ニ揭クル文書ヲ決定セリ

一　平和條約　千九百二十三年七月二十四日署名
二　海峽制度ニ關スル條約　千九百二十三年七月二十四日署名
三　「トラース」國境ニ關スル條約　千九百二十三年七月二十四日署名
四　居住及裁判管轄ニ關スル條約　千九百二十三年七月二十四日署名
五　通商條約　千九百二十三年七月二十四日署名
六　希臘國及土耳其國ノ住民交換ニ關スル條約及議定書　千九百二十三年一月三十日署名
七　抑留人民ノ返還及俘虜交換ニ關スル希臘國及土耳其國間ノ協定　千九百二十三年一月三十日署名
八　大赦ニ關スル宣言及議定書　千九百二十三年七月二十四日署名
九　希臘國ニ於ケル回教信徒ノ財産ニ關スル宣言　千九百二十三年七月二十四日署名
十　衞生事項ニ關スル宣言　千九百二十三年七月二十四日署名
十一　司法行政ニ關スル宣言　千九百二十三年七月二十四日署名
十二　土耳其帝國內ニ於テ許與セラルル一定ノ利權ニ關スル議定書及宣言　千九百二十三年七月二十四日署名

十三　「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書竝該加入ニ關スル右兩國ノ宣言　千九百二十三年七月二十四日署名
十四　英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ軍隊ノ占領セル土耳其國領域ノ撤退ニ關スル議定書竝宣言　千九百二十三年七月二十四日署名
十五　「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書　千九百二十三年七月二十四日英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、希臘國及土耳其國署名
十六　千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書　千九百二十三年七月二十四日署名
十七　「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ署名ニ關スル議定書　千九百二十三年七月二十四日署名

以上揭クル文書竝本書ノ原本ハ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記錄ニ寄託保存スヘク同國政府ハ既ニ該文書ニ署名シタル國又ハ之ニ加入スヘキ國及平和條約ノ署名國ニ對シ其ノ認證謄本ヲ交付スヘシ

右證據トシテ下名ハ本書ニ署名調印セリ

千九百二十三年七月二十四日「ローザンヌ」ニ於テ本書一通ヲ作成ス

ホレース、ラムボルド　(印)
ペレ　(印)
ガロニ　(印)
ジー、チ、モンターニア

落合謙太郎　(印)
エー、カー、ヴェニゼロス　(印)
デー、カクラマノス　(印)
コンスタンティン、ディアマンディ　(印)
コンスタンティン、コンツェスコ　(印)
エム、イスメット　(印)
ドクトル、リザー、ヌール　(印)
ハサン　(印)
ベー、モルフオフ　(印)
スタンシオフ　(印)
フエルナン、ベルツエル　(印)
アー、エム、バルトロメウ、フェレイラ　(印)

(右佛文略ス)

●平和ヲ確保スル爲ノ條約及其他ノ諸條約ニ對シ日本帝國及關係諸國ノ批准寄託ヲ了シタルノ件

(大正十三年八月十六日外務省告示第五十號)

日本帝國カ關係各國ト共ニ大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」、「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ署名ニ關スル議定書ノ各批准書ヲ、土耳其國ハ本年三月三十一日曩ニ瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」、「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」ニ關スル宣言、千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約及「羅馬尼亞國ノ前記條約ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書」ハ本年八月六日巴里ニ於テ日本帝國及關係諸國ノ批准寄託ヲ了シ第一回批准寄託調書ヲ作成セリ

(大正十三年八月十六日外務省告示第五十一號)

希臘國ハ本年二月十一日曩ニ瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」、「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」ニ關スル宣言、千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約及「羅馬尼亞國ノ前記條約ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書」ハ本年八月六日巴里ニ於テ日本帝國及關係諸國ノ批准寄託ヲ了シ第一回批准寄託調書ヲ作成セリ

ヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」及「「カラガッチ」ノ領域竝「インプロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」ノ各批准書ヲ、又英帝國及伊太利國ハ本年八月六日曩ニ瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」、「「カラガッチ」ノ領域竝「インプロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」及「千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書」及「セルブ、クロアート、スロヴェトヌ」國ノ署名ニ關スル議定書」竝大正十二年十一月二十三日佛蘭西國巴里ニ於テ署名シタル「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」及「羅馬尼亞國ノ前記條約ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書」ノ各批准書ヲ巴里ニ於テ寄託セリ

（大正十三年九月四日外務省告示第六十一號）

本年八月三十日佛蘭西國ハ大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名シタル「平和條約」、「海峽制度ニ關スル條約」、「「トラース」國境ニ關スル條約」、「居住及裁判管轄ニ關スル條約」、「通商條約」、「「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書」、「「カラガッチ」ノ領域竝「インプロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書」、「千九百二十年八月十日「セーヴル」ニ於テ主タル同盟國及希臘國間ニ締結セラレタル希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同日附ヲ以テ同國間ニ締結セラレタル「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書」及「セルブ、クロアート、スロヴェトヌ」國ノ署名ニ關スル議定書」竝大正十二年十一月二十三日佛蘭西國巴里ニ於テ署名シタル「希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約」及「羅馬尼亞國ノ前記條約ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書」ノ各批准書ヲ巴里ニ於テ寄託セリ

（大正十三年九月四日外務省告示第六十二號）

本年八月三十日英帝國及佛蘭西國ハ大正十二年七月二十四日瑞西國「ローザンヌ」ニ於テ署名シタル「通商條約」及「居住及裁判管轄ニ關スル條約」ヲ右兩國ノ共同領域タル「ニュー、ヘブリディーズ」諸島ニ適用セサル旨ノ共同宣言書ヲ佛蘭西國外務省ニ寄託セリ

（大正十三年九月二十日外務省告示第六十三號）

本年八月六日巴里ニ於テ日本帝國、英帝國及伊太利國ハ大正九年八月十日佛蘭西國「セーヴル」ニ於テ署名シタル「少數民族ニ關スル主タル同盟及聯合國ト希臘國トノ條約」及「「トラース」ノ主權ニ關スル主タル同盟及聯合國ト希臘國トノ條約」ノ批准寄託ヲ了セリ又希臘國ハ本年二月十一日佛蘭西國ハ本年八月三十日右條約ノ各批准書ヲ夫々巴里ニ於テ寄託セリ

●同上諸條約ヲ英帝國自治領及屬地ニ適用セサル件

（大正十三年八月十六日外務省告示第五十二號）

本年八月六日巴里ニ於テ「ローザンヌ」會議關係ノ平和條約及其ノ他ノ諸文書ノ第一回批准寄託調書ヲ作成スルニ際シ英帝國ハ通商條約ヲ其ノ第十六條ニ基キ左記第一號表記載ノ自治領及屬地ニ、又居住條約ヲ其ノ第十九條ニ基キ左記第二號表記載ノ自治領及屬地ニ夫々適用セサルコトヲ聲明セリ

第一號表

一、加奈陀
二、濠太利聯邦
三、「パプア」
四、「ノーフォーク」島
五、「ニューギニア」委任統治地域
六、南阿弗利加聯邦
七、西南阿弗利加委任統治地域
八、愛蘭自由國
九、印度
十、「ケンヤ」
十一、「モーリス」島
十二、「バハマス」
十三、「ジブラルタル」
十四、「シエラ、リオニ」
十五、「フィジー」
十六、「ギルバート」及「エリス」諸島殖民地
十七、「ソロモン」諸島英帝國保護領及西太平洋高級委員ノ管轄下ニ在ル其ノ他ノ諸島
十八、「トンガ」
十九、「バスト、ランド」
二十、「ベチュアナランド」保護領
二十一、「スワジー、ランド」
二十二、北部「ロデシア」
二十三、英埃共同領「スーダン」
二十四、「ノーリュ」委任統治地域

第二號表

一、加奈陀
二、南阿弗利加聯邦
三、西南阿弗利加委任統治地域
四、愛蘭自由國
五、「バハマス」
六、「ジブラルタル」
七、「シエラ、リオニ」
八、「フィジー」

九、「ギルバート」及「エリス」諸島殖民地
十、「ソロモン」諸島英帝國保護領及西太平洋高級委員ノ管轄下ニ在ル其ノ他ノ諸島
十一、「トンガ」
十二、「バスト、ランド」
十三、「ベチュアナランド」保護領
十四、「スワジー、ランド」
十五、北部「ロデシア」
十六、英埃共同領「スーダン」
十七、海峽殖民地
十八、「ノーリュ」委任統治地域

●支那ニ關スル九國條約

（大正十四年八月六日）
（條約第八號）

枢密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國、亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、和蘭國及葡萄牙國ノ各全權委員カ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ大正十一年二月六日署名調印シタル支那ニ關スル九國條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ
極東ニ於ケル事態ノ安定ヲ期シ支那ノ權利利益ヲ擁護シ且機會均等ノ基礎ノ上ニ支那ト他ノ列國トノ間ノ交通ヲ增進セムトスルノ政策ヲ採用スルコトヲ希望シ
右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領
合衆國人民「チャールス、エヴァンス、ヒューズ」
同　「ヘンリー、カボット、ロッヂ」
同　「オスカー、ダブリュー、アンダウッド」
同　「エリヒュー、ルート」

白耳義國皇帝陛下
亞米利加合衆國駐劄特命全權大使男爵「カルチエ、ド、マルシエンス」

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下
樞密院議長國會議員「アーサー、ジェームス、バルフォア」
海軍大臣男爵「リー、オヴ、フェアラム」
亞米利加合衆國駐劄特命全權大使「サー、オークランド、キャンプル、ゲデス」
加奈陀
「サー、ロバート、レアド、ボーデン」

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使男爵幣原喜重郎
外務次官埴原正直

和蘭國皇帝陛下
特命全權公使「ヨンクヘール、フランス、ベーラールツ、ヴァン、ブロックランド」
亞米利加合衆國駐劄代理公使「ヨンクヘール、ウィルレム、ヘンドリック、ド、ボーフォール」

葡萄牙共和國大統領
亞米利加合衆國駐劄特命全權公使「アルテ」子爵「ジョゼー、フランシスコ、デ、オルタ、マシャド、ダ、フランカ」
海軍大佐殖民省技術部長「エルネスト、ジュリオ、デ、カルヴァリオ、イ、ヴァスコンセロス」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一條

支那國以外ノ締約國ハ左ノ通約定ス
(一) 支那ノ主權、獨立竝其ノ領土的及行政的保全ヲ尊重スルコト
(二) 支那カ自ラ有力且安固ナル政府ヲ確立維持スル爲最完全ニシテ且最障礙ナキ機會ヲ之ニ供與スルコト
(三) 支那ノ領土ヲ通シテ一切ノ國民ノ商業及工業ニ對スル機會均等主義ヲ有效ニ樹立維持スル爲各盡力スルコト
(四) 友好國ノ臣民又ハ人民ノ權利ヲ減殺スヘキ特別ノ權利又ハ特權ヲ求ムル爲支那ニ於ケル情勢ヲ利用スルコトヲ及有友好國ノ安寧ニ害

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

アル行動ヲ是認スルコトヲ差控フルコト

第二條

締約國ハ第一條ニ記載スル原則ニ違背シ又ハ之ヲ害スヘキ如何ナル條約、協定、取極又ハ了解ヲモ相互ノ間ニ又ハ各別ニ若ハ協同シテ他ノ一國又ハ數國トノ間ニ締結セサルヘキコトヲ約定ス

第三條

一切ノ國民ノ商業及工業ニ對シ支那ニ於ケル門戸開放又ハ機會均等ノ主義ヲ一層有效ニ適用スルノ目的ヲ以テ支那國以外ノ締約國ハ左ヲ要求セサルヘク又各自國民ノ左ヲ要求セサルコトヲ支持セサルヘキコトヲ約定ス

(イ) 支那ノ何レカノ特定地域ニ於テ商業上又ハ經濟上ノ發展ニ關シ自己ノ利益ノ爲一般的優越權利ヲ設定スルニ至ルコトアルヘキ取極

(ロ) 支那ニ於テ適法ナル商業若ハ工業ヲ營ムノ權利又ハ公共企業ヲ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス支那國政府若ハ地方官憲ト共同經營スルノ權利ヲ他國ノ國民ヨリ奪フカ如キ獨占權又ハ優先權或ハ其ノ範圍、期間又ハ地理的限界ノ關係上機會均等主義ノ實際的適用ヲ無效ニ歸セシムルモノト認メラルルカ如キ獨占權又ハ優先權

本條ノ前記規定ハ特定ノ商業上、工業上若ハ金融業上ノ企業ノ經營又ハ發明及研究ノ奬勵ニ必要ナルヘキ財產又ハ權利ノ取得ヲ禁スルモノト解釋スヘカラサルモノトス

支那國ハ本條約ノ當事國タルト否トヲ問ハス一切ノ外國ノ政府及國民ヨリ經濟上ノ權利及特權ニ關スル出願ヲ處理スルニ付本條ノ前記規定ニ記載スル主義ニ適由スヘキコトヲ約スヘシ

第四條

締約國ハ各自國民相互間ノ協定ニシテ支那領土ノ特定地方ニ於テ勢力範圍ヲ創設セムトシ又ハ相互間ノ獨占的機會ヲ享有スルコトヲ定メムトスルモノヲ支持セサルコトヲ約定ス

第五條

支那國ハ支那ニ於ケル各鐵道ヲ通シ如何ナル種類ノ不公平ナル差別ヲモ行ヒ又ハ許容セサルヘキコトヲ約定ス殊ニ旅客ノ國籍、其ノ出發國若ハ到達國、貨物ノ原產地若ハ所有者、其ノ積出國若ハ仕向國又ハ前記ノ旅客若ハ貨物カ支那鐵道ニ依リ輸送セラルル前若ハ後ニ於テ之ヲ運搬スル船舶其ノ他ノ輸送機關ノ國籍若ハ所有者ノ如何ニ依リ料金又ハ便宜ニ付直接間接ニ何等ノ差別ヲ設ケサルヘシ

支那國以外ノ締約國ハ前記鐵道中自國又ハ自國民カ特許條件、特殊協定其ノ他ニ基キ管理ヲ爲シ得ル地位ニ在ルモノニ關シ前項ト同趣旨ノ義務ヲ負擔スヘシ

第六條

支那國以外ノ締約國ハ支那國ノ參加セサル戰爭ニ於テ支那國ノ中立國トシテノ權利ヲ完全ニ尊重スルコトヲ約定シ支那國ハ中立國タル場合ニ中立ノ義務ヲ遵守スルコトヲ聲明ス

第七條

締約國ハ其ノ何レカノ一國カ本條約ノ規定ノ適用問題ヲ包含シ且右適用問題ノ討議ヲ爲スヘシト認ムル事態發生シタルトキハ何時ニテモ關係締約國間ニ充分ニシテ且隔意ナキ交涉ヲ爲スヘキコトヲ約定ス

第八條

本條約ニ署名セサル諸國ニシテ署名國ノ承認シタル政府ヲ有シ且支那國ト條約關係ヲ有スルモノハ本條約ニ加入スヘキコトヲ招請セラルヘシ右目的ノ爲合衆國政府ハ非署名國ニ必要ナル通牒ヲ爲シ且其ノ受領シタル回答ヲ締約國ニ通告スヘシ斯ノ加入ハ合衆國政府カ其ノ通告ヲ受領シタル時ヨリ效力ヲ生スヘシ

第九條

本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルヘク且批准書全部ノ寄託ノ日ヨリ實施セラルヘシ右ノ寄託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ合衆國政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認證謄本ヲ他ノ締約國ニ送付スヘシ

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ合衆國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘク其ノ認證謄本ハ同政府ヨリ他ノ各締約國ニ之ヲ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ノ本條約ニ署名ス

千九百二十二年二月六日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

チャールス、エヴァンス、ヒューズ(印)
ヘンリー、カボット、ロッヂ(印)
オスカー、ダブリュー、アンダウッド(印)
エリヒュー、ルート(印)
男爵カルチエ、ド、マルシエンヌ(印)
アーサー、ジェームス、バルフォア(印)
リー、オヴ、フェアラム(印)
エー、シー、ゲデス(印)
アール、エル、ボーデン(印)

ジー、エフ、ピアス(印)
ジョン、ダブリュー、サルモンド(印)
アーサー、ジェームス、バルフオア(印)
ヴィー、エス、スリニヴァサ、サストリ(印)
施肇基(印)
顧維鈞(印)
王寵惠(印)
アー、サロー(印)
ジュスラン(印)
カルロ、シァンツェル(印)
ヴィー、ロランディ、リッチ(印)
ルイジ、アルベルティニ(印)
加藤友三郎(印)
幣原喜重郎(印)
埴原正直(印)
ベー、ラールツ、ヴァン、ブロックランド(印)
ダブリュー、ド、ボーフォール(印)
アルテ(印)
エルネスト、デ、ヴァスコンセロス(印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、和蘭國及葡萄牙國ノ各全權委員カ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ大正十一年二月六日署名調印シタル支那ニ關スル九國條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十二年大正十一年八月五日葉山ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

攝政名

外務大臣　伯爵　内田康哉

（右英佛文略ス）

●支那ノ關稅ニ關スル條約

（大正十四年八月六日條約第九號）

脫權密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國、亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、和蘭國及葡萄牙國ノ各全權委員カ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ大正十一年二月六日署名調印シタル支那ノ關稅ニ關スル條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ

支那國政府　歳入ヲ增加スルノ目的ヲ以テ支那關稅率ノ改訂及之ニ關聯スル事項ニ付條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領

合衆國人民「チヤールス、エヴアンス、ヒューズ」

同　「ヘンリー、カボット、ロッヂ」

同　「オスカー、アンダーウッド」

同　「エリヒュー、ルート」

白耳義國皇帝陛下

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使男爵「カルチエ、ド、マルシエンヌ」

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

樞密院議長國會議員「アーサー、ジエームス、バルフオア」

海軍大臣男爵「リー、オヴ、フエアラム」

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使「サー、オークランド、キヤンプル、ゲデス」

加奈陀

「サー、ロバート、レアド、ボーデン」

濠太利聯邦

内務大臣上院議員「ジョージ、フォスター、ピアス」

新西蘭

新西蘭最高法院判事「サー、ジョン、ウイリアム、サルモンド」

南阿弗利加聯邦

國會議員「アーサー、ジエームス、バルフオア」

印度

印度參議院議員「ヴアリングマン、サンカラナラヤナ、スリニヴアサ、サストリ」

支那共和國大總統

亞米利加合衆國駐劄特命全權公使施肇基

英國駐劄特命全權公使顧維鈞

前司法大臣王寵惠

佛蘭西共和國大統領

殖民大臣下院議員「アルベール、サロー」

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使「ジユール、ジー、ジユスラン」

伊太利國皇帝陛下

參議院議員「カルロ、シアンツエル」

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使參議院議員「ヴイットリオ、ロランディ、リッチ」

參議院議員「ルイジ、アルベルティニ」

日本國皇帝陛下

海軍大臣男爵加藤友三郎

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使男爵幣原喜重郎

外務次官埴原正直

和蘭國皇帝陛下

特命全權公使「ヨンクヘール、フランス、ベーラールツ、ヴアン、ブロックランド」

亞米利加合衆國駐劄代理公使「ヨンクヘール、ヴイルレム、ヘンドリック、ド、ボーフォール」

葡萄牙共和國大統領

亞米利加合衆國駐劄特命全權公使「アルテ」子爵「ジョゼー、ブランシスコ、デ、オルダ、マシヤド、ダ、ブランカ」

海軍大佐殖民省技術部長「エルネスト、ジユリオ、デ、カルヴアリオ、イ、ヴアスコンセロス」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一條

締約國ノ代表者ハ支那國ト他國トノ間ニ締結セラレタル現存諸條約ニ基キ支那關稅ヲ現實從價五分ニ相當セシムルノ目的ヲ以テスル同關稅ノ改訂ニ關スル決議ニシテ本條ニ附屬書トシテ添附スルモノヲ千九百二十二年二月四日華盛頓市ニ於テ採用シタルニ因リ締約國ハ玆ニ右決議ヲ確認シ該改訂ノ結果トシテ決定セラルル稅率ヲ受諾スルコトヲ約ス前記改訂稅率ハ其ノ公表ノ時ヨリ二月後ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ實施スヘシ

附屬書

本會議ニ參加スル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ支那國政府ノ所要ニ應スル爲歳入ヲ增加スル目的ヲ以テ左ノ如ク約定ス

千九百十八年十二月十九日上海ニ於テ關稅率改訂委員會ノ採用シタル支那輸入稅率表ハ支那國ヲ一方ノ當事國トスル諸通商條約ニ規定スル如ク其ノ稅率ヲ現實五分ニ相當セシムル樣直ニ改訂セラルヘシ

改訂委員會ハ前記改訂ヲ直ニ且前回改訂ノ一般方針ニ從ヒ實施スル爲出來得ル限リ速ニ上海ニ於テ會合スヘシ

右委員會ハ前記諸國ノ代表者及本會議ニ參加スル諸國ニ依リ現ニ承認セラレタル政府ヲ有スル他ノ諸國ニシテ支那國トノ間ニ輸入及輸出ノ稅率ニ付從價五分ヲ超エサルコトノ規定スル條約ヲ有シ且該委員會ニ參加スルコトヲ希望スルモノノ代表者ヲ以テ之ヲ構成スヘシ

前記改訂ハ軍備制限竝太平洋及極東問題ニ關スル會議ニ於テ本決議ヲ採用シタル日ヨリ四月内ニ完了スルノ目的ヲ以テ成ルヘク速ニ之ヲ進捗セシムヘシ

改訂稅率ハ改訂委員會カ之ヲ公表シタル時ヨリ二月後ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ實施スヘシ

本會議ノ主催者タル合衆國政府ハ本會議ニ參加セサルモ千九百十八年ノ前記改訂ニ參加シタル諸國ノ政府ニ對シ直ニ本決議ノ條項ヲ通告スヘキモノトス

第二條

大不列顛國及支那國間ノ千九百二年九月五日ノ條約第八條、合衆國及支那國間ノ千九百三年十月八日ノ條約第四條及第五條竝日本國及支那國間ノ千九百三年十月八日ノ追加條約第一條ニ規定スル附加稅ヲ賦課スルノ目的ヲ以テ右諸條ニ規定スル關金ヲ急速ノ廢止及他ノ條件ノ履行ニ付準備ヲ爲スカ爲特別會議ニ依リ直ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

右特別會議ハ署名國ノ代表者及該會議ニ參加スルコトヲ希望スル他ノ諸國ニシテ之ニ其ノ代表者ヲ參加セシムルニ足ル時期ニ於テ本條約第八條ノ規定ニ從ヒ本條約ニ加入スルコトアルヘキモノノ代表者ヲ以テ之ヲ構成スヘシ右會議ハ本條約實施後三月內ニ支那ニ於テ之ヲ開催スヘク其ノ時日及場所ハ支那國政府之ヲ指定スヘシ

第三條

第二條ニ規定スル特別會議ハ同條ニ記載スル諸條約ノ條項ニ規定スル關金ノ廢止及他ノ條件ノ履行ニ先チ適用セラルヘキ暫行規定ヲ考量スヘシ同會議ハ其ノ決定スヘキ期日、目的及條件ニ依リ有稅輸入品ニ對シ附加稅ヲ賦課スルコトヲ認ムヘシ

右附加稅ハ之ヲ從價二分五厘ノ一律ノ率トス但シ特別會議ニ於テ過度ニ貿易ヲ阻礙スルコトナクシテ一層ノ增課ヲ負擔シ得ルモノト認ムル或種ノ奢侈品ニ付テハ其ノ總附加稅ハ從價五分ヲ超エサル限リ之ヲ增加スルコトヲ得

第四條

第一條ニ記載スル支那輸入關稅率表ノ卽時改訂ノ後同關稅ヲシテ第二條ニ規定スル特別會議ノ定ムル從價稅率ニ相當セシムヘキコトヲ確保スル爲見ニ其ノ再改訂ヲ行フヘク再改訂稅率ハ前記卽時改訂ノ完了後四年ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

右再改訂ノ後ニ於テハ前記ノ目的ノ爲支那輸入關稅率表ヲ支那國トノ現存諸條約ノ認ムル十年毎ノ定期改訂ニ代ハ七年毎ニ定期ニ改訂スヘシ遲延ヲ避クル爲本條ニ基キ行フヘキ改訂ハ第二條ニ規定スル特別會議ノ定ムヘキ規則ニ從ヒ之ヲ實施スヘシ

第五條

關稅ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ一切ノ締約國ニ對シ待遇及機會ノ卽實均等アルヘシ

第六條

支那ノ一切ノ陸境及海境ニ於テ賦課スル關稅率ニ付テノ均一ノ原則ハ茲ニ承認セラレタルモノトス第二條ニ規定スル特別會議ハ右原則ヲ實行スルノ取極ヲ爲スヘシ同會議ハ撤廢セラルヘキ關稅上ノ特權カ地方的經濟上ノ便益ニ代ヘテ許與セラレタルモノナルニ於テハ之カ衡平ナル調整ヲ爲スコトヲ得

右實行ニ至ル迄ハ關稅率改訂ノ結果トシテ生スヘキ關稅率ノ增加又ハ本條約ニ基キ將來賦課セラルヘキ附加稅ハ支那ノ一切ノ陸境及海境ニ於テ均一ノ從價稅率ニ依リ徵收セラルヘシ

第七條

抵代稅ハ第二條ニ規定スル措置ノ實施セラルル迄ハ之ヲ從價二分五厘ヲ率トス

本條約ニ署名セサル諸國ニシテ署名國ニ依リ現ニ承認セラレタル政府ヲ有シ且支那國トノ間ニ輸入及輸出ノ稅率ニ付從價五分ヲ超エサルコトヲ規定スル現存條約ヲ有スルモノハ本條約ニ加入スルコトヲ招請セラルヘシ

合衆國政府ハ右目的ノ爲必要ナル通牒ヲ爲シ且其ノ受領シタル回答ヲ締約國政府ニ通告スルコトヲ約ス別國ノ加入ハ合衆國政府カ右加入ノ通告ヲ受領シタル時ヨリ效力ヲ生スヘシ

第九條

本條約ノ規定ハ支那國及各締約國間ノ條約ノ一切ノ規定ニシテ之ト牴觸スルモノ（最惠國民待遇ノ規定ヲ除ク）ニ優ル

第十條

本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルヘク且批准書全部ノ寄託ノ日ヨリ實施セラルヘシ右ノ寄託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ合衆國政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認證謄本ヲ他ノ締約國ニ送付スヘシ

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ合衆國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘク其ノ認證謄本ハ同政府ヨリ他ノ締約國ニ之ヲ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百二十二年二月六日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

チァールス、エヴァンス、ヒューズ（印）
ヘンリー、カボット、ロッヂ（印）
オスカー、ダブリュー、アンダウッド（印）
エリヒュー、ルート（印）

男爵カルチエ、ド、マルシェンヌ（印）
アーサー、ジェームス、バルフォア（印）
リー、オヴ、フェアラム（印）
エー、シー、ダデス（印）
アール、エル、ボーデン（印）
ジー、エフ、ピアス（印）
ジョン、ダブリュー、サルモンド（印）
アーサー、ジェームス、バルフォア（印）
ヴィー、エス、スリニヴァサ、サストリ（印）
施肇基（印）
顧維鈞（印）
王寵惠（印）
アー、サロー（印）
ジュスラン（印）
カルロ、ジァンツェル（印）
ヴィー、ロランディ、リッチ（印）
ルイジ、アルベルティニ（印）
加藤友三郎（印）
幣原喜重郎（印）
埴原正直（印）
ベーラールツ、ヴァン、ブロック（印）
ランド（印）
ダブリュー、ド、ポーフォール（印）
アルテ（印）
エルネスト、デ、ヴァスコンセロス（印）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國、亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、和蘭國及葡萄牙國ノ各全權委員カ亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ大正十一年二月六日署名調印シタル支那ノ關稅ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十二年大正十一年八月五日葉山ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

攝政名

外務大臣　伯爵　內田康哉

（右英佛文略ス）

●同上條約ノ批准寄託ヲ了シタル件

（大正十四年八月六日外務省告示第六十三號）

大正十一年二月六日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ署名セラレタル日本國、亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、和蘭國及葡萄牙國間ノ支那ニ關スル九國條約及支那ノ關稅ニ關スル條約ハ本年八月五日華盛頓ニ於テ締約國全部ノ批准書寄託ヲ了セリ

●同上條約ニ加入國名

（大正十四年十月二十二日外務省告示第八十一號）

諸威國政府ハ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル日本國、亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、和蘭國及葡萄牙國間ノ支那ニ關スル九國條約ニ加入スル旨千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル支那ノ關稅ニ關スル條約ニ加入スル旨本年九月二十三日附ヲ以ヲ在米同國公使ヨリ米國政府ニ通告シ又西班牙國外務大臣ハ本年九月二十一日附公文ヲ以テ同國政府ノ該條約ニ對スル加入ヲ同國駐劄米國大使ヲ經テ米國政府ニ通告シタル趣該條約第八條ノ規定ニ基キ今般在本邦米國臨時代理大使ヨリ通知アリタリ

（大正十五年一月十一日外務省告示第三號）

諸威國政府ハ千九百二十五年十一月十三日附勅令ニ依リ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル支那ニ關スル九國條約ニ加入ノ旨千九百二十五年十一月十六日附公文ヲ以テ在米諸威國公使ヨリ米國政府ニ通告シタル趣該條約第八條ノ規定ニ基キ今般在本邦米國大使ヨリ通知アリタリ

（大正十五年一月二十日外務省告示第五號）

瑞典國政府ハ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル支那ニ關スル九國條約ニ加入ノ旨千九百二十五年十二月五日附公文ヲ以テ在米瑞典國公使ヨリ米國政府ニ通告シタル趣該條約第八條ノ規定ニ基キ今般在本邦米國大使ヨリ通知アリタリ

（大正十五年三月十一日外務省告示第二十一號）

「ポリヴィア」國外務大臣ハ「ポリヴィア」國政府カ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル支那ニ關スル九國條約ニ加入スル旨千九百二十五年十一月二十一日附公文ヲ以テ「ポリヴィア」國駐劄米國公使ニ通告シタル趣及米國駐劄丁抹國公使ハ同條約ニ對スル丁抹國政府ノ加入ヲ千九百二十五年十二月二十九日附公文ヲ以テ米國政府ニ通告シタル趣該條約第八條ノ規定ニ基キ今般在本邦米國大使ヨリ通告アリタリ

（昭和二年三月十九日外務省告示第十三號）

「メキシコ」國政府ハ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル支那ニ關スル九國條約ニ加入スヘキ旨千九百二十七年一月十四日附公文ヲ以テ在米「メキシコ」國大使ヨリ米國政府ニ通告シ右公文ハ一月十五日米國國務省ニ於テ受領シタル趣該條約第八條ノ規定ニ基キ今般在本邦米國大使ヨリ通告アリタリ

（昭和三年二月九日外務省告示第二十號）

「メキシコ」國ガ大正十一年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル「支那ニ關スル九國條約」ニ加入セル旨ノ通告ニ接シタルコトニ付テハ昭和二年三月十九日附外務省告示第十三號ヲ以テ告示セル處右加入ハ昭和二年九月二十九日ヨリ其ノ效力ヲ發生スルコトト訂正セラレタリ（昭和三年一月三十一日在本邦米國大使通牒）

●華盛頓ニ於ケル軍備制限會議ニ於テ採用セラレタル諸決議

（大正十四年八月六日外務省告示第六十二號）

大正十年乃至同十一年亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ開催セラレタル軍備制限會議ハ左ノ諸決議ヲ採用セリ

千九百二十一年—二十二年華盛頓ニ於ケル軍備制限會議ニ於テ採用セラレタル諸決議

決議第一

戰時法規ノ改正ヲ審議スル法律家委員會ニ關スル決議

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國ハ左ノ如ク協定セリ

一　前記諸國ヲ代表スル各國二名以內ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ設置シ左ノ問題ヲ審議スヘシ

(イ)　國際法ノ現存規則ハ千九百七年ノ海牙會議以來新ナル戰爭手段ノ採用又ハ發達ニ依リ生シタル攻擊又ハ防禦ノ新方法ニ適用スルニ充分ナリヤ

(ロ)　若シ然ラストセハ其ノ結果現存規則ニ對シ如何ナル變更ヲ國際法ノ一部トシテ採用スヘキヤ

二　右委員會ノ委員任命ノ通告ハ本會議終了後三月以內ニ亞米利加合衆國政府ニ送付セラルヘク同政府ハ關係諸國ト協議ノ上委員會ノ會合ノ日及場所ヲ定ムヘシ

三　委員會ハ國際法並陸戰、海戰及空中戰ニ關スル專門家ノ助力及意見ヲ求ムルコト自由タルヘシ

四　委員會ハ其ノ結論ヲ同委員會ニ代表セラルル各國ニ報告スヘシ前記諸國ハ右報告ノ受諾ニ關シ及其ノ勸告ニ付他ノ文明諸國ノ考量ヲ得ル爲ニ執ルヘキ方法ニ關シ商議スヘシ

千九百二十二年二月四日軍備制限會議第六回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第二

決議第一ニ規定スル法律家委員會ノ權限ヲ制限スルコトニ關スル決議

新ナル戰爭手段ニ關スル國際法ノ規則ニ付審議報告ヲ爲スヘキ委員會カ既ニ本會議ニ於テ諸國ノ採用シタル潛水艦又ハ有害ナル瓦斯及化學製品使用ニ關スル規則又ハ聲明ニ付再議又ハ報告ヲ爲スコトヲ該委員會ヲ任命スルコトニ同意シタル諸國ノ意思ニ非サルコトヲ決議ス

千九百二十二年二月四日軍備制限會議第六回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第三

極東問題諮議院ニ關スル決議

華盛頓ニ於ケル本會議ニ參加シタル諸國即チ亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ノ各代表者ハ

極東ニ於ケル事態ノ安定ヲ期シ支那ノ權利利益ヲ擁護シ且機會均等ノ基礎ノ上ニ支那ト他ノ列國トノ間ノ交通ヲ增進セムトスル其ノ一般政策ニ關スル千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラルヘキ條約第三條及第五條ノ規定ノ實施ニ關聯シ生スルコトアルヘキ問題ヲ處理スルノ手續ヲ定メムコトヲ希望シ

前記諸條項ノ實施ニ關シ生スル問題ヲ調査報告ノ爲付議スルコトヲ得ヘキ諮議院ヲ支那ニ設置スヘキコトヲ決議ス

同院ノ構成ニ關スル細目案ハ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラルヘキ支那關稅率ニ關スル條約第二條ニ規定スル特別會議之ヲ起草シ關係諸國ノ承認ヲ求ムヘシ

千九百二十二年二月四日軍備制限會議第六回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第四

支那國ニ於ケル治外法權ニ關スル決議

軍備制限會議ニ於ケル太平洋及極東問題ノ審議ニ參加シタル諸國即チ亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ノ各代表者ハ

大不列顛國及支那國間ノ千九百二年九月五日ノ條約、亞米利加合衆國及支那國間ノ千九百三年十月八日ノ條約竝日本國及支那國間ノ千九百三年十月八日ノ條約ニ於テ此等ノ諸國ハ支那國政府カ其ノ司法制度ヲ改正シテ之ヲ西洋諸國ノ同制度ニ適合セシムルコトニ付表示シタル希望ヲ同國政府ニ於テ達成スルコトニ關シ一切ノ援助ヲ與フヘキコトヲ約定シ且「支那國法律ノ狀態其ノ施行ノ設備及其ノ他ノ要件ニシテ當該國カ滿足ヲ表スルトキハ其ノ治外法權ヲ撤去スルニ躊躇セサル」ヘキコトヲ聲明シタルノ事實ヲ了承シタルニ因リ

右ニ關シテ千九百二十一年十一月十六日支那國委員ノ表示シタル「支那國ノ政治上、司法上及行政上ノ行動ノ自由ニ對スル現存ノ制限ハ即時ニ又ハ事情ノ許ス限リ速ニ撤廢セラルヘキモノナリ」トノ趣旨ノ願望ヲ達成セシムルニ付同情ヲ有スルニ因リ

右目的ニ適應スヘキ措置ニ關シ如何ナル決定ヲ爲スニ付テモ支那國ノ法律、司法制度及司法運用手續ニ關スル複雜ナル實狀ノ確認及理解ヲ前提トスヘク右ハ本會議カ之ヲ決定スルノ地位ニ在ラサルコトヲ考慮シ

左ノ如ク決議セリ

前記諸國政府ハ委員會（前記諸國政府ハ之ニ對シ各一名ノ委員ヲ任命スヘキ組織シ支那國ニ於ケル治外法權制度ノ實施ノ現狀竝支那國ノ法律、司法制度及司法運用手續ヲ調査セシメ依テ右事項ニ關スル右委員會ノ事實調査竝支那國ニ於ケル司法運用ノ現狀ヲ改善スル爲及治外法權ニ關スル各國ノ權利ヲ漸次ニ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ撤去スルコトニ付各國ノ首肯セシムヘキ立法及司法上ノ改正ヲ實行セムトスル支那國政府ノ努力ヲ援助シ且促進スル爲其ノ適當ト思惟スル手段ニ關スル勸告ヲ前記諸國政府ニ報告セシムヘシ

前記委員會ハ今後前記諸國政府ノ協定スヘキ細目取極ニ從ヒ會議終了後三月內ニ組織セラルヘク且該委員會ハ第一回會議後一年內ニ其ノ報告及勸告ヲ提出スヘキコトヲ命セラルヘシ

前記各國ハ前記委員會ノ勸告ノ全部又ハ一部ヲ受諾シ又ハ拒絕スルノ自由ヲ有スヘシ但シ如何ナル場合ニ於テモ右各國ハ右勸告ノ全部又ハ一部ノ受諾ニ付支那國ヨリ政治上タルト經濟上タルトヲ問ハス何等カノ特殊ノ利權、恩典、利益又ハ免除（直接ニ又ハ間接ニ許與セシムルコトヲ條件ト爲スヲ得ス

追加決議

非署名國ニシテ條約ニ依リ支那國ニ於テ治外法權ヲ有スルモノハ本會議終了後三月內ニ書面ニ依ル加入ノ通告ヲ合衆國政府ニ寄託シテ支那國ニ於ケル治外法權及司法運用ニ關スル決議ニ加入スルコトヲ得右通告ハ合衆國政府ヨリ各署名國ニ通知セラルヘシ

追加決議

支那國ハ同國ニ於ケル治外法權及司法運用ノ調査及報告ニ當ル委員會ノ設置ニ關スル決議ヲ了承シタルニ因リ支那國ニ於ケル治外法權ノ廢止ヲ期セムトスル同國政府ノ願望ニ關スル前記諸國ノ同情アル意嚮ニ滿足ノ意ヲ表シ且前記委員會ノ委員トシテ出席スルノ權利ヲ有スル一名ノ代表者ヲ任命スルノ意アルコトヲ聲明ス尤モ支那國ハ該委員會ノ勸告ノ全部又ハ一部ヲ受諾シ又ハ拒絕スルノ自由ヲ有スルモノトス支那國ハ又該委員會ノ事業ニ協力シ且其ノ任務ヲ滿足ニ完了セシムル爲アラユル便宜ヲ之ニ供與セムトス

千九百二十一年十二月十日軍備制限會議第四回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第五

支那國ニ於ケル外國郵便局ニ關スル決議

甲　支那國ニ於ケル外國郵便局（租借地內ニ在ルモノ又ハ條約ニ依リ特ニ規定セラレタルモノヲ除ク）ノ廢止ヲ期スル爲支那國政府ノ表示シタル希望ノ正當ナルコトヲ認ムルニ因リ左ノ如ク決議ス

(一)　前記郵便局ヲ有スル四國ハ左記條件ノ下ニ之ヲ廢止スルコトニ同意ス

(イ)　有效ナル支那郵便業務ノ維持セラルルコト

(ロ)　支那國政府ハ外國人總辦ノ地位ニ關スル限リ現在ノ郵政ニ變更ヲ加フルノ意ナシトノ保障ヲ與フルコト

(二)　支那國及關係諸國ヲシテ必要ノ處置ヲ爲スコトヲ得シムル爲本取極ハ千九百二十三年一月一日迄ニ之ヲ實施スヘシ

乙　外國郵便物ノ撤廢完了ニ至ル迄ハ關係四國ハ右郵便局ヲ經由スル一切ノ郵便物（外部ヨリノ檢查ニ依リ明ニ書狀ノミヲ包有スルモノト認メラルヘキ普通信書ハ書留タルト否トヲ問ハス之ヲ除ク）中有稅品、禁制品又ハ其ノ他支那國關稅法規ニ抵觸スル品ヲ包有スルモノナキヤ否ヲ確ムル爲支那國稅關官憲カ當該郵便局內ニ於テ檢查ヲ爲スニ對シ充分ノ便宜ヲ與フヘキコトヲ各別ニ約ス

千九百二十二年二月一日軍備制限會議第五回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第六

支那國ニ於ケル軍隊ニ關スル決議

諸國ハ適法ニ支那國ニ在ル外國人ノ生命財產ヲ保護スル爲隨時支那國內ニ軍隊（警察官及鐵道守備隊ヲ含ム）ヲ駐屯セシメタルニ因リ

右軍隊ノ若干ハ條約又ハ協定ニ準據セスシテ支那國內ニ駐屯スルモノノ如クナルニ因リ

諸國ハ支那國カ同國ニ在ル外國人ノ生命財產ノ保護ヲ保障スルニ於テハ何時タリトモ條約又ハ協定ニ準據セスシテ現ニ支那國內ニ於テ任務ニ服スル自國軍隊ヲ撤退スルノ意思アルコトヲ聲明シタルニ因リ

支那國ハ同國ニ在ル外國人ノ生命財產ノ保護ヲ保障スルノ意思及能力アルコトヲ聲明シタルニ因リ

前記ノ意思ヲ各場合ニ付實現スルノ商提タルヘキ條件ニ關シ明瞭ナル了解ヲ遂クル爲左ノ如ク決議セリ

現ニ華盛頓會議ニ參加スル諸國卽チ亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ノ各代表者ハ

左ノ如ク決議セリ

一　支那國ニ於ケル一切ノ無線電信局ハ千九百一年九月七日ノ國際議定書ノ規定ニ依リ設立維持セラルルモノト事實上支那國ニ於ケル何

支那國ノ要求アルトキハ何時タリトモ支那國政府ノ代表者三名ト協調シテ諸國ノ及支那國ノ爲シタル前記ノ意思ノ聲明ニ依リ惹起セラルル諸問題ニ付充分且公平ナル調査ヲ共同ニ行フコトヲ其ノ各自ノ政府ニ依リ調令セラルヘク且右調査ニ付セラレタル事項ニ關シ其ノ事實調査及意見ヲ腹藏ナク記述スル充分且包括的ナル報告書ヲ作成シ其ノ謄本ヲ關係九國政府ニ夫々提出スヘク關係國政府ハ各適當ト思惟スル所見ヲ附シテ報告書ヲ各自公表スヘシ右各國ノ代表者ハ其ノ意見ニシテ多數意見報告書ト異ルモノアルトキハ其ノ相違ノ點ヲ記述スル少數意見報告書ヲ作成シ又ハ之ニ加入スルコトヲ得

前記各國ハ右報告書ニ表示セラレタル事實調査又ハ意見ノ全部又ハ一部ヲ受諾シ又ハ拒絕スルノ自由ヲ有スヘシ但シ如何ナル場合ニ於テモ前記各國ハ右事實調査又ハ意見ノ全部又ハ一部ノ受諾ニ付支那國ヨリ政治上タルト經濟上タルトヲ問ハス何等カノ特殊ノ利權、恩典、利益又ハ免除ヲ直接ニ又ハ間接ニ許與セシムルコトヲ條件ト爲スコトヲ得サルヘシ

千九百二十二年二月一日軍備制限會議第五回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第七

支那國ニ於ケル無線電信局ノ關スル決議及附屬聲明

軍備制限會議ニ於ケル太平洋及極東問題ノ審議ニ參加シタル諸國卽チ亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ノ各代表者ハ

左ノ如ク決議セリ

一　支那國ニ於ケル一切ノ無線電信局ハ千九百一年九月七日ノ國際議定書ノ規定ニ依リ設立維持セラルルモノト事實上支那國ニ於ケル何

レカノ外國公使館ノ構内ニ設立維持セラルルモノトヲ問ハス其ノ用途ヲ官用電報ノ發受ニ限定スヘク商用、私用又ハ非官用ノ電報（新聞電報ヲ含ム）ヲ發受スルコトヲ得サルヘシ但シ他ノ一切ノ電信ニ依ル通信ニ故障アル場合ニ於テハ支那國交通部ニ有故障ノ證據ヲ添ヘテ公文通告ヲ發シタル上前記無線電信局ハ支那國政府カ故障終了ノ通告ヲ爲ス迄商用、私用又ハ非官用ノ電報（新聞電報ヲ含ム）ニ對シ臨時便宜ヲ許與スルコトヲ得

二　條約又ハ支那國政府ノ特許條件ニ依リ外國政府又ハ其ノ人民若ハ臣民カ支那國ノ領土内ニ於テ運用スル一切ノ無線電信局ハ其ノ設立維持ヲ認ムル條約又ハ特許條件ノ規定スル電報ニ限リ之ヲ發受スルコトヲ得

三　支那國政府ノ謬許ナクシテ外國政府又ハ其ノ人民若ハ臣民ニ依リ支那國領土内ニ設立維持セラルル無線電信局アル場合ニ於テハ該無線電信局竝其ノ一切ノ設備、裝置及材料ハ支那國交通部カ一般公衆ノ利益ノ爲之ヲ有效ニ運用スルノ準備整フト共ニ其ノ施設ノ價格ニ付公正且充分ナル補償ノ前記所有者ニ與フルヲ條件トシ同交通部ノ指揮ノ下ニ運用セシムル爲之ヲ支那國政府ニ移轉スヘク同國政府ハ之ヲ引取ルヘシ

四　租借地、南滿洲鐵道附屬地又ハ上海佛國租界内ニ在ル無線電信局ニ付問題起ルトキハ該問題ハ支那國政府及關係國政府間ノ審議事項ト認メラルヘシ

五　外國政府又ハ其ノ人民若ハ臣民カ支那國領土内ニ設立維持スル一切ノ無線電信局ノ所有者又ハ經營者ハ支那國ニ於ケル無線電信局ノ

電波長使用ニ對スル妨害ヲ避クル爲共同取極ヲ爲ス目的ヲ以テ支那國交通部ト商議スヘシ但シ千九百十二年七月五日倫敦ニ於テ署名セラレタル國際無線電信條約ノ定ムル規則ノ改訂ノ爲ニ招集セラルル國際會議ニ於テ作成セラルルコトアルヘキ一般取極ニ從フヘキモノトス

千九百二十二年二月一日軍備制限會議第五回總會ニ於テ之ヲ採用ス

支那國ニ於ケル無線電信局ニ關スル千九百二十一年十二月七日ノ決議ニ關スル聲明

支那國以外ノ諸國ハ千九百二十一年十二月七日ノ決議第三項又ハ第四項ヲ以テ前記無線電信局カ支那國ノ認許ノ得ダルモノナリヤ否ニ關シ本會議ノ意見ヲ表示シタルモノト認ムヘキニ非サルコトヲ聲明ス

右諸國ハ第四項ニ關シ生スル審議ノ結果ハ諸國ノ異議ノ目的ト爲ラサラムカ爲ニハ本會議ノ承認シタル門戸開放又ハ機會均等ノ主義ニ適合スヘキモノナルコトヲ併セテ宣明ス

支那國ニ於ケル無線電信局ニ關スル十二月七日ノ決議ニ關スル支那國ノ聲明

支那國委員ハ支那國政府ハ何レカノ外國又ハ其ノ國民カ公使館構内、居留地、租界、租借地、鐵道附屬地又ハ他ノ同種ノ地域ニ於テ同政府ノ明示的同意ナクシテ無線電信局ヲ設置シ又ハ運用スルノ權利ヲ承認シ又ハ許與スルコトナキコトヲ此ノ機會ニ於テ正式ニ聲明ス

決議第八

支那國ニ於ケル鐵道統一ニ關スル決議及支那國ノ附屬聲明

本會議ニ參加シタル諸國ハ支那國ニ於ケル諸鐵道ノ將來ノ擴張ハ適法ナル既存ノ權利ト兩立スル最大限度ニ於テ支那國政府ヲシテ鐵道系統ノ利益上必要ト認メラルヘキ外國ノ財政上及技術上ノ助力ヲ以テ同國ノ管理ノ下ニ諸鐵道ヲ一鐵道系統ニ統一スルコトヲ得シムル樣處理セラルヘキモノナリトノ希望ヲ記錄ニ留ム

千九百二十二年二月一日軍備制限會議第五回總會ニ於テ之ヲ採用ス

支那鐵道ニ關シ千九百二十二年一月十九日支那國委員ノ爲シタル陳述

支那國委員ハ支那國ノ現存及將來ノ鐵道カ必要ナルヘキ外國ノ財政上及技術上ノ助力ヲ以テ支那國政府ノ管理及運用ノ下ニ統一セラルヘキコトニ關シ諸國ノ表示シタル希望ヲ同情アル理解ヲ以テ了承ス吾人ノ意思ハ成ルヘク速ニ此ノ結果ヲ齎スニ在リ吾人ノ目的ハ支那ノ經濟上、工業上及商業上ノ必要ニ應スヘキ一般計畫ニ從ヒ現存及將來ノ鐵道ヲ發展セシムルニ在リ吾人ノ政策ハ門戸開放又ハ機會均等ノ主義ニ從ヒ必要ナルヘキ外國ノ財政上及技術上ノ助力ヲ諸外國ヨリ得ルニ在リ而シテ支那國政府カ現ニ存在シ又ハ將來建設セラルヘキ支那ノ一切ノ鐵道ヲ同國ノ有效ニシテ且統一セル管理及運用ノ下ニ置カムコトヲ努ムルニ當リテハ前記諸國ノ友好的支持ヲ求メムト欲ス

決議第九

支那國軍隊ノ削減ニ關スル決議

本會議ニ參加シタル諸國ハ各省督軍カ協調ナク支配シ且數ニ於テ過大ナル軍隊ヲ支那國各地ニ於テ維持スルニ依リ支那國ノ公收入ヲ甚シク枯渇セシムルコトヲ深ク感シタルニ因リ

右軍隊ヲ繼續維持スルコトハ支那國ノ不安定ナル現政情ノ主タル原因ト認メラルルニ因リ

右軍隊ニ速ニ大削減ヲ加フルコトハ啻ニ支那國ノ政治的統一及經濟的發達ヲ促進スルノミナラス又其ノ財政復舊ヲ速ナラシムル所以ナリト思量セラルルニ因リ

仍テ支那國ノ内政問題ニ干渉セムトスル何等ノ意思ニ出テタルニ非スシテ偏ニ支那國ヲシテ其ノ利益ノ爲及通商上ノ一般利益ノ爲有效且安固ナル政府ヲ自ラ確立維持セシメムトスルノ衷心ノ希望ニ促サレ又企業及國民的繁榮ニ對シ主タル障礙タルコト明ナル莫大ノ支出ヲ軍備制限ニ依リ削減スルコトヲ目的トスル本會議ノ精神ニ動カサレ本會議ハ支那國政府カ前記ノ軍隊及支出ヲ削減スルニ付直ニ有效ナル措置ヲ執ルコトヲ熱望スル旨支那國ニ對シ表明スルコトヲ決議ス

千九百二十二年二月一日軍備制限會議第五回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第十

支那國ノ又ハ支那國ニ關スル現存容諾ニ關スル決議

本會議ニ參加シタル諸國ハ支那國ノ及支那國ニ關スル諸國ノ政治上及其ノ他ノ國際上ノ義務ニ影響アル一切ノ事項ニ付テハ今後全然公開スルノ望マシキコトヲ思ヒ左ノ如ク協定セリ

一　支那國以外ノ諸國ハ支那國トノ間ニ又ハ支那國ニ關シ他ノ一國若ハ數國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約、協約、交換公文又ハ他ノ國際協定ニシテ現ニ仍有效ナリト認メ且之ニ依據セムト欲スルモノノ一覽表ヲ參加諸國ニ移牒スルノ目的ヲ以テ事情ノ許ス限リ速ニ本會議總事務局ニ提出スヘシ右各場合ニ於テハ當該文書ノ正文ノ揭載セラルル官ノ又ハ他ノ刊行物アルトキハ之ヲ指示スヘシ當該文書カ公表

セラレサリシ場合ニ於テハ其ノ本文ノ（其ノ原文タル國語ニ依ル）謄本ヲ本會議總事務局ニ提出スヘシ

今後締結セラルルコトアルヘキ前記性質ノ條約又ハ他ノ國際協定ハ其ノ締結後六十（六〇）日内ニ關係國政府ヨリ總テ之ヲ本協定ノ署名國又ハ加入國ニ通告スヘシ

二　支那國以外ノ諸國ハ自國民ヲ一方ノ當事者トシ支那國政府、其ノ行政各部局又ハ地方官憲ヲ他方ノ當事者トスル一切ノ契約ニシテ鐵道建設、鑛山業、林業、航運、河川改修、築港工事、埋立、電氣通信又ハ他ノ公共事業若ハ公共的役務ニ關シ又ハ武器彈藥ノ賣買ニ關シ何等カノ利權、特許、選擇權又ハ優先權ヲ含ムモノ或ハ支那國政府又ハ其ノ行政各部局ノ公收入又ハ公財產ノ或モノニ對シ擔保關係ヲ生スルモノニ付成ルヘク完全ニ近キ一覽表ヲ參加諸國ニ移牒スルノ目的ヲ以テ事情ノ許ス限リ速ニ本會議總事務局ニ提出スヘシ前記一覽表所揭ノ各文書ニ付テハ其ノ公表セラレタル本文ヲ指示シ又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ

今後締結セラルルコトアルヘキ前記公ノ性質ヲ有スル契約ハ關係國政府カ其ノ締結ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ六十（六〇）日内ニ同政府ヨリ總テ之ヲ本協定ノ署名國又ハ加入國ニ通告スヘシ

三　支那國政府ハ同政府又ハ支那國地方官憲カ外國（本協定ノ當事國タルト否トヲ問ハス）又ハ其ノ國民ト既ニ締結シ又ハ今後締結スルコトアルヘキ前記性質ノ條約、協定又ハ契約ヲ其ノ承知スル限リ本協定ニ定メタル條件ニ依リ總テ通告スルコトヲ約ス

四　支那國ト條約關係ヲ有スル諸國ノ政府ニシテ本會議ニ參加セサルモノハ本協定ニ加入スルコトヲ招請セラルヘシ

本會議ノ主催者タル合衆國政府ハ前記諸國ヲシテ成ルヘク速ニ本協定ニ加入セシムル爲本協定ヲ右諸國政府ニ通告スルコトヲ約ス

千九百二十二年二月一日軍備制限會議第五回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第十一

一切ノ諸國（支那國ヲ含ム）ニ依リ承認セラレタル東支鐵道ニ關スル決議

左ノ如ク決議ス

東支鐵道ヲ其ノ利害關係者ノ爲ニ保全スルニ付テハ鐵道ニ對シ竝其ノ運用及使用ニ從事スル者ニ對シ一層ノ保護ヲ與フルコト、業務ノ能率ヲ擧クル爲職員ノ選任ニ一層留意スルコト且財產ノ消耗ヲ防ク爲資金ノ使用ヲ一層經濟的ナラシムルコトヲ必要トス

本問題ハ適當ナル外交機關ヲ通シ速ニ處理セラルヘシ

千九百二十二年二月四日軍備制限會議第六回總會ニ於テ之ヲ採用ス

決議第十二

支那國以外ノ一切ノ諸國ニ依リ承認セラレタル東支鐵道ニ關スル決議

支那國以外ノ諸國ハ東支鐵道ニ關スル決議ヲ協定スルニ當リ前記諸國カ該鐵道建設ノ基礎タル契約及之ニ基ク支那國ノ行爲ヨリ生スルモノト認ムル東支鐵道會社ノ株主、社債權者及債權者タル外國人ニ對スル義務竝該鐵道ノ占有及管理ニ對スル支那國政府ノ權力行使ヨリ生スル義務（前記諸國ハ此ノ義務ヲ以テ信託ノ性質ヲ有スルモノト認ム）ノ履行又ハ不履行ニ關スル支那國ノ責任ニ付今後主張スルノ權利ヲ留保ス

●同上決議ニ加入シタル國名

（大正十四年十一月十九日外務省告示第九十號）

千九百二十一年十二月十日華府會議ニ於テ採用セラレタル支那國ニ於ケル治外法權ニ關スル決議ニ加入シタル國及其ノ加入通告年月日左ノ通

西班牙國　千九百二十二年十一月七日

丁抹國　千九百二十三年五月十一日

瑞典國　千九百二十三年六月八日

「ペルー」國　千九百二十三年八月二十二日

（大正十五年一月二十三日外務省告示第六號）

諸威國ハ千九百二十五年十月二十三日附勅令ヲ以テ千九百二十一年十二月十日華府軍備制限會議ニ於テ採用セラレタル支那國ニ於ケル治外法權ニ關スル決議及二追加決議ニ加入シタル旨千九百二十五年十一月二十日附公文ヲ以テ在米諸威國公使ヨリ米國政府ニ通告シタル趣今般在本邦米國大使ヨリ通知アリタリ

●「グレート、ブリテン」國、佛蘭西國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國政府間ノ協定文及帝國政府ノ右協定ニ加入シタル件

（大五十四年九月十四日外務省告示第七十五號）

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ「スパ」協定加入ニ關スル千九百二十一年六月二十日ノ「グレート、ブリテン」國、佛蘭西國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國間ノ協定五ニ依ル英佛兩國政府ノ招請ニ對シ帝國政府ハ大正十年十二月二十六日右三國間ノ協定ニ加入スルニ異議ナキ旨回答シタルカ同協定ハ其ノ他ノ關係各國ノ承認ヲ得タル後本年二月二十五日賠償委員會常設庶務委員會ニ於テ正式ニ承認セラレタル其ノ協定文左ノ如シ

千九百二十一年六月二十日ノ協定

「グレート、ブリテン」國、佛蘭西國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ政府間ニ左ノ如ク協定セリ

一

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ獨逸國ニ依リ賠償トシテ支拂ハルヘキ金額ノ五分ヲ受タヘシ同國ハ嶼地利國、「ハンガリー」國及「ブルガリア」國ニ依リ賠償トシテ支拂ハルヘキ金額及千九百十九年九月十日及十二月八日ノ協定ニ基キ伊太利國、「ルーマニア」國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國及「チエツコ、スロヴアキア」國ニ依リ支拂ハルヘキ金額ノ半額ニ付テハ其ノ五分、他ノ半額ニ付テハ其ノ一割五分ヲ受タヘシ

二

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ千九百二十年七月十六日ノ「スパ」協定第四條(三)ノ(ロ)ノ(4)及第九條ニ依リテ伊太利國ニ與ヘラレタル利益ヲ享受スルコトヲ認メラルヘシ

三

佛蘭西國ハ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國カ佛蘭西國ニ對シテ有スル戰時債務ノ內金トシテ毎年當該年度ニ於テ「グレートブリテン」國、佛蘭西國及「セルブ、クロアートスロヴェーヌ」國、カ前記一ニ揭クル項目ノ下ニ受領シタル額ノ合計ノ八、十六分ノ六ヲ一方トシ同一年度ニ於テ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國カ同一項目ノ下ニ受領シタル額ヲ他ノ一方トスル兩者ノ差額ノ七割ニ相當スル金額ヲ「セルブ、クロアー

ト、スロヴェーヌ」國ノ貸方ニ計上スヘシ

「グレート、ブリテン」國ハ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國カ「グレート、ブリテン」國ニ對シテ有スル戰時債務ノ內金トシテ每年前記差額ノ三割ニ相當スル金額ヲ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ貸方ニ計上スヘシ

前記八十六分ノ六ノ率ハ千九百二十年一月十三日本協定ノ署名國政府間ニ締結セラレタル協定ニ依リ決定セラレタルモノナリ

同盟國間ノ債務ニ變更ノ加ヘラルル場合ニハ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ其ノ「グレート、ブリテン」國及佛蘭西國ニ對スル債務ニ關シ玆ニ規定セラルル減額ノ爲何等ノ影響ヲ受ケサルヘシ卽チ其ノ戰時債務ニ關シテ同國カ享受シ得ヘキ一切ノ特典ハ本協定ノ適用ニ因リテ生スヘキ減額セラレタル金額ヲ基礎トシテ計算セラレスシテ本協定カ締結セラレサリシモノト假定シタル場合ノ債務ノ金額ヲ基礎トシテ計算セラルヘキモノトス

四

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ハ前記ノ條件ノ下ニ千九百二十年七月十六日ノ「スパ」協定ノ規定ニ加入ス

五

本協定ハ他ノ同盟諸國カ其ノ關係アル規定ニ加入スルコトノ唯一ノ留保ノ下ニ署名國政府ヲ拘束ス

「グレート、ブリテン」國及佛蘭西國ハ右加入ヲ得ルニ務ムヘキモノトス

右加入ヲ得ルコト能ハサル場合ニハ署名國政府ハ千九百二十年一月十三日ノ協定ニ依リ引續キ拘束セラルヘシ

「グレート、ブリテン」國及佛蘭西國ハ又千九百二十年七月十六日ノ「スパ」協定第四條(三)ノ(b)ノ(4)及第九條ニ依リテ伊太利國ニ與ヘラレタル利益ノ擴張ヲ之ト同一ナル擴張カ同時ニ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ニモ與ヘラルヘシトノ條件ニ非サレハ承認セサルコトヲ約ス

千九百二十一年六月二十日巴里ニ於テ作成ス

「グレート、ブリテン」國　ジョン、ブラッドブリ

佛蘭西國　デュボア

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國　ナンコヴィッチ

クーマヌディ

ボシュコヴィツチ

（右佛文略ス）

●戰爭拋棄ニ關スル條約

（昭和四年七月二十五日）
條約第一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名調印シ且第一條中ノ字句ニ關シ昭和四年六月二十七日附ヲ以テ帝國政府カ宣言スル所アリタル戰爭拋棄ニ關スル條約ヲ右帝國政府ノ宣言ヲ存シテ批准シ玆ニ右帝國政府ノ宣言ト共ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和四年七月二十五日

內閣總理大臣兼外務大臣　男爵　田中義一

樞密院議長　子爵　清浦奎吾

其ノ人民間ニ現存スル平和及友好ノ關係ヲ永久ナラシメンガ爲國家ノ政策ノ手段トシテノ戰爭ヲ卒直ニ拋棄スヘキ時機ノ到來セルコトヲ確信シ

其ノ相互關係ニ於ケル一切ノ變更ハ平和的手段ニ依リテノミ之ヲ求ムヘク又平和的ニシテ秩序アル手續ノ結果タルヘキコト及今後戰爭ニ訴ヘテ國家ノ利益ヲ增進セントスル署名國ハ本條約ノ供與スル利益ヲ拒否セラルヘキモノナルコトヲ確信シ

其ノ範例ニ促サレ世界ノ他ノ一切ノ國ガ此ノ人道的努力ニ參加シ且本條約ノ實施後速ニ之ニ加入スルコトニ依リテ其ノ人民ヲシテ本條約ノ規定スル恩澤ニ浴セシメ、以テ國家ノ政策ノ手段トシテノ戰爭ノ共同拋棄ニ世界ノ文明諸國ヲ結合センコトヲ希望シ

玆ニ條約ヲ締結スルコトニ決シ之ガ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

獨逸國大統領

外務大臣「ドクトル、グスタフ、ストレーゼマン」

亞米利加合衆國大統領

國務長官「フランク、ビー、ケロッグ」

白耳義國皇帝陛下

外務大臣國務大臣「ポール、イーマンス」

佛蘭西共和國大統領

外務大臣「アリスティード、ブリアン」

「グレート、ブリテン」「アイルランド」及「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」竝ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザル英帝國ノ一切ノ部分

「ランカスター」公領尙書外務大臣代理「ロード、クッシェンダン」

加奈陀

總理大臣兼外務大臣「ウイリアム、ライオン、マツケンジー、キング」

「オーストラリア」聯邦

聯邦內閣員「アレグザンダー、ジョン、マックラッタラン」

「ニュー、ジーランド」

「グレート、ブリテン」駐在「ニュー、ジーランド」高級委員「サー、クリストファー、ジェームス、パール」

南阿佛利加聯邦

「グレート、ブリテン」駐在南阿佛利加聯邦高級委員「ヤコブス、ステファヌス、スミット」

「アイルランド」自由國

內閣議長「ウイリアム、トーマス、コスグレーヴ」

印度

「ランカスター」公領尙書外務大臣代理「ロード、タッシェンダン」

伊太利國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄伊太利國特命全權大使伯爵「ガエタノ、マンゾニ」

日本國皇帝陛下

樞密顧問官伯爵內田康哉

波蘭共和國大統領

外務大臣「アー、ザレスキー」

「チエッコスロヴァキア」共和國大統領

外務大臣「ドクトル、エドワアルド、ベネシュ」

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ國際紛爭解決ノ爲戰爭ニ訴フルコトヲ非トシ且其ノ相互關係ニ於テ國家ノ政策ノ手段トシテノ戰爭ヲ抛棄スルコトヲ其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ嚴肅ニ宣言ス

第二條

締約國ハ相互間ニ起ルコトアルベキ一切ノ紛爭又ハ紛議ハ其ノ性質又ハ起因ノ如何ヲ問ハズ平和的手段ニ依ルノ外之ガ處理又ハ解決ヲ求メザルコトヲ約ス

第三條

本條約ハ前文ニ掲ゲラルル締約國ニ依リ其ノ各自ノ憲法上ノ要件ニ從ヒ批准セラルベク且各國ノ批准書ガ總テ「ワシントン」ニ於テ寄託セラレタル後直ニ締約國間ニ實施セラルベシ

本條約ハ前項ニ定ムル所ニ依リ實施セラタレルトキハ世界ノ他ノ一切ノ國ノ加入ノ爲必要ナル間開キ置カルベシ一國ノ加入ヲ證スル各文書ハ「ワシントン」ニ於テ寄託セラルベク本條約ハ右寄託ノ時ヨリ直ニ該加入國ト本條約ノ他ノ當事國トノ間ニ實施セラルベシ

亞米利加合衆國政府ハ前文ニ掲ゲラルル各國政府及爾後本條約ニ加入スル各國政府ニ對シ本條約及一切ノ批准書又ハ加入書ヲ認證謄本ヲ交付スルノ義務ヲ有ス亞米利加合衆國政府ハ各批准書又ハ加入書ガ同國政府ニ寄託アリタルトキハ直ニ右諸國政府ニ電報ヲ以テ通告スルノ義務ヲ有ス

右證據トシテ各全權委員ハ佛蘭西語及英吉利語ヲ以テ作成セラレ兩本文共ニ同等ノ效力ヲ有スル本條約ニ署名調印セリ

千九百二十八年八月二十七日巴里ニ於テ作成ス

グスタフ、ストレーゼマン	(印)
フランタ、ビー、ケロッグ	(印)
ポール、イーマンス	(印)
アリスティード、ブリアン	(印)
クッシェンダン	(印)
ダブリュー、エル、マツケンジー、キング	(印)
エー、ジェー、マックラッタラン	(印)
シー、ジェー、パール	(印)
ジェー、エス、スミット	(印)
リアム、ティー、マッコシュガル	(印)
タッシェンダン	(印)
ジー、マンジニ	(印)
內田康哉	(印)
アウグスト、ザレスキ	(印)
ドタトル、エドウアルド、ベネシュ	(印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

玆ニ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名調印シ且第一條中ノ字句ニ關シ昭和四年六月二十七日附ヲ以テ帝國政府ガ宣言スル所アリタル戰爭抛棄ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ右帝國政府ノ宣言ヲ存シテ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十九年昭和四年六月二十七日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣　男爵　田中義一

宣言

帝國政府ハ千九百二十八年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル戰爭抛棄ニ關スル條約第一條中ノ「其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ」ナル字句ハ帝國憲法ノ條章ヨリ觀テ日本國ニ限リ適用ナキモノト了解スルコトヲ宣言ス

（右條約佛英文及宣言英文略ス）

●戰爭抛棄ニ關スル條約ニ對スル帝國政府ノ批准書ハ寄託ヲ了シタル件

（昭和四年七月二十五日　外務省告示第六十四號）

昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭抛棄ニ關スル條約」ニ對スル帝國ノ批准書ハ昭和四年七月二十四日「ワシントン」ニ於テ其ノ寄託ヲ了シタリ

●同上條約ニ加盟國名

（昭和四年七月三十一日　外務省告示第六十六號）

昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル戰爭抛棄ニ關スル條約ハ本月二十四日帝國ノ批准寄託ト同時ニ實施セラルルニ至レルガ右實施ノ日ニ於ケル同條約ノ加盟國左ノ如シ

一　原署名國

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

獨逸國
亞米利加合衆國
白耳義國
佛蘭西國
英帝國
「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」竝ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザル英帝國ノ一切ノ部分
加奈陀
「オーストラリア」聯邦
「ニュー、ジーランド」
南阿弗利加聯邦
「アイルランド」自由國
印度
伊太利國
日本國
波蘭國
「チェッコスロヴァキア」國

二　加入國

「アフガニスタン」國
「アルバニア」國
墺地利國
「ブルガリア」國
支那國
「キューバ」國
丁抹國

「ドミニカ」共和國
「エジプト」國
「エストニア」國
「エティオピア」國
「フィンランド」國
「グアテマラ」國
「ハンガリー」國
「アイスランド」國
「ラトヴィア」國
「リベリア」國
「リスアニア」國
和蘭國
「ニカラグア」國
諾威國
「パナマ」國
「ペルー」國
「ポルトガル」國
「ルーマニア」國
「ソヴィエット」社會主義共和國聯邦
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」王國
暹羅國
西班牙國
瑞典國
土耳其國

（昭和四年九月五日
外務省告示第八十一號）

「ルクセンブルグ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年八月二十四日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年八月二十六日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年九月二十五日
外務省告示第八十六號）

「ダンチッヒ」自由市ハ昭和四年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年九月十一日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年九月十四日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年十月十日
外務省告示第九十號）

「コスタ、リカ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年十月一日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年十月五日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年十一月一日
外務省告示第九十三號）

「ヴェネズエラ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年十月二十四日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年十月二十八日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年十二月七日
外務省告示第百一號）

「メキシコ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年十一月二十六日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年十一月二十九日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年十二月十一日
外務省告示第百三號）

瑞西國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年十二月二日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年十二月四日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年十二月十八日
外務省告示第百六號）

「パラグァイ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年十二月四日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年十二月九日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和五年三月二十七日
外務省告示第十八號）

「ハイティ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和五年二月十日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和五年三月十七日附在本邦亞米利加合衆國大使通牒）

（昭和四年八月二日
外務省告示第六十七號）

「ペルシャ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年七年二十五日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年七月二十九日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年八月二十日
外務省告示第七十七號）

希臘國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年八月三日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年八月六日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年八月二十日
外務省告示第七十八號）

「ホンデュラス」國ハ昭和三年八日二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年八月五日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年八月九日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和四年八月二十日
外務省告示第七十九號）

「チリ」國ハ昭和三年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル「戰爭地棄ニ關スル條約」ニ加入シ昭和四年八月十二日亞米利加合衆國政府ニ加入書ノ寄託ヲ了セリ（昭和四年八月十四日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和六年六月二十四日
外務省告示第五十一號）

昭和三年八月二十七日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ對スル「コロンビア」國ノ加入書ハ昭和六年五月二十八日亞米利加合衆國政府ニ寄託セラレタリ（昭和六年六月十九日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和七年五月十三日
外務省告示第三十八號）

昭和三年八月二十七日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ對スル左記二國ノ加入書ハ昭和七年二月二十四日亞米利加合衆國政府ニ寄託セラレタリ

「エクアドル」國

「ヘヂアーズ」及「ネヂエト」王國

（昭和七年五月二十一日
外務省告示第四十六號）

昭和三年八月二十七日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ對スル「イラーク」國ノ加入書ハ昭和七年三月二十三日亞米利加合衆國政府ニ寄託セラレタリ（昭和七年五月十七日附在本邦亞米利加合衆國臨時代理大使通牒）

（昭和九年七月三十日
外務省告示第七十號）

昭和三年八月二十七日「パリ」ニ於テ署名セラレタル「戰爭拋棄ニ關スル條約」ニ對スル「ブラジル」國ノ加入書ハ昭和九年五月十日「アメリカ」合衆國政府ニ寄託セラレタリ（昭和九年七月十三日附本邦駐劄「アメリカ」合衆國特命全權大使通牒）

●國際聯盟脫退ニ關スル詔書

（昭和八年三月二十七日
詔書）

朕惟フニ曩ニ世界ノ平和克復シテ國際聯盟ノ成立スルヤ皇考之ヲ懌ヒテ帝國ノ參加ヲ命シタマヒ朕亦遺緒ヲ繼承シテ荷モ懈ラス前後十有三年其ノ協力ニ終始セリ

今次滿洲國ノ新興ニ當リ帝國ハ其ノ獨立ヲ尊重シ健全ナル發達ヲ促スヲ以テ東亞ノ禍根ヲ除キ世界ノ平和ヲ保ツノ基ナリト爲ス然ルニ不幸ニシテ聯盟ノ所見之ト背馳スルモノアリ朕乃チ政府ヲシテ愼重審議遂ニ聯盟ヲ離脫スルノ措置ヲ採ラシムルニ至レリ

然リト雖國際平和ノ確立ハ朕常ニ之ヲ冀求シテ止マス是ヲ以テ平和各般ノ企圖ハ向後亦協力シテ渝ルナシ今ヤ聯盟ト手ヲ分チ帝國ノ所信ニ是レ從フト雖固ヨリ東亞ニ偏シテ友邦ノ誼ヲ疎カニスルモノニアラス愈信ヲ國際ニ篤クシ大義ヲ宇內ニ顯揚スルハ夙夜朕カ念トスル所ナリ

方今列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ帝國亦非常ノ時艱ニ遭遇ス是レ正ニ擧國振張ノ秋ナリ爾臣民克ク朕カ意ヲ體シ文武互ニ其ノ職分ニ恪循シ衆庶各其ノ業務ニ淬勵シ嚮フ所正ヲ履ミ行フ所中ヲ執リ協戮適往以テ此ノ世局ニ處シ進ミテ皇祖考ノ聖猷ヲ翼成シ普ク人類ノ福祉ニ貢獻セムコトヲ期セヨ

御名御璽

●國際聯盟脫退ニ關スル詔書ノ聖旨奉體方

（昭和八年三月二十七日
內閣告諭第一號）

玆ニ帝國政府カ國際聯盟離脫ノ通告ヲ爲スニ方リ畏クモ　大詔ヲ渙發セラレ帝國ノ嚮フ所ヲ明カニシ今後國民ノ進ムヘキ道ヲ示サセ給ヘリ　聖慮宏遠洵ニ恐懼感激ニ任フルナシ

顧フニ國際聯盟ノ使命ハ世界ノ平和安寧ヲ企圖スルニ在リ是ヲ以テ帝國ハ其ノ旨趣ニ贊同シ創設以來十有三年終始誠意ヲ以テ其ノ事業ニ協力シ來レリ然ルニ日支案件ノ一タヒ聯盟ニ附託セラレテヨリ十七箇月ニ亙リシ本件審議ノ經過ニ徵シ又其ノ結末トシテ本年二月二十四日臨時總會ノ採擇セル報告書ニ據ルニ聯盟カ帝國ノ正義公道ニ基キ現實ノ事態ニ卽シテ東洋ノ平和ヲ確保スルノ外他意ナキ態度ヲ正視セサルコト判明シ且帝國ト多數聯盟國トノ間ニ於ケル國際聯盟規約等ノ解釋ニ就キ重大ナル意見ノ相違アルコト亦明白トナリ玆ニ帝國ト聯盟トハ平和維持ノ方策殊ニ東洋ノ平和確立ノ根本方針ニ關シテ全ク其ノ所信ヲ異ニスルコト瞭然タルモノアルニ至レリ是ニ於テ政府ハ東洋平和ノ確立ニ關スル帝國ノ使命ト滿洲國ノ獨立ヲ尊重シテ其ノ健全ナル發達ヲ促進スヘキ帝國ノ責任トニ稽ヘ更ニ我カ國運ノ將來ニ就テ愼重熟慮ヲ重ネタル後遂ニ斷乎トシテ聯盟ヲ離脫スルノ已ムナキヲ確信スルニ至レリ

然リト雖モ國際平和ノ增進ト世界文化ノ發達トニ貢獻スルハ帝國ノ傳統ニシテ且不動ノ國策ナリ向後モ倘依然トシテ人類ノ安寧福祉ヲ目的トスル國際事業ニ參與協力スルノ方針ヲ一貫シテ何等渝ハル所ナシ又敢テ東洋ニ跼蹐シテ偏安ヲ事トスルモノニアラス益友邦ノ誼ヲ敦クシ正義公道ヲ世界ニ宣布セムコトヲ期スルヤ固ヨリ言ヲ俟タス列國モ亦必スヤ帝國ノ採レル既定ノ根本方針カ世界ノ平和ヲ增進スヘキ唯一ノ方途ダルコトヲ自覺スルニ至ルヘキヲ確信シテ疑ハサルナリ

但現下世界ノ各國ハ何レモ不安ノ深刻ナルモノアリ帝國亦其ノ圈外ニ超然タル能ハス加之東亞ノ複雜ナル政局ニ直面シテ滿洲國ノ建設事業完成ニ協力シ更ニ進ミテ日滿支三國和協ノ基ヲ開キ極東ノ康寧ヲ確立スルノ重責ヲ荷フ其ノ任太タ重ク正ニ是レ朝野奮起スヘキノ秋ナリ

古來我カ國民ハ艱難ニ遭遇スルヤ必ス之ヲ克服シ轉禍爲福ノ成果ヲ收メサルナシ是レ國史ノ示ス所ニシテ國運ノ興隆窮リナキ所以實ニ此ニ存ス今此ノ難局ニ逢著シ我カ官民深ク詔書ノ　聖旨ヲ肝銘シテ擧國一心皆其ノ本務ニ勵精シ大ニ綱紀ヲ振リ嚴ニ荒忘ヲ戒メ固陋ノ偏見ニ囚ハレス矯激ノ思想ニ惑ハス實實剛健自力更生ノ意氣ヲ以テ帝國使命ノ遂行ニ勇往邁進セハ　明治天皇ノ偉業ハ昭和ノ聖代ニ於テ更ニ一段ノ恢弘ヲ加フル所アルヘク由テ以テ人類ノ幸福ニ寄與シ　聖旨ニ副ヒ奉ル所アルハ本大臣ノ深ク全國民ニ期待スル所ナリ

●國際聯盟脫退通告ノ件

（昭和八年三月二十七日
外務省告示第二十一號）

帝國ハ國際聯盟規約第一條第三項ニ基キ國際聯盟ヲ脫退スル旨ノ左記通告ヲ昭和八年三月二十七日外務大臣ヨリ國際聯盟事務總長ニ對シ電報セリ

The Japanese Government believe that the national policy of Japan, which has for its aim to insure the peace of the

Orient and thereby to contribute to the cause of peace throughout the world, is identical in spirit with the mission of the League of Nations, which is to achieve international peace and security. It has always been with pleasure, therefore, that this country has for thirteen years past, as an original Member of the League, and a permanent Member of its Council, extended a full measure of co-operation with her fellow Members towards the attainment of its high purpose. It is indeed a matter of historical fact that Japan has continuously participated in the various activities of the League with a zeal not inferior to that exhibited by any other nation. At the same time, it is and has always been the conviction of the Japanese Government that in order to render possible the maintenance of peace in various regions of the world, it is necessary in existing circumstances to allow the operation of the Covenant of the League to vary in accordance with the actual conditions prevailing in each of those regions. Only by acting on this just and equitable principle can the League fulfil its mission and increase its influence.

Acting on this conviction, the Japanese Government, ever since the Sino-Japanese dispute was, in September, 1931, submitted to the League, have, at meetings of the League and on other occasions, continually set forward a consistent view. This was, that if the League was to settle the issue fairly and equitably, and to make a real contribution to the promotion of peace in the Orient, and thus enhance its prestige, it should acquire a complete grasp of the actual conditions in this quarter of the globe and apply the Covenant of the League in accordance with these conditions. They have repeatedly emphasized and insisted upon the absolute necessity of taking into consideration the fact that China is not an organized State,—that its internal conditions and external relations are characterized by extreme confusion and complexity, and by many abnormal and exceptional features,—and that, accordingly, the general principles and usages of International Law which govern the ordinary relations between nations are found to be considerably modified in their operation so far as China is concerned, resulting in the quite abnormal and unique international practices which actually prevail in that country.

However, the majority of the Members of the League evinced in the course of its deliberations during the past seventeen months a failure either to grasp these realities or else to face them and take them into proper account. Moreover, it has frequently been made manifest in these deliberations that there exist serious differences of opinion between Japan and these Powers concerning the application and even the interpretation of various international engagements and obligations including the Covenant of the League and the principles of International Law. As a result, the Report adopted by the Assembly at the special session of 24 February last, entirely misapprehending the spirit of Japan, pervaded as it is by no other desire than the maintenance of peace in the Orient, contains gross errors both in the ascertainment of facts and in the conclusions deduced. In asserting that the action of the Japanese Army at the time of the Incident of 18 September and subsequently did not fall within the just limits of self-defence, the Report assigned no reasons and came to an arbitrary conclusion, and in ignoring alike the state of tension which preceded, and the various aggravations which succeeded, the Incident—for all of which the full responsibility is incumbent upon China—the Report creates a source of fresh conflict in the political arena of the Orient. By refusing to acknowledge the actual circumstances that led to the foundation of Manchoukuo, and by attempting to challenge the position taken up by Japan in recognizing the new State, it cuts away the ground for the stabilization of the Far Eastern situation. Nor can the terms laid down in its recommendations—as was fully explained in the Statement issued by this Government on 25 February last—ever be of any possible service in securing enduring peace in these regions.

The conclusion must be that in seeking a solution of the question the majority of the League have attached greater importance to upholding inapplicable formulæ than to the real task of assuring peace, and higher value to the vindication of academic theses than to the eradication of the sources of future conflict. For these reasons, and because of the profound differences of opinion existing between Japan and the majority of the League in their interpretation of the Covenant and of other treaties, the Japanese Government have been led to realize the existence of an irreconcilable divergence of views, dividing Japan and the League on policies of peace, and especially as regards the fundamental principles to be followed in the establishment of a durable peace in the Far East. The Japanese Government, believing that in these circumstances there remains no room for further co-operation, hereby give notice, in accordance with the provisions of Article 1, Paragraph 3, of the Covenant, of the intention of Japan to withdraw from the League of Nations.

右譯文左ノ如シ

帝國政府ハ東洋ノ平和ヲ確保シ延イテ世界ノ平和ニ貢獻セントスル帝國ノ國是ガ各國間ノ平和安寧ヲ企圖スル國際聯盟ノ使命ト其ノ精神ヲ同ジウスルコトヲ認メ過去十有三年ニ亙リ原聯盟國トシテ又常任理事國トシテ此ノ崇高ナル目的ノ達成ニ協力シ來リタルヲ欣快トスルモノナリ而シテ其ノ間帝國ガ常ニ他ノ如何ナル國ニモ劣ラザル熱誠ヲ以テ聯盟ノ事業ニ參畫セルハ厳トシテ動カスベカラザル事跡ナルト同時ニ帝國政府ハ現下國際社會ノ情勢ニ鑑ミ世界諸地方ニ於ケル平和ノ維持ヲ計ランガ爲ニハ此等各地方ノ現實ノ事態ニ即シテ聯盟規約ノ運用ヲ行フヲ要シ且斯ノ如キ公正ナル方針ニ則リ初テ聯盟ガ其ノ使命ヲ全ウシ其ノ權威ノ增進ヲ期シ得ベキヲ確信セリ

昭和六年九月日支事件ノ聯盟付託ヲ見ルヤ帝國政府ハ終始右確信ニ基キ聯盟ノ諸會議其ノ他ノ機會ニ於テ聯盟ガ本事件ヲ處理スルニ公正妥當ナル方法ヲ以テシ眞ニ東洋平和ノ增進ニ寄與スルト共ニ其ノ威信ヲ顯揚センガ爲ニハ同方面ニ於ケル現實ノ事態ヲ的確ニ把握シ該事態ニ適應シテ規約ノ運用ヲ爲スノ肝要ナルヲ提唱シ就中支那ガ完全ナル統一國家ニ非ズシテ其ノ國內事情及國際關係ハ複雜難澁ヲ極メ變則、例外ノ特異性ニ富メルコト、從テ一般國際關係ノ規準タル國際法ノ諸原則及慣例ハ支那ニ付テハ之ガ適用ニ關シ著シキ變更ヲ加ヘラレ其ノ結果現ニ特殊且異常ナル國際慣行成立シ居レルコトヲ考慮ニ入ルルノ絕對ニ必要ナル旨力說强調シ來レリ

然ルニ過去十七箇月間聯盟ニ於ケル審議ノ經過ニ徵スルニ多數聯盟國ハ東洋ニ於ケル現實ノ事態ヲ把握セザルカ又ハ之ニ直面シテ正當ナル考慮ヲ拂ハザルノミナラズ聯盟規約其ノ他ノ諸條約及國際法ノ諸原則ノ適用殊ニ其ノ解釋ニ付帝國ト此等聯盟國トノ間ニ屢重大ナル意見ノ相違アル

コト明トナレリ其ノ結果本年二月二十四日臨時總會ノ採擇セル報告書ハ帝國ガ東洋ノ平和ヲ確保セントスル外何等異圖ナキノ精神ヲ顯ミザルト同時ニ事實ノ認定及之ニ基ク論斷ニ於テ甚シキ誤謬ニ陷リ就中九月十八日事件當時及其ノ後ニ於ケル日本軍ノ行動ヲ以テ自衞權ノ發動ニ非ズト憶斷シ又同事件前ノ緊張狀態及事件後ニ於ケル事態ノ惡化ガ支那側ノ全責任ニ屬スルヲ看過シ爲ニ東洋ノ政局ニ新ナル紛糾ノ因ヲ作レル一方滿洲國成立ノ眞相ヲ無視シ且同國ヲ承認セル帝國ノ立場ヲ否認シ東洋ニ於ケル事態安定ノ基礎ヲ破壞セントスルモノナリ殊ニ其ノ勸告中ニ揭ゲラレタル條件ガ東洋ノ康寧確保ニ何等貢獻シ得ザルハ本年二月二十五日帝國政府陳述書ニ詳述セル所ナリ

之ヲ要スルニ多數聯盟國ハ日支事件ノ處理ニ當リ現實ニ平和ヲ確保スルヨリハ適用不能ナル方式ノ尊重ヲ以テ一層重要ナリトシ又將來ニ於ケル紛爭ノ禍根ヲ芟除スルヨリハ架空的ナル理論ノ擁護ヲ以テ一段貴重ナリトセルモノト見ルノ外ナク他面此等聯盟國ト帝國トノ間ニ規約其ノ他ノ條約ノ解釋ニ付重大ナル意見ノ相違アルコト前記ノ如クナルヲ以テ玆ニ帝國政府ハ平和維持ノ方策殊ニ東洋平和確立ノ根本方針ニ付聯盟ト全然其ノ所信ヲ異ニスルコトヲ確認セリ仍テ帝國政府ハ此ノ上聯盟ト協力スルノ餘地ナキヲ信ジ聯盟規約第一條第三項ニ基キ帝國ガ國際聯盟ヨリ脫退スルコトヲ通告スルモノナリ

●國際聯盟諸機關ニ對スル協力終止（昭和十三年十一月五日官報）

帝國政府ハ本年九月三十日國際聯盟理事會カ支那事變ニ關シ聯盟規約第十七條第三項ニ基キ第十六條ノ規定ハ帝國ニ適用セラレ得ヘシトスル報告ヲ採擇シタル結果新ニ帝國ト國際聯盟トノ間ニ發生シタル事態ニ鑑ミ國際聯盟脫退後繼續シ來レル帝國ノ聯盟諸機關ニ對スル協力ヲ終止スルコトニ決定シ本月二日附其旨天羽國際會議帝國事務局長ヨリ國際聯盟事務總長ニ通達シタリ

第二章　赤十字

●赤十字條約（明治十九年十一月十六日勅令無號）

朕西曆千八百六十四年戰時負傷者ノ不幸ヲ救濟スル爲メ瑞西國外十一國ノ間ニ締結セル赤十字條約ニ加入シ玆ニ之ヲ公布セシム

西曆千八百六十四年八月二十二日瑞西國ヂュネーヴ府ニ於テ瑞西國外十一國ノ間ニ締結セル赤十字條約加盟書日本皇帝陛下ハ軍隊出陣負傷者ノ狀體改良ノ件ニ關シ千八百六十四年八月二十二日ヂュネーヴニ於テ瑞西聯邦バード大公殿下白耳義皇帝陛下丁抹皇帝陛下西班牙皇帝陛下佛蘭西皇帝陛下ヘツス大公殿下伊太利皇帝陛下和蘭皇帝陛下葡萄牙及アルガブ皇帝陛下普魯士皇帝陛下ヴユルタシベール皇帝陛下ノ間ニ締結セル左ノ條約ヲ議認ス

第一條

戰地假病院及ヒ陸軍病院ハ局外中立ト看做シ患者若クハ負傷者ノ該病院ニ在院ノ間ハ交戰者之ヲ保護シテ侵スコト勿ルヘシ

但戰地假病院及ヒ陸軍病院ハ兵力ヲ以テ之ヲ守ル時ハ其局外中立タルノ資格ヲ失フモノトス

第二條

戰地假病院及ヒ陸軍病院ニ於テ任用スル人員卽チ監督員、醫員、事務員、

負傷者運搬員竝ニ說敎者ハ各其本務ニ從事シ且ツ負傷者ノ入院スヘク若クハ救助スヘキ者アル間ハ局外中立ノ利益ヲ享有スルモノトス

第三條

前條ニ揭ケタル各員ノ從事スル戰地假病院若クハ陸軍病院ハ敵軍ノ占領ニ係ルト雖モ各員ハ依然其本務ヲ行フコトヲ得ヘク若クハ其屬スル隊ニ再ヒ加ハル爲メ退去スルコトヲ得ヘシ

前項ノ場合ニ於テ各員其職ヲ罷ル時ハ占領軍隊ヨリ敵軍ノ前哨ニ之ヲ送致スヘシ

第四條

陸軍病院ノ器具什物等ハ交戰條規ニ從テ處置スヘキモノナリ故ニ該病院附屬ノ各員ハ其退去ノ際各自ノ私有品ヲ除クノ外爾餘ノ物品ヲ携帶スルコトヲ得ス

但戰地假病院ハ前項ノ場合ニ於テモ其器具什物等ヲ保有スルコトヲ得

第五條

負傷者ヲ救助スル土地ノ住民ハ侵スコトヲ得ス且ツ之ヲシテ其自由ヲ得セシメサルヘカラス

交戰國ノ將官ハ住民ニ慈善ノ擧ヲ慫慂シ且ツ慈善ノ擧ニ依テ局外中立タルノ資格ヲ有スルコトヲ得ヘキ旨ヲ豫告スルノ責アルモノトス

家屋内ニ負傷者ヲ接受シ之ヲ看護スル時ハ其家屋ヲ侵スルコトヲ得ス又自己ノ家屋ニ負傷者ヲ接受スル者ハ戰時課稅ノ一部ヲ免カレ且ツ其家屋ヲ軍隊ノ宿舍ニ供用スルコトヲ免カルヘシ

第六條

負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何國ノ屬籍タルヲ論セス之ヲ接受シ看護スヘシ司令長官ハ戰鬪中ニ負傷シタル兵士ヲ速ニ敵軍ノ前哨ニ送致スルコトヲ得但右ハ其時ノ狀勢ニ於テ之ヲ送致スルコトヲ得ヘク且ツ兩軍ノ協議ヲ經タル場合ニ限ルモノトス

治療後兵役ニ堪ヘスト認メタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

又其他ノ者ト雖モ戰爭中再ヒ兵器ヲ帶ヒサル旨盟約シタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

患者負傷者退去スル時ハ其之ヲ率フル人員ト共ニ完全ナル局外中立ノ取扱ヲ受クヘシ

第七條

陸軍病院戰地假病院竝ニ患者負傷者退去ノ標章トシテ特定一樣ノ旗章ヲ用ヒ且ツ其ノ傍ニ必ス國旗ヲ揭クヘシ

局外中立タル人員ノ爲ニ腕章ヲ裝附スルコトヲ許ス但其交付方ハ陸軍官衙ニ於テ之ヲ司トルヘシ旗及ヒ腕章ハ白地ニ赤十字形ヲ畫ケルモノタルヘシ

第八條

此條約ノ實施ニ關スル細目ハ交戰軍ノ司令長官ニ於テ其本國政府ノ訓令ニ從ヒ且ツ此條約ニ明示シタル綱領ニ準據シテ之ヲ規定スヘシ

第九條

此締盟各國ハヂュネーヴ會議ニ全權委員ヲ派遣セサリシ政府ニ此條約ヲ示シ其加盟ヲ請フコトヲ約諾セリ因テ之カ爲メ議事錄中餘白ヲ存ス

第十條

此條約ハ批准ヲ受クヘキモノトス而シテ其批准書ハベルヌニ於テ四月以内若クハ可成ハ其ノ以前ニ交換スヘシ

是ニ於テ下名瑞西聯邦駐劄日本皇帝陛下ノ特命全權公使ハ本件ニ關シ特別ノ權限ヲ帶ヒ此書ヲ以テ日本帝國ノ本條約ニ加盟スルコトヲ告知ス

右確證ノ爲メ下名ハ千八百八十六年六月五日ベルヌ府ニ於テ此告知書ニ記名調印スルモノナリ

瑞西聯邦駐劄日本特命全權公使
侯爵　蜂須賀茂韶　手署

第三章　病院船

病院船ニ關スル條約

（明治四十年五月二十三日條約第一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ和蘭國海牙ニ於テ帝國外二十三箇國全權委員ノ記名調印シタル病院船ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

病院船ニ關スル條約

獨逸國普魯西國皇帝陛下、墺地利國「ボヘミヤ」國洪牙利國皇帝陛下、白耳義國皇帝陛下、清國皇帝陛下、韓國皇帝陛下、丁抹國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、亞米利加合衆國大統領、墨西哥合衆國大統領、佛蘭西共和國大統領、希臘國皇帝陛下、伊太利國皇帝陛下、日本國皇帝陛下、盧森堡國大公「ナツソー」公殿下、「モンテネグロ」國公殿下、和蘭國皇帝陛下、祕露共和國大統領、波斯國皇帝陛下、葡萄牙國及「アルガルザ」皇帝陛下、羅馬尼亞國皇帝陛下、全露西亞國皇帝陛下、塞爾比亞國皇帝陛下、

暹羅國皇帝陛下及瑞西聯邦政府ハ千八百六十四年八月二十二日「ジエネヴア」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル爲千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ締結セラレタル條約ハ病院船ノ爲ニ設ケタル或ル規定ニ由リ赤十字カ海戰ニ關與スルノ原則ヲ確認セルコトニ鑑ミ新規定ヲ設ケテ病院船ノ任務ヲ幇助セムカ爲條約ヲ締結セムコトヲ希望シ各各左ノ全權委員ヲ任命セリ

獨逸國普魯西國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使ド、シユリヨーツエル
墺地利國「ボヘミヤ」國洪牙利國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使アレキサンドル、オコリクサニー、ドコリクスナ
白耳義國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使男爵ギイヨーム
清國皇帝陛下
露西亞國駐劄特命全權公使胡惟德
韓國皇帝陛下
佛蘭西國駐劄特命全權公使閔泳瓚
丁抹國皇帝陛下
和蘭國駐劄代理公使ダブルユー、ド、グレヴエンコツプ、カステンスキヨルド
西班牙國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使アルツーロ、デ、パゲール
亞米利加合衆國大統領
和蘭國駐劄臨時代理公使ヂヨン、ダブルユー、ガレツト
墨西哥合衆國大統領
墺地利洪牙利國駐劄特命全權公使セニール
佛蘭西共和國大統領
和蘭國駐劄特命全權公使ド、モンベル
希臘國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使デ、ジエー、メタケサイ
伊太利國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使ツジーニ
日本國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使三橋信方
盧森堡國大使「ナツソー」公殿下
獨逸國駐劄代理公使伯爵アミユ、ド、ヴヰレー
「モンテネグロ」國公殿下
和蘭國駐劄全露西亞國皇帝陛下ノ特命全權公使エヌ、チヤリフ
和蘭國皇帝陛下
外務大臣男爵メルヴヰル、ド、リデン
參事院議官國務大臣テー、エム、チエー、アツセル
祕露共和國大統領
佛蘭西國兼大不列顛國駐劄特命全權公使セ、ジエー、カンダモ
波斯國皇帝陛下
和蘭國駐劄特命全權公使ミルザ、サマド、カン（モムタゾス、サ

〔外初版〕

ルダネー）

葡萄牙國及「アルガルヴ」皇帝陛下
　和蘭國駐劄特命全權公使伯爵デ、セリール
羅馬尼亞國皇帝陛下
　和蘭國駐劄特命全權公使ジヤン、エヌ、パピニウ
全露西亞國皇帝陛下
　露國外務省參事官「コンセイエー、プリヴエー」マルテンス
塞爾比亞國皇帝陛下
　佛蘭西國駐劄特命全權公使エム、ヴエスニツチ
暹羅國皇帝陛下
　和蘭國駐劄特命全權公使ピア、ラジヤ、ヌプラパアンド
瑞西聯邦政府
　和蘭國駐劄特命全權公使ジエー、カルラン

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協定セリ

第一條　千八百六十四年八月二十二日「ジエネヴア」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル爲千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ締結セラレタル條約第一條第二條及第三條ニ揭ケタル條件ヲ具備セル病院船ハ戰時ニ於テハ締盟國ノ諸港ニ於テ諸國國家ノ利益ノ爲船舶ニ課セラルル各種ノ租稅及賦課金ヲ免除セラルヘシ

第二條　前條ノ規定ハ臨檢其ノ他手續ニ依リ右諸港ニ於テ現ニ行ハルル稅法若ハ其ノ他ノ法律ヲ適用スルヲ妨ケサルモノトス

第三條　締盟國中ノ二國又ハ數國ノ間ニ戰ヲ開キタル場合ニ限リ締盟國ハ第一條ニ揭ケタル規定ヲ遵守スル義務アルモノトス

右規定ヲ遵守スルノ義務ハ締盟國間ノ戰鬪ニ於テ一ノ非締盟國カ交戰國ノ一方ニ加ハリタル時ヨリ消滅スルモノトス

第四條　本條約ハ本日ノ日附ヲ附シ加盟ヲ希望スル諸國ニ於テ千九百五年十月一日マテ之ニ記名スルコトヲ得ルモノトス此條約ハ成ルヘク速ニ批准セラルヘシ

批准書ハ海牙ニ保管シ各批准書ニ付キ一通ノ保管證書ヲ作リ寄託アリタル毎ニ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ各締盟國ニ交付スヘシ

第五條　非記名國ハ千九百五年十月一日以降本條約ニ加盟スルコトヲ得ヘシ

非記名國カ其ノ加盟ヲ締盟國ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭國政府ニ通告シ同國政府ヨリ更ニ之ヲ爾餘ノ締盟國ニ通告スヘシ

第六條　若締盟國中ノ一國ニ於テ本條約ヲ廢棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭國政府ニ通告シタル後一箇年ヲ經過スルニ非サレハ廢棄ノ效力ヲ生スルコトナシ右通告ハ和蘭國政府ヨリ直ニ爾餘ノ締盟國ニ通知ス

右廢棄ノ效力ハ之ヲ通告シタル國ノミニ止ルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

千九百四年十二月二十一日海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭政府ノ記錄ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ締盟國ニ交付スルモノナリ

獨逸國　フオン、シュリヨーツエル印　（千九百四年十二月二十一日ノ總會ニ於テ爲セル宣言ヲ保留ス）

墺地利洪牙利國　オコリクサニー、ドコリクスナ印
白耳義國　ギイヨーム印
清國　胡惟德印
韓國　閔泳璿印
丁抹國　ダブルユー、グレヴエンコツプ、カステンスキヨルド印
西班牙國　ア、デ、バゲール印
亞米利加合衆國　ダヨン、ダブルユー、ガレツト印
墨西哥合衆國　ゼー、セニール印
佛蘭西共和國　モンベル印
希臘國　デ、ジエー、メタクサス印
伊太利國　ツジーニ印
日本國　三橋信方印
盧森堡國　伯爵ド、ヴヰレー印
「モンテネグロ」國　エヌ、チヤリコフ印
和蘭國　（男爵メルヴヰル、ド、リデン印／テー、エム、チエー、アツセル印）
祕露共和國　セ、ジエー、カンダモ印
波斯國　エム、サマド印
葡萄牙國　伯爵デ、セリール印
羅馬尼亞國　ジー、エヌ、パピニウ印（相互ノ原則及水先案內料ヲ保留ス）
露西亞國　マルテンス印
塞爾比亞國　ミユ、エル、ヴエスニツチ印

第一類　一般共通條約　第一編　平和條約

暹羅國　ラジヤ、ヌプラパアンド印
瑞西國　カルラン印

天佑ヲ保有ノ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十七年十二月二十一日和蘭國海牙ニ於テ帝國外二十三箇國全權委員ノ記名調印シタル條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕カ意ニ適シ固然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十六年明治三十九年三月二十八日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣　侯爵　西園寺公望

●病院船ニ關スル列國會議最終議定書（明治四十年五月二十四日外務省告示第十二號）

明治三十七年和蘭國海牙ニテ開催セラレタル病院船ニ關スル列國會議ニ於テ帝國全權委員ハ左記最終決議書ニ調印セリ

最終決議書

戰時ニ於テ締盟國ノ諸港ニ於ケル病院船ヲシテ該國國家ノ利益ノ爲船舶ニ課セラルル各種ノ租稅及賦課金ヲ免カレシムルノ目的ヲ有スル所ノ條約ニ記名スルニ方リ本決議書ニ記名スル全權委員ハ該病院船ノ人道的任務ニ鑑ミ締盟國政府ニ於テ國家ノ利益以外ノモノ殊ニ市町村、私立會社若ハ個人ノ利益ノ爲右諸港ニ於テ徵收セラルヘキ租稅及賦課金ヲモ亦同

樣免除スル爲必要ナル處置ヲ成ルヘク速ニ執ラレンコトヲ希望スルノ意ヲ玆ニ表彰ス

右證據トシテ各全權委員ハ本日ノ日附ヲ附シ千九百五年十月一日マテ之ニ記名スルコトヲ得ル本決議書ニ記名スルモノナリ

千九百四年十二月二十一日海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭國政府ノ記錄ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ前記條約記名國ニ交付スルモノナリ

獨逸國　フオン、シユリヨーツユル印
墺地利洪牙利國　オコリクサニー、ドコリクスナ印
白耳義國　ギイヨーム印
清國　胡惟德印
韓國　閔泳瓚印
丁抹國　ダブルユー、グレヴエンコツプ、カステンキヨルド印
西班牙國　ア、デ、バゲール印
亞米利加合衆國　ヂヨン、ダブルユー、ガレツト印
墨西哥合衆國　ゼー、セニール印
佛蘭西共和國　モンベル印
希臘國　デ、ジエー、メタクサス印
伊太利國　ツジーニ印
日本國　三橋信方印
盧森堡國　伯爵ド、ヴヰレー印
「モンテネグロ」國　エヌ、チヤリコフ印
和蘭國　エー、エム、チエー、アツセル印
祕露共和國　セ、ジエー、カンダモ印
波斯國　エム、サマド印
葡萄牙國　伯爵テ、セリール印
羅馬尼亞國　ジー、エヌ、パピニウ印
露西亞國　マルテンス印
塞爾比亞國　ヴエスニツチ印
暹羅國　ラジヤ、ヌプラパアンド印
瑞西國　カルラン印

（昭和七年九月五日外務省告示第七十三號）

明治三十七年十二月二十一日「ヘーグ」ニ於テ署名セラレタル「病院船ニ關スル條約」ニ對スル「トルコ」國ノ加入ハ昭和七年六月八日附ヲ以テ和蘭國政府ニ通告セラレタリ（昭和七年八月二十九日附本邦駐劄和蘭國公使通牒）

第四章　同盟及聯合國對獨逸國等

第一款　獨逸

●同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約及附屬議定書（大正九年一月十日條約第一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正八年六月二十八日佛蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員竝獨逸國全權委員ト共ニ署名調印シタル平和條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國

右諸國ヲ以テ本條約ニ謂フ主タル同盟及聯合國トス

白耳義國、「ポリヴィア」國、伯剌西爾國、支那國、玖馬國、「エクアドル」國、「希臘國、「グァテマラ」國、「ハイチ」國、「ヘヂァーズ」、國「ホンヂュラス」國、「リベリア」國、「ニカラグア」國、巴奈馬國、祕露國、波蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國、「暹羅國、「チエッコ、スロヴァキア」國及「ウルグァイ國」

右諸國ハ前記ノ主タル諸國ト共ニ同盟及聯合國ヲ構成ス

以上ヲ一方トシ

獨逸國

之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ主タル同盟及聯合國カ獨逸帝國政府ノ請求ニ基キ獨逸國ト平和條約ヲ締結セムカ爲千九百十八年十一月十一日獨逸國ニ對シ休戰ヲ許諾シタルコトヲ思ヒ

且同盟及聯合國ハ其ノ相次キテ直接又ハ間接ニ參加スルニ至リタル戰爭即チ千九百十四年七月二十八日塞爾比亞國ニ對スル墺地利洪牙利國ノ宣戰、千九百十四年八月一日露西亞國ニ對スル及千九百十四年八月三日佛蘭西國ニ對スル獨逸國ノ宣戰竝白耳義國侵入ニ依リテ開始セラレタル戰爭ニ代フルニ鞏固公正恆久ノ平和ヲ以テセムコトヲ均シク希望シ之カ爲締約國ハ左ノ如ク代表セラレ

亞米利加合衆國大統領

亞米利加合衆國大統領「ウードロー、ウィルソン」

自己ノ名ニ於テ且自己ノ固有ノ權限ニ基キ行動ス

國務卿「ロバート、ランシング」

前伊太利國及佛蘭西國駐劄亞米利加合衆國特命全權大使「ヘンリー、ホワイト」

「エドワード、エム、ハウス」

最高軍事會議亞米利加合衆國軍事代表者陸軍大將「タスカー、エッチ、プリス」

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

總理大臣國庫尚書國會議員「デーヴィッド、ロイド、ジョージ」

國璽尚書國會議員「アンドリユー、ボナ、ロー」

殖民大臣子爵「ミルナー」

外務大臣國會議員「アーサー、ジェームス、バルフォア」

無任所大臣國會議員「ジョージ、ニコル、バーンス」

加奈陀

司法大臣「チャールス、ジョーゼフ、ドハティー」

關稅大臣「アーサー、リュイス、シフトン」

濠太利聯邦

總理大臣檢事總長「ウィリアム、モーリス、ヒュース」

海軍大臣「サー、ジョーゼフ、クック」

南阿弗利加聯邦

總理大臣土民事務大臣陸軍大將「ルイ、ボータ」

國防大臣陸軍中將「ジァン、クリスアーン、スマッツ」

新西蘭

總理大臣勞働大臣「ウィリアム、ファーガソン、マッセー」

印度

印度大臣國會議員「エドウィン、サミュエル、モンタギュー」

（外初版）

侍從武官陸軍少將「ビカネール」王「サー、ガンガ、シン」殿下

佛蘭西共和國大統領
　內閣議長陸軍大臣「ジョルジ、クレマンソー」
　外務大臣「ステファン、ピション」
　大藏大臣「ルイ、リュシアン、クロッツ」
　佛米軍事辨務長官「アンドレ、タルデュー」
　特命全權大使「ジュール、カムボン」
伊太利國皇帝陛下
　衆議院議員男爵「エセ、ソンニノ」
　英國駐劄伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「ジー、イムペリアリ」
　衆議院議員「エセ、クレスピ」
日本國皇帝陛下
　前內閣總理大臣侯爵西園寺公望
　臨時外交調查委員會委員前外務大臣男爵牧野伸顯
　英國駐劄日本國特命全權大使子爵珍田捨巳
　佛蘭西國駐劄日本國特命全權大使松井慶四郎
　伊太利國駐劄日本國特命全權大使伊集院彥吉
白耳義國皇帝陛下
　外務大臣國務大臣「ポール、イーマンス」
　特命全權公使國務大臣「ジュール、ヴァン、デンユーヴェル」
　司法大臣國務大臣「エミル、ヴァンデルヴェルド」
「ボリヴィア」共和國大統領
　佛蘭西國駐劄「ボリヴィア」共和國特命全權公使「イスマエル、モンテス」
伯剌西爾共和國大統領
　前大藏大臣衆議院議員「ホアオ、パンディア、カロジェラス」
　衆議院議員「ラウル、フェルナンデス」
　外務大臣「エルネイロ」國際法教授「コドリゴ、オクタヴィオ、デ、メネゼス」
支那共和國大總統
　外交總長陸徵祥
　前農商總長王正廷
玖馬共和國大統領
　「ハヴァナ」大學法學部長玖馬國際法學會會長「アントニオ、サンチエス、デ、ブスタマンテ」
「エクアドル」共和國大統領
　佛蘭西國駐劄「エクアドル」共和國特命全權公使「エンリケ、ドルン、イ、デ、アルスーア」
希臘國皇帝陛下
　內閣議長「エレフテリオス、カパ、ヴェニゼロス」
　外務大臣「ニコラス、ポリティス」
「グァテマラ」共和國大統領
　亞米利加合衆國駐劄「グァテマラ」共和國特命全權公使巴里特派特命全權公使前土木大臣前文部大臣「ホアキン、メンデス」
「ハイチ」共和國大統領
　佛蘭西國駐劄「ハイチ」共和國特命全權公使「テルテュリアン、ギルボー」
「ヘヂァーズ」國皇帝陛下
　「ルステム、ヘイダール」
　「アブダル、ハディ、アウーニ」
「ホンヂュラス」共和國大統領
　華盛頓特派使節特命全權公使前「ホンヂュラス」共和國大統領「ドクトル、ポリカルポ、ボニーヤ」
「リベリア」共和國大統領
　國務大臣「チャールス、ダンバー、バージェス、キング」
「ニカラグァ」共和國大統領
　衆議院議長「サルヴァドル、チアモーロ」
巴奈馬共和國大統領
　西班牙國駐劄巴奈馬共和國特命全權公使「アントニオ、プルゴス」
祕露共和國大統領
　佛蘭西國駐劄祕露共和國特命全權公使「カルロス、ヘー、カンダモ」
波蘭共和國大統領
　內閣議長外務大臣「イグナス、ジェー、パデレフスキー」
　波蘭國民委員會議長「ロマン、ドウモフスキー」
葡萄牙共和國大統領
　前內閣議長「ドクトル、アフォンソ、アウグスト、ダ、コスタ」
　前外務大臣「ドクトル、アウグスト、ルイス、ヴィエイラ、ソアレス」
羅馬尼亞國皇帝陛下
　內閣議長外務大臣「イオン、ヨダ、カパ、プラティアノ」
　軍團長侍從武官陸軍大將前內閣議長「コンスタンチン、コアンダ」
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下
　前內閣議長「ニコラス、ピー、パチッチ」
　外務大臣「アント、トルンビック」
　佛蘭西國駐劄「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ミレンコ、ヴェスニッチ」
暹羅國皇帝陛下
　佛蘭西國駐劄暹羅國特命全權公使公爵「シアルーン」
　外務次官公爵「トライドス、プラバンドウ」
「チェッコ、スロヴァキア」共和國大統領
　內閣議長「カーレル、クラマール」
　外務大臣「エドウアルド、ベネシュ」
「ウルグァイ」共和國大統領
　外務大臣前工務大臣「フアン、アントニオ、プエロ」
獨逸國
　外務大臣「ヘルマン、ミュルレル」
　國務大臣「ドクトル、ベル」
　以上二名ハ獨逸帝國及獨逸各邦ノ名ニ於テ行動ス

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

戰爭狀態ハ本條約實施ノ時ヨリ終了スヘシ同盟及聯合國ト獨逸國及獨逸

（外初版）

各邦トノ公關係ハ其ノ時以後且本條約ノ規定ニ依リ恢復セラルヘシ

第一編　國際聯盟規約

締約國ハ

戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ

各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ

各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ

組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ

以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲

竝ニ國際聯盟規約ヲ協定ス

第一條

本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ本規約ニ加盟スル該附屬書列記ノ爾餘諸國ヲ以テ國際聯盟ノ原聯盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月以内ニ宣言書ヲ聯盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一切ノ他ノ聯盟國ニ通告スヘキモノトス

附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト爲ルコトヲ得但シ其ノ國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與ヘ且其ノ陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定ムルコトアルヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス

聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ脫退ノ時迄ニ其ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務ハ履行セラレタルコトヲ要ス

第二條

本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會竝附屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

第三條

聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ隨時ニ之ヲ開ク

聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ有スヘク且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

第四條

聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者竝他ノ四聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ聯盟總會其ノ裁量ニ依リ隨時之ヲ選定ス聯盟總會カ第一次ニ選定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ白耳義國、伯剌西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以テ聯盟理事會員トス

聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半數ノ同意アルトキハ聯盟理事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定スルコトヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會ノ選定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同樣ノ同意ヲ以テ增加スルコトヲ得

聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ每年一回之ヲ開ク

聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシテ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セラルヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國ハ聯盟理事會會議ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコトヲ得

第五條

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス

聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會又ハ聯盟理事會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國ノ過半數ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得

聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞米利加合衆國大統領之ヲ招集スヘシ

第六條

常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事務局ニハ事務總長一名竝必要ナル事務官及屬員ヲ置ク

第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總長ハ聯盟總會過半數ノ同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命ス

聯盟事務局ノ事務官及屬員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ事務總長之ヲ任命ス

事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ其ノ資格ニテ行動ス

聯盟事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ負擔ス

第七條

聯盟本部所在地ハ「ジュネーヴ」トス

聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ聯盟本部所在地ト爲スコトヲ得

聯盟ニ關シ又ハ之ニ附滯スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ地位ト共ニ男女均シク之ニ就クコトヲ得

聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享有ス

聯盟・聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建物其ノ他ノ財產ハ之ヲ不可侵トス

第八條

聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル强制ニ支障ナキ最低限度迄縮少スルノ必要アルコトヲ承認ス

聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ軍備縮少ニ關スル案ヲ作成スヘシ

該案ハ少クトモ十年每ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラルヘキモノトス

各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會ノ同意アルニ非サレハ該案所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造カ重大ナル非議ヲ免レサ

ルモノナルコトヲ認ムル仍テ聯盟理事會ハ該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ具申スヘシ尤モ聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製造シ得サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス

聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫竝軍事上ノ目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第九條

第一條及第八條ノ規定ノ實行竝陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條

聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條

戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ茲ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ招集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ハ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間内ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛爭事件付託後六月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判ニ付シ得ト認ムル紛爭ヲ生シ其ノ紛爭カ外交手段ニ依リテ滿足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判ニ付スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否竝該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛爭ハ一般ニ仲裁裁判ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノトナルコトヲ聲明ス

審理ノ爲紛爭事件ヲ付託スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ又ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ノ定ムル所ニ依ル

聯盟國間ハ一切ノ仲裁判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ服スル聯盟國ニ對シテハ戰爭ニ訴ヘサルコトニ約ス判決ヲ履行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

第十四條

聯盟理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛爭ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス倘該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ請問スル一切ノ紛爭又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛爭當事國モ紛爭ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

此ノ目的ノ爲紛爭當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得

聯盟理事會ハ紛爭ノ解決ニ力ムヘク其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛爭ニ關スル事實及說明竝其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ

紛爭解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半數ノ表決ニ基キ當該紛爭ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟國ハ何レモ當該紛爭ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

聯盟理事會ノ報告書カ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛爭當事國ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ニ於テ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

紛爭當事國ノ一國ニ於テ紛爭カ國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會之ヲ是認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之カ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲモ爲ササルモノトス

聯盟理事會ハ本條ニ係ル一切ノ場合ニ於テ紛爭ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛爭當事國一方ノ請求アリタルトキハ亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛爭ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ノ行動及權能ニ適用ス但シ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國代表者及爾餘過半數聯盟國ノ代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行爲ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商下又ハ金融上ノ關係ヲ斷絶シ自國民ト違約國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義

務アルモノトス

聯盟國ハ本條ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムル爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト竝聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖內通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラルル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

第十七條

聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互ノ間ニ紛爭ヲ生シタルトキハ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛爭事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス

勸誘ノ受ケタル紛爭當事國ノ雙方カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行爲ヲ防止シ紛爭ヲ解決スヘキ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條

聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登錄シ聯盟事務局ハ成ルヘク速ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登錄ヲ了スル迄其ノ拘束力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十九條

聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ慫慂スルコトヲ得

第二十條

聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟國相互間ノ義務又ハ了解カ各自國ノ關スル限リ總テ本條約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル一切ノ約定ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス

聯盟國ト爲ル以前本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ負擔シタル聯盟國ハ直ニ該義務ノ解除ヲ得ルノ處置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十一條

本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條

今次ノ戰爭ノ結果從前支配シタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシテ近代世界ノ激甚ナル生存競爭狀態ノ下ニ未タ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其ノ使命遂行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包容スルコトノ主義ヲ適用ス

此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニシテ資源、經驗又ハ地理的位置ニ因リ最此ノ責任ヲ引受クルニ適シ且之ヲ受諾スルモノニ委任シ之ヲシテ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ行ハシムルニ在リ

委任ノ性質ニ付テハ人民發達ノ程度、領土ノ地理的地位、經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ從ヒ差異ヲ設クルコトヲ要ス

從前土耳其帝國ニ屬シタル或部族ハ獨立國トシテ假承認ヲ受ケ得ル發達ノ程度ニ達シタリ尤モ其ノ自立シ得ル時期ニ至ル迄施政上受任國ノ助言及援助ヲ受クヘキモノトス前記受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ當該部族ノ希望ヲ考慮スルコトヲ要ス

他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ施政ノ責ニ任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限リ良心及信敎ノ自由ヲ許與シ、奴隷ノ賣買又ハ武器若ハ火酒類ノ取引ノ如キ弊習ヲ禁止シ竝築城又ハ陸海軍根據地ノ建設及警察又ハ地域防衞以外ノ爲ニスル土民ノ軍事敎育ヲ禁遏スヘキコトヲ保障シ且他ノ聯盟國ノ通商留易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス

西南阿弗利加及或南太平洋諸島ノ如キ地域ハ人口ノ稀薄、面積ノ狹小、文明ノ中心ヨリ遠キコト又ハ受任國領土ト隣接セルコト其ノ他ノ事情ニ因リ受任國領土ノ構成部分トシテ其ノ國法ノ下ニ施政ヲ行フヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土著ノ人民ノ利益ノ爲前記ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス

各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委託地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ

受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ各場合ニ付之ヲ明定スヘシ

受任國ノ年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ實行ニ關スル一切ノ事項ニ付聯盟理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

第二十三條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ遵由シ

(イ) 自國內ニ於テ及其ノ通商產業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ人道的ナル勞働條件ヲ確保スルニ力メ且之カ爲必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

(ロ) 自國ノ監理ニ屬スル地域內ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルコトヲ要ス

(ハ) 婦人及兒童ノ賣買竝阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ實行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ニ) 武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於ケル該取引ノ一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ホ) 交通及通過ノ自由竝一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

(ヘ) 疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニ力ムヘシ

第二十四條

一般條約ニ依ル既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項處理ノ爲今後設

クラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキモノトス

一般條約ニ依リ規定セラレタル國際利害關係事項ニシテ國際事務局又ハ委員會ノ管理ニ屬セサルモノニ關シテハ聯盟事務局ハ常事國ノ請求ニ基キ聯盟理事會ノ同意ヲ得テ其ノ一切ノ關係情報ヲ蒐集頒布シ其ノ他必要又ハ望マシキ一切ノ援助ヲ與フヘシ

聯盟理事會ハ聯盟ノ指揮下ニ屬セシメタル事務局又ハ委員會ノ經費ヲ聯盟事務局ノ經費中ニ編入スルコトヲ得

第二十五條

聯盟國ハ全世界ニ亙リ健康ノ增進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字篤志機關ノ設立及協力ヲ奬勵促進スルコトヲ約ス

第二十六條

本規約ノ改正ニ聯盟理事會ヲ構成スル代表者ヲ出ス聯盟各國及聯盟總會ヲ構成スル代表者ヲ出ス過半數聯盟國之ヲ批准シタルトキ其ノ效力ヲ生スルモノトス

右改正ハ之ニ不同意ヲ表シタル聯盟國ヲ拘束スルコトナシ但シ此ノ場合ニ於テ當該國ハ聯盟國タラサルニ至ルヘシ

附屬書

一　國際聯盟原聯盟國

平和條約署名國

亞米利加合衆國
白耳義國
「ボリヴィア」國
伯剌西爾國
英帝國
加奈陀
濠太利
南阿弗利加
新西蘭
印度
支那國
玖馬國
「エクアドル」國
佛蘭西國
希臘國
「グアテマラ」國
「ハイチ」國
「ヘヂアーズ」國
「ホンヂュラス」國
伊太利國
日本國
「リベリア」國
「ニカラグア」國
巴奈馬國
祕露國
波蘭國

葡萄牙國
羅馬尼亞國
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國
暹羅國
「チエッコ、スロヴァキア」國
ウルグアイ」國
聯盟規約ニ加盟ヲ招請セラレタル國
亞爾然丁國
智利國
哥倫比亞國
丁抹國
和蘭國
諾威國
「パラグアイ」國
波斯國
「サルヴァドル」國
西班牙國
瑞典國
瑞西國
「ヴェネズエラ」國

二　國ニ聯盟第一次事務總長
「サー、ジェームス、イーリック、ドラモンド」

第二編　獨逸國ノ境界

第一類　一般共通條約　第二編　平和條約

第二十七條

獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス

一　白耳義國トノ境界

白耳義、和蘭及獨逸ノ三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ向ヒ舊「モレスネ」中立地帶ノ北東境、「オイペン」郡ノ東境、白耳義國及「モンジョア」郡間ノ國境「マルメディー」郡ノ北東境及東境ヲ經テ盧森堡國境トノ接合點ニ至ル

二　盧森堡國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ國境ニ依リ千八百七十年七月十八日ノ佛蘭西國境トノ接合點ニ至ル

三　佛蘭西國トノ境界

盧森堡國ヨリ瑞西國ニ至ルノ間ハ第三編第四款（「ザール」河流域）第四十八條ノ規定ニ從フノ外千八百七十年七月十八日ノ國境ニ依ル

四　瑞西國トノ境界

現在ノ國境ニ依ル

五　墺地利國トノ境界

瑞西國ヨリ次ニ定ムル「チエッコ、スロヴアキア」國ニ至ルノ間千九百十四年八月三日ノ國境ニ依ル

六　「チエッコ、スロヴアキア」國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ獨墺兩國間ノ國境ト「ポヘミヤ」及上部墺地利州間ノ舊行政境界トノ接合點ヨリ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊墺地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ニ至ルノ間右獨墺兩國間ノ國境ニ依ル

（外務版）